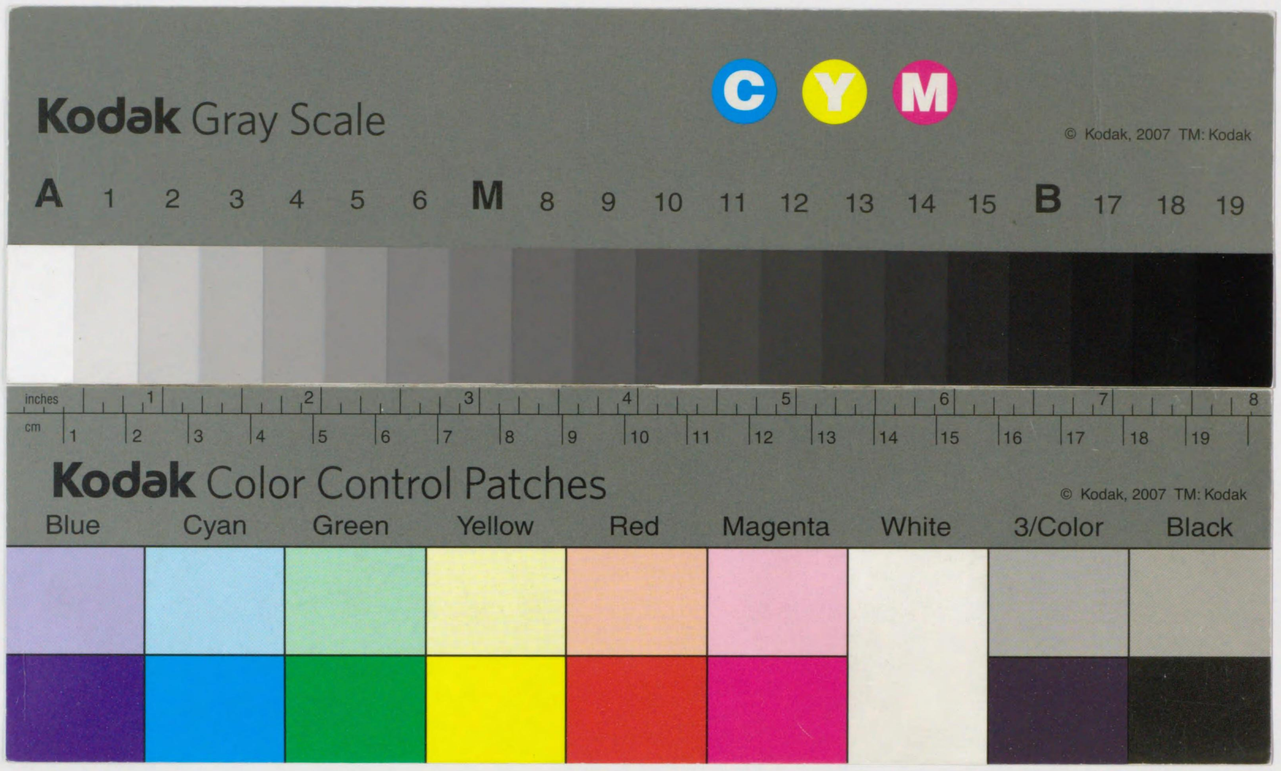


553
47
553-47
12005015093 18

エト2Q86

開國文化史料大觀

開國文化史料大觀

發行所寄贈本

553-47

開國文化大展覽會

大阪朝日新聞創刊五十周年記念事業の一として開國文化大展覽會を三月十日より四月十日まで大阪に開催するため本社は元旦の紙上にその大綱を發表し、二月十七日京都ホテルに準備協議會を開催、總裁以下を左の諸氏に依囑それぞゝ承諾を得た。

總　裁

京都帝國大學總長　醫學博士　荒木寅三郎

會　長

朝日新聞社社長　村山龍平

評議員（イロハ順）

京都帝國大學教授　文學博士　濱田耕作

京都帝國大學教授　文學博士　西田直二郎

京都帝國大學教授　經濟學博士　本庄榮治郎

帝室博物館總長　大島義脩

東北帝國大學教授　醫學博士　太田正雄

東京帝國大學教授　文學博士　辻善之助

京都帝國大學名譽教授　文學博士　内藤虎次郎

九州帝國大學教授　長沼賢海

台北帝國大學教授　文學博士　村上直次郎

京都帝國大學教授　文學博士　桑原隲藏

東京帝國大學教授　文學博士　黑板勝美

京都帝國大學教授　文學博士　松本文三郎

東京帝國大學教授　文學博士　姉崎正治

京都帝國大學教授　文學博士　三浦周行

京都帝國大學教授　文學博士　新村出

堺市長　森本仁平

大阪市長　法學博士　關一

賛助員（イロハ順）

長崎縣知事　伊東喜八郎

大阪府立圖書館長　今井貫一

長崎縣東彼杵郡大村町長　一瀬勝三郎

大阪市民博物館長　堀居左五郎

長崎市長　富永鴻

男爵　大鳥富士太郎

大審院判事　法學博士　尾佐竹猛

鹿兒島史談會長　緒方收二郎

法學博士　吉野作造　川村俊秀

東京帝室博物館歴史課長　文學博士　高橋健自

大阪時事新報主筆　土屋元作

東京帝國大學史料編纂官　中村勝麻呂

長崎縣立圖書館長　永山時英
大阪史談會　室谷鐵腸
長崎高等商業學校教授　武藤長藏
東京帝國大學名譽教授　博醫學士　吳秀三
九州帝國大學教授　理學博士　桑木彧雄
神戸市　市長　黑瀨弘志
堺市役所市史編纂室　牧野信之助
文學博士　富士川游
維新史料編纂事務局　藤井甚太郎
古賀十二郎
第一高等學校教授　文學博士　小山源治
東京帝國大學名譽教授　文學博士　齋藤阿具
長崎縣北松浦郡平戸町長　白鳥庫吉
廣瀨俊一

次て趣意書を發表各方面に出品の依頼狀を發送した。

杉浦三郎兵衛

趣意書

建國悠々三千年、我が國はその當初から大和民族特有の文化をもつてゐたのであるが、なほよく世界の大勢に順應することを怠らず、推古時代すでに亞細亞大陸の燦爛たる文化を吸收し、爾來海外に向つての發展交渉について何れの時代にも相當見るべきものがあり、殊に天文永祿元龜天正年間に葡萄牙、西班牙、和蘭との交通が開始されて以來歐洲人は爭ふて日本に來航し傳奇的事實の探檢と利權の獲得に狂奔したのであつた。德川三百年の鎖國も今にして見れば幕末開港から維新後の蹉じき反撥力と進展力を養つてゐたことになり、その後歐米の文化を一瞬によく咀嚼し、日清、日露の大戰を經て國威はますゝ揚る、遂に世界大戰によつて二躍五强の一となつた。これひとへに萬世一系　皇室の威威によることはいふまでもないが、一般國民の勇氣と聰明が絕えざる進歩をもたらしてコヽに東洋の一大文化國を現出し得たものといはねばならぬ。我社は昨年天平文化綜合展覽會を開催して斯界の權威たる諸先生の協賛援助のもとに、幾多至上至高の藝術品や文獻を蒐め、我國上古の輝ける文化の一斑を紹介し多大の賞讃を博したのであるが、本年は本紙創刊滿五十年に相當するのでこれを記念するため、コヽに『開國文化大展覽會』を開催して、天平文化よりも更に一層廣き範圍に亙り各種の貴き文書、史料、將來品その他を蒐集陳列し大方の觀覽に供したいと思ふのである。丁度德川三代家光が切支丹關係書物の輸入を禁止してから今年で三百年になるが、切支丹文化の研究は二三年來非常に盛になり、惹いて明治初期文化の研究もだん〳〵盛んになつて、その波動は專門の學界から、國民性の誇りと欣びのため、また趣味のため汎ねく大衆に浸潤して底止するところを知らぬ。この際この企てはまことにその機を得たものと信ずる。殊に經濟界の不振、支那問題の紛糾等から大いに發奮を要する大切な時であり、類年輸入超過の點などから考へて對外經濟政策の確立は一日も緩うすることができぬ。これ等に對して必ずやこの展覽會は多大の刺戟と好個の參考資料とを提供し得るであらう。切に各位の共鳴と援助を懇請する次第である。

斯くて大方の共鳴援助により貴重の史料を續々出品され第一會場朝日會館、第二會場本社樓上、第三會場大阪高島屋に陳列、豫定の通り三月十日より開催したが、學者、美術家その他一般研究家の入場者多く連日盛況を極め、開會後も引續き出品あるため三會場のほかに大阪府立圖書館を特別陳列場として數百點を陳列三月廿一日より三十一日まで公開、四月一日これを第一會場に纒め更に會期を一週間延長したが最終日には畏くも梨本宮殿下の台臨あり非常の感銘と印象を殘して四月十七日無事閉會を告げた。

なほ右開催中の三月二十日より二十四日まで五日間連續七回に亙り『開國文化大講演會』を朝日會館に催した、その講師諸先生と演題は次の通りである。

開國文化の歴史的意義
京都帝國大學教授　文學博士　西田直二郎

遣歐青年使節とキリシタン文化の移入
京都帝國大學教授　文學博士　新村出

日英交通史概觀
長崎高等商業學校教授　武藤長藏

鎖國の得失
東京帝國大學教授　文學博士　辻善之助

日本初期の西洋畫
京都帝國大學助教授　澤村專太郎

東西交渉に關して
京都帝國大學教授　文學博士　桑原隲藏

和寇と南蠻
九州帝國大學教授　長沼賢海

近世南洋における日本人の發展
東京帝國大學教授　文學博士　黑板勝美

世界圖並に南蠻人渡來圖屏風に就て
堺市役所市史編纂長　牧野信之助

幕末の外交
大審院判事　法學博士　尾佐竹猛

明治開國と宗教問題
東京帝國大學教授　文學博士　姉崎正治

御物南蠻屏風　　宮内省

開國と經濟　京都帝國大學教授　經濟學博士　本庄榮治郎

切支丹と藝術　京都帝國大學教授　文學博士　濱田耕作

開國文化より見たる堺　京都帝國大學教授　文學博士　三浦周行

海外交渉中心地としての長崎　古賀十二郎

四月十日更に特別講演會を本社別館に開く、講師と演題は

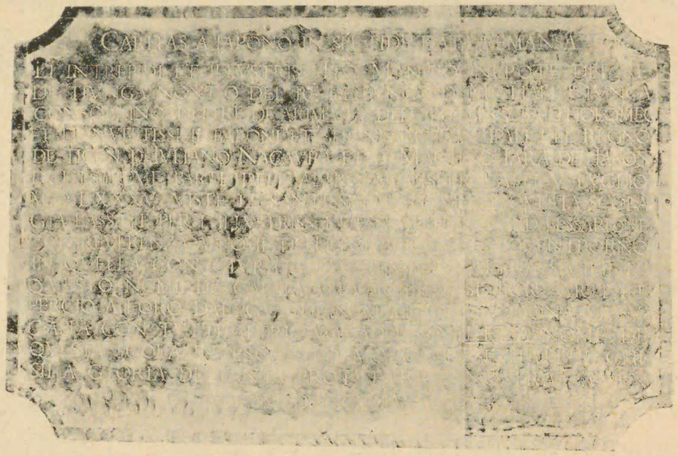
以上何れも熱心な聽衆に滿たされ裨益する所多大であつた(講演集は別に刊行)。こゝに展覽會の出品目錄を『開國文化史料大觀』として編纂永く記念することにした。本會のため直接間接援助を賜はりし諸賢並に出品者各位に謹んで謝意を表する。

昭和四年四月十八日

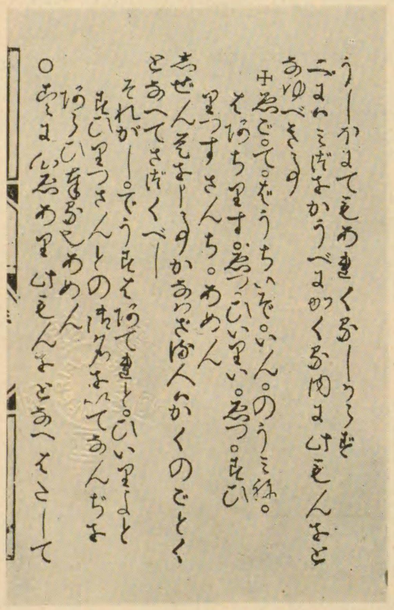
大阪朝日新聞社

南蠻屏風　　岡本清右衛門氏所藏

南蠻屏風　　矢代仁兵衛氏所藏



日本青年使節記念碑拓本　正木直彦氏所藏



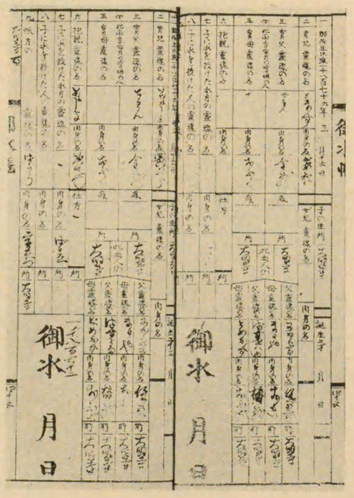
日本最初の活字本　伊藤長藏氏藏

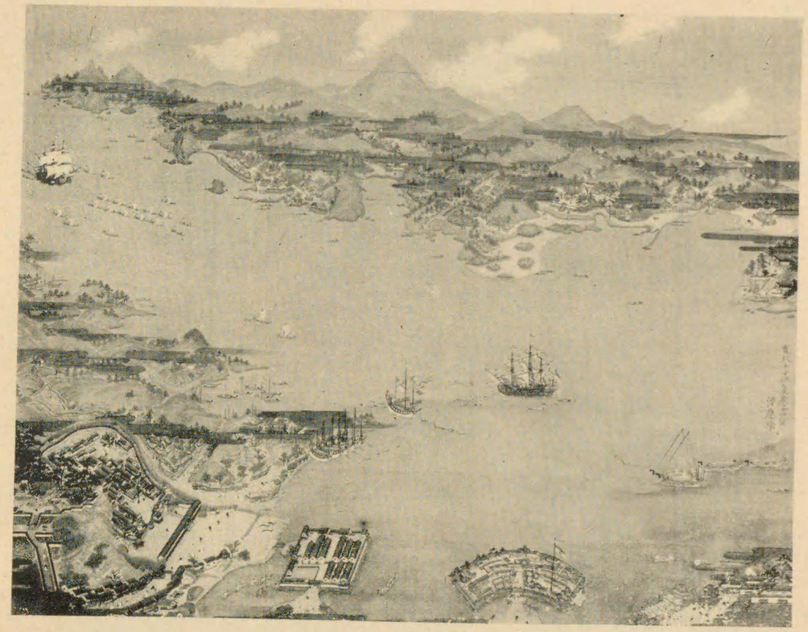
にまさかさが字のい　行四第てしに

ちどりちなりしんた

植字されたまゝ印刷せるを見る

大明寺村お水帳　伊王島天主堂所藏

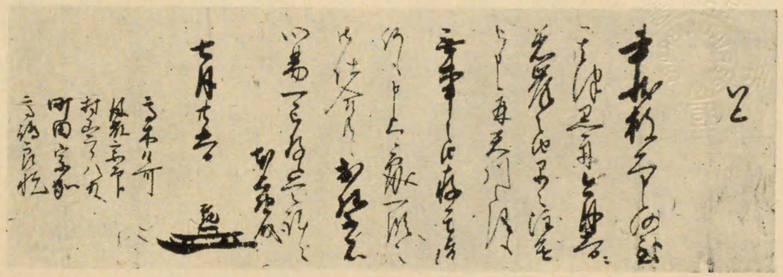




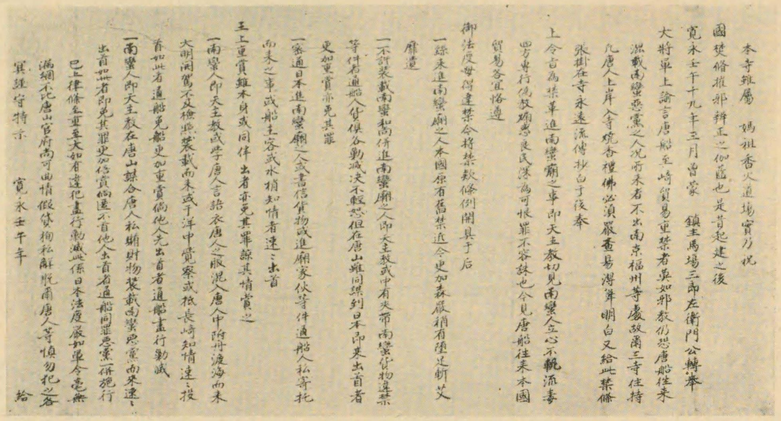
興山甕擧軍長崎港圖　馬越恭平氏所藏

川原慶賀筆蘭人の圖　中山大五郎氏所藏

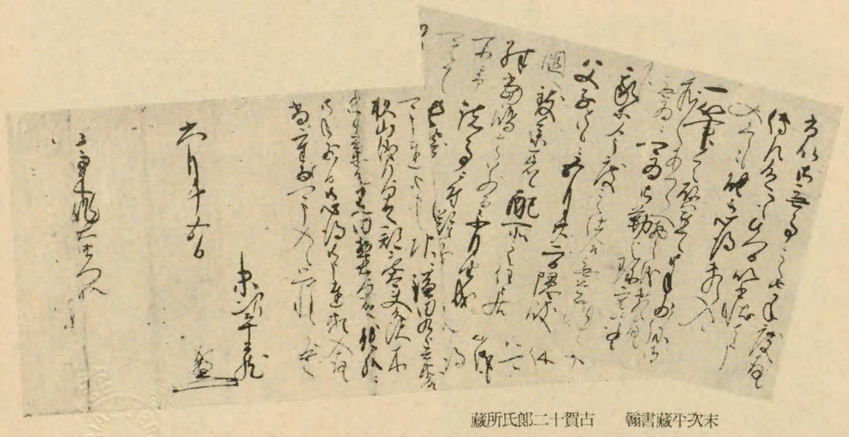
ケンフエル德川將軍の前にて踊る圖（日本旅行記抄譯）　武藤長藏氏所藏



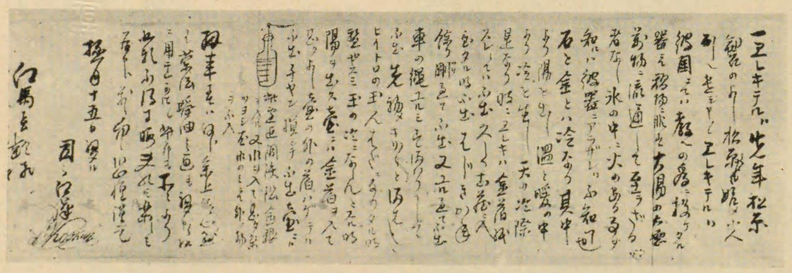
本多上野介書翰　古賀十二郎氏所藏



信牌　長崎縣立圖書館所藏



末次平藏書翰　古賀十二郎氏所藏



司馬江漢尺牘　森繁夫氏所藏

目次

南蠻屏風地圖屏風……一
南蠻人上陸圖その他屏風仕立のものは凡てこの部に收錄せり

奉納額……三
貿易に關する奉納繪馬、衝立、軸

繪畫……四
西洋畫の影響を受けて生れたる油畫、泥繪の類、輸入せるもの、その模寫、硝子繪、及び西洋人の描ける日本畫、貿易、蘭學等に關係をもつ日本畫等をこの部に錄す、港圖その他の名稱を附し歷史的にも重要なる資料たる繪畫にても藝術的の香ひ高きもの及び明らかに分類しがたきものをこの部に編入せり

繪卷折本……八
繪卷仕立、折本仕立のものはこの部に收錄せり。繪畫として見るよりも史料として見るべき性質のものにて他の部門に收錄するを可とする分もこの中に含めり

畫像……一二
內外人を問はず輔父は額入の畫像をこの部に集む、寫眞による肖像は『寫眞』の部にあり、又畫像に近きものにても寧ろ『繪畫』として見るべきものは『繪畫』の部に編入せり

彫塑類……一五
陶像、木像、銅像、手その他の模型、嫁祖、飾山車

外人の日本觀……一六
ビントオ カロン、モンタヌス、ケンプエル、チチング、フイツセル、ペルリ、グラント將軍、シーボルトその他の日本旅行、日本に關する著書、その飜譯

地圖類……二〇
世界各國地圖、日本地圖、長崎圖、神戸、下田、橫濱、函館港圖を始め唐人屋敷圖の類を收む、中には繪畫としての價値高きものもあり（航海圖、船艦圖繪類、繪畫、版畫錦畫類之部參照）

航海圖……二四
世界、東洋、日本の航海に關する地圖

航海術書……二五
航海技術に關する原書、飜譯書、著書、隨筆

地理書……二六
世界、東洋、日本の地理に關する原書、飜譯、著書

船艦圖繪類……二七
唐、南蠻、阿蘭陀の貿易船、魯、英、佛、米の軍艦、それらの船艦來航時の警備圖、日本で建造の船艦圖、設計圖類（繪卷の部參照）

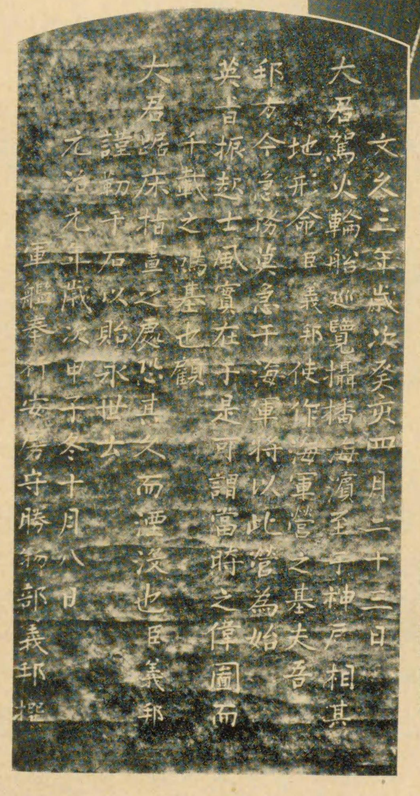
旗印類……三〇
貿易船その他の旗印

朱印狀國書書翰類……三一
朱印狀、御奉書、貿易家の由緒、國王藝書を始め貿易、蘭學、その他開國關係者の意見書、書狀、じやがたら文、歡迎文、旅券、證文の類を收錄す

貿易產業關係圖書記錄……三八
農業、商業に關する原書、長崎、堺その他の開港場における各種の記錄、圖書、信牌、目錄、表、規則、雛形（異國船渡來關係記錄之部、日記之部參照）

異國船渡來關係記錄……四二
異國船の渡來に關する文書、記錄、著書、甲比丹參府關係記錄、開港談判記錄並にそれ等の寫本、達類（國書、書翰之部、往復公文書之部、日記之部參照）

遣歐使節池田筑後守一行　池田長堅氏所藏



海軍營碑拓本　山田寅次郎氏所藏

井伊掃部頭短册　宇野朝一氏所藏

日記類……四五
貿易、外船渡來折衝、航海、旅行の日記記錄を收む、但し他の部に屬すべきものにても日記體なるが故にこの部に編入したるものあり

往復公文書……四九
外國との往復文書を輯錄したる書册、手翰の寫本、公文書原本

條約……五〇
嘉永、安政時代の外國と條約の關係書、文

武備關係圖書……五一
日本の武備に關する著書、譯書、記錄、用兵、砲術等の原書（武器類は「舶來品工藝品器具類」の部參照、及び貿易船、軍艦圖繪の部、地圖の部、版畫錦繪類の部參照）

語學關係類……五四
蘭、佛、英等の外國語の辭典その他の原書、譯、著並びに外國語の文典、單語關書、ノオト等を收む、但し蘭法醫學に關するものは別にその部門を設けて收錄せり

蘭法醫學關係圖書……五八
蘭法醫學に關する原書、飜譯書、著書、解剖その他の圖繪、本草學圖書、版木、處方箋、免許狀、年表、雜誌、門人帳、上代醫學書類（醫療器類は「舶來品、工藝品、器具類」の部にあり）

天文物理化學……六三
天文、物理、化學に關する原書、譯書、著書、圖繪、ノオトの類を收む、寫眞、電信機、蒸汽船等の究理書、動植物に關する書圖にしてこの部に收めたるもあり

舶來品、工藝品、諸器物類……六六
この部はその種類多く且複雜なるも、遺石、模型の如き立體的のもの、糸印、遺目錄、時計の如き舶來品及び發明品、貨幣、メダル、勳章、先人遺品、鐵砲、拳銃その他織物、服、裝身具、家具器物類を收錄す

年鑑年表……八〇
內外各種の年鑑、年表類

漂流記類……八一
漂流に關する著書、記錄類

傳記……八二
開國貿易、關學者等の傳記

物語歷史雜集類……八三
伊倉保物語、阿蘭陀ばなし、長崎名所圖繪稿本、長崎土產、紅毛雜語、遺稿集の類

拓本……八六
拓本は「切支丹關係」の外、その種別を問はずこの部に收錄せり

書……八八
關學者その他の書（軸、歐文、短册

新聞……九〇
萬延、文久、慶應より明治初年までの內外新聞、ポンチ繪

版畫錦繪類……九一
銅版畫、石版畫、木版畫、錦繪、その他一枚圖のものをこの部に集む、この部に屬すべきものにして屏風又は軸仕立になりをるため、屏風の部、繪畫の部に入れたるもあり。勿論この部の中には開國史料として主要なるもの多數あり

寫眞……九五
寫眞として出品されたるものは「切支丹に關するもの」外その種類の如何に拘はらず凡てこの部に收錄せり、されば史料として他の部を搜索の際一應はこの部をも參照ありたし、その主なるものはポートレート、條約書、軍艦等なり

切支丹關係……一〇一
切支丹に關係あるものは凡てこの部に編入したるがその數非常に多きため「書圖類」「畫、像、肖類」「服裝、器具類」の三項に分類せり、但し禁教時代以外のものも勿論多數あり

【附記】出品者の住所は各項目毎にその最初に詳記、同項目中の分はこれを省略せり。又分類について正鵠に缺けるものもあるべし、叱正を乞ふ。

南蠻屏風　地圖屏風

南蠻屏風　六曲一双　宮内省
德川家達公が獻上になり明治天皇が常に御側近くおかせられたと拜承する

同　六曲一双　兵庫縣城崎郡日高町鎌岡　河本重利
狩野内膳（一雲）の署名あり元祿年中但馬出石の城主小出氏除封の際所藏者の手に歸したるもの

同　六曲一双　京都市室町通二條下ル　矢代仁兵衛
高さ五尺五寸ポルトガル船入港、買易、出帆の圖

同　六曲一双　高岡市横田町　岡本清右衛門
高さ五尺七寸

同　四曲半双　奈良市外秋篠　平井右平

同　**小屏風**　六曲一双　岡崎市役所
高さ二尺三寸、故忠寶重地氏の寄贈品（岡崎市立圖書館保管）

同　六曲半双　大阪府吹田町字壽綠二八一六　高橋龍太郎
高さ四尺一寸

同　（一部の摸寫）（軸）二幅　堺市役所
一幅の縱四尺六寸横五尺三寸（原圖は渡邊修次郎氏の所藏（模寫）なりしが震災にて燒失せりと）

同　二曲半双　東京市北品川本宿一二　山村耕花

蘭船來朝小屏風　六曲一双　大阪市東區内淡路町二　山田寅次郎
高さ二尺九寸五分

長崎の圖屏風　六曲一双　東京市芝區高輪　益田男爵家
高さ四尺五寸五分、住吉如慶筆、長崎における外國人との取引の實況を極彩色にて描く

世界日本地圖屏風　六曲一双　福井縣遠敷郡今富村　毅心寺
金地に紺泥、日本地圖はミヤコを中心にその交通路を朱線にて現はせり

同　六曲一双　東京市　益田男爵家
高さ三尺八寸、越前春岳公の愛藏せしものといふ

世界地圖屏風　六曲半双　堺市東湊　山本吉次

同　二曲半双　堺市少林寺町東一丁　前田長三郎
南北の兩極地より描けるもの、日本の東方に金島、銀島などを描きたり、ポルトガル人はこの金銀島の存在を信じて頻りに東方の探險を試み遂に日本を發見するに至りしなり（高さ二尺三寸五分、横二枚にて六尺一寸）西川如見著「長崎夜話草」に「世界萬國金銀之沙汰、附紅毛人金島に到る事」の記あり、異國叢書「ドン・ロドリゴ日本見聞錄」「ビスカイノ金銀島探檢報告」參照

イングランド地圖屏風　六曲一双　金澤市出見町一八　桂井健之助
十七世紀末葉より數年に渉り印行したる銅版地圖にして印行後微細なる書入れあり、高さ五尺六寸

地圖其他張交屏風　二曲半双　金澤市古寺町四〇　田中清次
外國製銅版地圖、砲彈々道圖、工業圖、警局圖等の張交ぜ、高さ二尺

世界屏風（下繪）　一枚　千葉縣古河　鷹見久太郎
縱二尺横三尺九寸、世界地圖屏風の寫しにして原本は『寛永十四年德川家光將軍の御用命により長崎にて描きたるものゝ下繪を天保七年寫す』とあり

世界地圖及土伊戰爭屏風　六曲一双　大阪市北區中之島三　大阪朝日新聞社

西洋人風俗屏風　六曲一双　東京府豐多摩郡落合町下落合三二〇地　相馬子爵家
一扇に一人づゝを描く

西洋畫屏風　六曲一双　東京市外戸塚町源兵衛八八　南部伯爵家
油畫筆者不明、文祿三年三月浦生氏郷養妹の南部家二十七世利直へ入輿の際浦生家より持込の品なりと傳ふ。明治十八年帝大御雇米人フエネローサ氏は次の如き評を下せり『此の畫は某樹の實より製出したる油を以て洋風を摸し畫きた

るもの、筆者は日本人なりと思ふ、信長時代葡國より肥前長崎へ渡來せし耶蘇宣教師日本人に油繪を傳へたることあり、此繪畫し當時のものならん。着色の上より言へは木葉の彩色より山水書黒く色取りたるは狩野家の風を存せり、圖中鎗を帶ひたるは葡萄牙國當時士分の者の風俗なり、三百年以前に在つて斯くまでに摸したるは巧妙と謂つて可なり。云々』

油繪屏風 六曲一双　堺市宿院町西二丁　米谷茜三郎

遠離、阿蘭陀等の人物を絹地に描けり、高さ四尺四寸七分

西洋畫郊外の圖屏風 六曲一双　東京市外上目黒　松平(直徳)子爵家

高さ三尺六寸五分

長崎版畫屏風 二曲半双　堺市　前田長三郎

萬國總圖と四十二ケ國人物圖を屏風仕立にせるもの、木版に筆彩色を施す、共に長崎板にして現存する我國刊行世界圖中最古のもの、四十二ケ國人物圖の刊記に『正保丁酉季春吉辰於肥州彼杵郡長崎村開板』とあり

兵庫開港當時の屏風 六曲一双　神戸市兵庫西出町　西田彌兵衛

新製品なり

奉納額

南蠻船の奉納額 一面　長崎市高野平町　清水寺

彩畫剝落して船形を僅かに認む、縦六尺三寸横五尺三寸

同 一面　廣島縣嚴島町　嚴島神社社務所

長崎住河野七兵衛畫松浦七郎左衛門奉納、縦五尺二寸五分、横四尺三寸五分、畫面なほ鮮明なり

末次御朱印船奉納額 一面　長崎市　清水寺

縦六尺、横六尺九寸、豐後氏、石本氏、大賀氏、古手屋氏、平森氏、鹿谷氏、平森氏清久氏、淺井氏、松本氏、平野屋氏、芝山氏、白倉氏、長谷川氏、寺田氏、新荘氏の名を錄しあり、寶永十一年七月吉日奉納

安南渡航圖 一面　滋賀縣八幡町　縣社　八幡神社

正保四年三月菱川孫兵衛筆、安南國居住西村太郎台衛奉納(國寶摸寫)縦二尺二寸七分横二尺六寸一分、太郎右衛門は江州商人の本壓八幡新町の生れ、寛永年間安南に渡航して巨利を得たるも德川幕府の貿易政策が一變して遂に歸朝の期を失ひ安南に客死す

角倉船圖(大軸)　一幅　京都市今熊野日吉町　京都市立美術工藝學校

京都清水寺奉納額(國寶)摸寫、寛永十一年(一六三四年)九月狩野山樂筆、船元の角倉と客中より奉納せしもの、航海中のつれ〳〵にさま〳〵の遊戯をなせるさまを描けり。この圖は今より約二十年前の摸寫(豐島氏筆)縦八尺七寸、横十一尺八寸。角倉了以は天文二十三年の生れ、文祿元年(一五九二年)秀吉の朱印狀を得て安南に渡航巨利を占め次で家康の許しを得、一子與一また力を合はせて通商、慶長十七年(一六一二年)まで二十年の長きに及ぶ。了以土木のことを好み保津川、富士川、天龍川その他の開鑿をなし交通上至大の便益を後世に殘せり

同(屏風仕立)　二枚折一　京都府葛野郡花園村　天球院

同上京都清水寺奉納額模寫

同　同上一帖　海軍省

貿易船圖奉納額 一面　大阪市住吉區平野町　杭全神社

寛永四年四月平野屋孫左衛門尉奉納とあり、縦二尺二寸、横二尺五寸。奉納者の名は播津平野郷住人末吉孫左衛門のこと、末吉船を仕立て、天正年間より呂宋シャム方面の貿易に從事せり(朱印狀の部參照)

末吉船の衝立 一面　同

安政五年八月奉納(表)末吉船の圖(裏)巖に松、古河牧溪の掩蹟記、縦五尺二寸横六尺三寸

奉納象の圖(軸)　一幅　靜岡市呂ケ崎町　淺間神社々務所

長崎の畫工梅溪畫、清人江芸閣、蘭人甲比丹ヅーフの書、須田郷藏の奉納せしもの、横五尺七寸五分縦三尺二寸

鐵砲繪馬額 一面　堺市　菅原神社

繪畫

長崎港圖（軸）一幅　東京市麻布區北日ケ窪　馬越恭平
丸山應擧筆、縱二尺七寸、横三尺一寸、筆致精妙を極め忠實に寫生しあり、さすがに堂々たる壓卷的の大作

同　一面　大阪市西淀川區浦江三丁目二〇　小林三郷
川原慶賀筆、衝立仕立、藝術味の多い丹念な寫生圖（他の一面には甲比丹ブロンホフ一家族の圖あり）

長崎港内の圖（軸）一幅　長崎市濱屋町　松田一三
川原蘭谷（慶賀の子）筆、唐船四艘、日本船十數艘を描く、縱一尺六寸五分、横二尺三寸、軸仕立

降魔成道圖（大軸）一幅　堺市中ノ町東三丁　正法寺
本圖は堺の住人中村彦左衛門が多年貿易に從事し「シヤム」に在りしが、德川の鎖國令に逢ひし時母の死去の報を得て望郷の念禁ずる能はず追善の爲遙かに菩提寺に納めたるものといふ、長さ一丈五尺、幅六尺の大幅なり

足利義持蘆葉達摩自畫賛（軸）一幅　名古屋市中區永樂町　堀江清足
足利文庫藏印、表裝に和蘭陀都府記章及蘭東印度商會記章油繪布裂が用ひあり

紅毛人（軸）一幅　新潟縣柏崎町本町　吉田正太郎

同　椿岳筆（軸）一幅　同

甲比丹家族の圖　一面　大阪市　小林三郷
川原慶賀筆、衝立仕立（他の一面には長崎港圖あり）一八一八年（文政元年）長崎に渡來せる和蘭甲比丹ヤンコック・ブロンホフは妻子と召使を伴ひたるが妻子召使は遂に上陸を許されず涙の袖を分ちて去れり、その時の一家族を慶賀が寫生したるもの

同（軸）一幅　大阪市東區内淡路町二ノ三〇　山田寅次郎
同じ川原慶賀の筆、構圖も前と同じ、縱二尺一寸横一尺六寸

同　一面　長崎市小川町　中山大五郎
川原慶賀筆、甲比丹ブロンホフとその妻、子、召使及唐人夫妻の半身畫、泥繪、横大額面

甲比丹婦人畫（軸）一幅　京都市三條通烏丸東入　細辻伊兵衛
長崎繪

和蘭人の像（軸）一幅　京都市三條通柳馬場東入　杉浦三郎兵衛
二人の蘭人を描ける泥繪、大幅

蘭人の圖（額）一面　長崎市　中山大五郎
川原慶賀筆、縱一尺五寸、横一尺八寸五分、六人の男女が鏡をのぞけるセピア調色の泥繪

同（軸）一幅　大阪市東區北新町二ノ三五　藤田一夢
甲比丹が黑奴のさゝぐる酒をのめる圖

同（軸）一幅　東京市上野公園　東京美術學校
小幅、「萬員」の印あり

蘭人掉舟圖　司馬江漢筆（軸）一幅　京都市本町二十一丁目　飯田新七

蘭人とその從僕圖　一面　兵庫縣武庫郡御影町郡家　土屋楠熊
縱九寸五分横九寸、半紙に描きしもの

洋人外出圖（軸）一幅　京都市吉田神樂五三　柳宗悅

紅毛人圖支那人圖對幅（軸）二幅　同

阿蘭陀及唐人圖（軸）一幅　長崎市松枝町一〇　小川水路

蘭館饗宴の圖（軸）一幅　東京市帝國大學内史料編纂室　中村勝麻呂
川原慶賀筆、且濤模、縱一尺七寸、横二尺三寸、原本は和蘭にあり、出島の蘭館にて甲比丹が日本人と藝妓、藝者と相擁してダンスせるところもあり

同　同（軸）一幅　東京市　東京美術學校

和蘭人宴會の圖（軸）一幅　東京市麴町區有樂町一ノ三　大武丈夫
林子平肉筆、天明二年長崎において畫きたるもの、小圖

唐人遊宴の圖（横額入）一面　大阪市港區五條通二ノ二九　鹿島傳藏
石崎融濟筆、融濟は融思の息嘉永五年の畫なり

唐人及遊女　可敬筆（軸）一幅　長崎市　小川水路

唐人遊女枕引の圖（軸）一幅　同
石崎融濟筆、雲溪生の賛あり

芝蘭堂新元會圖（軸）一幅　東京市外日暮里町旭町一丁目　大槻茂雄
寛政六年閏十一月十六日即ち一七九四年一月一日蘭學者二十九名が芝蘭堂に新年宴會を催したるときの光景を寫生したる縱四尺二寸、横四尺六寸五分の大幅にして杉田勉、江馬元恭、木村貞公、唐橋進、大槻磐水、岡田甫説、稻村箭等の詩文あり

新元會の圖（軸）一幅　同
明治六年正月、山本琴谷筆、縱四尺五寸五分横二尺二寸

絲割符貿易圖（横）（軸）三幅　堺市役所
軸仕立三幅對にして長崎古賀氏の説によればこの幅は元且長崎五會所に掛けて貿易の振興を説せしものにてその内二幅の原本は長崎圖書館に存するも一幅は其の所在を失へりと、因みにこの幅は東京渡邊修次郎氏の所藏品（横寫）を横寫したるものなるが、渡邊氏の所藏品は大正十二年の大震災に亡失したりといふ

崎陽八館所圖繪（軸）三幅　長崎縣南高來郡加津佐村　元山元造
渡邊鋼洲筆、蜀山人賛、紙本一唐館、新地庫、蘭園、「官船廠、和蘭館、包頭庫」「會館、瀏崎倉—題辭」の三幅、各縱二尺七寸横一尺二寸

出島蘭館の繪圖（軸）一幅　東京市　中村勝麻呂
川原慶賀筆、蘭館の俯瞰見取圖、原圖は和蘭にあり（模寫）

同　同（軸）一幅　長崎市爐粕町　縣立長崎圖書館

出島の圖油畫　一面　東京市　東京美術學校
縱一尺四寸横一尺（額）

シーボルト鳴瀧宅跡　一枚　長崎市高等商業學校　武藤長蔵
横七寸五分、縱九寸、長崎市外鳴瀧のシーボルト邸寫生圖淡彩

英人唐人小肴像畫（軸）一幅　長崎市　小川水路
川原慶賀筆、印章蘭字「豐助」

人物油畫　一面　東京市小石川區第六天町　德川公爵（慶光）家
ブロシヤ皇帝より德川將軍へ獻ぜしもの、縱五尺四寸、横四尺五分

西洋婦人の油繪　一面　大阪市東區安土町四丁目　鹿田靜七
平賀源内肉筆、縱一尺二分横一尺三寸八分

外人圖（細軸）一幅　東京市本郷區西片町一〇　佐々木信綱
泥繪、手に笛とコンダツを持てり、衣の裾にANOHと書しあり

西洋人物畫（軸）二幅　京都市淨土寺眞如町　田邊朔郎
日本紙地に泥繪、西洋人物を描けるもの縱三尺八寸、横一尺七寸三分（新村博士著南蠻廣記四六一頁參照）

外國二婦人の圖（軸）一幅　大阪市　山田寅次郎

泥繪の西洋婦人圖　鷹見泉石遺品　一枚　千葉縣古河　鷹見久太郎

洋美人圖　司馬江漢筆（軸）一幅　長崎縣西大村　田野純三

泥繪（婦人、家屋）二枚　千葉縣　鷹見久太郎

扇面　一面　大阪市　山田寅次郎
司馬江漢筆「ダイヤモンド磨き」淡墨繪の蘭子人

洋人の繪　一枚　愛媛縣喜多郡大洲町鐵砲町　三瀨彦之進
八寸に五寸五分の鉛筆畫、淡彩のもの二枚、三瀨諸淵長崎にて描く。諸淵は幼時神童の名あり、好んで繪畫をよくせしが伯父二宮敬作に師事し醫學を修めてより蘭學に志すこと切なるものあり安政三年八月十八歳、二宮敬作、大村益

次郎に伴はれて長崎に遊びその餘暇出島にて寫せるもの即ちこの繪なり（傳に洋人はソクラチス、及カントなりといふ）時に萬延元年二十二歳

洋妾風俗繪 一枚　長崎市本五島町七　渡邊庫輔
絹本肉筆洋妾の帶締に寶石入の西洋風金具を描けり

和蘭陀風俗 （下繪）廿二枚　下關市阿彌陀寺町　伊藤醇
中に文化十一年初冬十一月萩屋彌七郎教貞書と署名せしもの數葉あり、凡てシキ寫しせしものにて、下繪、彩色は未濟のまゝなり

日本で描かれた初期の洋畫 一面　東京市上野　帝室博物館
模本（額面縱五尺一寸、幅三尺三寸、原本は寛永以前に海外より持歸りしものと思はる

西洋公園人物畫 （額）一面　大阪市東區森ノ宮西ノ町六四七　布施庄太郎
司馬江漢肉筆

泥繪風景 一枚　東京市外東調布町鵜ノ木四九三　吉田小五郎

風景畫 司馬江漢筆、銅版　一枚　東京市　東京美術學校

淺草公園夜景油畫 一面　宇和島市丸ノ内　桑折直
司馬江漢筆、桑折家は藩字和島藩主伊達家の家老職なりその關係にて江漢も屢々同家に出入し其折描きたるもの（淺草仁王門前の夜景、縱六寸五分、横五寸五分||額入）

田子ノ浦鷹狩圖額 一面　京都市　杉浦三郎兵衛
司馬江漢肉筆、縱一尺七寸五分、横一尺五分

江戸風景 廿四枚　東京市麻布區富士見町　松平子爵家
司馬江漢原畫

洋畫風景圖 一面　大阪市西區江戸堀南通一丁目　森川喜助
荒木如元筆、泥繪、西洋郊外騎行の圖、縱四尺五寸、横三尺四寸

風景圖 一枚　京都市帝國大學文學部　國史研究室
荒木如元筆、泥繪、縱一尺二寸、横一尺六寸五分

外人應匠圖 （軸）一幅　東京市　東京美術學校
長崎若杉機八筆

時代風俗畫 一面　同
永田善吉（奥州の人銅版彫刻の名人）筆、縱一尺一寸、横三寸四分泥繪、額入

洋風景油畫 一面　長崎市筑後町　杉山良七
長崎圃顯堂製、横額、横五尺二寸、縱一尺

古西洋畫 一面　京都市下鴨中河原　田中喜左衛門
縱一尺八寸五分、横九寸、額入、外國風景、和蘭船入港の圖

應擧筆畫帖 一册　京都市三條通烏丸西入　西村總左衛門
胡蘇蔓年橋圖、走馬圖、濕布上望大海圖、妓樓閑圖、京大佛閑圖、以上五枚彩色肉筆

めがね繪 三面　同
應擧肉筆、横一尺二寸五分、縱八寸三分、板に紙張泥繪、一枚に南蠻船あり、和蘭渡り覗きめがねに入れて見しもの

同 譯文附　十二枚　東京市　吉田小五郎

同 六枚　堺市少林寺町東一丁　前田長三郎
應擧の肉筆、京名所、晝夜二樣に應用して覗かれ得る樣仕組み夜間の景色を現はさんとする時は繪の背面に點火す、縱一尺二寸二分、横八寸二分

古油畫帆船の圖 一面　堺市大町東二丁　石村文遣

長崎泥繪 三枚　兵庫縣　土屋楠熊
風景と人物、縱一尺三寸五分、横一尺

油繪風景畫 四枚　堺市材木町　金田新平
江戸時代の輸入品、一尺角金色縁額入

富嶽泥繪 一枚　京都帝國大學文學部　國史研究室
縱一尺一寸、横一尺六寸五分

富士山の圖 （軸）一幅　下關市　伊藤醇
蘭人（ヘルケ（八一四年）の署名あり、ヘルケは日本畫を學び富士を描くを得意とせりと、淡墨畫、絹地

同 （軸）一幅　京都帝國大學　附屬圖書館
同上（ヘルケ筆、日本畫、横軸もの、絹地

骸骨砂時計を手にする圖 （軸）一幅　關西學院構内　眞鍋由郎
ターフエルベルヒ筆、黄檗宗僧圓通の賛あり

港灣泥繪 一枚　京都帝國大學文學部　國史研究室
縱一尺、横一尺四寸五分

濱田彌兵衛台灣討入の圖 （軸）一幅　長崎縣大村町外浦小路　濱田勘五郎
寛永年中末次船が台灣にありし蘭人のために掠奪され濱田はその復讐に出かけて見事彼等を征服したる圖なり

ペルリ提督首里城訪問の油畫 一面　沖繩縣那覇市　沖繩師範學校
ペーシルホールの原畫に基き描けるもの

アメリカ人横濱到來圖 （軸）一幅　大阪市　鹿島傳藏
如水筆、安政六年の寫生

米國使節横濱村應接の圖 （軸）一幅　東京市　中村勝麻呂
圖中に米國より獻上の模範汽車運轉のところあり珍らし、縱一尺九寸四分、横二尺二寸

獄中にて生麥事件を夢見る圖 靜居筆　（軸）一幅　山形縣飽海郡高瀬村　石垣吉六郎

千八百六十年の桑港 （軸）一幅　東京市麻布笄町七九　木村浩吉
木村攝津守が咸臨丸に乘りて米國桑港に赴きたる際の桑港の實景を寫した畫や當時の加州の地圖、攝津守の肖像、その當時の新聞記事の飜譯等をあつむ、縱二尺二寸の大なる卷軸

和蘭軍出陣の圖 藤澤梅甫筆（軸）一幅　東京市　大槻茂雄

戰爭の圖 一枚　堺市　金田新平
江戸時代輸入の水彩畫、肉筆、木炭紙、長さ一尺七寸、巾一尺三寸

汽車に櫻 （泥繪、軸）一幅　山形縣　石垣吉六郎
明治五年トンネルができし時佐藤政養の描きしもの

最初のドイツ公使館 （水彩畫）一枚　東京市麴町區　ドイツ大使館

蘭人及船載マルモット猟 （軸）一幅　長崎市　小川水路
天保十四年の寫生

ラクダの圖 一枚　堺市大町東一丁　石村文遣
文政四年和蘭陀渡來の象の寫生、柚園肉筆、縱一尺二寸、横一尺七寸五分

硝子繪 （額）一面　堺市東之町中濱　住吉力松

江漢書畫會引札 一枚　千葉縣　鷹見久太郎
文化三年四月司馬江漢畫會の引札

繪卷折本

交趾國貿易渡海繪卷 一卷　名古屋市東區筒井町四　情妙寺

この繪卷は茶屋四郎次郎交趾國貿易の圖にして、四郎次郎は安南貿易と絲割符の利により富を重ね角倉、後藤と共に京都の三長者と稱せられたり、京都小川出水下る所に本邸ありき、文祿元年秀吉の朱印狀を得て安南貿易を開始し德川の寛永十二年まで五代四十四年間これを繼續せり、慶長七年南蠻船が白絲を積みて長崎に入港せしも買手なき時四郎次郎長崎に在り堺、京、長崎三ケ所の仲間にてこれを買取り「絲割符」制創定の端をなせり。繪卷中に記されたる說明を左に掲ぐ「長崎より河內へ千八百里餘」「此舟海底に有、吉利支丹、擬現樣御代理」「後藤島之廻三里有之人住」「自之北高麗」「人數三百餘人乘、此船四十日着、此船長二十五間橫四間半有之、かひたん大將茶屋又次郎新六」「交趾國、とろん岩島、船入口」「微師濱並萬市町」「河此より迎舟」「日本町兩輪三丁餘」「寄舟こや諸色かし酒」「寄舟唐人町」「がいたら」「石火矢有覆」「戶ひら板」「色竹にてやわ有」「番者刀持居ル、十四五人遣居ル」「日本人供七八人」「茶屋新六郎」「かけすゞ り」「蒔繪きんま箱」「通口」「馳走の菓子」「遊山舟」「すゞみのちん」「かうちよりす のはいへ四千里有之」「たるまさせん岩猶」「岩のす穴より明ルさす」「ほら、水有、腰かけ石、ゑん有之、十狀敷有之」(縱一尺三寸五分、橫十六尺六寸)

同 一卷　京都帝國大學文學部　國史研究室

名古屋情妙寺所藏の前記繪卷の模寫

長崎諸役場繪圖 一卷　長崎市櫻町　長崎市役所

(三卷の中一卷)西役所、立山役所、岩原屋敷、長崎會所其他を平面圖に描く、彩色入

同 一帖　東京市上野公園　帝國圖書館

長崎西役所、立山役所その他の平面圖を收錄(折本仕立)

御役所圖繪 一帖　長崎市役所

縱一尺二寸三分、橫十三尺(折本)

長崎唐人屋敷圖形 一卷　京都市　帝國大學附屬圖書館

巾一尺一寸、長さ二十一尺五寸、唐人屋敷における唐人の生活狀態を極彩色にて描けり

唐館交易圖 一帖　同

彩畫折本にして八圖あり、說明漢文、內藤湖南博士の寄贈本、縱一尺二寸五分橫一尺一寸四分

長崎出島蘭館の圖繪 一卷　東京市芝白金三光町　伊達侯爵家

出島蘭館における蘭人の生活狀態を極彩色にて描く、縱一尺二寸、橫二十尺

同 一卷　滋賀縣蒲生郡島村大字圓山　西川嘉右衛門

縱一尺一寸五分、橫十三尺一寸、極彩色

長崎の圖 二卷　東京市外澁谷町猿樂　德川侯爵家

狩野春湖筆、長崎の關舊、唐館を絹地に極彩色にて描く、巾一尺四寸、一卷の長さ三十五尺

安政長崎全圖 一卷　江田島　海軍兵學校

安政三年岡部駿河守の手記せるものにして木村播津守の所持に係りしものを木村浩吉氏より兵學校へ寄贈、縱二尺二寸、橫十二尺七寸

大阪長崎間海陸圖 一卷　大阪市東區北新町二ノ三五　藤田一夢

大阪より長崎迄の國々城廓並異國船長崎入港圖、縱一尺七寸、橫二十尺、鳥獸圖、泥繪

唐館蘭館の繪圖 八枚　長崎高等商業學校　武藤長藏

もと繪卷の分離したるもの、古色あり、別に林道榮筆の題字一卷、縱一尺二尺、橫十五尺を添ふ

蘭人拜禮圖 一卷　東京市上野　帝室博物館

紙本卷物、墨繪並に淡彩、長一尺九寸五分、幅九寸八分

蘭人馬藝繪卷 一卷　同

紙本、着色、卷物、長六尺二寸一分、幅一尺三寸八分、天明八年摸寫。享保年間和蘭人ケイツルが齋藤三郎左衞門安盛に馬術を敎授する圖にして最初の三圖を着色したまゝ殘りの圖の着色は未了になりをれり

和蘭軍艦の圖 一卷　東京市麴町區有樂町一ノ三　大武丈夫

天明二年初春長崎において林子平が自寫したるフランス戰艦の細圖にして橫斷て描けり

面、縱斷面、その細部、區分圖等あり、卷尾に「水戰車令大略紀聞」十七行を載せたり、縱一尺七寸四分、橫十三尺八寸

忠宣公使節船御乘込繪卷 一卷　東京市外澁谷松濤　鍋島侯爵家

弘化元年(一八四四年)七月二日和蘭軍艦バレンバルグ長崎に入港艦長コーブ國書を呈し開國のことを勸む(シーボルトの起草にかゝるといふ佐賀の藩主鍋島閑叟公同艦に至りつぶさにこれを視察せんことを長崎奉行(伊澤敬義)に乞ひしも肯かず依て九月二十一日台場見廻りと稱し七十人の供廻を召連れ美裝して同艦に至る。艦長等歡待限なく艦內を案內せり其模樣を畫工古川松根が丹念に寫生したるもの、一卷の長さ二十尺

阿蘭陀使船の圖 一卷　長崎市酒屋町　松田一三

墨の線畫、蘭船の平面、縱斷面、橫斷面圖、長さ十尺

西洋諸船の圖 一卷　同

墨繪、西洋の艦船のプラン、卷の長さ三十尺

外國船繪卷 一卷　神戶市上筒井　神戶商業大學附屬圖書館

イギリス、唐、オランダ船並に乘組員の繪卷、長さ十二尺

浦賀沖諳厄利亞來船圖 一卷　東京帝國大學內　史料編纂係

文政五年(一八二二年)四月二十九日英船浦賀に來り同五月八日出帆したることは「通航一覽」にあり卷しその時の繪卷か、松平鄕壽伯所藏の原圖を摸寫せるもの、縱九寸、橫七尺五寸

魯西亞船渡來圖(軸) 一幅　東京市小石川區關口町　渡邊修次郎

幅五尺、長さ八尺(寛政四年九月五日、根室に入港せる魯船エカテリナ號の圖)「文化元年魯船長崎入港當時の港內の圖形、及警備圖、乘組員の服裝圖解」「豆州君澤郡戶田に於て魯船ヂャナ號水兵「スクーナ」形船製造の圖」等の外(以上、何れも模寫)嘉永六年魯使布哲廷長崎上陸の版畫等の張交ぜ

魯西亞人長崎渡來幕吏談判繪卷 一卷　東京市赤阪區福吉町　黑田侯爵家

嘉永六年八月魯艦パルラダ長崎に來航北方の境界を定め日露貿易開始の使命を帶びたるプーチヤチンが上陸して長崎西役所に赴きたる時の實況を描く(彩色入り)黑田家は寛永以來長崎警備の任に當りをり現にプーチヤチンが當時贈りし垂型形ギヤマンの燭台を藏せり、この繪卷はその時尾形採査か命によつて寫生せしを明治二十七年七月一日尾形至が複寫せるもの、この時のプーチヤチンと析衝これを退去せしめたるは幕府の筒井政憲(七十七歲)川路聖謨(五十三歲)なり

同 (軸) 一幅　東京　渡邊修次郎

同上の折の圖にて(一)上陸の途中(二)十二月十四日幕吏との對面(三)同日饗應(四)同日對話(五)十二月十八日御返禮渡(六)同日拜領物(七)露人の操舵操銃の見物(八)露人のフェンシングの八圖の外に川路聖謨の日誌の轉記

魯西亞使節寫眞圖 一册　名古屋市中區水樂町　堀江清足

美濃紙三枚に四人の人物を彩色にて描く、ロシヤの女王、日本へ來た使節レザノフ、兵卒等の說明書あり

魯艦大阪入津圖 一卷　堺市同陽町一二四　岡村槐軒

安政元年九月十八日プーチヤチンが軍艦ヂヤナ號に搭じて大阪灣に入港し開國談判を行はんとして指揮せられ下田港に至りし時の圖にして縱一尺四寸、橫八尺公圭寫とあり

同 八枚　高知縣吾川郡伊野町　矢野安吉

前項と同じ時の繪卷にして、米艦、一行上陸、橫濱應接所の饗應、米艦上の黑人餘興等を描き、濱學者古賀茶溪の題字あり。土佐山內家の家老が藩主より賜はり、その子孫が現所有者に讓りしものといふ、元一卷の繪卷なりしも八枚のメクリに分離せしものか

同 一卷　岡山縣小田郡大江村　山村久一郎

西村正信畫とあり、長さ十八尺五寸

同 一卷　堺市　岡村槐軒

越前文庫圖書藏印あり

夷人登城繪卷 一卷　東京　德川侯爵家

長さ十一尺二寸、極彩色、安政四年七月米國領事ハリスが將軍に謁するため下田を出でゝ江戶城に至る光景を描きしもの

薩英戰爭繪卷 一卷　東京市外大崎町下大崎　島津公爵家

文久三年七月英艦七寮鹿兒島砲擊の際の實況を寫生したるもの、薩藩守備の狀況詳細に描寫しあり、縱一尺一寸、橫四十二尺

同　同上の模寫　一　卷　鹿兒島市希水町　伊地知　峻

御巡幸御行列の圖式（折本）一帖　京都市三條柳馬場東　杉浦三郎兵衛

御火消方行列繪卷　一　卷　奈良縣郡山町字鹽　三木忠方

黑船來航につき警備火消方の繪卷にして御雷頭彌吉右仲、御物頭石井三郎左衛門、御徒士目付古部幸右衛門など卷中に記しあり

昔の潛航艇「龍宮舟」圖卷　一　卷　江田島　海軍兵學校

能島流又は一品流水軍の秘奥として一子相傳的に相承し來れるもの、說明に『敵陣近寄り或は陣營の內へ海底を押し行きて龍頭を擧げて浮び出て焰錄を飛ばし千柄筒を打ちて又海中に沈み入り我陣に歸るなり』とあるは全然潛航艇の構想なるべし、古き時代我邦に於て斯るものを考案し居たるは極めて異とするに足る、此の卷は寛政二年三月田邢淺穫介爲倫、同助八重義の書寫にかゝる、水中の進航法については『磁石にて東西南北を知る』とし、船の色は『水上は青染、水線下は松脂を塗る』現在の潛航艇のペリスコープと同じく『水晶を眼入して海上を見る』など記しあり

戶田灣にて魯船竣工圖　一　卷　東京帝國大學內　史料編纂係

安政元年十一月四日豆州下田に大海嘯起り當時來舶中の露艦デヤナ號は沈沒せしより使節プーチヤチンは戶田灣において幕府の許可を得スクーネル二隻を建造歸國の準備をなすその帆船が竣工して進水の時の狀況を描けるもの、横井省三氏の原本模寫、縱九寸、横一尺八寸

嘉永六年米艦來航圖　一　卷　東京　德川侯爵家

嘉永六年（一八五三年）六月三日開國談判の使命を帶びて相州浦賀に來航のアメリカ合衆國ペルリ提督の乘艦サスケハンナの寫生大圖にして水戶烈公の題字あり、縱二尺九寸、横五尺三寸

同　一　卷　大阪市東區平野町一丁目九　北尾長三郎

艦體の外に久里濱上陸、外濱引揚所にて應對の圖等を描ける物長さ十三尺八寸

同　一　卷　東京　黑田侯爵家

林享の描けるものを明治廿七年十月尾形玉が複寫せるもの

同　一　卷　岡山縣　山村久一郎

西村正信畫とあり

來朝夷狄圖繪帖　一　冊　伊豆下田　鈴木吉兵衛

嘉永六年露プーチヤチン派（ペルリ）兩使節の來朝を描けるもの（寫し）

金洋一覽（乾坤）二　卷　長崎市新町　横田萬次郎

嘉永七年（安政元年—一八五四年）一月十六日ペルリが軍艦九隻を率ひて相州浦賀に再來直に神奈川沖に投錨、折衝の結果横濱に上陸國書の奉呈をなしたる時の繪卷にして、ペルリの艦隊、ペルリ以下の乘組員、横濱海岸應接所、獻上品、その他を詳畫せり、この卷に附したる仙台の蘭學者大槻磐溪の跋文によれば磐溪が主命を帶びて金川に至り再檢探索のため滯留數旬たまゝ津山の畫工鍬形蕙齋同宿にありよつて齋に囑して親しく見る所を圖せしめ歸後更にこれを增補二卷となし裝幀珍藏せしに御典醫熊澤翁これを見て頗る奇とし借り歸りて阿鶴といふ畫工に一々これを寫さしめ裝成の上齋筵の許に到り題字を需めより「金洋一覽」の大字を書し更に跋文を記す云々、嘉永甲寅閏七月十七日其師磐水先生の子大槻崇年橋西寮靜閑中において識すとあり（乾）長さ三十四尺七寸（坤）二十五尺二寸

ペルリ再來繪卷（乾坤）二　卷　東京帝國大學　史料編纂係

前項と同じ時の繪卷にて松平康民子爵所屬の原本により模寫したるもの、縱一尺、横二十六尺と四十三尺の二卷、應接の模樣乘組員の服裝なども詳圖しあり

同　饗應の圖　二　卷　同

前項と同じ時の繪卷にして、上陸より、幕府への獻上品等の寫生圖等を收む、松平康民子爵所藏の原本により模寫したるもの、縱一尺、横五十尺と四十二尺の二卷

同　二　卷　東京帝國大學圖書館

前項と同じ時の繪卷にして高川久答筆（一）ペルリ饗應の圖、縱一尺八寸、横三尺五寸（二）ペルリ、アダムス等の肖像及び艦上餘興の黑人の踊りを描く、縱一尺、横五尺二寸

和蘭太刀使繪卷　一　卷　同

村上保一郎氏（能島村上後裔）の所藏品を模寫せるもの

德川時代軍船圖卷　一　卷　同

德川三代將軍家光公の御座船（天地丸）を中央に小鯱鱗丸その他の諸船前後に供奉護衛せる有樣を描いたもの（彩色を施しあり）

千島諸島圖　一　卷　函館市　市立函館圖書館

「文化九年クナシリ島にて召捕候異國人七人ラソワ夷人一人都合八人內ラソワ人此繪畫相認」と奥書あり（模寫）

船頭幸太夫漂流繪卷　一　卷　大阪市東區內久寶寺町三　今城梅吉

天明二年伊勢の漁夫幸太夫、磯吉墨濱流して露國に至り十二年目に歸朝したる繪卷

巴丹（バタニヤ）人の繪卷　一　卷　千葉縣古河　鷹見久太郎

初めに「延寶八年伊東出雲守領內日州之內外之浦へ漂着ハタアニ人十八人長崎へ送り越たるときの圖」とあり、後に「延寶中巴寶丹人漂來措之出島後附船十荷蘭船而去其語不可鎖唯圖其形而已寫政八年丙辰四月近藤守重志」と記せり

新補萬國船幟圖（折本）一　帖　東京　德川侯爵家

萬國旗章圖譜　一　帖　同

鱸奉卿編、嘉永五年版木版彩色刷

航海標並旗圖鑑和解　一　卷　千葉縣　鷹見久太郎

萬國國旗を克明に筆寫し彩色を附しその說明を和譯したもの（鷹見泉石遺品）

萬國々旗圖及檣號圖　二　卷　愛知縣西尾町　岩瀨文庫

府中（靜岡）貫志孫太夫が天保十一年自寫彩色

萬國旗幟集　一　帖　名古屋市　堀江清足

旗の圖、彩色は板木刷、說明は毛筆書入

萬國旗印帳　一　帖　下關市阿彌陀寺町　伊藤醇

西の內二ツ折、肉筆彩色十一枚

外國風俗繪卷　一　卷　松江市東茶町一九地　桑原幸次郎

世界各國風俗の毛筆彩色畫（文化ころのもの）四十二國の人物を描く、縱一尺横二十二尺五寸

四十二ケ國人物繪卷　一　卷　長崎市燈籠町　縣立長崎圖書館

毛筆彩色畫（享保二年西川如見は「四十二國人物圖說」を著はしこれを刊行せり）

魯西亞屬國人物の圖　一　帖　長崎市酒屋町　松田一三

ロシア領土內の諸民族の風俗を寫した彩色百畫をあつめたる畫帖

外國九ケ國人物繪卷　肉筆彩色　一　卷　堺市中之町　耳市松

畫像

ヒポクラテス畫像（軸）一幅　東京市小石川區雙龍町　入澤達吉
司馬江漢筆、縱三尺六寸横一尺六寸二分、上部に吉雄耕牛の關文賛あり（譯）
『人もし人體の自然のまゝの構造を知らば人は凡ての病を治することを得べし』

同　一枚　同

同（軸）一幅　京都市室町通中長者町　佐伯理一郎
司馬江漢筆、泥繪、小幅、縱一尺三寸五分、横一尺三分

同（軸）一幅　堺市新在家町大道　片桐理一郎
マツサード筆、銅版一色、縱一尺、横一尺六寸三分、上部に新村淳庵撰立壽書あり

同（軸）一幅　大阪市東區內淡路町二ノ三〇　山田寅次郎
畫面縱三尺五寸、横一尺五寸の大銅版畫

日敎上人畫像（軸）一幅　京都帝國大學文學部內　國史研究室
日敎上人は日蓮宗の名僧、慶長十一年池田輝政の室德川氏、その母の爲に播磨山崎町に青蓮寺を建立し上人を禮請して開山となす。同十三年に五十七にて入寂。此畫は信水の描けるものにして德川初期邦人の手に成れる洋畫なり（横賛）

シーボルト畫像（小軸）一幅　東京市本郷區西片町　佐佐木信綱
青年時代のシーボルトが犬をつれて郊外散歩の圖、筆者は長崎の畫師川原慶賀

同（軸）一幅　東京市牛込區新小川町二　白井光太郎
岩崎灌園筆、縱一尺六寸横九寸、若きシーボルトを描く

同　一枚　長崎高等商業學校　武藤長蔵
川原慶賀筆（横賛）長二尺六寸、幅一尺六寸、若き時代のシーボルトと黑人の從僕を描く

シーボルト觀劇の圖（軸）一幅　東京市　白井光太郎
縱九寸横一尺三寸の彩色畫、鶴宿因筆、文政九丙戌五月七日於浪華觀紅毛人」と記しあり、シーボルトが參府の歸途大阪道頓堀の竹田座にて「妹脊山」を見たることとその參府紀行中に自記しをれり

ポンペの肖像　一枚　東京市　入澤達吉
ポンペ、ファン・メールデルフールトは和蘭の軍醫にして安政三年八月長崎に來る、幕府は松本順をして醫術の傳習を受けしむ、日本における寫眞術の學祖上野彦馬もポンペについて分析術を學べり、石版畫（寫眞之部參照）

ヘーステル肖像（軸）一幅　東京市外日暮里町旭町一丁目二六　大槻茂雄
縱二尺八寸横一尺三寸の彩畫筆者はファン・ダイク

フルベツキ畫像（軸）一幅　長崎市爆粕町　縣立長崎圖書館
日本服を着し駒下駄をはきて立てる姿、絹地。フルベツキは米國の官敎師日本語に精通、安政六年長崎に來り布敎の傍ら英學を敎授副島種臣、大隈重信、中野健明等就て萬國公法を究む、維新後帝大の敎師たり東京に歿す

四代目足屋治兵衛畫像（軸）一幅　堺市七道東町　柳原吉兵衛
大德寺嚴和尚の賛あり

青木昆陽畫像（軸）一幅　東京市　大槻茂雄
縱九寸横六寸三分、目黑龍泉寺にある昆陽の墓碑の拓本と併せて一軸となしたるもの、昆陽は幕府の儒者名は敦書字は原甫、賛文藏と稱す、蘭學の未だ開けざるを慨し長崎に至り譯者に質し書を考へ漸くこれを了會す、蓋し日本における蘭學の先驅なり、著書像めて多し

高島秋帆晩年の像（軸）一幅長崎市銀屋町　古賀十二郎
縱一尺二寸三分、横一尺三分、秋帆名は四郎太夫又四郎兵衛は長崎取締役たり開人デヒレニューへについて砲術のことを遊び頗るこれに長ず、相州韮山の代官江川坦庵と好く、砲術の習及を謀る、後幕府の忌諱にふれ異圖あるものとして獄に下りしが後釋され慶應二年江戸に歿す年六十九

吉雄耕牛畫像（額入）一面　長崎市豐後町　吉雄敬三
油繪、縱八寸、横六寸三分、耕牛は吉雄流外科の祖、また長崎奉行通詞たり、俗稱幸右衛門後幸作と改む、門人六百餘名、蘭書を讀み醫術の精を蘭醫に質し

その技を磨きしは耕牛に始まる、寛政十二年歿、年七十七

同（軸）一幅　東京市　大槻茂雄
蘭學者杉田玄白筆（木版）縱三尺四寸五分横二尺六寸、別に耕牛の傳を註記せり

大槻磐水畫像（軸）一幅　同
縱三尺三寸横一尺四寸、磐水が脇息により書を讀む圖、上部に磐水自筆の「早春逃懷」の詩を附す。磐水、名は茂質、字は玄澤、仙台の人、建部清庵に師事し醫方を修め長崎に遊び蘭學を究め更に前野良澤につき敎を乞ふ、文化八年幕府命じて蘭書を翻譯せしむ、十年三月歿、年七十一、蘭學階梯、環海異聞その他の著あり

大槻磐溪畫像（軸）一幅　同
源懼堂筆、縱二尺二寸五分、横一尺三寸。磐溪は磐水の第二子磐里の弟、嘉永六年ペルリ來る、磐溪開國のことを建議主張す、明治戊辰の亂に奥羽諸藩合して兵を學ぐるの時仙台公盟主となり磐溪に軍國文書のことを司らしむ、事敗れて下獄、間もなくゆるされ明治十一年七十八の高齡を以て東京に歿す、孟文約解その他著書多し

杉田玄白自畫賛（軸）一幅　同
自畫賛、縱二尺七寸三分、横九寸。玄白は蘭醫甫仙の子、名は翼、晩年九幸と號す、明和八年蘭書内景圖說を得てその精妙に感じ中川淳庵等と小塚ヶ原に刑囚の解剖を見いよ〳〵これが譯譯に志し刻苦三年改稿十一度『解體新書』漸く成る、これを最初の翻譯解剖書となす、文化十四年四月八十五にて歿す

同（軸）一幅　東京市小石川區關口台町　吳秀三
七十九歳の時の筆

建部清庵畫像（軸）一幅　東京　大槻茂雄
縱二尺三寸、横九寸。清庵は奥州の一關の名醫、杉田玄白との間に彼の有名なる蘭學醫事についての往復問答あり、明和八年民間備荒錄三卷、備荒草木圖一卷を作る

前野良澤自畫賛（額入）一面　同
『桂川家の舊藏なりしを明治九年大槻磐水五十年祭の時贈られたるもの、大槻文彦』とあり、良澤は學蘭者、豐前中津の醫、樂山と號す四十七歳の時青木昆陽の門に入りて蘭學を究め更に長崎に遊び吉雄耕牛、楢林鎮山について學ぶところあり、江戸に歸り杉田玄白等と解體新書の譯に從ふ、後更に長崎に至り數種の蘭書を得、潛思數年和蘭譯文略その他を著す、藩侯その熱心を見て「おらんだの化け者」といふ即ち「蘭化」と號す、享和三年十月年八十一にして歿す

中山文雄畫像（軸）一幅　長崎市爆粕町　中山知雄
長崎奉行所の大通詞、中山家第五代の人、十三にして父の跡をつぎ文化十三年六十にして歿す

中山知雄畫像（軸）一幅　同
中山文雄の長子、知雄はその字名、名は作三郎、通詞として蘭書の譯譯に力むること多年、甲比丹に隨ふて參府すること三回遂に大通詞となる、この幅に「海雲二十三世大機老衲」の賛あり弘化元年年六十にして歿

鷹見泉石畫像（摸、軸）一幅　千葉縣古河町　鷹見久太郎
渡邊華山の筆、その師泉石の像を描きたるもの、洋畫の風をとり入れ陰影を施しあり。泉石、名は十郎左衛門、下總古河藩の家老職、寛政文化の交國防講究のため蘭學を修め蠻語を學び地圖を著す、支藩越前大野の城主に蝦夷開拓をすゝめ藩主土井公幕府に入るや輔翼大いに力め、開國の先覺者として知らる

大船頭アダム旅宿の圖（軸）一幅　長崎市松枝町十　小川水路
お小人目付本田次郎左衛門壽之とあり

緒方洪庵畫像　一幅　大阪市西區久左衛門町　緒方銓次郎
洪庵は備中足守藩士、名は章、字は公裁、舊三平と稱す、年十五西洋の醫術を學び天保二年坪井信道の門に入る、後長崎に至り蘭人につき研究三年、年二十九にして大阪に開業、治を乞ふもの多く門人日に月に衆し、明治六年五十四にて歿す、日本赤十字を興したる佐野常民、慶應義塾を創設したる福澤諭吉皆門下たり、洪庵が大阪において始めて種痘を施したる際の如き、町醫その技を憎みて盛に流言を放ち自ら詐法を敢てして自己の拙技を欺瞞せんとしたるも、官の保護命令正しきを得て止みたり、名著多し

高野長英畫像　東京市麻布櫻田町　後藤伯爵家
絹本にして瑞皇先生畫像記添附、縱三尺五寸横一尺四寸筆者は椿山。長英は陸奥水澤の生れ、杉田玄白に蘭學を學び、彼のシーボルト追放の時には長崎に在り、後江戸に歸り醫療と譯譯に從ふ、英船來り開港を迫るに當り夢物語の著あり攘夷の非を論ず、遂に獄に下り、火のため免れ名を變じて出沒、盛に國事を論ず衆服す、嘉永三年十月青山の居において尊攘包圍の内に自殺す年四十七

同　（軸）一幅　東京市　大槻茂雄

竪四尺横一尺六寸

ブーチヤチン畫像　一枚　東京市外代々幡町代々木四七六　志賀富士男

縱五寸五分、横三寸五分、官服を着せる露國使節ブーチヤチンの半身像なり

カツテンダイクの肖像（額）　一面　長崎市高等商業學校　武藤長藏

安政四年（一八五七年）軍艦ヤパン（後の幕府軍艦にして草延元年米國に派遣されたる咸臨丸）に乘組み海軍指揮役として長崎に來任せし和蘭海軍士官（後の海軍大臣となり（勝伯著「海軍歴史」卷の五參照）

惣大將ヘロリ眞圖（肉筆）　一枚　新潟縣柏崎町本町　吉田正太郎

横山松三郎自畫像（油畫）一面　函館市　函館圖書館

横山はエトロフの生れ嘉永の末露艦テイナヤ乘組の畫家ライマンについて洋畫を傳習す

石橋助左衛門像（石版畫）一面　東京市上野公園　東京美術學校

長崎の通詞、文化五年幕命により同じ通詞の中山作十郎、楢林彦四郎、本木莊左衛門、今村金兵衛、馬田源十郎等と共に甲比丹ヅーフにつき佛蘭語を學べり

奈翁肖像　一枚　千葉縣古河　鷹見久太郎

石版畫、鷹見泉石遺品

奈翁三世、同妃肖像　二枚　大阪市西成區千本通二　池田長堅

遺佛使節池田筑後守が文久三年フランスにて奈翁三世より拜領せしもの、石版畫、大

彫塑類

ヒポクラテス陶像　一軀　堺市向陽町一二四　岡村槐軒

（ポン博士將來、高さ八寸

角倉了以木像　一軀　京都嵐山　大悲閣千光寺

角倉了以は天文二十三年の生れ、天性木工を好み、慶長八年には家康の令により巨船を作り安南に通商巨利を收む（奉納額之部參照）諸國の河川改修を行ひ後年を益すること頗る大なり、慶長十九年六十一を以て卒す、卒するの年嶮岨大悲閣を造營す、この像は遺言に遵ひその子玄之（ハルユキ）の作りしもの

黑奴立像　一軀　東京市上野　東京美術學校

元東京吉原大文字屋にありしを美術學校に寄附したるものといふ、貿易船首の飾、全長六尺二寸、手首、腰部、脚等に古き修理が施してあり、木彫

鄭成功銅像　一軀　長崎市鳴瀧町二八九番地　井上隆一

近松作國姓爺の「和唐内」にてよく知らる、鄭成功の碑は平戸にあり

鄭芝龍の像（小）　一軀　同

鄭成功の父なり

奈翁一世の銅像　一軀　大阪市西成區千本通二ノ三〇　池田長堅

文久三年使節池田筑後守がフランスにて奈翁三世より拜領せしもの

奈翁三世の銅像　同上　一軀　同

ブロンズ　一個　同

池田筑後守の左の手首を石膏に取りブロンズとして奈翁三世より贈りしもの

馬の足（模型）　一個　同

池田筑後守が奈翁三世より拜領せしもの

外人像　一個　大阪市東區内淡路町二ノ三〇　山田貢次郎

高さ一尺二寸、木彫

媽祖像　一軀　長崎高等商業學校　武藤長藏

出島漂流唐船のものにて、切支丹でなきことを證明し且航海の安全を祈るためこの媽姐（ボサ）を携へ來りしもの、高さ約五寸、唐子入

佛像　一軀　堺市新在家町　發光院

シヤム傳來、銅、高さ一尺、裏面に「具足屋」の文字あり

象時計の飾山車　長崎市　楢屋町總代　森柳市

長崎諏訪神社祭禮用象鉾の上置にて、異國情調の豐富なもの、安永元年楢屋町打橋久八の創作にかゝり、昭和三年十月修理せり、紐を引けば象の鼻と時計の針が動く

外人の日本觀

ピントオ極東旅行記 一冊　福岡市九州帝國大學内　長澤賢海

フエルナン、メンデス、ピントオの紀行、一六二七年マドリッド版。ピントオは葡萄牙人、一五〇九年の生れ、アラビヤ印度地方に旅行三十八年、一五五八年に歸國して死せり、生前己の閲歴を記して子孫に傳へしものこの旅行記なり、長き閲歴を記憶中より書き立てたるものなれば年月等に錯誤あり誇大の點も多し、彼の記によれば一五四五年（天文十四年＝實は一五四三年、天文十二年）初めて日本の種子島に漂着し鐵砲を傳へ、一五四六年（天文十五年＝實は一五五〇年、天文十九年）には豐後府中、一五五一年（天文二十年）同上、一五五六年（弘明二年）同上の四回なり

同　一冊　長崎市燈籠町　縣立長崎圖書館

西班牙語の原文よりエッチ・シー・ゲント氏の英譯、一六六三年ロンドン版

日本帝國志 二冊　京都帝國大學　附屬圖書館

フランシス・カロン著（蘭文）一六四八年版（英文）一六六三年版。カロンは平戸の蘭館長たり、江口十左衛門の娉を妻とし一女を擧げ寛永十七年幕府の時には蘭館を長崎に移すについて幕府の諮問を受け「バタビヤ總督が平戸侯の反對のためこれを許さず」と答へ依然平戸にありて自由に貿易をなければならんことを乞へり、然も幕府は遂に寛永十七年十一月平戸侯をして蘭商館前の倉庫を破壞せしめ長崎にこれを移了せり、カロンは館長をマクスミリヤン・メールに讓り十八年一月平戸を去つて歸國す、この著は長き在任中日本に關する見聞を收錄せしもの

モンタヌス日本志（英譯）一冊　神戸市海岸通一丁目　エッチ・ゼー・グリフイス

一六七〇年ロンドン版。蘭人アルヌルヴス・モンタヌスの「アトラス・ヤパネンジス」にして十七世紀の始めより凡そ五十年間數回に亙り東印度會社より日本に差遣の蘭國使節數名の見聞實記と、十六世紀末以來日本にて基教の傳道に從事せる葡、西兩國牧師の報告文書により織田、豐臣時代から德川時代の初期寛文中に至る約百年間の日本の史實を泰西人の眼に映したるまゝ記述せるものにして蘭文原書は一六六九年（寛文九年）公刊、翌年以後英獨佛の譯本出ナリ

同　同一冊　京都帝國大學　附屬圖書館

同　一六八〇年アムステルダム版　一冊　福岡市　長沼賢海

日本及シヤム 一冊　同

ペルンハルデイ・ヴアレニ著、一六七三年、カンタブリヂア版

日本領台灣島誌 一冊　台北帝國大學文政學部　移川子三藏

サルマナザアル著、一七〇五年ロンドン版。本書は日本屬領の民、台灣人と僞稱せる一代の欺瞞著述家サルマナザールの著にして今より三百二十五年前（一七〇四年）初めてロンドンにて出版せられ、翌年再版、同時に和蘭語（ロッタルダム）版と佛語（アムステルダム）版に飜譯せられ又一七〇八年には佛譯（アムステルダム）版の再版、越へて一七一六年には獨逸フランクフオルト版の獨譯あり、更に一七三九年佛譯巴里版を出し、最近には欺瞞叢書の一として三年前倫敦にて出版を見たるものが、屢々物議を醸したる書なり、書中台灣の地理歴史、宗教、土俗を叙し著者が歐洲旅行中いとすいた派基督教徒との對談や、基督教に歸依せしその經緯、同宗教反對理由等をも併せて述べられが殆んど全部が著者自身の揑造詐誕であり、荒唐無稽憑據に値するものにあらず、此の書を上梓せる所以は『日本特に台灣が歐洲諸國によく知られず、いとすいた派宣教師等の乘ずる處となり虚欺の宣傳が行はれてゐるが、實は日本の基督教徒迫害といひ、追放といふも極めて謂あるものであるから一般に其の所以を知らしむる必要を痛感したが爲めである』と書きあり

懺悔錄 一冊　同

サルマ・ナザアル著、一七六四年ロンドン版。死後公刊すべしとて書遺したる懺悔錄にして、著者が台灣人に非ず歐洲南部に生れ、歐洲外に旅せる事會て無く、その著『台灣島誌』は全く虚構の記述なる事を告白したるもの。氏は一七六三年五月三日ロンドンにて歿す。年八十四歳。懺悔錄は一七二八年に採筆、ロンドン版（一七六四年）と愛蘭ダブリン版（一七六五年）あり

日本史（第二）一冊　神戸市　エッチ・ゼー・グリフキス

ケンプエル著、一七二八年ロンドン版。エンゲルベルト・ケンプエルは一六五一年の生れ、ドイツ人なり、一六九〇年（元祿三年）秋蘭館の醫員として長崎着、二回甲比丹に伴はれて參府、將軍に謁し、一六九二年（元祿五年）日本を去れり、在任中鋭意蒐集したる日本の史料によりて著述したるものこの書なり（同人生前出版に至らず英人その稿本を求めて英語に譯し一七二八年、享保十三年公刊す）日本に關する外人唯一の典據として長くその生命を保ちき

異國奇事 一冊　京都帝國大學　附屬圖書館

ケンプエル著、一七二二年獨逸レムゴー出版

日本旅行記抄 一冊　長崎高等商業學校　武藤長藏

ケンプエル著日本史中よりフイリップ・コルベルが抄編したるもの、扉に「ケンプエルが將軍の前にて踊れる圖」を挿入せり

鎖國論譯例 一冊　東京赤坂氷川町　勝伯爵家

ケムプエル著日本史中より長崎の譯官志筑忠雄の抄譯せるもの（半紙七十七枚肉筆）

日本歴史 六冊　福岡市　長沼賢海

シヤルルボア著、一七五四年パリー版

日本旅行記 二冊　東京市上野公園　帝國圖書館

ツンベルグ著、一七九六年パリー版（佛文）カール・ペーテル・ツンベルグは瑞典人、一七四三年（寛保三年）生れ、博物探取の目的にて和蘭に至り、長崎へは一七七五年（安永四年）五月に來着せり、ケムプエルに次ぐ日本關係の重要著書、彼も江戸參府をなし旅行の見聞を書中に委しく錄せるが、江戸滯在中蘭學者の包圍をうけ數學、博物學、醫學その他につき盛に尋問せられたり

日本旅行記 一冊　長崎市　武藤長藏

ゴンチヤロフ著。ゴンチヤロフは一八一二年（文化九年）に生れ一八九一年（明治二十四年）に永眠したる露國の有名な文學者にして露國文學史上ツルゲネーフ及びトルストイに次ぐ位置を占む、ゴンチヤロフは一八五三年（嘉永六年）七月ブーチヤチンの秘書として軍艦パルラダに搭乘長崎に入港川路聖謨等と談じたるが川路の才をこの著書中に筆を極めて賞揚せり

日本雜誌 二冊　京都帝國大學　附屬圖書館

チチング著、一八二四、五年ヘーグ出版。チチングは甲比丹ツンベルグの後任として一七七九年（安永八年）長崎出島蘭館長として着任せり、一七四〇年の生れ日本在任十四年の久しきに及び、日本語を研究しよく日本の史籍を讀破、日本に關する多くの著書を出せり、彼は書中吉雄、名村、檜林西、堀、松林等の通詞、丹波朽木侯、桂川甫周、中川順庵等の蘭語に堪能なることを記せり

日本國志 一冊　同

フイツセル著、一八三三年アムステルダム出版（石版刷、毛筆彩色の畫數多挿入）ファイツセルは一八二〇年（文政三年）蘭館の書記として長崎に來着、一八二二年（文政五年）甲比丹ブロンホフに隨從して參府せり、滯在九年にして文政十二年日本を去れり

極東の不思議國 一冊　三重縣阿山郡綿田村　服部孝太郎

カツセル、ペツター、ガルビン社發行

グラント將軍世界周遊記（卷の二）一冊　長崎市　武藤長藏

ジヨン・ラツセル・ヤング著、ニューヨーク版。グラント將軍は一八六八年、一八七二年の二回アメリカの大統領となり一八七七年夫人を伴ひ費府を出發英、白、獨、瑞、伊、土、その他の各地を巡遊して一八七九年（明治十二年）長崎着、東上して明治大帝に拜謁、非常の恩遇を受け、種々御下問に奉答せり

ペルリ日本遠征記 三冊　京都帝國大學　附屬圖書館

一八五六年ワシントン發行。アメリカのエム・シー・ペルリ提督が日本に來航したるは嘉永六、七年の二回なり、しかして彼れは首尾よく開港條約締結の目的を達したり、本書は條約の締結事情より航海氣候、日本の國情、施設、習慣産物等百般の事柄を詳述せり挿畫また多し、出發歸着の主なる日と所を記せば

一八五二年十一月二十四日ミシシツピー號にてノーフオーク出發＝十二月十二日マデイラ＝一八五三年一月十日セントヘレナ＝一月二十四日喜望峰＝二月二十八日モリシウス島＝三月十日セイロン島＝三月二十四日新嘉坡＝四月七日香港＝五月四日上海着、サスクエハンナ號に移乘＝五月二十六日琉球＝七月八日（嘉永六年六月三日）浦賀着＝七月十七日（六月十二日）拔錨＝七月二十五日琉球那覇＝八月十五日香港着

一八五四年一月四日香港發＝二月十日（嘉永七年一月十四日）江戸灣着＝三月八日横濱上陸日本側と會見

同　三冊　函館市　市立函館圖書館

日本　四冊　東京市　帝大圖書館

シーボルト著、一八五二年ラインデン版。本文二冊、寫生附圖二冊、シーボルトは日本開國文化の恩人にして大正十三年長崎市において「渡來百年記念祭」が行はれ（記念會長長崎縣知事堀内秀太郎）記念論文集も發行せられたり、シーボルトに關しては吳秀三博士夙に研究を怠らず最近尨大なる著書の公刊を見たるが、別に駿南社の異國叢書にも同博士の「シーボルト參府紀行」「シーボルト日本交通貿易史」を收めたり、長崎高商の武藤長藏氏、村上直次郎博士、白井光太郎博士その他研究の大家多し。シーボルトは一七九六年（寛政八年）二月十七日南獨逸バイエルン國に生れ一八二〇年（文政三年）生地のウュルツブルグ大學

にてドクトルとなり醫學の外に自然科學土俗學を學び、一八二二年（文政五年）和蘭東印度會社の醫官となり、甲比丹ストウルレルに從ふて一八二三年（文政六年）長崎着、鳴瀧に居住、文政九年甲比丹に隨行參府、その途日本の風物を見、銳意植物を採取し、各種の日本に關する史料をも集め一八二八年（文政十一年）十二月長崎を去つてバタビアに赴かんとせしが、偶々幕府天文方高橋作左衞門景保が國禁の日本地圖その他を贈れること發覺、嚴重なる取調を受け、高橋は處刑、シーボルトは一八三〇年（文政十二年）遂に日本への再渡を禁じて追放せられたり、日本人の妻及びその間に設けたる子あり、愛惜の情禁じ難く、日蘭條約の締結によりて入國の禁止解除となると共に一八五九年（安政六年）再び長崎に來り文久元年江戸に召されて外國事務の顧問となり同年末バタビヤに去り一八六四年歸國、一八六六年（慶應二年）七十歳にてミュンヘンに逝けり。初回長崎に來任の時より吉雄幸載、桂林宗建等臨床に藉口してシーボルトを陽館より請じ醫學の講義を聽きしがその名聲を聞いて入門するもの頗る多く日本の醫術に一大進歩を加へたり。シーボルトは博學にして、歸國後「日本の動物」「日本の植物」「日本」「日本及び附近地誌寶圖」等の大著述をなしたるが、幕府の嚴禁に拘らずこれ等著述の資料の多くを携行して歸國するを得たるは全く門弟等が恩師のため命を塔して種々その方策を巡らしたるがためなり、それ等の史料はライデンの國立博物館に今なほこれを存せり、彼は幕府に對しては屢次思實に世界の大勢より開國の急務を進言し、歸國後も日本のために盡すことを忘らざりき

極東（寫眞畫報）　二六册　長崎縣南高來郡加津佐村　元山元遥

明治三年、四年に發行せしもの（横濱ジャパン・ガゼット社、各號定價一ドル）一號毎に數葉の鶏卵紙燒付寫眞（中板以上）を貼付せり、當時の東京、横濱、長崎、神戸、大阪等の實景その他風俗等多々あり

同　一册　神戸市　エッチ・ゼー・グリフヰス

日本裝飾史（大册）二册　同

ジョージ・アシュドウン・アウヴレイ著、一八八二年、ロンドン出版、日本の工藝美術品を數十色の寫眞色刷石版にて多數挿入せり、裝幀また美麗なり、この著者別に「日本の藝術としての陶器」二卷」の編著あり

日本幽囚實記　二册　函館市　市立函館圖書館

グローニン著、佛人イエリーが獨文より佛文に譯著せるもの（一八一八年版）一八一一年六月（文化八年）露艦ダイアナ搭乘のグロウニンは千島に來航、藥取灣に上陸したるが後ち國後にて捕はれ松前に幽囚二年に及ぶ、露國はこれを救出するためリコールドを派出し來れり　一八一八年ロンドン版（英文）　一册　同

同　一册　同

明治二十七年海軍々令部第二局にてグローニンの著書を邦譯刊行せるもの、活版

遭厄日本紀事　十五册　同

グローニン著の幽囚記の獨譯を佛文に重譯されたのを馬場貞由と杉田立卿、青地林宗等が共譯し高橋景保が校訂したのが寫本となりて傳はりたるもの、文政八年高橋景保（作左衞門、幕府天文方）の序記あり

外國事略　四册　滋賀縣彦根町　町立彦根圖書館

遭厄日本紀事抄（前出）その他（寫本）

『日本及日本人』　一册　松江市東茶町一九地　桑原羊次郎

グローニン著、英譯一八五二年ロンドン版

船と陸の旅　一册　福岡市　長沼賢海

ラムシオ著、一五六三年ヴェネチヤ版

新日本讀本　一卷　東京市麻布區富士見町　松平子爵家

グリフヰス著、春岳公手澤本

ノート　一卷　同

松平春岳公がグリフイスの新日本讀本第一卷に自ら譯解を附したるノオト

日本及住民　東京市　ロシヤ大使館

ブロッグアウス・エフロン著、一九〇四年ピチエルブルク版

日本政治組織の一覽　同

イー・ゲー・スパリビイン著、一九一一年ウラジオストック版、過去及び現在の日本の政治組織を說く

日本（國民及國寶）　同

エン・イー・コンラット著、一九二三年ビエテログラード版

日露戰役　同

エム・パブロビイチ著、一九二五年モスコー版

現代の日本　同

テー・シー・ユルケエビイチ著、一九二五年ウラジオストック版

歷史的財寶　一册　東京市小石川區關口台町二二　吳秀三

一九二一年版（獨文）日本對外國關係を各方面より記載、就中蘭學系統のことを詳記したる史書

地圖類

新世界地圖 一冊　石川縣金澤市寮六公園内　石川縣立圖書館
一六九二年パリー版、安政天明の交長崎蘭館にありて日本の研究をした甲比丹イサークチ・チチングから福知山侯朽木昌綱に贈りしもの、縱二尺一寸三分、巾一尺七寸、厚二寸三分

最新世界地圖 一冊　大阪市港區伯屋町一丁目一二七ノ二　高橋方　高田秀太
一八六六年ロンドン版

世界の古圖（軸）二幅　東京市小石川區關口町　渡邊修次郎
世界各國の古圖三十五種をあつめ大軸となしたるもの

世界地圖（軸）一幅　大阪市東區内平野町二丁目五三　八田兵次郎
渡邊華山筆、加茂季鷹の息に贈りたるもの、縱九寸横六寸の紙二枚に直徑五寸の兩半球を描き「新訂萬國全圖纂」とせり太平洋を「大東洋」としオーストラリヤを「新オランダ」とせり、半球の餘白に國名を漢字にて記す、別に小幅あり右地圖は高橋景保が台命を蒙り調べたるものを華山が畫けるもの云々と記せり

同 一冊　千葉縣吉河　鷹見久太郎
スチラー編一八二八年版

同 二枚　同
司馬江漢筆寛政四年版、縱一尺八寸横一尺四分五厘

輿地圖 一枚　同
高橋景保撰文化六年版、銅版は永田善吉刻、縱七寸五分横二尺

新製輿地圖 一枚　同
箕作坵甫の作製天保十五年版、縱一尺横四尺

新製輿地全圖 一冊　大阪市　高田秀太
天保十五年水戸赤水長安珠編

萬國地圖 一冊　大阪市西成區千本通二ノ二〇　池田長堅
ガルニエー編一八六二年パリー版、池田筑後守佛國よりの將來品

新訂萬國全圖 一枚　大阪市中之島　大阪府立圖書館
文化七年春三月測量所高橋景保著銅版縱三尺七寸八分横六尺五寸二分

同 同　一枚　滋賀縣浦生郡島村大字圓山　西川嘉右衛門

地球萬國圖說 一冊　京都市三條柳馬場東入　杉浦三郎兵衛
長芝赤水編縱一尺横一尺三寸五分

地球萬國方圖 一冊　同
嘉永五年版

地球萬國山海輿地全圖 一枚　奈良縣郡山町字鹽　三木忠方

萬國地圖 長崎榮壽堂版　一枚　長崎市楢屋町四　中村豐二郎

同 文政七年の寫本　一冊　高岡市公園　市立高岡圖書館

同 嘉永六年版　一枚　長崎市西濱町　栗岡なみ

和蘭新定地球圖 一卷　大阪市　大阪府立圖書館
木村異齋推定手描

地圖書 一冊　丸龜市蔵町　藤田德太郎
スチラー編、一八六七年ドイツ版、蕃書調所の印あり

地球全圖日本地圖（軸）一幅　神戸市下山手通六　五十崎夏次郎
地球圖は寛政八年十一月、日本地圖は安永四年三月刊行のもの

新譯阿蘭陀圖 一枚　千葉縣　鷹見久太郎
泉石編、編者自ら圖を引き自費を以て出版したるもの、縱二尺横三尺の木版刷

喝蘭新譯地球全圖 一枚　大阪市堂ビル内オーム社　浪岡具雄
曇齋橋本宗吉の纂譯、寛政八年印刻、縱一尺八寸横三尺七寸彩色入、曇齋最初の出版物

魯西亞地圖 鷹見泉石の遺品　三枚　千葉縣　鷹見久太郎

同 一枚　東京市小石川區林町　和田千吉

涅爾蘭土地圖 一冊　東京市上野公園　帝國圖書館
袋に弘化三年正月廿五日宇田川榕庵自筆の解題あり

大清輿地全圖（軸）一幅　長崎市松枝町一〇　小川水路
浪華書肆圖誌、長崎仙胤校、天保六年版、縱二尺二寸横二尺

清國之圖 一枚　兵庫縣舞子　桃木武平
福建省十府六十二縣ハ乾隆年以後西歐五市場開設以前の實況を記し中にも台灣の狀況を詳說せり、肉筆大圖彩色

南瞻部洲萬國掌菓之圖（軸）一幅　神戸市板宿飛松町四　小島錄之助
寶永庚寅春月穀日大日本國京兆頒陀浪華子製圖並撰書肆文藏軒宇平藏版とあり
東半球の地圖縱三尺七寸五分横四尺七寸木版彩色

須彌山儀圖（軸）一幅　神戸市　五十崎夏次郎
文化十年無外子釋圓通の銘及嘉永弘化年間に於て其弟子の書ける文あり

亞細亞地圖 一枚　福岡市九州帝國大學工學部物理學教室　桑木彧雄
一六五八年歐洲にて出版

東洋地圖 四枚　福岡市九州帝國大學内　長沼賢海
何れも銅版四色、歐洲にて十六七世紀のころ出版されたるもの

三國通覽輿地程全圖（軸）一幅　東京市麴町區有樂町一　大武丈夫
林子平自筆横二尺四寸二分、縱一尺六寸五分、彩色を施しあり、三國は日本の外に朝鮮、琉球、蝦夷、小笠原島を加へて實は五國なり

日本朝鮮琉球地圖 一枚　山形縣飽海郡高瀬村菅野　石垣吉六郎
天明五年秋林子平自筆縱一尺六寸六分横二尺五寸三分、彩色

日本近海圖 一面　江田島　海軍兵學校
慶安三年（一六五〇年）外國人の作表せし日本近海々圖、山崎理學博士銅版復製（縱七寸三分横五寸五分）

日本地圖 一枚　福岡市　桑木彧雄
一、五九五年歐洲にて出版

同 一枚　同
一、六五八年歐洲にて出版

同 二枚　福岡市　長沼賢海
十七世紀に歐洲にて出版されたる（一）銅版單色（二）銅版四色版

同 三枚　東京市　帝國圖書館
傳に高橋作左衛門景保がシーボルトに贈らんとして事發見に及びシーボルトは追放され高橋は處刑されたる問題の地圖なりといふ

文祿時代海陸地圖 一枚　大阪市南區瓦屋町四番町六　淺田榮吉
笠原定賴筆縱一尺七寸五分横四尺三寸椶彩色、南を上部にして描けるもの

蝦夷國全圖 一枚　山形縣　石垣吉六郎
林子平自筆、縱一尺七寸八分、横三尺一寸三分、彩色（天明五年秋）

西蝦夷宗谷見取圖 一枚　千葉縣　鷹見久太郎
縱一尺四寸横三尺四寸の彩色寫生圖

改正蝦夷輿地全圖 一帖　神戸市　五十崎夏次郎
安政五年實測成りたるものを安政六年文龜堂が印行せしもの、津軽十四郡の北端より今の北海道即ち日蝦夷、西蝦夷、東蝦夷及ひ千島諸島、北蝦夷即ち唐太（樺太）より沿海州の一部を現はし尙ほ地名及び方言、各地間の里程等を記入せり、木版、縱四尺六寸五分、横三尺四寸

函館港内見取圖 一枚　千葉縣　鷹見久太郎
縱一尺六寸横二尺六寸の彩色寫生圖

長崎港大繪圖 一枚　長崎市櫻町　長崎市役所
縱七尺三寸横五尺一寸肉筆彩色

寛永の長崎圖　一枚　長崎市爐粕町　縣立長崎圖書館
縦五尺横七尺三寸（彩色）長崎市役所の原本より謄寫せしもの

長崎繪圖　三枚　東京市芝區白金三光町　伊達侯爵家
（肉筆）（一）縦三尺六寸横五尺六寸（二）縦三尺二寸横六尺四寸（三）縦五尺六寸五分横三尺二寸

同　一帖　名古屋市中區小林町一二　富田新之助
文化九年改（寫）縦三尺六寸横五尺三寸

長崎大地圖　一帖　大阪市南區八幡筋玉屋町　杉本要
縦十三尺六寸横五尺七寸、肉筆

長崎港全圖（軸）　一幅　長崎市　長崎師範學校
長崎の市街、港灣、名所、各役所その他詳細を極めたる肉筆彩色の大地圖、縦四尺三寸横七尺二寸

肥前長崎圖　寛文年間肉筆　一枚　長崎市　栗岡なみ

同　一枚　愛媛縣野村町區裁判所出張所　中野中
安永七年長崎勝山町大量文次右衛門版

同　同　一枚　長崎市　栗岡なみ

同　一枚　東京市　帝國圖書館
享和二年六月長崎文錦堂版、縦二尺一寸五分、横二尺九寸

同　同　一枚　滋賀縣彦根町　町立彦根圖書館

長崎細見圖　一枚　長崎市　栗岡なみ
延享二年版、文政十三年京都柳馬場竹原好兵衛再板

長崎港全圖　一帖　京都市　杉浦三郎兵衛
明治三年の印刻、縦一尺九寸三分横三尺六分、色刷

唐人屋敷圖　一枚　長崎市片淵町　福田忠昭
長崎において唐人屋敷遊覧の際當番乙名として事に關係せし長崎八幡町木下家の祖先より傳來のものにして數年前同家より所藏者の手に歸したるものといふ、最初の唐人屋敷圖、しゝ唯のもの

長崎唐館圖　一枚　京都市室町通中長者町　佐伯理一郎
縦二尺九寸横一尺八寸五分

長崎縣下圖　一帖　京都市　杉浦三郎兵衛
明治十年發行銅版

開港神戸圖　一枚　神戸市山本通五ノ八　宇野朝一
慶應四年神戸松屋町多田屋善九郎版、縦二尺五寸横一尺五寸、木版四色

伊豆久里濱の圖　一枚　大阪市此花區福島上之大神　中野康章
太田龜次郎筆長さ二尺五寸

下田町地圖　一枚　伊豆下田　鈴木忠吉
嘉永年間の豆州下田を描けるもの、肉筆

下田港安政の地圖　一枚　伊豆下田　村松春水
縦一尺六寸五分、横二尺四寸、安政二年、木版彩色刷

横濱御開港地明細圖（安政六年版）　一枚　横濱市野毛山市立圖書館内　横濱市史編纂係

御開港横濱大繪圖　一枚　堺市櫛町　中田松次郎

御開港横濱の圖（萬延元年版）　一枚　横濱市　横濱市史編纂係

横濱明細全圖（元治元年版）　一枚　同

同　一冊　京都市　杉浦三郎兵衛
縦一尺六寸、横三尺五寸、明治三年の印刻

アメリカ書翰請取圖　一枚　東京市麴町區三年町　維新史料編纂事務局
相州浦賀　嘉永六年六月九日、縦二尺四寸五分、横三尺七寸

書翰受取場所略圖　一枚　奈良縣郡山町字鹽三木忠方

浦賀上陸アメリカ、ペルリ國書捧呈の時

横濱關内町名圖（明治四年版）　一枚　横濱市　横濱市史編纂係

函館外國人遊歩程度圖　一枚　函館市　市立函館圖書館

京都町組圖略（明治二年）　一枚　京都市岡崎町　京都博覽會協會

台灣及澎湖島圖　一枚　台灣　台灣總督府圖書館
一六七五年前台灣領事ユエット氏の著した「忘れられたる台灣」の記事によつてブラーム等の調製したもので圖上南部西海岸に於て小島相連り、内に大江灣を抱くところこれ即ち台南安平地方なり。「タイオワン」「サツカム」等の地名が記載せられあり、縦一尺八寸、横二尺

航海圖

東亞鍼路圖 一面　東京市上野　帝室博物館
羊皮製、着色、縱三尺一分、横二尺四寸五分、一五九八年（慶長三年）二月十八日和蘭エダムにて製圖せしもの。説明は全部ラテン語、日本の地形は古き形式に屬する彼のテレーキ地圖集に出でたるものによれり

東亞航海圖 一面　大阪市住吉區平野中町　末吉勘四郎
羊皮製着色、縱一尺七寸、横一尺五寸五分
「附」航海圖國名譯 一冊　同
羊皮製航海圖に見えたる國名地名等の譯
航海圖説明書 一通　同
大日本史料第十二編の五、六八八頁の次にこの圖を出して、説明に『この圖原物は羊皮を以て製せらる、末吉孫左衛門が南洋航海の節に携帶したりしものと傳へらる、天明年中、ある人圖中の地名を記せる個所に黄紙を貼付し之に漢名を充てたり、（中略）この圖を耶蘇紀元千五百九十六年（慶長元年）出版のりんすほしてん旅行記中の諸圖と比較するに略相同じく只日本、朝鮮、フイリッピン群島の部において少しく精粗なるを見るのみ、さればこの圖製作の年代も推知するを得べく孫左衛門携帶の傳へもその然るべきを知る云々、（附記）末吉孫左衛門は大阪平野庄の住、元和三年三月二十八日年四十八を以て卒せり

同 一面　宇治山田市　徴古館農業館
三重縣松坂町角屋七郎次郎氏の秘藏にしてその祀先角屋七郎兵衛が慶長在住中に使用せしもの、末吉の航海圖の東半部を臨摹したるものといふ。縱一尺二寸、横一尺四寸、羊皮製、説明は全部日本文字

同（複製） 一枚　同
前記角屋七郎兵衛の航海圖をコロタイプ版に附したるもの

同 一枚　長崎市燈籠町　縣立長崎圖書館
末吉家の航海圖と同様にして漢字と假名にて地名を書せり、元長崎の聖堂學頭にして唐通事たりし蘐草拙の家に傳はりしものといふ

日本國航海圖 一面　東京市　帝室博物館
羊皮製着色、縱二尺九分、横二尺九寸二分

寛永鎖國以前の航海圖 一枚　江田島　海軍兵學校
縱二尺二寸、横二尺八寸五分、原圖は長崎縣立圖書館にあり

萬國航海圖 一帖　滋賀縣彦根町　町立彦根圖書館
安政五年闰人スネルの原圖により駿河武田僧吾譯編刊行、縱二尺九寸横五尺二寸

輿地航海圖 一帖　神戸市下山手通六ノ九〇　五十崎夏次郎
英國庸習爾地氏舊原刻一八四五年（安政五年）に駿河國沼津の武田僧吾が註したる精巧なる航海圖也、ロンドンより諸邦に至る海程里數及關龍が航海せしより甲比丹ロッスが世界を航したるまでの航海年表をも圖中に詳記す、木版彩色縱三尺、横五尺二寸

環海航路新圖 一帖　同
文久二年印行、萬延元年遣米使節一行中の賣師廣瀬保庵が書き遺したる航海圖經緯度及里程地名、使節の各地着發、日時等を記載す、木版、縱三尺三寸五分横六尺

貿易地國 一枚　神戸市中山手通四丁目三四　川島右次
世界貿易の地圖にして德川初期のものならん、彩色寫本、縱二尺六寸、横六尺

蝦夷地開發渡航用地圖（軸） 一幅　兵庫縣高砂町　工樂長三郎
寛永二年二月幕府は高砂町の一世工樂松右衛門に命じて蝦夷地に埠頭を築造せしむ、即ち更二十名と共に八幡丸に搭し日章大旗五旗、小旗二十四旗其他築港要具を載せ五月纜を解きて蝦夷に向ひ指揮經營千艱萬難を排して之れを竣成す

航海術書

東印度支那日本濠州各内地航海案 一冊　福井市　福井市立圖書館
クイジベル著、一八五三年アムステルダム版、福井藩立明道館内洋書傳習所使用の蘭書の一

實修航海學原始 一冊　同
ヤコブ・スワルト著、一八五三年アムステルダム版、前同斷 一

航海術書 二冊　同
蘭國海軍中佐ビラー著（第一卷）一八三七年アムステルダム版（第二卷）一八三一年ライデン版、前同斷

同 一冊　長崎高等商業學校　武藤長蔵
同上、一八四七年アムステルダム版

海路略説 一冊　東京市外巣鴨町松佐　松浦伯爵家
阿蘭陀より日本までの海路、原本は長崎の通事今村大十郎の著、寫本

海船製作圖譜 一冊　東京市外澁谷町猿樂　德川侯爵家
一六七一年アムステルダム版

水蒸汽船説（第五） 一冊　東京市小石川區關口台町　吳秀三
箕作院甫自筆本、蒸氣機關の構造を詳説せり平假名交り二百四十八葉嘉永二年稿了

航海金針（全三卷合本） 一冊　堺市向陽町七三　牧野信之助
安政四年夏蘭府藏版、氣象學の綱要並に航海術の概要を説く

操作通法 三冊　福井市　福井市立圖書館
フリードリッヒ・ヘルムスタット著、一八二五年アムステルダム版、福井藩立明道館内洋書傳習所にて使用の蘭書の一

制帆書 一冊　同
モデラ著、一八四六年アムステルダム版、福井藩立明道館洋書傳習所にて使用の蘭書の一

海上學隨筆 二冊　同
ヤコブ・スワルト著、一八六二年アムステルダム版、福井藩立明道館内洋書傳習所にて使用の蘭書中の一

蒸氣器械書 四冊　神戸市上筒井　神戸商業大學附屬圖書館
明治二年海軍學校發行和本

船乘ひとり案内 二冊　名古屋市中區小林町一二　富田新之助
（初編二）明治七年深巣社版（初編卷之二）明治十二年青山清吾出版（木版）

地理書

八紘通誌 一冊　東京市小石川區關口台町　吳秀三
箕作阮甫著自筆本(首尾)なり阮甫は作州津山侯の侍醫名は慶儔、字は瑋西、紫川、又咸斗と號す、宇田川元眞の說に服して西洋醫術を學ぶ、嘉永六年魯のプーチャチンが長崎に來り通商を求めし時川路聖謨に陪隨して長崎に至り談判のことに與れり安政二年著書調所の教授となり文久二年六十六にて卒す、名著頗る多し

同　六冊　同
箕作阮甫著の版本なり全六卷の中歐洲の地理を詳說したるもの銅版の詳しき地圖を挿入する等立派なる著書なり、嘉永四年版

輿地誌略 八冊　同
青地林宗自筆稿本首卷に地理學の概論を記し第一より第七卷まで世界地理を說く。青地林宗は江戸の醫家、松山侯の侍醫たり、文化の始め江戸に至り蘭學を修め窮理に力をひそめ「格物綜凡」の著あり更に文政五年幕命を奉じて馬場佐十郎譯の「遊厄日本紀事」を完成し更に「輿地誌略」を譯述せり、彼の「氣海觀瀾」は「格物綜凡」の要約なり、天保四年五十九にて卒

坤輿圖識及同補 七冊　同
箕作省吾著、坤輿圖識は弘化二年、坤輿圖識補は弘化三年の出版、世界五大洲各國別の地理解說書にして增補の首卷に地理概論を收む。省吾は箕作阮甫の季女の婿、奧州水澤の人、歷遊西南の地に遍し、この著ありて輿地の書滯く世に知られたるなり文政三年二十六にて卒

坤輿外記 一冊　大阪市南區八幡筋玉屋町　杉本要
南蠻仁目筆の稿本、印度南洋その他の國情を記す

世界萬國全圖說 小林公峯著　一冊　同

萬國一覽圖說 二冊　長崎縣南高來郡加津佐村　元山元遐
吉屋野慕春著、文化七年版

蘭文地理書 一冊　福山市　義倉圖書館
カラーメルス著一八五〇年版

三國通覽圖說 一冊　山形縣飽海郡高瀨村菅野　石垣吉六郎
林子平自筆稿本桂川甫周の序文原稿も添へり。三國は、朝鮮、琉球、蝦夷、小笠原島を加へば實は五國なり、天明五年刊本となる

同　一冊　東京市麴町區有樂町一ノ三　大武丈夫
林子平著天明五年秋九月東都室町須原屋市兵衛開板、美濃紙五十一枚附圖は琉球三省並三十六島の圖なり

同　林子平著寫本　一冊　京都市三條通柳馬場東入　杉浦三郎兵衛

日本地圖變遷史 一冊　神戸市海岸通一丁目　エッチ、ゼー、グリフキス
一九〇九年ブダペスト版

バタヴイヤ誌 一冊　千葉縣古河　鷹見久太郎
一七八二年アムステルダム版

和蘭志略 一冊　東京市麴町區內幸町一　藤浪剛一
宇田川榕庵稿本、弘化二年の著、十二冊の中の一冊、和蘭に關する百般の考證を記述

パナマ鐵道 一冊　京都市本町十六丁目　丹羽圭介
一八六七年版

西洋旅案內 二冊　神戸市上筒井　神戸商業大學附屬圖書館
『海外諸國旅案』明治三年版西洋諸國の交通及經濟事情を記し洋行の案內としたもの

同　外篇　明治二年刊　一冊　東京市麴町區三年町　維新史料編纂事務局

太平洋 一冊　東京市　ロシヤ大使館
サフエートロシヤ學士院、一九二六年レニングラート版

船艦圖繪類

荒木船の圖 (軸)一幅　長崎市西濱町二四　森喜智郎
元和八年十一月四日の御朱印狀寫と荒木船の繪を描きあり

山田長政軍艦圖 一帖　東京　海軍省
驛遞局より引繼ぎたるもの。山田長政が寛永三年二月邏羅において畫きたる軍艦を模寫したるものにして原圖は日本より渡航せる商賈平田仁左衞門に託し駿州淺間神宮に奉納せしめたるものという

唐人船の圖 (軸)一幅　長崎市松枝町一〇　小川水路
縱一尺七寸橫一尺九寸の彩色畫、雪田筆

同　一枚　堺市櫛屋町　中田光三

南京船圖 二枚　大阪府泉北郡濱寺公園下　矢野浩人
一枚に『肥前國の洋中より漂流し伊豆下田湊に着、それより三月四日志州的屋浦へ着』とあり

和蘭船唐船長崎入港圖 一枚　宇和島市愚美須町　山本助治郎
初期の油繪ならん、縱一尺四寸五分、橫一尺八寸(額入)

同　二枚　大阪市東區北新町二ノ三五　藤田一夢
筆者の署名はなきも出品者より「石田穆齋筆」とあり、泥繪、縱一尺五寸橫一尺一寸七分

蘭船、唐船圖 (軸)一幅　東京市東京朝日新聞社　植村陸男
林子平肉筆、上は唐船、下は蘭船、縱二尺九寸五分、橫一尺二寸七分

ペイロン船の圖 (軸)一幅　堺市少林寺町東一丁　前田長三郎
圖の上方に支那福州船出航の光景を描く。五月五日長崎に行はれるペイロン船競爭の圖なり

阿蘭陀船の圖 (軸)一幅　東京市外日暮里渡邊町　長野草風
細軸、泥繪、舳部より描きあり

同 (軸)一幅
縱二尺二寸橫三尺、彩色畫、船の各部分の長さを記しあるを特色とす

同 (軸)一幅　東京帝國大學內　史料編纂掛
林子平の筆なり、圖解あり

同　二面　滋賀縣長濱町西本一〇　財團法人下郷共濟會
一八一六年(文化十三年)長崎に入港せる蘭船を寫生せるもの(額入)

同 (軸)一幅　長崎市今町五五　肥塚末二
長崎の畫家石崎蘭思筆

同　一面　京都市三條通柳馬場東入　杉浦三郎兵衞
縱二尺、橫一尺一寸五分、額入、寛政二年二月刊行

同 (軸)一幅　新潟縣柏崎町本町　吉田正太郎

同 (軸)一幅　大阪市東區內淡路町二丁目三〇　山田貢次郎
天保十五年

黑船の圖 (軸)一幅　京都市本町二十一丁目　飯田新七
司馬江漢筆

同　一枚　千葉縣古河　鷹見久太郎
外國軍艦の見取圖(陰見景石の遺品)

南蠻船封鎖圖 (軸)一幅　長崎市片淵町　福田忠昭
正保四年六月ポルトガルの軍艦二隻(シケイラ搭乘)長崎港に入港し葡國の獨立並に新王ジョアン三世の即位を報じ兼ねて通商貿易の復活を乞ふ、西國大名諸家より軍勢兵船を出してこれを封鎖し幕府の下知を待ち結局「今回の來航はこれを罪せざるも將來の來航を禁ずる」旨申し聞かせ、八月六日二艦去り、是より幕末まで葡船の來航を見ず、この幅は元長崎年寄久松家所藏のものたりしと

黑船渡來諸家船圖 一枚　東京市　海軍省
正保四年南蠻船入津の時の圖なり

南蠻船長崎入津圖 一帖　東京帝國大學內　史料編纂掛

縦七尺横二尺三寸、寫し

魯船長崎入津圖 一帖　東京市麹町區三年町　維新史料編纂事務局
縦八寸五分横一尺二寸の彩色寫生圖（長崎版畫の寫しか）

佛船渡來警備の圖 一帖　長崎市壇浦町　縣立長崎圖書館
縦七尺横九尺六寸

英船渡來警備の圖 一帖　同　同
安政元年閏七月十五日英艦四隻長崎に來航、函館長崎の二港に英船入港、和親條約を結ぶ、その時の長崎港外警備の圖にして縦七尺六寸横十一尺八寸

魯船渡來警備の圖 一帖　同　同
嘉永六年七月プーチヤチン軍艦四隻を率ひて入港の時長崎港外の警備、縦七尺六寸、横九尺四寸

亞米利加入津警備の圖 一帖　同　同
縦八尺横十尺

長崎港外警備の圖 一帖　同　同
圖には「年代未詳」とあるも構圖の上より見て正保四年南蠻船入津の時のものなるべし

佛英船の圖 一枚　大阪市　山田貢次郎

蠻船泡沼崎港圖（額）一面　同　同

渡來米艦圖 一卷　東京市外淺谷町猿樂　德川侯爵家
弘化三年閏五月二十八日米國の軍艦コロンブス、ウインセンスの二艦（司令官はビツトル）は相州野比村沖に來り貿易交通のことを迫りしが浦賀奉行大久保因幡守等折衝新水と糧食を給して退帆せしめたり、この圖には水戸烈公の書き入れあり、縦三尺、横六尺五寸

同 一枚　東京市　維新史料編纂事務局
これも弘化三年米艦浦賀來の圖にして縦一尺八寸、横四尺八寸

異國船渡來並警固圖 嘉永安政年間　一帖　同

鐵張蒸氣船圖 一枚　神戸市上筒井　神戸商業大學附屬圖書館
肉筆、米國旗を掲ぐ、縦一尺六寸横一尺一寸四分

合同國船圖說 一冊　東京市　維新史料編纂事務局
「合同國」は「アメリカ合衆國」のこと、奥書に「嘉永七貢年土岐豐前守より到來」とあり、嘉永七年アメリカ船浦賀來航、警備、防禦の狀況その他の密畫

戰船作積覺 一卷　香川縣綾歌郡坂出町　鎌田共濟會圖書館
文化四年十二月、讃岐の久米榮左衛門が北海道方面に出沒する露艦に對する攻防のためこの戰船の建造を考案したるもの

蒸汽螺旋機械書 一冊　福山市　義倉圖書館
一八六〇年アムステルダム版（御軍艦操練所の藏書印あり）

咸臨丸の圖（軸）一幅　東京市麻布笄町七九　木村浩吉
萬延元年遣米使節新見豐前守、村垣淡路守一行八十餘名（ポーハタン便乘）とともに派遣されたる日本の軍艦にて安政四年八月五月長崎にてオランダより購入したるヤツパン號百馬力、約四百頭の小軍艦、これで太平洋の荒波を乘切つたのだから素晴らしい、軍艦奉行は木村攝津守、艦長は勝海舟、萬延元年正月十九日浦賀出帆、北のコースを取つて恐ろしい難航を續けながら二月二十六日桑港に直航した、その當時攝津守が寫生せしめたる圖（同三月十九日桑港發四月四日ホノルル着七日發五月五日無事浦賀歸港）圖の上部に攝津守の寫眞を掲げ下方に所藏者筆の來歷を加へて一幅とせしもの

咸臨丸航路圖 一幅　東京市芝區三田　慶應大學附屬圖書館
（軸）咸臨丸の航路圖にして同船乘組伊藤太郎の製作したるもの、縦一尺一寸横五尺

大野丸の圖（軸）一幅　東京市牛込袋町二五　土井（利章）子爵家
大野丸は舊越前大野藩新造の二檣洋形船にして内山隆佐學ら該事を主理し安政五年六月竣工す。（約五百屯）本圖は安政四年五月隆佐の摸寫せるもの

同米船救助の圖 一面　同
（額）安政六年八月北海道函館近海奥尻島附近に於て難破せる米船あり、大野丸命を受けて之れを救助す、平泉養德、利忠の命に依り之れを圖し鈴木瀧次其の事を記したもの

同救助記 一冊　同
同上救助の顚末を記せるもの。

進貢船の圖（軸）一幅　沖縄縣那覇市縣立第二中學校　新崎盛珍
この船は俗に御冠船、唐船ともいふ、この圖は約七十年前の作、「貢奉齎國」の大旗を掲ぐ、縦二尺一寸、横四尺五寸
【附】進貢船設計圖　一
設計圖は那覇の我那覇といふ船大工の書きしもの、造船の際の板が何枚、釘が何本、板の厚さ何寸、本材何寸角が何本と圖解したもの
進貢船の圖の說明書　一

高砂丸（額）一面　長崎高等商業學校　武藤長藏
泥繪、縦八寸五分横一尺四寸、明治初年の商船

『旭日丸』設計圖 壹枚　東京　德川侯爵家
縦十二尺、横二十四尺の大圖、別に小圖八葉を添ふ、圖に「御大工鶴谷清次郎新製」の署名あり、所々に烈公の書入あるを見る。旭日丸は幕末に當り幕府が大船製造の禁を解くと同時に水戸藩に命じて製造せしめたる軍艦にして安政元年正月起工同三年七月竣工したるも餘りに重く安四年五月試運轉を行へり、烈公は同年九月十八日品川沖においてこれを檢閲、十一月二十九日幕府に納む（詳細は水戸藩史料上編乾一二一頁より一三一頁）

『旭日丸』題辭 一枚　同
水戸烈公親書　縦三尺二寸、横七尺

飛龍丸明細切繪 一枚　東京市　海軍省
舊高松藩の軍船、縦五尺五寸横七尺（彩色入）

相生丸造船圖型 一枚　兵庫縣加古郡高砂町　工樂長三郎
文政七年豐前小倉藩主小笠原侯幕命に由り對馬國に抵らんとす因て船艦を兵庫津において製造せんことを囑す二世工樂松右衛門病癒のため身體羸の知くならざるを以て高砂において之れを製造し匠人冶工を兵庫より徵集し之を督して遂に千石積以上の船艦を落成しその船號を『相生丸』と名づく船の中央に侯の居室を設けその室を二層とし鐵鎖を以てその内層の處々を繫き船體動搖すと雖ども その室横斜せざる裝置なりしといふ。

幕府軍艦繪圖 一帖　江田島　海軍兵學校
（開陽艦の圖）日本自ら設計して外國に建造を注文したる最初の軍艦なり。
一、起工　文久三年八月十三日。　一、排水量　二、八一七噸
一、進水　慶應元年九月十四日。　一、公試速力　九、七五節
原圖は舊岡崎藩士置鹽五左衛門函館戰後青森蓮心寺に於て謹慎中模寫せしものを兵學校にて複寫せるものなり

旗印類

荒木船旗印 （軸） 一幅　長崎市西濱町二四　森喜智郎

絹紬地VOCを結び合せたるもの、但しVは逆にAと書きあり、縦二尺五寸、横二尺二寸

末次船の旗印 一旒　長崎市新中川町　石本新太郎

松、竹、悪比羅、大黒、鶴、龜を藍色にて染ぬく（大幟）縦七尺七寸、横三尺四寸

御朱印旗 一旒　宇治山田市　徴古館農業館

伊勢松阪町角屋七郎次郎氏の所藏にしてその祖先角屋七郎兵衛が天正年間貿易船に使用せしもの、縦三尺八寸、横二尺九寸、丸の中に「御朱印」と記しあり

船旗（丸に三餅紋、大湊角屋の四字入） 一旒　同

松阪町角屋七郎次郎氏の所藏にしてその祖先角屋七郎兵衛が天正年間貿易船中に德川家康を隱匿ひし時船中に餅三つありこれを馳走せしに因みて造りしものといふ、縦三尺一寸、横三尺二寸

同（丸に菱の紋） 一旒　同

松阪町角屋七郎次郎氏の所藏にしてその祖先角屋七郎兵衛が貿易船に使用せしもの縦三尺一寸、横一尺五寸五分

村上水軍使用軍旗 一旒　江田島　海軍兵學校

村上水軍が兵船に使用したる船印にして「丸に上」は村上の家紋、當時この旗を船に押し立てゝ海上權を掌握し居たる水軍の威風を想見すべし、もと山口縣大島郡和田村村上保一郎氏（能島村上彦衛）にありしものを兵學校に寄贈したるもの、縦六尺四寸、横二尺二寸

天明五年創製の帆布 二卷　兵庫縣加古郡高砂町　工樂長三郎

當時本邦帆船に用ふる帆布は絹布二三を重ねゝを聯綴したるものを使用せしが其費嵩嵩にして特に夥多の人力と時間とを費すにあらざれば其用に適せず一世工樂松右衛門其敗良に苦慮すること多年遂に天明五年堅牢なる帆布を製して之を家船八幡丸に試用せしに其の簡捷なること絹布に比すべくもあらず爾來人皆其便を喜び竟に遍く海内に用ひらるゝに至れり、呼んで松右衛門帆といふ

朱印狀國書書翰類

異國通船朱印狀 一七通　京都上京區今出川　相國寺

慶長八、九、十年（内四通は顯鮮）

外國渡船の朱印狀は老中本多上野介（正純）これを管掌、幕府の外交事務に關與せる京都禪刹の長老をしてこれを作成せしめたり豐光寺承兌第一にこの任に當り次で國光寺、元佶、金地院崇傳これを司る、各原簿の備へあり、朱印狀は大高檀紙一枚に認め朱印を捺す、相國寺に多數の朱印狀存せるは承兌の住職たりし緣故による、朱印狀の有効期間は一航海時なりき（寺實）

末吉船朱印狀 一通　大阪市住吉區平野町　末吉勘四郎

末吉船遮羅國渡海の朱印狀にして大高檀紙二枚を用ひ杉原二枚を以て包みあり

「自日本到遮羅國舟也石慶長十三年戊申孟秋二十五日印」

西ルイス渡海朱印狀 （軸） 二幅　堺市宿屋町東三丁　本受寺

西類子（ルイス）は肥前大村の藩士呂宋（マニラ）に數回渡航、日本人町になり切支丹となり、後家康に謁して呂宋の國情を仔細にのべ更に朱印狀を得てルイスの船何地に入港するとも自由たるべしとの保障を得たり。慶長十二年、同十七年のもの二通とも右保障の朱印狀なり

西ルイス由緒書 一通　同

西宗眞（ルイス）が寛永廿一年十二月十五日敎名「西ルイス」と呼ばるゝに到りし由緒を認めて石河土佐守の尋問に答へしもの

荒木家由緒書 一卷　長崎市炉粕町　縣立長崎圖書館

荒木宗太郎は、豐太閤が切支丹を禁じながらも海外貿易は寧ろ奬勵の策をとり文祿元年長崎京都堺の巨商にその特許を與へし時、第一着に朱印狀を得たる我邦貿易の魁首なり、宗太郎は元熊本の士、天正十六年長崎に至り暹羅、安南に渡海し遂に安南國王の外戚阮氏の女王加久戶賣（ワカクトメ）を妻とし（元和五年）相携へて歸國せり、宗太郎は寛永十三年、妻は正保二年に死す（王加久戶賣の墓參照）この由緒書は宗太郎の曾孫三兵衛屋榮が享保十六年十月に書したるもの、書中考證記述を誤れりと思はれる點あり

五島孫次郎宛御奉書 （軸）二通　一幅　長崎市松枝町　小川水路

五島家は肥前松浦郡五島に住す、慶定より五代目の盛利、六代目の盛次を共に孫次郎と呼べり「五島は異國船渡口地なれば心を用ひて守るべし」と代々將軍家の命を受けしがこの奉書は盛次の孫次郎に對し正保五年（慶安元年）二月十二日と二十六日に閣老阿部對馬守、阿部豐後守、伊平伊豆守より「切支丹並に異國船長崎入港の寄合退帆命について」の達し狀なり

船頭彌右衛門免許狀 （軸） 一幅　長崎市出來大工町　林源吉

異國御朱印帳に「船頭彌右衛門元和元年九月九日東埔寨」とあり、免許狀は安南國王の書にして『元帥統國政清都王令旨日本國義客彌右衛門許遞年裝載各貴物就安南國赴京拜異貴賣以通兩國交易實財副其恩義茲令、永祚六年五月二十三日令旨』とあり

安南國王誓書 一通　長崎市西濱町二四　森喜智郎

安南國王が荒木宗太郎に與へし書なり、一に「安南國金札」と呼びなせり、その全文

安南國國殿下兼廣南等處爲二立誓一事。蓋明ラ重ニ兩國之乾坤一斯ノ言信矣。親ニ一家之和睦一何ノ貴ユトカ如レ之ニ。肆ムニ我阮家自リ立テ國ノ以來。務メ施二仁義一。遠キ來ル近キ說ク恩澤均シク覆レリ。茲ニ有リ日本國鯨主木宗太良。乘レ艤ニ渡レ海ニ榮ニ顯ト我國ニ拜見スルヲ。願フ承ケントスルヲ膝下ニ。我乃チ推シ其所ニ欲スルヲ仍テ加ヘ貴族阮太良。巨ニ名ノ聽ニ遠ク。非ニ權特ニ宮庭之光聽ニ。抑モ亦堅ニ南北之利通ニ。詩人賡曰。之吐之角之頂。爾ノ才稱ヘリ令子之才ニ。如レ日如レ月如レ松。我ガ藤等ニ南山壽ニ。愛斯ト足リ矣。猶歟盛哉。國ニ有リ常法ニ。立テ書ヲ存照ス。弘定二十年四月二十二日

安南國王答禮目錄 一通　大阪市　末吉勘四郎

安南國王が德隆四年（寛永九年）末吉吉安（勘兵衛利方の子孫左衛門）に答禮のため贈進したる品目を記す『一放賜並貴答禮進各貨共五項（答進細絲拾鈞）賜細絲拾鈞（賜廣絹拾疋）賜八珍酒拾壺（賜古錢肆拾貫）德隆四年五月二十五日』

阿蘭陀甲比丹進上目錄 一通　京都市帝國大學文學部内　國史研究室

署名「てつしんぎ」とあるは長崎出島商館長たりし『チ、シング』にして其のローマ字署名は自筆なり、彼は我が安永八年出島に着し、翌年十一月バタビヤに向ひて去り、天明元年六月再び來任し、同三年十月に至りて去り、翌年八月三度渡來し同年十一月日本を去り、其間二回江戶に上りしが、本目錄は幕府に進獻せし品物に添付せしものなり、幅一尺八寸横一尺三寸五分「進上」と最初に書き「一、猩々緋五間「一、黑天鵞絨五間「一、御葡酒一壺」等を十三項目、最後に「かびたん　いさあか　てつしんぎ」とあり

海外在住日本人制狀 （寫）一通　堺市　本受寺

德川家康が呂宋にある日本人の暴狀制御につき「適當に處置せらるべし」との義を國書に申送りし書、其全文

呂宋國太守　足下　　日本國　源　家康

近年到「其國」日本人作「惡逆」輩者、如「呂宋法度」可「被」致「成敗」候也、於「日本」無「疎心」任「此印札」可「申付」候、仍狀如件

慶長十三年戊申孟秋日　朱印

呂宋國大守宛書狀　一通　　同

本多佐渡守より

南蠻へ參る辭令書　（三十二枚）一冊　沖繩縣首里市崎山町　田名家

田名家代々の任官當時の辭令書綴りにて第四枚目に『南蠻へ參る辭令書』あり田名家は沖繩縣に始めて支那から甘藷を將來し黑糖の製造方法をひろめたる產業界の大恩人儀間眞常の後胤にて首里の舊家なり

出島蘭館出入免許狀　一通　長崎縣南高來郡加津佐村　元山元造

本文『鷹、御用細工人、孝野吉郎右衞門、右御用の節間違爲無之又は阿蘭陀人方ゑ諸細工物爲賣渡候出島出入之儀御免被仰付下候　以上　戌六月廿九日』

出船手形（額）一面　江田島　海軍兵學校

海上御番所（關所）通過に際し役人に示すべき通行証にして慶應四年伊豫大洲藩村間屋より所屬荷船天德丸の爲發行せしもの

細川忠興公書簡　一通　松江市東茶町一九地　桑原羊次郎

横一尺五寸五分、縱五寸。春田又左衞門宛素麵の禮。徑三分五厘のローマ字 Tadawogui の印が押捺してあり綠色肉使用。忠興は天正八年織田信長に封せられて丹後田邊の城主となる、室は明智光秀の女玉子、光秀が信長に反するや大逆の子なりとしてこれを三戸野山中に幽し秀吉に從ふ、後家康に附し關ヶ原に三成の軍を破り、豐前四十萬石に封ぜられ正保二年八十二を以つて薨ず、室玉子が切支丹をあつく信じてガラシヤと呼びしことは能く人の知るところ

同　（軸仕立）一幅　名古屋市中區永樂町　堀江清足

縱五寸橫一尺五寸綠色にて歐文の印あり Tadawogui

同　一通　京都帝國大學文學部　國史研究室

五月四日挿花の事につき上林三八に宛てたるものなり

細川忠利書狀　一通　山口縣山口町字今道　生田經尙

細川忠興の第二子、寛永九年肥後豐後を合せて五十四萬石を食み熊本の城主となる、十四年島原の亂に天草四郎を討ち十八年五十六歲にて薨す、書狀にはローマ字印を押捺せり

細川光尙書狀　一通　同

光尙は忠利の子なり、書狀は縱八寸五分橫六寸二分ローマ字を捺せり

山中橘內文書　一卷　京都市室町中立賣上ル　富岡益太郎

右文書五卷中の一に『豐臣秀吉印度副王への答書案、相國寺承兌筆』あり、承兌は京都禪刹の長老として外交事務を取扱へり

松浦鎭信書狀　一通　長崎市夫婦川町八〇　森本丹之助

平戸藩主松浦隆信の子、天文十八年生れ、襲封後最も外國貿易に力を盡す慶長年間蘭英二國の商館が平戸に設けられ平戸貿易の盛になりしも公の力大なり慶長十九年薨

角屋近親諸方來狀　一卷　宇治山田市　徵古館農業館

伊勢松坂の貿易家角屋一家への來信にて中にちやがたら文あり、角屋七郎次郎氏所藏品

蛇形羅文章　古寫、卷物　一卷　奈良縣磯城郡安倍村　植田巖應

阿蘭陀おふみ尺牘　一通　大阪市西成區粉濱東之町三丁目一二　森繁夫

文政八年阿蘭陀人テルエウに戀して日本を去り蘭國に行きたるふみ女が大阪心齋橋筋酒屋源兵衞なる父及母などにあてたる手紙、全文次の如し

あまり〳〵になつかしく候まゝ文して申上まゐらせ候ふとした緣にて紅毛人名はテルエウと申人と二世のやくそくいたし文政八年九月廿五日の夜しのび出夫より舟にのり日本の地をはなれ北の海たまわりうんちうと申所え參り其所にてしきりに母さまのことぞんじいだしひるよとなく泣あかしまゐらせ候七日ぶりにて□と申處え參り是より西南にすこしみゆる松の間へ富士山をおがみこれ日本の見おさめなこりおしさのかぎりの小母さまやお長の事御なつかしくなきくらしまゐらせ候その夜大風ふき出し候まゝ其所え舟をしばり付まい日〳〵大風にて船を出ろ事ならず廿日ばかりもおり候所風もすこしゆるみ候まゝ舟を出しはるか東にあたり一つ島御座候間たづね候得はあれわイギリスと申候ゆへ日本え何ほどと聞候得ば日本の地をはなれ候事わもはや四百里ばかり御座候よし其所え舟をとめ又明ケがた風ふき出し候ゆえ舟を出し晝夜となく行ほども

はや三十日ばかりにて風もやみおだやかになり候まゝ此所より紅毛まで何程とき〻候得ば二千り餘りもあるよしなか〳〵見え不申いよ〳〵日本の事おもひ出し我身の事おもい出しうらみなきあかしまいらせ候其内はや正月十三日に天じくのイハエと申所へ舟を付其所にながくとうりゆふ致候内そのあたりの人々五リ七リ十リ廿リもある所よりわれを見物に參り申候其内風もよろしくと舟にほをかけ行事〳〵よふ〳〵五月朔日に紅毛の地ルイルと申所に付候て我夫住所へ着候所名はフルテルエウと申候此内に母親と夫の妹一人御座候て日本にて申し候得ば庄屋と申くらひの家がらにて人も多くめしつかひ何事もふそくなく候得共たべ物は常に牛ふた鶏のよふなる物ばかりたべ申候事にて米はすこしも御座なく候得共私は日本の者なればとて天竺より米をとりよせたべさせくれ候まゝ少しもなんぎは致不申候得共たゞ〳〵日本の事ばかりぞんじ出しふさぎおり候ゆへ妹もきのどくに思ひ夫にそうだんいたし田地をづぶし日本の町家のよふに家を作りくれ其上日本の母さまとお長の木像までこしらへくれ是を床の間に飾りおき候て日夜許し候まゝ日本におり候事のよふにいたしくれ酒も日々たべ申候父皆々よりなぐさめくれ候まゝ少しもふじゆふは無御座候家内もむつまじくくらし候内男の子一人でき當年七歲に相成名わイリキンと申候私より日本のはなしを致候得ばシヤイモテンエと申候是は日本を見たいと申事に御座候父日本にて書七ツ時ごろが此方の明ケ方に當り申候よし承り候夜分は日本の方とて裏面に向て母さまやお長に お目にかゝり度となき候得ば伴イリキンもシヤイモテンエと申候て同前になき申候父々長崎友だち衆え願大阪へ文してとぞんじ候得共かくべつねんごろの人もなくたのみ候事もむつかしくきびしく候まゝ是まで何事もたより致不申此度よきたより御座候事は神佛の御めぐみに候まゝ文にて申上まゐらせ候なんぞめづらしき品々あげ度候得共事の外むづかしき萬一あらはれ候ては濟不申文斗は敗に相成候てもかくべつ再さへかゝねば子細無御座候それゆえ私しの黑髮をきり差上候間是私しとおぼしめし被下候また文御こしのせつは天竺唐物藥種などのよりかたを御見立長さき通じへあつく御賴被下候此方の名前フルテルエと通じの人に書てもらい御送り被下候得ばとゞき申候誠に不孝のだんいくゑにも御ゆるしいぐわの御緣と御あきらめ御ねがい申上まゐらせ候お長を私しとおぼしめしお長は私しなりかわり母さまえ孝心偏に願入まゐらせ候申上度事山々筆ドつくしがたなくにわかに書し事に候得ば何事もあとやさきまづはあら〳〵目出度　かしく

子三月十三日　　阿蘭陀　ふ　み

日本大阪四つ橋北ヘ入
酒屋源兵衞様
御母さま
お長さま

長崎婦人の手紙（額仕立）一通　　岡崎市　市立岡崎圖書館

江戸時代の初期長崎の日本婦人が貿易船に乘組める英國人に送りし戀文（コロタイプ版、志賀重昂氏寄贈）

末次平藏書翰　一通　長崎市銀屋町　古賀十二郎

貿易家末次平藏より高木作右衞門にあてたるもの

有馬義直書狀　一通　長崎市　森本丹之助

肥前有馬の城主にして晴純の子なり、天文二十一年封をつゞ、弟大村忠純のすゝめにより口之津を開港南蠻船を迎へ一切支丹の布敎を許し天正四年その信者となり名をアンデレと呼ぶ義直一に義貞に作る

本多上野介書翰　一通　長崎市　古賀十二郎

本多上野介正純は德川氏の執政、元和五年宇都宮城主たり、彼の吊天井事件にて寛永十四年謫處出羽由利に死す年七十三。この書翰は長崎年寄中にあてたるもの

橘守部書翰　二通　長崎市本五島町七　渡邊庫輔

長崎宿老濱武元興宛、支那阿蘭陀に對する注文の取次書、橘守部は國學者、伊勢の人、嘉永二年六十五にて卒す、伴信友、平田篤胤、香川景樹とゝもに天保の四大家と稱せらる、著書多し

吉雄耕牛筆蹟　一卷　長崎市片淵町　福田思昭

耕牛は長崎の大通詞にして蘭法醫なり（畫像之部參照）この書狀は本木良榮が多年苦心の結果『阿蘭陀海鏡』世界地理書『譯譯出版の成りし時良榮の子庄左衞門に與へしもの

大槻玄澤外數名の尺牘（軸）一幅　東京市外日暮里渡邊町一〇四〇　大村正夫

芝蘭書牘集　三卷　東京市小石川區關口台町　吳秀三

蘭學者杉田梅里、伊東沖齋、坪井誠軒、佐藤泰然、土生玄碩、湊長安、宇田川榕齋、小關篤齋、川本幸民、緒方洪庵、土生鶴頭、阿部櫟齋、日野曉碧、杉田玄瑞、鈴木春山、宇田川榕菴、桂川甫粲、船曳圖書、戶塚靜海、宇田川玄眞、本庄晉一、兒玉晉一、兒玉順藏、桂川國瑞、高橋桃源、杉田玄百、西川元章、伊藤圭介、緒方拙齋、吳實石、箕作紫川、杉田錦腸、戶塚春山、前野蘭化、小石碧雲、杉田鶴齋、小石樗園、大槻磐水、桂川月池、竹內西坡、杉田梅里、大槻俊齋等の尺牘をあつむ

玄澤手簡　一通　大阪市堂ビル、オーム社　浪岡具雄

奥州の一關の關醫佐木仲禪宛のもの『(前略)大阪兎角便遠御座候(中略)建部へ無心用事申遣候早き實便御下被下度候、先便申遣し候アンチモニイの事その外追々申遣候御返書相待候斗りに御座候(下略)尙々平次郎への別封御渡可被下候云々五月二十一日大槻玄澤』大阪兎角便遠」云々とある大阪は蘭醫橋本宗吉のことなり、平次郎は鷄溪にて文政五年仙台に下り養養益句讀師となれり。『建部』は潤庵のこと、思ふにこの手簡は文政五、六年ごろのものならん(讃像之部參照)

蘭學者の尺牘　一卷　同

其作玩甫、其作宣吉、其作秋圯、臭金真石等蘭學名家の往復書翰文をあつむ

香川修庵尺牘（軸）一幅　東京　大村正夫

香川修庵が阿部右膳宛の書翰、修庵は施路の人、藝醫、行樣醫言その他の著あり寶曆五年七十三にて卒

司馬江漢尺牘　一通　大阪市　森繁夫

江馬春齡に宛たるもの内容次の如し

御狀十二月二日出當十三日に着井氏なる人御持參にて致拜見候先以御歸郷後御安全の至奉賀祝候小家も如案能在御安心可被下候扨此方よりは御事傳も不致大に失本意候久々にて御歸嘸々御用多と奉察候南鐵銀八片被遣候汁之圖樣の大さサツタ七里濱之類御願被下承知仕候然し當冬餘日無之出來兼來春早々に相初メ差出可申候

一、袋戸寸法相違いたし候樣仰被下先達御願之節寸法書被遣候通に仕候て上下之所間違候は必ス（リヲ除く寸法と被存候扨て認めたし候事六ケ敷不圖樣の者にて候何分夫は（リを取候て御張立可相成候（リは金泊張宜候如圖（圖を略す）何卒來春參上候節二枚戸になり申樣相認め上可申候是は菩戸に可相成候右申上候通何分認め足し候不出來に可有候先達被遣候書付今に有之其寸法よりは六七八分も大ふりに認上申候

一、耳鐵春になり候得は六ツ七ツも上可申候此間は兎角に流行にて困入候能書此節板行に當彫申候

一、勢州桑名之産一曲贈被下當地に無之扨々珍物にて一入賞味仕候

一、エレキテルは先年松原製のよし松原も始め小人おしへ遣し申候エレキテルは彼國にては致ハの爲めに設けたる器にて玩物に非ず太陽の大德萬物に流通して至らざる者なし氷の中に火のある事を知るは彼器にあらざれば不知事也石と金とは冷なりその中より陽を出し溫と暖の中より冷を生じ天の冷際是なり時にエレキは金泊獻すれ候ては不出久しく土藏に入置たる時不出はじきかね餘り剛過て不出又ゆる過て不出車の纏ユルミすぎはりして不出先切メキリ〳〵とまは

しヒイトロの玉入はだになりタル時暫ヤスミ玉の冷になりんとする時陽ヲ出ス壺ニハ金泊ヲ入て苞タよし壺の外の箔ハゲテハネ出チヤン損シテネ出鼎には此處（圖入）乾鍍鍍鉛金銀ヲ入ル又水ヲ入て甚タ氣ツヨシ、尤水のみにて外の物ヲ不入　扨來春は何れ參上仕候心懸にて關法鹽池之書も認申候樣に用意可仕候此節も所々より被賴不得寸暇夫のみ樂しみ居申候萬々匆々恐惶謹言

極月十五日認メル　江馬春齡樣　司馬江漢 S. kookan

奉行の筆蹟　三通　堺市向陽町八〇ノ一　鷲見東一

錢屋五兵衛を捌きし三奉行（但し内容は五兵衛事件に關係なし）

一、野村與兵衛（安永五年より天明四年六月十八日まで九ケ年在勤）

一、兒玉孫右衛門（文化九年四月十三日より同十一年九月二十六日まで三ケ年在勤）—知行五百石

一、淺香嘉門（寶永六年より安政五年まで六ケ年在勤）

奥平侯返書（メクリ）一枚　下關市阿彌陀寺町　伊藤醇

中津藩主奥平侯が蘭國カピタンに與へたる文書

ブロンホーフの筆蹟　一通　千葉縣古河　鷹見久太郎

一八二二年四月阿蘭陀甲比丹ブロンオーフが鷹見泉石を賞讃した書翰

同　一通　長崎市　古賀十二郎

土方出雲守（文政四年、五年、九年長崎奉行たり）に差出したる蘭文の願書

三井八郎右衛門年賀狀　一通　長崎市　小川水路

年賀狀をかねて定例江戸相撲取組のことを京都の三井より長崎宿老濱武元興宛報ぜしもの

津輕藩の手紙　一通　大阪市北區堂島中二丁目　望谷鐵膳

安永六年ロシヤ軍艦北海道に來航の際幕府より防備を諸藩に布達したる防備文書のこと書中にあり

貝原益軒書簡（軸）一幅　東京　大村正夫

氷魚、しやく藥等の考證をかいた手紙

魯艦ジヤナ號船將書翰　一冊　函館市　市立函館圖書館

一八二三年（文化十年）國後入港のとき（寫本）

魯西亞使節書翰　嘉永六年、和解付（寫本）　一冊　同

三條實萬公手翰　一通　台灣台北市兒玉町四ノ五一　尾崎秀眞

日野中納言宛黑夷來航當時のもの『（前略）墨夷一條御承知も候半いまだ何等の義も不申來風說種々にて心配至極に候大老ヤラ夫々役替ヤラ東武も混雜の事と相見候何卒よろしき勘考も付候はゞ幸甚と存候何共無覺束困入候事に候十州も先日書狀之後何等の事も不申越候處大脇興之進と申すもの先日内々上京候此度露國につき今夕立寄り候筈に候何か委敷事相可分哉と且喜且恐居候事に候（以下略）五月二十八日實萬』

葉山鎧軒尺牘　三通　同

鎧軒名は左内譚は高行平戸藩の家老、藩主諦乘公の厚遇に感激し儲保軌鑑を著し公に獻ず、この尺牘は安藤對馬守暗殺事件に關する件、外交關係情報等なり

綱政書翰　一通　長崎市　渡邊庫輔

長崎町年寄に寄せたもの文中元祿年間牛肉らかん煮云々のことあり、長崎にて早く洋風食の行はれしを知る史料の一

萱野七郎左衛門手紙　一通　大阪市　望谷鐵膳

天保年間大阪へ異國船渡來の模樣を報じたる手紙

高島秋帆の書翰　一通　長崎縣　元山元造

ロシヤ、アメリカ船の渡來に關する手紙、長さ四尺一寸五分

同　一卷　長崎市　福田忠昭

秋帆が幕府の手入れによつて投獄せられ（肖像の部參照）安中侯にお預けとなりし時の最初の書狀にして山本晴海（秋村）に宛てたるもの、獄更の目を忍び寸白を撮して書きつけたる點、獄中とはいひながら頗る自由の出來し時なれば多少の暢びもある點など面白し

幕末外交に關する書翰　一卷　京都市堺町通竹野町下る　谷村一太郎

近藤重藏（正齋）福山城主阿部棕軒、平戸藩主松浦靜山、河尻肥後守、林大學頭（述齋）等の書簡卷物

大船製造願書　一通　東京市外大崎町下大崎　島津公爵家

薩摩藩主島津齊彬が大船十二艘、汽船三隻の建造許可を幕府へ願ひ出でし時の原稿

幕末への答申書　一通　東京市外大崎町下大崎　島津公爵家

開港通商の可否について幕府の諮問に對する島津齊彬公の答書、内容次の如し（この一部はすでに公表せられたれど全文の公表を見ず依つて錄す）

此度亞米利加船より差上候書翰和解爲二冊拜見被仰付商法の可否著不容易御一大事に候間存慮之無不殘申上候樣被仰付奉畏候

一亞米利加人志願之儀者此以前阿蘭陀よりも申上琉球之儲留之英人よりも每々噂仕候事にて一朝一夕之考には無之彼方にても御制禁之段承知之上押て渡來仕候間

御國法之趣にて被仰渡に相成候共一通にては承知仕間敷乍然當時御打拂之儀は海防に手薄之折柄故必勝候儀無覺束奉存候縱令一應被追拂候共海上自在之夷艦殊に近來は唐國並無人島之邊々數艘碇船龍在樣子に相聞得候間時々海運之妨可仕候此度之御所置は實以御一大事之場合と奉存候尤亞米利加國之儀は

御制禁已後國立之新國に御座候間御免相成候ても御國法破れ候柔にも無御座候

間申出之通四五ケ年も御試之爲御免御座候ても可然候へ共亞國御免相成候上は魯西亞も同樣に御免不成候はゝ承知仕間鎌既に此節長崎へ書翰持越候由御座候

間御免之上は兩國共御免可被仰付候左らば佛蘭西英夷の兩國も追々渡來の上商法可願出は差見得申候右へ

御許容不被仰付時は强訴可仕も奉存候また御免相成候ては是迄の御國法は不殘破れ候間魯亞兩國へ御差免の節兩國の無以取計其餘の異國より通商等不願立樣可仕旨被仰付候義も可然事ながら彼國々兼て同盟之國と承及候間御受の程も無覺束假令一應御諮申上候共心底難斗奉存候若亦實に承服仕り外國渡來之患無御座樣相成候へば無此上御事には候得共右右兩國之者共於日本は兩國之保護を以て外患を免れ候と自負仕殊に寄らは屬國同樣に可申觸も難斗奉存候左候得ば乍恐　神國之御恥辱可相成哉と恐入奉存候先年和蘭國王より書翰差上候節に候得は往昔より御制禁にて不容易御諮合に候得とも申立候趣も尤に候間何々之國は御免可被仰出候間は餘之國々より不相願樣是亦邪宗之儀急度御制禁相聞候樣可取斗段被仰出候得共此節御許容相成候ては御威光も薄きかたち其上和蘭國王ゟ被對候ても御義理合不相濟譏にも相成候また戰爭を　御獻にて御免相成候等外國にて心得候ては永年のため苞殘念千萬奉存候將又異人多人數入込候ては御國地之案内も致熟知不意災害を生じ候も難斗清國同樣之振合相成候ては如何にも殘念至極に奉存候就ては此節御免被仰出候儀は不可然御時節歟と奉存候乍然來年渡來之節直に御斷相成候ては戰爭之端を開き候も斗難候へば成丈年を延し候樣に無據御諮合被仰聞候て歸帆被仰付其內海岸之御手當十分に被仰付度儀と奉存候三ケ年程は丈夫に延ひ候　御所置は可有之奉存候左候て三ケ年相立候得は諸國一統に御手當相整候ば必定に御座候重相整候得は元來勇壯之人氣に御座候間打拂被仰付候共必勝之計策如何程も可有御座奉存候扨又御手

嘗之儀は商法御免之有無に不拘不被仰付候ては外事之輕殺相前に御座候間端々迄行屆候樣に被仰付度候尤是迄通り之被仰出已にては行屆候儀無覺束奉存候間年恐公邊にて御手始被爲在御入用無機海防之御手當被仰付度左候はゞ當時諸大名困窮之折柄に御座候間軍賦に應じ金銀御配當被成下夫々用意仕候樣被仰付度候事と奉存候恐入候御事ながら御用心金も非常之爲之御備に御座候間十分に行屆候樣被仰付度奉存候御手當之内大砲相備候軍船御造立無御座候ては外之儀如何程被仰付候ても全備之御手當には相成間敷奉存候御手當場所之儀も浦賀を第一と被仰付其外要地之場所御評議之上委細に被仰付置度兼て於異國も日本人氣勇壯之儀は慄龍在候段承及候間御手當嚴重相成候はゞ無禮の振舞も仕間敷軍船に全備之上は通船妨候共如何樣之御處置も可被爲在候間其上にて急度打拂被仰出候方可然哉と奉存候乍然近年は西洋諸國之船々日本近海え龍在候趣に相聞得候間折々渡來仕永年之類に可相成も難斗御座候間十分御手當御全備之上御國威を被示候て其時之樣子次第別段之以御仁慈魯西亞國之分は和蘭同樣何ケ年間か之間御試之爲酒法御免可被仰付尤邪宗之儀は堅御制度相聞候樣其餘之國には急度不被仰付段蘭人え御達に相成候はゞ於彼方も御趣意通承服可仕哉に奉存候此節直に御免被仰出候はゞ彼方之存慮十分に申募り過當之願意可申上候は必定に御座候前文通一度御國威を被示候上は外國えの御威光も相立交易等之可否は如何樣にも可相成かと奉存候尤通商御免之儀は不宜事に候得共多年異船之患御座候得は御國中疲勞可相成候間軍備相整候ば被仰付候ても可然哉と奉存候

扨又海防御手當之儀致永久連續候處第一にて諸大名も拜領之金子等にて六、七年は取續き可申候へ共積年の後は彌困窮に可及は必定にて是亦御一大事之儀と奉存候此處第一に評議被爲在候はゞ如何程も御良策可被爲在事と奉存候將又海防御手當被仰出候上は頭立一身に引受致總裁候者無御座候てば行屆間敷然に人心一致第一に御座候間　御連枝方之内第一人諸指揮被仰出度右え仰付候御人體之儀迄申上重疊恐入奉存候得ども當時御年輩と申し人望と申異國之事情委曲御會得被爲在候は水戸前中納言殿之外は被爲在間敷と奉存候間海防之儀御委任被仰出候樣乍恐奉念願候此度之儀は天下之御一大事に御座候間彼を知り已を知て後之御所置に無御座候ては必勝之御良策は行屆間敷奉存候間能々御評議之上被仰出候樣奉願候何分も此度直に御免被仰出候ては御國體之所如何にも恐入奉存候前文之趣申上候儀實に恐怖之至御座候得共不及忌憚所存之樣申上候樣被仰出に付候不顧恐懼致之趣不殘奉申上候以上

但石炭置場所之儀は猶更御免無之方と奉存候漂民御救之儀は是迄通と被仰付

囚人同樣に被仰付候儀を今少し手厚に御手當被仰候方と奉存候以上

中濱万次郎手紙　一　通　　大阪市此花區福島上の天神　中野康章

米國に漂流歸國後幕府の通譯官となりし中濱より薩藩家老小松帶刀宛

幕末名家書翰（大卷物）三卷　神奈川縣鎌倉坂の下二三　川路柳虹

幕末―天保、安政、嘉永にわたり川路聖謨と親交ありし諸侯、老中、志士等の書翰を收む。藤田東湖、佐久間象山、間宮林蔵、島津齊彬、水戸烈公、江川英龍、阿部伊勢守、林大學頭、水野織前守、堀田備中守、岩瀬肥後守、安島帶刀、大久保加賀等名士の筆蹟多數あり

高野長英書狀（軸）一　幅　　東京市麴町區有樂町一ノ三　大武丈夫

村上隨憲にあてたるもの

高野長英渡邊華山の書翰　一　卷　　同

伊藤圭介手紙　一　通　東京市外代々幡町代々木四七六　志賀富士男

書物を寄贈されし禮狀にて日本語で筆にて記しシーボルトの息アレクサンダーに宛てたるもの

福澤先生書翰集（軸）一　幅　東京市麻布笄町七九　木村浩吉

福澤諭吉が木村芥舟（攝津守）その他にあてたる書翰八通をあつむ

水府老公書翰　一　冊　　滋賀縣彦根町　町立彦根圖書館

アメリカより來翰の返事その他について（寫）

咸臨丸歡迎文（軸）一　幅　　東京市芝區三田　慶應大學圖書館

萬延元年幕府軍艦咸臨丸が桑港に到着したる時桑港市會の歡迎文、軸仕立、彩色獄力商人

米國人墓地についての願書　一　通　伊豆國下田　玉泉寺

玉泉寺より外國人埋葬役人への歡願書

岩倉具視その他書翰　一　卷　　松江市　桑原羊次郎

伊藤博文書翰（額仕立）一　面　　同

鐵道寮文書　一　通　山形縣飽海郡高瀬村宮野　石垣吉六郎

鐵道助佐藤政養より工部卿伊藤博文宛、明治八年七月付西京出張の報告

籠手田安定書翰　三　通　　台北市　尾崎秀眞

平戸濱松浦鐵馬宛、西洋事情を讀むの記あり、西洋開化心醉の憂ふべき點を論

じたる手紙

橘こせ女の書翰　一　通　　同

とせ女は橘道守の妻『（前略）近衛樣、野々宮樣、大原樣御はじめ華族しゆは十方計り何くれと御名もうかゞひ候へども失念致し私も近衛樣、田安樣御なじみ故罷出候樣に仰付られ候まゝ上りえせ歌なとよみゐ〳〵御料理も西洋風にて御膳もなくすゞみ台の樣な御つくゑ一間半ばかり御座候のをならべ其上に色々御肴有御はし立には御はし入御たかひに御かつて次第つゝきちらして召上られ候さても〳〵長いきの御かげ面白く存候（後略）』

菊地溪琴尺牘　一　通　　同

溪琴名は保定、通稱孫輔、海抵と號す紀州の人、明治十四年沒年八十三、書中『東都御交通彌御開港の御樣子にて市中安堵仕候樣樣に承り無此上難有』云々の文字あり

英商ブレスキトンの來翰綴　一　冊　　函館市　市立函館圖書館

一八六三年（文久三年）より一八七三年（明治六年）まで

モールスの手紙と封筒　一　通　　東京市　志賀富士男

モールス米國に歸りて後竹中成憲に宛てし手紙にして、封筒の表に『竹中成憲先生』と日本字にて記せり

ゼームス、スコットの旅行券　一　葉　　函館市　市立函館圖書館

一八六七年英國領事發行のもの（原本）

長崎遊女の借用證文　一　通　　長崎縣　元山元遣

闌人を背景としての使用證文にて『借用申一札の事、一金三兩也、右者私儀親元に養生に罷歸り候内所持之品賣入致し誠難凌仕候に付此節青井虎之助殿を以御相談申上候處御承知被下難有儘に借用仕候處明白實正也然上は和蘭御客人より貰請次第急度拂人可申上候若萬々一納方年限中出來兼ね候節は（以下略）慶應元年己八月借用主可悔、青井虎之助、大醫屋おまき殿』とあり

貿易産業關係圖書記錄

産業攬要 一冊　福井市　福井市立圖書館
ブリー・クローデ等編、一八五五年アムステルダム版、福井藩立明道館内洋學書傳習所にて使用の關書中の一

産業攬要 一冊　同
一八五六年アムステルダム版、前同斷

商家寶函 一冊　同
ワーレンケンニス著、ライデン版、前同斷

農業原論 一冊　同
ワーリング著、一八五四年紐育版、前同斷
書の一

農家堆積肥料法 一冊　同
サミュエル・ダナ著、一八五五年紐育版、前同斷

華夷通商考 五冊　長崎市本紙屋町五八　津田繁二
西川如見著、寶永五年版、海外の地理風俗等を記述紹介したる日本最初の地理書

答問十策 一冊　滋賀縣彦根町　町立彦根圖書館
福岡藩の關學者が紅毛との貿易の得失を論じたるもの、寫本

經濟纂要 四冊　東京市上野公園　帝國圖書館
青木昆陽著、寫本

六ツの掟書 (軸)一幅　東京市麴町區有樂町一ノ三　大武丈夫
林子平が明和七年六月獨立して商業を營みし時六ツの掟を記して自誡とせしもの

廻船極定書 一卷　宇治山田市　徴古館農業館
松阪町角屋七郎次郎氏所藏、廻船之定、船之用法之事を記す

船員目錄 一冊　長崎市銀屋町　古賀十二郎
南京船主伊孚九以下の船員名簿なり、延享四年八月、半紙形唐紙八枚

銅方並吹屋覺 一冊　大阪市東區北濱四丁目　住友合資會社
(泉屋吉左衛門)天正以後德川初期に於ける住友家の銅商賣並に吹方の覺書にして奥書に「右書面は是まで度々御尋の節書上候寫也其後久松狩後守様御尋之節寛延元戊辰年九月二十五日銅方一件右留書之趣に增減致し吉左衛門友昌持參御内證御用人大森半藏殿を以指上候處御公用人衆御内見之上御奉行所御覽に御入被成候」とあり

長崎銅會所最初より仕方一件口上書 (長崎銅會所) 一冊　同
「阿蘭陀人へ棹銅相渡し候仕方のこと」その他

長崎初發書 一冊　同
長崎外國貿易の發端並に德川初期に於ける長崎貿易の情況の記錄

異國渡銅の次第長崎表覺書(控) 一冊　同
享保二年八月十三日書上、長崎奉行日下部丹波守の内意を受け長崎表銅輸出に關する情況並に意見を書上げたるもの

長崎唐物商買御定書 延享元年三月 一冊　堺市材木町　金田新平

唐物運賃覺書 延享二年廿二月、三月 一冊　同

長崎代物毎月相場書 三冊　同
御奉所へ書上候長崎代物毎月相場書之留、元祿五歲、六歲、八歲(各一冊)

唐紅毛物一件願書控 一冊　同
寛政九年四月、木卯屋勘兵衛、小西與七郎代啓助、美濃紙二ツ折型

唐物買取數量書 弘化四年、嘉永元年 一冊　同

糸割符年寄御定御奉書 一通　長崎市松枝町一〇　小川水路
(本文)黑船著岸之時定置年寄共糸のねいたさるゝ以前に諸商人長崎之不可入候いとのね相定候上は萬望次第可致商賣者也
慶長九年五月三日　本多上野介(花押)

輸入額限定覺書 一冊　同

薩州唐物來由考 一冊　鹿兒島市　鹿兒島縣立圖書館
伊地知季安が天保十一年五月起草六月廿七日藩公に差出したるもの(寫本)

交易一件 一冊　滋賀縣　町立彦根圖書館
薩摩と琉球との交易を記述す(寫本)

紅毛落札帳 二冊　長崎縣　元山元造
安政四年九月一冊、安政五年一冊、(品目の主なるもの)猩々緋、黑、白、黄、茶、花、藍、鳳、霜降その他各種羅紗、奥島、更紗、象牙、丁子、錫、紫檀、水銀、砂糖、アラビヤゴム、ウニコール、金巾、木綿、時計、硝子、紋羽、燒物、切子鈴、銘酒瓶、切子、コツプ、武力延板、各種藥品、毛氈、鐵具、鏡、色緞子、等等(半紙二ツ折横帳)

長崎覺書 一冊　神奈川縣鎌倉坂の下二二　川路柳虹
川路聖謨が長崎の唐、紅毛貿易に關する達し、その他の記錄を筆寫せしめたるもの

交易奬勵御觸書掲示板 一枚　堺市　金田新平
天保二年三月、唐物問屋共に對し唐、紅毛と交易奬勵の御觸書板額(長さ一間巾一尺一寸)

更紗便覽 一冊　名古屋市中區小林町一二　富田新之助
天明四年版、蓬萊山人歸橋編、紅毛及支那渡り更紗の模樣を木版畫にあらはす

御當家令條卷 五冊　奈良縣郡山町字鹽三木忠方
外交、貿易、切支丹其他に關し德川幕府の禁令類集(寫本)

書藉元帳 三冊　長崎市　長崎圖書館
(八冊の内三冊出巻)(第一冊)弘化五年四月、二十一史外約二百點支那より輸入の書籍の數量と原價を記す(第二冊)嘉永三年五月、清確閑外四百五十點同上(第三冊)安政元年四月、湖海文傳外約二百點同上(この元帳と江戸へ送られて何程の價に賣捌かれしかを調査研究中の學者あり)

長崎運上所關係帳 四冊　堺市同陽町二二四　岡村槐軒
弘化四年小船出役帳一、安政二年海陸出勤帳一、元治二年運上所附並御雇小船出方御用帳一、慶應二年運上所附並御雇小船出方御用帳一、御用船差配岡村屋白糸(生糸)は長崎輸入の主要品にして各國より盛に輸入せしが慶長年間六、七、八、九年に亘り南蠻船が餘り多量の輸入を試みしため買手なく爲めに幕府に歎願の結果家康は小笠原長崎奉行に命じて京、堺、長崎の商人に標準價格を定めてこれを買取らしめ(糸割符年寄)三ケ所に割符す、「長崎會所」はこの事務を管掌するため生れたり、本書は慶長九年閣老の糸割符年寄に與へし奉書なり(寛永八年より江戸大阪を加へて五個所割符とす)

糸割符商人圖 一枚　堺市櫛屋町堀口　松浦伊三郎
堺における糸割符商人の家並、位置を線と家號名にて現はしたるもの、圖に茶屋四郎次郎の印あり、四郎次郎は京都の三大巨商、安南貿易家、糸割符に關係せる最初の一人なればこの圖が史料として價値多きを知る(續卷情妙寺所藏交趾國貿易繪卷參照)

五ケ所糸割符記 一冊　兵庫縣川邊郡小田村抚瀧堤外　鐵島松風
享保年間の記錄にして堺の關係商人の人數その他糸割符人數、題高等詳記しあり

五ケ所會所印鑑 (唐物入日記) 一枚　同
京、堺、江戸、大阪、長崎五ケ所會所の印鑑(享保九年辰八月改とあり、美濃紙四分一大)

阿蘭陀唐船荷物割符代金仕切書 四枚　長崎會所發行　長崎縣南高來郡加津佐村　元山元造

糸割符代金證書 一枚　大阪市港區五條通二　鹿島傳藏
和州添下郡超昇寺村庄屋甚七外七名が安永七年十二月糸割符銀方役人に宛てたる長崎御藏拂唐阿蘭陀荷物落札代銀の證書

割符留帳 (天保二年) 一冊　長崎市爐紹町　縣立長崎圖書館
奉書二ツ折百七十枚

二艘船着帆より當時在留覺 一冊　長崎市本五島町七　渡邊庫輔
午年とあり、船上にて船客乘務員等の人別調

信牌 一通　長崎市　長崎圖書館
寛永十九年唐船に附與したる貿易許可證にして南蠻人連行を禁ずる旨厳重に記しあり

長崎交商一件（寫本）一冊　鹿兒島市　鹿兒島縣立圖書館

唐人貿易約定書　三通　堺市柳屋町東二丁　堀井久吉
文久二年會津南山人參係

神奈川府運上所積荷免許狀　三葉　函館市　市立函館圖書館
年代不明、丁抹、ドイツ兩國の船積荷に對する納稅濟の證明書（原本）

交易一件留取扱向大意（寫本）一冊　函館市龜田村內　函館師範學校

送品請取通　一冊　函館市　市立函館圖書館
安政三年四月佛朗西ウキルキニー船「諸國御用達」と記しあり

異船賣渡諸品代惣調勘定帳　一冊　函館市　函館師範學校
安政二年租館における英米佛獨の船に賣渡したる諸品の勘定（寫本）

異人向代銀帳　一冊　同
文久二年六月京都美濃屋孫兵衛

產物並調進拔書　寫本　一冊　同

長崎手形納高覺　一冊　長崎市　津田繁二
明治二年巳六月改、松葉屋三通回、半紙二ツ折横帳七枚附込みあり

外國航路發着廣告　一枚　長崎縣　元山元造
明治初年太平海飛脚船

上海航路發着表　一枚　同
明治初年飛脚船、太平海郵便船飛脚問屋

御免貿易場明細書　一冊　堺市　岡村槐軒
安政六未年八月改メ、半紙横二ツ折四枚、木版

通商物品目錄　一冊　神戸市上筒井　神戸商業大學附屬圖書館
關江窯藏版、細横帳木版二十枚（發行年月不明）

海關送狀　四枚　堺市　岡村槐軒
明治六、七年頃長崎より兵庫大阪等へ送品の際送り狀

貿易契約書　八通　伊豆下田　池津珍藏
（和文、英文）慶應年間に米國商人代表ネムブネルと日本商人との通商上の契約書

通商丸蒸氣船運賃表　一枚　神戸市　神戸商業大學附屬圖書館
大阪、東京、回漕、明治二年發行の一枚刷木版、東京大阪間船賃上等の間十九兩中等の間九兩貳歩とあり

兵庫表取計留　一冊　奈良縣磯城郡三宅村小柳　藤本虎雄
兵庫表へ外國船入港について護衛取締の件（半紙九枚「浦上控」とあり）

申合常則　一冊　神戸市　神戸商業大學附屬圖書館
明治五年日本政府郵便蒸汽船會社申合せ個條

各國商船入出港控　一冊　神戸市　神戸稅關
明治六年第一月、運上所

尋問表綴　一冊　同
明治九年神戸稅關にて入港せし船舶を臨檢せし際の報告書の綴込

新定稅目　一冊　同
明治初年の關稅表なり

外國郵便稅表　一枚　大阪市南區黑石衞門町　橋本誠太郎

御用唐木細工物雛型控　一帖　長崎市　渡邊庫輔
將軍又は長崎奉行の注文品のデザイン

青貝蒔繪雛形帖　一帖　長崎市出來大工町　林源吉
安政三年、筆者淺田とあり

塗物雛形帖　一帖　同
明治十一年三月廿五日、この雛形は出島のホーデンハウストに差出すとあり輸出品研究の資料

西洋寒天賣込書　一通　堺市　堀井久吉

紅茶說　四冊　名古屋市　富田新之助
多田元吉譯、勸農局藏版、明治十一年出版、和本

紅茶製法纂要　同　二冊　同

明治初年博覽會規則、目錄　十二枚　東京市小石川區林町　和田千吉

異國船使渡來關係記錄

朝鮮信使往來 一冊　滋賀縣八幡町仲之町上　西川吉之助
寶曆十四年以來來朝せし朝鮮使節についての記錄、寫本（船、服裝等の圖あり）

朝鮮信使登城の次第 一冊　奈良縣郡山町字鹽　三木忠方
延享五年朝鮮使節上府の模樣江戸城內饗應の次第などを記述（小折本）

南蠻船取締の達 一冊　那覇市　沖繩縣立圖書館
南蠻船渡來の時の取締達しの寫、明曆三年（一六五七年）より元祿三年（一六九〇年）まで

諸雜書 三冊　滋賀縣彥根町　町立彥根圖書館
桑山蠻船關書、公武問答その他の關書（寫本）

極密書（寫本） 一冊　同
元祿、享保年間邦人の漂流記事二三その他を採錄（寫本）

異國關係雜記 一冊　函館市　市立函館圖書館

文地稿 一冊　那覇市　沖繩縣立圖書館
參有功筆異國船琉球那覇に來泊當時の記錄

宮古島手札改座公事帳 一冊　同
嘉慶九年（文化元年＝一八〇四年）

本朝要石 一冊　函館市　市立函館圖書館
安政年間よりの對露關係を記す、大黑屋幸太夫の漂流記事を最初にしるせり（寫本）

東北韃靼諸國圖誌野作雜記譯說 三冊　東京市赤坂氷川町　勝伯爵家
蘭人ニコラース、ウキッセンの原書中より蝦夷諸島に關する記事を長崎の譯官馬場貞由が幕命を奉じ譯述せしもの、勝海舟の自寫。（本書は傳本頗る稀なり。

美濃紙一冊五十枚、數葉の挿畫あり）

北海異談（二十卷） 一〇冊　函館市　市立函館圖書館
寬政以來異船の北海に出沒せることを記せるもの（寫本）

蝦夷魯西亞賊來記 一冊　同
寬政十一年二月松平伊豆守殿御口達、蝦夷地領主被召上事、東蝦夷地當時勤番書、文化三年異國船蝦夷地渡來一件等を收錄（寫本）

神風記 一〇冊　同
全二十卷、文化三年頃の蝦夷地外船渡來事件や役人差遣の始末、公文書の寫しなどを收錄（寫本）

惠渡呂府一件 一冊　滋賀縣　西川吉之助
文化年間北海道エトロフ島における露船渡來の件を記す（寫本）

魯西亞船への諭書 一冊　函館市鍛冶村內　函館師範學校
文化年間（寫本）

長崎表應接方 一冊　函館市　市立函館圖書館
松前侯魯西亞船應接方回書の類（寫本）

魯西亞國衣類器物披露來由書 一冊　名古屋市中區永樂町　堀江清足
文化十年カムチヤツカに漂流したる尾張の小栗重吉が持歸れるロシヤの器物の目錄を記したるもの（木版刷）

和蘭密告 一冊　東京市九段　遊就館
天保四年より嘉永五年までの間和蘭の商館長（甲比丹）より海外事情を幕府へ申達したる數十通の文書の寫し

參府道具附覺帳 一冊　下關市阿彌陀寺町　伊藤靜
伊藤家は甲比丹參府の時の下關における本陣たりき、故に甲比丹關係の所藏品多しこの道具附覺は文政五年正月のものにして東勘定場村重慶助承りと表紙に記し「汁次」「飯次」「大皿」等數十種に及べり（半紙五枚、横帳）

蘭人獻上物泊一件看、八百屋物之控 一冊　同

酉正月、大鯛あら、ふか、まて、たこ等の食料品と代價を記し總〆五十九貫九百四十六匁とあり（半紙五枚横帳）

御本陣諸雜用之控 一冊　同
弘化二年十一月十六日より二十日迄藩府の關國甲比丹が滯留中の記で米、薪、油、味噌その他の入用品を記し〆高四十二貫二百六匁とあり（半紙三枚横帳）

シーボルト追放事件顚末記錄 三通　長崎市本五島町七　渡邊庫輔
シーボルトが鳴瀧の邸を買入るゝについての記もあり

弘化四年風說書（寫本） 一冊　千葉縣古河　鷹見久太郎

異國船荒岸記 一冊　函館市　市立函館圖書館
文化五年八月「イギリス船亂妨記」の註あり（寫本）

異國船一件書面類 一冊　函館市　函館師範學校
天保十五年東蝦夷室蘭と厚志とへ異國船渡來、弘化二年擇捉島へ異國船渡來の始末を記述、宮島官作編とあり（寫本）

異國船長崎表へ送る御用廉書 一冊　同
北海道に來たりし異國船を長崎へ航送せしめたる時の屆書その他を收錄（寫本）

長崎に魯船入津一件書 一冊　函館市　市立函館圖書館
（附）魯國より漂流日本人連渡候一件（寫本）

文化魯船渡來騷動 一冊　同
文化二年長崎にて日露兩國使節が交換せる書類その他の記事、落言の輯錄（寫本）

魯西亞船渡來屆 一冊　同
文化八年魯船（グローニン號）北海に來航の時の南部侯屆書控（寫本）

唐太亂妨一件其他 一冊　同
ラソワ人一件、魯使長崎到來一件等（寫本）

聞薰集 一冊　同

嘉永二年海防御掛御目付言上書その他（寫本）

風說書 一冊　同
上原昌邦が嘉永三年より安政二年まで異國に關する風說を集錄せしもの

箱館夷人談 一冊　同
平尾魯僊が安政二年箱館滯在中見聞せる箱館在留外人の狀況を錄せるもの（寫本）

アメリカ船渡來記 一冊　同
嘉永三年米船渡來の記、箱館の人淡齋如水の輯錄せしもの（五、六卷、寫本）

異國船一件 一冊　四日市市中町　伊達貫一郎
嘉永六年米艦渡來の記事

魯西亞船渡來記 一冊　函館市　市立函館圖書館
嘉永六年より七年に至る、魯船渡來中の書簡、達、伺（寫本）

魯西亞應接記 一冊　同
嘉永六年十二月より七年三月十九日まで長崎にてプーチヤチンと應接の顚末記（寫本）

浪花夷船渡來記 一枚　東京市麴町區三年町　維新史料編纂事務
嘉永七年（附錄）諸家陣取の圖、縱一尺四寸、横二尺五寸

海內時勢探索紀事 一冊　滋賀縣　町立彥根圖書館
嘉永六年より文久二年に至る十年間外國船渡來についての公文書その他を集錄したもの（寫本）

米船渡來時の記 一冊　大阪市西成區南神合町　北村壽四郎
嘉永六年ペルリ來航の記（寫本）

琉球人來朝行列圖 一冊　四日市市　伊達貫一郎
天保三年十月版

異國船申合帳 一冊　奈良縣　三木忠方

浦御高札雛形 五 板　三重縣度會郡　大湊町役場
全國にて七ケ所ありし浦御高札所に曼入を貰ひし際、これに改めて書き掲示したもの（寫）皆異國船に關したるもの

嘉永六年異船聞見記（寫本） 一 冊　滋賀縣　町立彦根圖書館

入津記及見聞 一 冊　伊豆下田　玉泉寺
柿崎玉泉寺住職が手記したるものにしてペルリ來航に關するもの

浦賀湊異國船渡來一件（寫本） 一 冊　滋賀縣彦根町　町立彦根圖書館

友忠言上書 一 冊　同
水戸の家臣石田虎藏が外夷に關する言上書（寫本）

異國船渡來記（軸） 一 幅　四日市　伊達貫一郎
米艦及び魯艦渡來當時の公文書私信及びペルリ似顔畫等をあつめたる軸

異國船渡來記 二 卷　同
米艦來航當時の風說、達の類を卷紙に書寫し卷となしたるもの

米大統領國書 一 冊　山形縣飽海郡高瀬村菅野　石垣吉六郎
嘉永六年ペルリ浦賀に來航、米國大統領より德川將軍に獻したる國書、その他の諸記錄（寫）

玉泉寺法番御用拂 一 冊　伊豆下田　村松春水

異國船滯在中御用拂 一 冊　同

亞墨利加一條 一 冊　函館市　市立函館圖書館
嘉永七年三月米艦相館入港前後の狀況を記す（寫本）

ペルリ箱館渡來達書 嘉永七年（寫） 一 冊　同

夷船渡來上申書 一 冊　同

唐太境界談判始末 一 冊　同
文久二年、横帖半紙五十三枚（寫本）

柴田日向守箱館行御用留 一 冊　同
文久三年十一月より元治元年五月まで柴田日向守在任當時の御用留、原本

アメリカ艦長州戰爭和解書 一 冊　同
文久三年長州が米船砲擊について米艦ワキオメンと下關にて講和談判の際彼より提出した文書の和解文（寫本）

亞墨利加合衆國 六 冊　東京市新橋町二丁目七四六　森山四郎
篠梅叟著自筆本六冊。篠梅叟（梅叟の名は水戸烈公より授けらる）は副將軍德川家の臣にして奥祐筆を勤め江戸詰として烈公に仕へ常に君側に侍しつゝ小閑を割きて主要の文書を寫し取りこれを淨書蒐集しては一部を綴り更に收錄しては一部を加ふ斯くて十年遂に百部を超ゆるに至る孰れも幕末維新の史料ならざるなし、この六冊は『米艦渡來』に關する顚末を主として公文書を記錄せり

幕末外交書目 一 冊　函館市　市立函館圖書館
安政年間記錄（寫本）

幕末海外交涉記錄 寫本、薄葉 一三一冊　滋賀縣　西川吉之助

憂北書簡 一 綴　津市外千歲山莊　川喜田久太夫
松浦竹四郎筆寫、開國當時の消息あり（六十九枚）

長崎方支配人一札之事 元治元年 一 通　堺市櫛屋町東二丁　堀井久吉

攝州安治川口御警衛 一 冊　奈良縣　三木忠方
慶應元年非常の節申合帳、同御人數配帳、略圖二枚を附す

誓狀 一 通　同
慶應元年九月十二日付異國船擊拂に關し松平申翌守より松平伯見へ送れるもの

堺御下向御觸れ書 一 枚　堺市櫛屋町　中田光三
十四代將軍家茂が元治元年長州征伐のため大阪に來り堺へ赴きし時の達し

御達並御沙汰留 明治元年閏四月 一 冊　神戸市　神戸稅關

御觸書寫 三 冊　同

明治元年の御布令その他公文書のつゞり（西運上所）

御達書寫 明治元年十月（荷改局） 一 冊　同

御觸御達留 明治二年正月より（東運上所） 一 冊　同

兵庫縣文書 一 卷　神戸市湊川町二丁目八三　隈元義信
明治初年、神戸の運上所其他より和蘭領事に差出したる文書

御用留 一 冊　神戸市　神戸稅關
明治四年一月より明治五年一月に至る神戸港東運上所の公文書類集

御布令書 一 冊　同
明治五年發布御布令書第一號より第五十六號までを一綴りとす（西稅關）

諸願留 明治五年の願書綴（諸務課） 一 冊　同

保任社條例 一 冊　大阪市南區八幡筋玉屋町　杉本要
明治六年設立保任社の條規を印刷したる小冊子

明治初年の月給支拂帳 二 冊　大阪市　造幣局

明治初年の簿記帳 三 冊　同
錄前所、日本數字をもつて西洋式の帳簿に記入しあり、日本にて洋式帳簿を用ひたる最初のものなり、英人御雇技師キンドルの指示による

使節饗應記 一 冊　大阪市浪速區東關屋町二丁目二　角野清太郎

回想記 二 冊　函館市　市立函館圖書館
英國プレキストン・マール商會の船長ジョン・ウイルが天保十一年以降明治三十二年に至る經歷を回想記述したもの、開港當時の函館長崎その他東洋諸港の見聞を詳述しあり

異國船東蝦夷渡來記錄 一 冊　大阪市　角野清太郎

外國人入京規則 一 冊　京都市國崎町　京都博覽會協會

日記類

年々帳 一冊　大阪市東區北濱四丁目　住友合資會社

延寶三年より元祿九年に至る輸出銅に關する記錄で中に寛文延寶頃唐阿蘭陀へ輸出せる銅高の記錄あり

年々記 一冊　同

長崎阿蘭陀人寛政以後屢次住友吹所を見分に來りしが此の中に文政五年三月カピタン、ヤンコック、ブロンホフ一行の來訪せる記事あり左の如し

今二十二日銅座御役所へ喜重郎出勤いたし候處爲川氏より被申候には明後二十四日その御吹所例の通り紅毛人見物いたし度旨申候間見物の讓爲致呉候樣爲川氏より御願に付夫々用意左に記す

一小吹本流し　二挺　忠兵衛　善七
一間吹床　二挺　重兵衛　卯兵衛
一合床　一挺　嘉七
一南蠻床　三挺　八郎兵衛　彌七　茂兵衛
一灰吹床　二挺　爲七　太次郎
一ゆりもの師　ふさ

〃

右之通吹方いたし候夫に付紅毛人を見物の場所は台所かうしの前より西の方へ棧敷五軒疊八疊しき床机をならべ疊を入前は雨霽を懸日覆は覆すだれの上へ合羽付候琉球八枚にていたし不足の分は雨紙にて覆ふ明き床前の分は不殘覆すだれにて立圍ひ其内へ見物人入る台敷格子の間より東は屏三枚斗り取放し其上に蔵賣にて張る銀床並えひす藏の前は床机に疊を敷前はよしすにてかこふ此所は居手代手寄のもの斗入る他人一切無用の事也錢拂前五軒之上棧敷へはいづれも毛氈を敷此所御城代樣之御留主居並土州御屋敷延岡御屋敷銀座仲間右之衆暫時御待合に付重組にて遣差出す尤紅毛人連參に付早朝より見物入來之御衆中空服之樣子に付握飯差出す煎茶之品はをくに記す西湯池は厚き板にてふた致し東湯池は手摺を付置表入口に戸閉手傳兩三人付置手寄のもの斗見物爲致候當日早朝より大雨にて大混雜紅毛人八ツ時入來の處道路雨水にてわりかへし候故道筋へむしろをしき其上へ松板拾連を敷ならべ紅毛人歩行せしむ誠數百人の見物故中々容易の事とは不被存候兩日の混雜難盡紙候間隨其時儀棧敷等備へ相立可申事、

一紅毛人八ツ時入來吹方加減宜候に付直樣吹所見物萬端相濟夫より本家座敷へ通り饗應相濟七ツ時頃退出當日吹方相勤候ものへ紅毛人より金二百疋被下候間方の儀は大工六歩さし四歩也但干菓子は皆本家より取重組は佐田屋にて七組調る其内二組土州松平家は本家懸りに付代銀本家ばらひの事

吹方御案内
友閑在豫州ニ付
袴羽織　萬太郎
外ニ付添
袴羽織　芳兵衛　伊右衛門　儀藏

吹所にて焚候煎染の分左に
ふき　高野とうふ　しい竹　竹の子　午房
此分屋敷方内手寄のものへ出す
やきとうふ　竹の子　ふき　午房　こんにやく
〃此分裏方手寄のものへ出す
カヒタン　ヤンコックブロンボウ
筆者　ヤンフレテレキヒッスル　四十六歳
外科　ニンコウスヒュルリンキ　二十二歳
御檢使　角山文右衛門樣　三十九歳
大通詞　末永甚左衛門樣
小通詞　中山佐太郎樣

右の外くわしき事は本家帳面にひかへ有之此所りやくする

英艦フエートン號航海日記 一冊　長崎市櫻町　長崎市役所

一八〇八年(文化五年)七月九日より九月九日に至る航海日記、當時英佛は開戰中にして和蘭は佛に與せり、フエートンは(警長フリードウード・ペルロウ)支那近海遊戈中蘭船二隻長崎にありと聞きこれを拿捕するため檣頭高く和蘭國旗を掲げて文化五年八月十五日長崎に入港す當番佐賀藩の警備海くこれを退帆せしむるに至らす、フエートンは港内深く侵入して蘭船を探り亡狀を極めいよいよ蘭船のあらざるを見て日本に對し敵意をもつものにあらずといひ、食料薪水を請ふ、奉行松平圖書頭康英これを拒みしも強ひて請ふにより遂に與へ十七日無事退帆せしめたるが國威の損傷甚しとなし自刃して罪を幕府に謝す、長文の遺書あり當時の狀況を詳にすべし(幕府時代の長崎參照)

長崎御供日記 二冊　大阪市住吉區平野中町　末吉勘四郎

天明六年御徒目付末吉利隆が幕府の命をふくみて長崎に下りし時これに隨行したる弟長道の筆錄せしもの。利隆は同七年五月十二日長崎奉行となり十八日攝津守に任ぜられしが八年七月長崎在留の唐船處置について出仕を止められ間もなく許さる

長崎奉行家老部屋日記 二冊　同

天明七八年長崎奉行として在勤せし末吉利隆の弟長道が家老として記せしもの

長崎奉行御供日記 二冊　同

末吉利隆の弟長道が長崎往還及滯在中の個人日記なり

手札改日記 一冊　沖縄縣那覇市　沖縄縣立圖書館

同治五年(慶應二年)

英船渡來記 一冊　同

英のベーシル、ホールが嘉慶二十一年(一八一六年——文化十三年)琉球及朝鮮に來航せし時の琉球側の日記

阿蘭陀船漂着日記 一冊　同

道光二十年(天保十一年)七月里主翁長親定錄

同 一冊　同

道光二十年七月北谷間切沖へ阿蘭陀船漂着御假屋方普天村へ出張の時の日記

佛朗西船漂着日記 二冊　同

道光二十四年(弘化元年)佛のアルヤマン艦長デュブラン、道光二十五年(弘化二年)アドミラル、セシルが來航せし時の日記(年號に誤あり)

同 一冊　同

道光二十四年三月より十二月迄(弘化元年)

同 一冊　同

道光二十五年(弘化二年)今歸仁間切運天津へ佛朗西船來着奉行、役々衆が名護切間へ出張の時の役表日記

日記 (上、下) 二冊　同

道光二十五年(弘化二年)咸豐二年(嘉永五年)異國人に關する記錄

異國日記 三冊　同

道光二十六年(弘化三年)咸豐五、六年(安政二、三年)異國船來着に關する記錄

ローマ字日記　東京市外大崎町下大崎　島津公爵家

島津齊彬筆、公夙にローマ字を習得し秘密の文にはこれを使用せり。本書は嘉永初年よりの日記なり。横十九段細罫、半紙判九十五枚

蒸汽船警固申繼日錄 一冊　長崎縣甫高來郡加津佐村　元山元遠

嘉永七年(安政元年)七月一日より九月四日までの長崎における異國船警固係の日錄

佛船碇泊日記 一冊　函館市　市立函館圖書館

安政二年六月より八月に至る佛船碇泊中官府日記寫本

大寶惠 一冊　同

安政元年より明治元年に至る函館町家尾山家の日記にして奉行の去來外國船の出入物價騰貴その他のことを錄せり、横帳形

カツテンダイク日記抄 一冊　長崎高等商業學校　武藤長蔵

和蘭海軍大臣リットル・ホイスセン・フハン・カッテンダイクが安政四年長崎海軍傳習所指揮役時代の日記抄錄(一八六〇年版)(圖像之部參照)

亞米利加往來記 一冊　香川縣綾歌郡坂出町　鑛田共濟會圖書館

萬延元年軍艦咸臨丸の航米記(寫本)

亞行日記鴻目魁耳 一冊　尾道市久保町　野田茂吉

萬延元年遣米の軍艦咸臨丸に搭して桑港に赴きたる長尾幸作(後に土佐吳會)の自記、半紙四ツ折横形小手帖、中に桑港にて福澤諭吉等とテンプラを食ふ時油の鍋を覆し大火事を出しかけた記事などあり廣朝二三日前までにて擱筆せり、文は拙なるも眞情吐露、時に感激に滿ちたる面白き節あり

長崎御日記 一冊　神奈川縣鎌倉坂の下二二　川路柳虹

嘉永五年は六年の誤か、川路聖謨が箇井紀伊守、荒尾土佐守に供して同年十二月三十日江戸出發十二月八日長崎着までの道中記と長崎において魯船と談判の模樣などを詳細に記錄し、翌年正月十八日出發二月二十日江戸歸着登城までの記にて終る、薄葉十一行罫紙八十三枚

露使應接日記 一冊　同

「この一卷某君より帳秘なりとて他見を禁じ一覽を賜ふ蓋左衛門尉(川路聖謨)日記を手拂し福山侯之覽に供せしを某君の借覽せしものにも可有之乎」と卷末

に記しあり

下田日記 一冊　同

嘉永七年(安政元年)六月ロシヤ船(プーチャチン)下田入港につき御用を帯びて四月十八日下田に至り翌年四月二十九日江戸歸着までの川路聖謨の記錄

京都日記 一冊　同

川路聖謨が安政二年九月京都御造營兼大阪警備の用務を帯びて出張の記錄自筆、十一月二十一日江戸歸着に終る、薄葉十一行、罫紙三十七枚

亞米利加官吏參上御用留 二冊　同

米公使ハルリスが安政四年第二下田條約締結後將軍に謁するまでの(七、八月)記錄にしてこの折衝に携はりたる川路聖謨の筆錄せるもの

都日記 一冊　同

安政五年正月閣元堀田備中守が開港について朝廷に奏上のため京都へ上りしとき川路聖謨が御目付岩瀬肥後守に隨從して上京四月江戸歸着までの自記錄、薄葉十一行、罫四十五枚

京都表御用留 一冊　同

同上京都表にありし間の日記、三月十一日にて終る

下田日記 一冊　伊豆下田　村松春水

安政元年より三年までの日記にしてペルリ來航當時米水兵の亂暴を知る史料

日記 (荷改掛)一冊　神戸市　神戸稅關

明治元年四月神戸港入船積荷標査掛の日記

同 (船改局)一冊　同

明治二年五月の神戸港入港船檢査日記

往復公文書集

異國日記鈔 四冊　愛知縣西尾町　岩瀨文庫

慶長、寛永年間における外國との往復文書集(寫本)

佛琉往復文集 一冊　那覇市　沖縄縣立圖書館

弘化の始めに琉球に來て開港をせまりしフランス側と琉球との往復文書(寫)

續通信全覽 三冊　東京市小石川區關口台町二一　吳秀三

シーボルト二度目の渡來(一八五九年—安政六年、六十四歳)の時幕府と關國公使その他の間に往復されたシーボルト獄屋事件公文書などを採錄

蓮思錄 三冊　東京市外濠谷町猿楽　德川侯爵家

水戸烈公が閣老阿部伊勢守等と往復されたる文書を藤田東湖が筆錄したるものを綴合せり、嘉永六年十月より安政四年十一月に至る、最後の三四枚は東湖の死後他の人が筆錄せり

エトロフ手翰 一冊　函館市　市立函館圖書館

エトロフにありし仙台の陣屋より發したる書翰集にして文化五年四月より六月に至る(寫本)

キンドル往復文書 一冊　大阪市　造幣局

キンドルは大阪造幣局開設當時よりの英人御雇技師にして明治初年の西洋文明移入に功蹟あり

公文書 一〇通　東京市　ドイツ大使館

明治二年日本政府よりドイツ公使館宛のもの、奉書

各國領事往復書 明治五年　一冊　神戸市　神戸稅關

大阪港運上所往復留 明治五年五月より　一冊　同

大藏省本寮來翰留 一冊　同

明治五年

條約

外國條約 一冊　那覇市　沖縄縣立圖書館
譯文三通(嘉永三年―安政三年)

佛蘭西條約 一冊　同
咸豐九年(安政六年)六月

佛朗西提督交執條約 一冊　同
咸豐九年(安政六年)

阿蘭國條約並税則 一冊　大阪市西區北堀江上通三丁目一四　太田米次郎

安政元年日露條約文 一冊　函館市　市立函館圖書館
蘭譯寫し函館奉行舊藏品

和親條約 一冊　門司市新濱町二丁目七四六　報知新聞支局内　森山四郎
安政二年アメリカとの條約(寫本)

亞墨利加國條約並税則 一冊　府下濱寺公園前　矢野浩人
安政五年

貿易定則運上目錄 一冊　神戸市　神戸税關
明治九年神奈川にて調印の瑞典那耳回國條約書及び關税表

武備關係圖書

海國兵談稿本 四冊　山形縣飽海郡高瀬村　石垣吉六郎
林子平の自筆稿本と稱せらるゝもの、子平幼より四方に流寓、夙に外夷の窺ふを慨し長崎に至りし時偶々黑船の來舶あり審さに洋外の事情を諮ふて國防のいよゝ切なるを知りこの著あり「水戰、陸戰、物見、夜軍、人數扱、器械、糧米、地形、城制、城攻、籠城」等全十六卷、文章平易親切なり、蔡府の有司これを見て徒らに妄說を吐き人心を惑亂せしむるものとして寛政四年五月版を毀ち兄嘉膳の家に閉居せしめられたり、海國兵談初版の世に存するもの極めて稀なり、この書の傳來について出品者よりの書簡の要に『海國兵談並に三國通覽圖說は元仙台藩士富田織之助氏の所藏にかゝり、安政年間從四位佐藤政養先生が勝海舟先生の門下たりし頃、富田氏も坂本龍馬等と同門たりし故を以てこれを佐藤先生に贈り、明治六年佐藤先生より郷里の恩師眞島家に贈られ明治十二年同家より愚老に贈られたるものなり』云々

海國兵談出版見積書 一卷　東京市麴町區有樂町一ノ三　大武丈夫
「海國兵談」の出版に當り林子平が今日の豫約出版の廣告眞積なり、全文左の如し

口上之覺

○右海國兵談著初卷の水戰より末卷の略書に至て都て十六卷紙數三百五十枚也是を八册に造
○右海國兵談千部を仕立候て世に施し度事小子終身の大願にて御座候事
○右の如く千部を仕立候事其不少候因て書肆を招て千部を仕立候直の大略を計賃せしめ候其大數左の如し
○紙一枚の彫賃四匁五分也
三百五十枚の彫ちん一貫五十目也
金にして二十六兩一分也
○全部八册に紙八帖づゝ用ゆ千部にて八千帖也一帖の直八分五厘宛八千帖にて六貫八百目也
金にして百十三兩と一分と銀五匁也
○表紙八千枚一部八册千部八千册也一枚直二分五厘づゝ八千枚にて二貫目なり
金にして十兩二分と銀五匁也
○纐絲一部に二丈を用ゆ千部にて二千丈也
一部の纐絲代六分五厘づゝ千部にて六百五十目也
金にして十兩三分と銀五匁也
○摺賃一部に付四分づゝ千部にて四百目也
金にして六兩二分と銀十匁也
○仕立賃一部に付一分宛千部にて一貫目也
金にして十六兩二分と銀十匁也
○外圍料全部八册に一分づゝ千部にて百目也
金にして一兩二分と銀十匁也
〆銀にて十二貫五百二十五匁也
金にて二百八兩三分也
○右者海國兵談を千部仕立候直の大略の積方也然るに小子元より無息にして且清貧なる者に御座候得ば中々自力而已に難叶奉存候因て今度板刻の證に今月迄に彫終り候水戰の卷數册を仕立候て諸君の實覽に奉入此末造功の費を御助被下候て今度金二百疋宛御入銀被下度奉存候左候はゞ板刻を急ぎ候て出來次第御入銀被下御方々へ右兵談一部宛呈進可仕候扨小子は遠鄙に在之候を板刻の諸用を調度仕候故直に諸君に奉謁し奉告事不能候因て東都の心友手塚市郎左衛門、栃沼寛二郎森島次郎工藤平助藤田祐甫の五人に托し候て右御入銀の取次を相願候事に御座候御入銀の御方々右五人の内催寄の者□□ば即ち板刻の處に相屆申候事

板刻目數積りの事

○一人にて彫る所紙一枚に大概一日半掛り也海國兵談の總紙數三百五十枚にて御座候得ば一人にて是を彫候得ば元日より大晦日まで休みなしに彫候て九百日掛り申候二人にて彫候得ば四百五十日掛り四人にて彫候得ば二百二十五日掛り八人にて彫候得ば一百十三日に彫終り申候然るに前文に述候如く小子無息清貧にて御座候得ば工人を多く用る事不能候徒に只一人を用て彫しめ候故九百日を積ざれば此書の彫刻成就不仕候是他なし二十六兩の金なきが故にて御座候願くは諸君憤りを賜ひ御入銀被下候てせめては板刻の業而已も半年にして終らせ玉へかし□□□性命難計が故に其功を急候事胸に火の煽が如にて御座候故に辱を不顧しこ參□告候林子平謹言

林子平自罪自寫(軸) 一幅　同
林子平が海國兵談の出版により閉居を命ぜられたる申渡書の自寫なり、大槪如電の添書あり、曰く「仰々子田にも畑にもさほらねど畫寢の邪魔に叱られにけり一六無齊主人の處聞うけし時の口占あり今この自罪自寫の文書に對し一は時勢の風潮を見るべく一は偉人の心事を仰ぐべし」

佐久間象山上書 一冊　滋賀縣彦根町　町立彦根圖書館

外冦と武備についての上書(寫本)

海防建白書 一冊　山形縣　石垣吉六郎
勤王家佐久間象山より藩主眞田侯にいたせし海防に關する建白書の自筆原稿、天保十三年十一月付(象山の角印を押捺しあり、象山時に三十二歳(半紙二十枚)

海岸備要 五冊　長崎市本紙屋町五八　津田繁二
本木正榮著、本木は和蘭通詞なり、此書主として火砲のことを記す(嘉永五年五月板行)

海防祕記 一冊　堺市向陽町一二四　岡村槐軒
露艦入津顚末、寫本

海防彙議 二〇冊　滋賀縣八幡町仲之町上　西川吉之助
幽藥寫本

知彼一助 一冊　宇和島市丸ノ内　桑折直
高野長英自筆、長英は江戸小傳馬町の牢屋が燒けたる後嘉永元年四月二日宇和島に入藩し時の藩主宗城公より蘭學顧問御用を仰付られたり。其當時家老脇なりし桑折家に滯在中の著書にてイギリスの兵制その他を記せり

鐵炮傳來錄 一冊　鹿兒島市　鹿兒島縣立圖書館
明治廿四年西村天囚自筆本、種ヶ島銃砲の傳來記

南蠻小銃筒 一冊　同
大正十三年種子島西之表郷土館發行小册子

砲術備要(卷の四) 一冊　滋賀縣　町立彦根圖書館
本木正榮著の寫本

稻富流砲術傳授書(折本) 二帖　京都市　帝國大學附屬圖書館
第二卷の奥書に『右此三十二相の繪圖天文二十三年十一月二十四日に佐々木蒲二郎より相模守請取依祕書誰々にも相傳不申候請次の侍從忠吉樣御一人へ相傳仕候又二人と相傳仕間敷候爲祉の起請を書上申候 夢一人には可被成候覺との御書頂戴仕候愈て此繪圖は此道の直道たるのみ三十二相の形を專用直此心持胸に被成候樣御打候は相違無之者也云々 慶長十四年二月吉日 長澤七右衛門尉重

綱』とあり

遠西武器圖略 一冊　大阪市西成區松原通一ノ四九　玉樹疆城
嘉永五年市川恭敬譯解、當時の慣例に據りし囲け本にして認可「藏刻千吉」の符箋あり、詳密圖入、版下の稿本なり

炮術言葉圖說 一冊　同
砲術普及のため類書刊行盛なりし時の刊行物、嘉永七年五守館藏版

田付流砲術傳書 一冊　京都市岡崎北御所町　三浦周行
田付流砲術の開祖田付宗鑑より慶長十七年に門下に與へし砲術傳授書なり此書の特色は宗鑑の署名の下に羅馬字印を捺し羅馬數字を使用し又南蠻字と題して羅馬字を記せるものある事にして光悅風の艶麗なる下繪と奇異なる對象をなすものと見るべし

鐵砲五相の卷、藥之卷(折本) 二帖　堺市鳳野町西二丁二〇森下文藏方　平林悅治
安政二年手寫本、五相の卷には「それ種ヶ島は近き者は懼れ遠き者は寫く、其の探きこと電の如く其の聲雷震の如し敵を亡ぼし軍を破る之に如くはなし云云」とあり、藥の卷には「鹽硝あら眞の次第口傳第一士の見樣の事たとへば久數家の雨露のあたらざる士よし、いろりの土に鹽硝有り其の土を取て見れば少しあまく後はからく覺る士也又鹽氣のある土はあまみの心なくいり〳〵とからく覺る也云々」とあり

海上砲術全書 六冊　東京市牛込袋町二五　土井子爵家
安政元年大野藩版、阿蘭陀國「メデムブリッキ」海軍教場砲術官葛樹甸の原書を譯したるものにして「海上砲具全書」を併せたり

西洋軍馬圖 一枚　千葉縣古河　鷹見久太郎
縱九寸横一丈、彩色畫、蘭文と和文の說明あり

西洋馬具圖 一枚　同
縱九寸横一丈六尺

煩瑣三角測高術 一冊　東京市麴町區内幸町一　藤浪剛一
宇田川榕菴自筆本、各國の大砲の研究並に測高三角術を略說す

南浦文集 三冊　堺市向陽町七三　牧野信之助
慶安二東中野道伴刊行、種子ヶ島鐵砲傳來記なり

堺南岸砲台の圖 一揃　奈良縣磯城郡三宅村小柳　藤本虎雄
御造營書に添繪圖、同部分圖(二十六枚)日附乙丑四月二十六(堺御台場掛)の印あり、又子十二月改正佐藤與之助引合濟、丑四月十一日再改前同人引合濟の記あり

文久時代大砲模型圖案 七卷　山口縣山口町　縣立教育博物館

硝石製造辨
作稻硝製造方 一冊　京都市三條通柳馬場東入　杉浦三郎兵衛
佐藤信淵の口述したるものを二十八板の小册にまとめたるもの、嘉永七年版

海軍砲卒須知 一冊　福井市　市立福井圖書館
ファン・ゴーエンス著、一八六五年ロッテルダム版、松平春嶽公が礮本左内の建策により舊藩立の明道館(安政二年開設)内に創立したる洋書習學所にて教材として使用したる圖書の一

火藥製造書 一冊　同
ベルガンシュース著、一八六二年ブレダ版、前同斷

海軍兵術書 一冊　同
シュールマン・ウイーリンク合著、一八五八年版、前同斷

海軍砲卒書 一冊　同
ゴーリンス著一八六五年版、前同斷

三兵用訣 一冊　同
ムルケン著一八六六年版、前同斷

三兵用訣精論稿本(卷五) 一冊　東京市牛込區袋町二五　土井子爵家
原書は蘭國砲兵大尉「ア・ウ・テ・フロイン」が普國將官「デッケル」の本著を簡約に改編したるものにして、大野藩西川寬藏之を邦文に飜譯す。原書は一八三五年卽ち我天保六年の發刊なり

下將須知 一冊　福井市　市立福井圖書館
ビスハール著、一八三六年アムステルダム版、福井藩立明道館洋書傳習所使用圖書の一

坑卒袖珍 三冊　東京市　土井子爵家
キリンスマ原著西川貫藏譯、安政六年の稿本、坑道教範にして塹壕攻略等の作業を示す

築城全書(合本) 四冊　同
伊藤愼藏譯、原書は一八四六年(弘化三年)和蘭にて刊行せられ、安政六年大野藩において伊藤愼藏が飜譯す、本書は今の築城學にして築城法攻守城の事を論ぜり

兵學校用測量術書 一冊　福井市　市立福井圖書館
ファン・チルキウエーキ著、一八四二年ブレダ版、福井藩立明道館内洋書傳習所にて使用圖書の一

敵船乘捕行法 一冊　神戸市上筒井　神戸商業大學附屬圖書館
寛政十二年柏木友諒の寫本を天保七年に森牧太の寫せしもの、南蠻紅毛船來舶のときこれを拿捕する方法を述べたるものなり

西洋砲術免許狀 一卷　東京市外目黒里町旭町　大槻茂雄
嘉永元年砲術家大塚同鹿が大槻平次に與へたる免許狀

鐵砲關所通行手形 二枚　堺市向陽町八〇ノ一　鷲見東一
東海道新居關所通行手形にて鐵砲の取締嚴重なりしを知るに足る(寛政十年、安政四年各一枚)

陸軍省の鐵砲鑑定書 二通　堺市七道東町　柳原吉兵衛

御扶持方請取一件留 一冊　奈良縣　藤本虎雄
農兵砲術方扶持米の件記錄(半紙二十二枚)「東御会屆掛」とあり

勝海軍塾所藏洋書目錄 一冊　東京赤坂氷川町　勝伯爵家
書名の下に附箋あるは借受者ならん、其内に佐久間象山の名あり。美濃紙四十二枚「算術測量三十一册」「船具運用一九册」「蒸氣及臨機二十册」「遠船一五册」「炮術書兵書三十三册」「海軍用書三十九册」「究理及金銀譯書十一册」「地理書一九册」「雜書文法書三十五册」「雜書三十四册」を登錄せり「海軍弘通」の印を押捺しあり

火亂器の圖 一冊　堺市櫛屋町堀口　松浦伊三郎
天保八年二月大鹽平八郎が亂を起せし時に使用したる斧、鎖、百目鐵筒、唐銅白目筒、木筒、袖田「救民」の斧、火矢等を圖錄したるもの(寫本)

語學關係類

改正增補蠻語箋 二冊　京都市三條通柳馬場東入　杉浦三郎兵衛
嘉永元年謙塾刊行（貫作氏）

ハルマ辭書 一冊　京都帝國大學　附屬圖書館
蘭佛版一七五八年版、（ヘンデレキ・ドウフの譯したハルマ辭書

同 蘭佛、一七一八年版　一冊　長崎市爐粕町　縣立長崎圖書館

同 佛蘭、蘭佛一七八一年版　二冊　千葉縣古河　鷹見久太郎

同 二冊　東京市麴町區內幸町一　藤浪剛一
高野長英譯二十七卷の內、長英が壯年の頃飜譯し宇和島侯に獻したるものと同一のものといふ、天下二本あるその一本

ヅーフ、ハルマ辭書 十九冊の中　三冊　長崎市　縣立長崎圖書館

道譯法兒馬字書 八冊　高岡市　市立高岡圖書館
高岡市佐藤養順所藏（罫紙に又永堂の文字あり）（侍醫法眼戸井信良の使用せしもの（寫本）

ハルマ和解 五冊　京都帝國大學　附屬圖書館
ドウフ譯のハルマ辭書の和解、寫本

同 一冊　東京市外日暮里町旭町一丁目　大槻茂雄
五卷の內第一卷（AよりBまで）寛政八年版

和蘭辭書和解 七〇冊　大阪市中之島　大阪府立圖書館
閩人（ヘンデレキ、ドウフ譯（寫本）

和蘭語辭書 一冊　京都市　杉浦三郎兵衛
蘭語辭書をわが國にて飜刻したもの（出版年代不明）

蘭語辭書 三冊　東京市外澁谷町猿樂　德川侯爵家
十冊の內、（寫本）

同 一冊　京都市　杉浦三郎兵衛
著者墓不明。化政年度のものなりと（寫本）

同 一冊　台灣台北市兒玉町四ノ五一　尾崎秀眞
長州舟木の人蘭醫市川玄伯自筆の蘭和辭書、玄伯は嘉永五年五十七歳にて死す（美濃版の一冊本）

蘭和字典 一冊　愛媛縣喜多郡大州町鑛徊町　三瀨彥之進
伊豫宇和島の蘭學者三瀨諸淵長崎留學の際使用せしもの

蘭和字引 一冊　東京市小石川區關口台町二一　吳秀三
筆作既甫自筆本

和蘭字彙 五冊　京都市　杉浦三郎兵衛
文化年間桂川甫周がドウフ、ハルマ字書に本づき編纂したる稿本を安政二年より五年にかけてその高弟知春が柳河春三等の援助により刊行したるもの五冊大型本で內容は立派

和蘭語法解 小森玄良著、文化九年版　三冊　同

和蘭袖珍辭書 一冊　京都市室町通中長者町　佐伯理一郎
和本、木版、薄葉摺四六判形四百五十四枚

譯鍵 一冊　福井市　福井市立圖書館
（蘭和辭書）宇田川榕菴等編寛政八年版、福井藩立明道館內洋書傳習所にて使用の書籍中の一冊、

同 一冊　東京市赤坂區氷川町　勝伯爵家
薄葉刷、藤林淳道編蘭語辭書、勝海舟翁の書入あり

增補改正譯鍵 五冊　東京市牛込區袋町二五　土井子爵家
安政四年三月大野藩藩田憲寛が和蘭語と邦語を對譯し『譯鍵』と題せる寛政八年版の字書を和蘭字彙に據りて補正したるものにしてこの版下は同人の自書なり

同 五冊　福井市　福井市立圖書館

同上にして、福井藩立明道館內洋書傳習所に使用せしもの

菅家萬葉集 二冊　京都市　杉浦三浦兵衛
藤林淳道譯「菅家萬葉集」とあるも內容は全く蘭和字書なり「菅家萬葉集」の題簽を表紙に誤貼せしものか

續檢簾韻府 一冊　東京市上野公園　帝國圖書館
蘭和辭書の肉筆本（宇田川家舊藏本）

和蘭文字略考 一冊　京都帝國大學　附屬圖書館
青木昆陽自筆、延享三年十一月二十一日の自序に「敦書管ヲ和蘭文字略考三卷ヲ著シ官（上ル不幸ニシテ今春ノ火ニ罹テ家ニ藏スル副煨燼トナレルニヨリテ故紙ヲヨビ臆記スル所ヲ以テ集メテ三卷トナス官ニアル本ト同ジカラザルベシ」とあり、美濃判七十三枚、（卷の二を欠く）

和蘭語學原始 一冊　福井京江戸下町一六　山本匡輔
福井藩、濟世館刊行、木版

蘭佛辭書 一冊　長崎市片淵町　福田忠昭
マリーン著、一七一七年アムステルダム版、長崎大通譯本木榮之進（良永）その子庄左衛門（正榮）が蘭書の翻譯に用ひしものにて殊に「暗尼利亞語林大成」「拂朗察辭範」編述の時は全くこの辭書によれりといふ、榮之進は延享二年吉雄耕牛、西善三郎等と蘭語講說のことを幕府に乞ひ許されてより研學に努力せり、日本の活版の元祖本木昌造は庄左衛門の孫なり

ハンノツト辭書 一冊　同　同
ラテン、オランダ對譯一七三六年アムステムダム版、本書の來歷同上

羅典和蘭辭書 一冊　京都市　佐伯理一郎
サムエル・ピチスコ著、一七二五年アムステルダム版

蘭英會話篇 一冊　千葉縣　鷹見久太郎
ファン、デル、ビール著、鷹見泉石の手澤本にしてヤン・（ヘンドリック・ダッペルと書したる蘭語名（泉石のこと）を記入しあり、一八二二年版

蘭文藝術字書 一冊　京都市　佐伯理一郎
クラメールス氏著、一八五五年版

蘭文法 一冊　東京市　吳秀三
高良齋自筆本、良齋は蘭醫、德島の藩士山崎統政の孫、文化十四年長崎に至りシーボルトにつき眼瘍二科を修す、後シーボルトと高橋作左衛門の一件に關して獄に下り、間もなく赦されて歸鄉弘化三年四十八にて卒、著書多し

重訂屬文錦囊 一冊　香川縣綾歌郡坂出町　鎌田共濟會圖書館
吉雄權之助著を讀破の博言學者敎學者伊藤弘が五十歳の時天保四年の寫本

阿蘭陀發音書 一冊　千葉縣　鷹見久太郎
マチス・シーゲンビーク著一八〇五年アムステルダム版

和蘭文法成句篇 筆作既甫自筆本　一冊　東京市　吳秀三

日本文典蘭譯原稿 （百枚の中一枚　愛媛縣　三瀨彥之進
日本語動詞の變化を蘭語にてあらはす伊豫の蘭學者三瀨諸淵の原稿、安政六年シーボルト再來の節伴ひし長男アレキサンドル（年十四歳）は三瀨周三等につき日本語を學ぶ。その時日本文典を蘭譯して示せるものといふ

和蘭文典 一冊　福井市　山本匡輔
稿本左內の自筆本といふ

新定和蘭文範 一冊　福山市　義倉圖書館
蘭人（ヘンドリック・ラデックス原著、安政三年江戸和泉屋吉兵衛版（前編）

同 同　二冊　東京市　藤浪剛一

蘭譯日本文典 一冊　福井市　福井市立圖書館
日本に來た甲比丹ドンケル、クルチュスの原著日本文典をホフマンが蘭譯せしものにて一八五七年ライデン出版、福井藩立明道館內洋書傳習所にて使用せし蘭書の一

蘭學逕 一冊　京都市　杉浦三郎兵衛
蘭學者藤林淳道が蘭學諸生に便ずるため文化七年にこれを著し二月版行したるもの、半紙二十七枚、海上陳人の跋あり（版元不明）

蘭書の寫本 一冊　三重縣　鳥羽小學校
一八三九年版エンゲルベルトの蘭書を近藤眞琴が毛筆にて寫しとりたるもの

和蘭飜譯書目 一枚　千葉縣　鷹見久太郎
天保十二年現在の蘭書の飜譯書目を紹介したるもの

磐溪先生御門人帖 一卷　同

草木譜 一冊　福山市　義倉圖書館
蘭和對譯の植物辭書(寫本)

飜譯名義集 三冊　名古屋市中區小林町一二　富田新之助
增田泉衛稿本

物理學百科辭書 一冊　福井市　福井市立圖書館
ニコル著一八六〇年ロンドン版、福井藩立明道館內洋學傳習所使用英書の一冊

蘭書 一冊　長崎高等商業學校　武藤長藏
明治以前我國に傳はりし蘭文法律書アムステルダム出版 Ars Notoriatus と題にあり、公證人に關するもの

蘭學階梯 一冊　東京市　大槻茂雄
大槻磐水著、天明三年版、この書出でゝ蘭學は一般に普及せり

同 二冊　京都市　杉浦三郎兵衛

同 同(乾) 一冊　福山市　義倉圖書館

同 嵐山甫安第六世自筆本 六冊　東京市　吳秀三

蘭學隨筆 百科全書式の隨筆 一冊　京都市　杉浦三郎兵衛

蘭語書取帳 二冊　神奈川縣鎌倉坂の下二二　川路柳虹
川路聖謨の自筆、半紙對二冊、軍事に關する語多し

磐水存響 二冊　東京市　大槻茂雄
大槻磐水著、蘭學階梯その他を集めて大正元年出品者が重版(活字菊判)千部施行

磐溪先制 二冊　同　同
獸芹微裏、昨夢詩曆は大槻磐溪の著、大正十四年出品者が活字印行一帙とす

蘭佛獨英新字典 一冊　福井市　福井市立圖書館
カリスチ著、福井藩立明道館內洋書傳習所にし使用の蘭書の一

佛語文典 一冊　京都市　佐伯理一郎
一八六四年パリー版

佛語自在 一冊　京都市本町十六丁目　丹羽圭介

ユニバーサル百科辭典 一八七〇年版 一冊　同

エゲレス辭書 二冊　長崎市　長崎縣立圖書館
(四冊ノ中)嘉永四年西成貴、森山憲直の著、肉筆

英語箋(前編) 一冊　神戸市海岸通一丁目　エヅヂ・ゼー・グリフキス
一名「米語箋」とあり村上英俊閲、井上修理校、安政四年和本木版

英吉利文典 一冊　東京市　土井子爵家
一、八二二年出版、一、八四二年再版、同年之れを和蘭語に譯したるものを安政四年夏大野文庫に於て飜刻したものなり

英和對譯袖珍辭書 一冊　長崎市本紙屋町五八　津田繁二
堀達之助、慶應三年江戸吾妻、蕃書刷木版四九九頁

英和及和英辭書 一冊　長崎縣南高來郡加津佐村　元山元遣
メドハースト著、天保元年(一八三〇年)バタビア版、石版印刷の珍しきもの

英和辭書 一冊　同
アーネスト・サトオ、石橋正方合著、明治九年版

薩摩英和辭書 一冊　鹿兒島縣　縣立圖書館
ウエブスター辭書により薩摩藩にて作りしもの、明治四年活版本

英蘭辭書 一卷　東京市麻布區富士見町　松平(慶民)子爵家
松平春嶽手澤本、四海一家情不隔、常遊萬里欲知巢、英文將學無由學、敬愛和蘭對譯書、文久辛酉秋孟、春嶽眞逸と書入あり

英蘭會話篇譯語 一冊　京都市本町十六丁目　丹羽圭介

繪入英日會話手引 一冊　福井市　福井市立圖書館

昭和三年に六十年目で來朝したグリフイス博士が教授用に米國サンフランシスコで一八七二年特に印刷したるもの

英學階梯 一冊　東京市麴町區三年町　維新史料編纂事務局
松國啓著、英語の發音、文法、會話の初步を講述、明治四年八月版

和英通韻以呂波便覽 一冊　堺市瓦町一五九　上田卯一
慶應四年戊辰三月、土佐海援隊版

英吉利會話篇 一冊　京都市　丹羽圭介

英文熟語集 一冊　同

蕃書調所立會御用留 一冊　神奈川縣鎌倉坂の下二二　川路柳虹
蕃書調所に關する達しその他を川路聖謨が筆寫せしめたるもの

愛知英語學校一覽 二冊　名古屋市西區船入町一ノ八　安藤次郎
明治初期における官立外國語學校たり、生徒中に坪內逍遙博士、八代六郎男、三宅雪嶺博士等知名の士あり、明治七年五月名古屋七間町に開校、官立七外國語學校の一たり。始め愛知外國語學校と稱す、明治十年廢校となる

長崎英語學校修業證書 一通　長崎市銀屋町　古賀十二郎
一八七七年(明治十年)生徒エドワード・スミス宛

鑄人書 一冊　東京市　吳秀三
小國三英自筆本、西洋流の科學、神學、政治學について批評し解說せり、當時の蘭學者の學識の卓拔せるを知るにたる

天作錄 一冊　香川縣綾歌郡坂出町　鎌田共濟會圖書館
讃岐の學者伊藤弘が鑑語、天養國字、和蘭語、朝鮮語を習ひたるときの雜記帳にして開立、幾何等に對する記もあり

羅馬類字圖 明治七年版 一枚　大阪市北區常安町　中之島小學校

算用數字圖 明治七年版 一枚　同

單語圖 一枚　同
一、切支丹關係 イ、書籍 ロ、圖畫 ハ、古文書 ニ、寫眞 ホ、器物

連語圖 明治七年版 一枚　同

ロシヤ國字學 鷹見泉石著自筆本 一冊　千葉縣　鷹見久太郎

ロシヤの語集 鷹見泉石著(自筆本)日露辭書 一冊　同

ろしやのいろは 一冊　函館市　市立函館圖書館
箱館駐劄露國領事最初の司祭イワン、マホワの著、萬延二年(文久元年)箱館の常木重吉の手にて出版す、板木は現にペトログラードの國立博物館に藏すと、小半紙形西の內刷二十枚木版刷、近時複製本あり

ヲロシヤの言 一部　名古屋市　安藤次郎

和魯通言比考 一冊　函館市　市立函館圖書館
安政元年八月露使プーチヤチンの率ゆるデヤーナ號箱館に入港當時同艦使乘のゴスケウキッチが、後に伊豆下田に滯在中蒐集せる資料と、掛川の藩士樋耕齋を助手として編纂せる日魯最初の辭典にして著者は安政五年九月箱館駐劄の露國領事として着任せり(石版印刷菊版形四百七十頁、一八五七年刊)

同 同　一冊　長崎　元山元遣

實用日本語會話 一冊　東京市　ロシヤ大使館
イー・スパリビン著、一九〇九年ウラジオストツク版

同 一冊　同
イー・スパリビン著、一九二六年ウラジオストツク版

日本文學 一冊　同
エン・イー・コンラット著、一九二七年レニングラード版

蝦夷語箋 一冊　函館市　市立函館圖書館
上原熊次郎著、著者は露語の通詞、國語對ロシヤ語及アイヌ土語とを對譯した る小辭典、木版印刷、嘉永七年版

清文鑑和解 二冊　長崎市　長崎縣立圖書館
鄭永寧譯述自筆本(五冊の內)

飜譯滿州語纂編 二冊　同
嘉永四年清國鄭昌堂編纂、自筆本(八冊の內)

蘭法醫學關係圖書

藏志 二冊　金澤醫大解剖學教室　岡本規矩男
京都の古醫方の大家山脇東洋寶暦四年に斬者の臓腑解剖を見てこの著あり日本に於ける解剖者としては最初のものにして實驗學の先驅をなせり、寶暦八年十二月刊行平安養壽院藏版、明和八年京都二條東洞院林伊兵衛再版

同　同　寶暦九年版　二冊　東京市小石川區關口台町二一　吳　秀　三

同　同　二冊　長崎縣南高來郡加津佐村　元山元遐

山脇東門解剖圖鑑 二卷　東京市　吳　秀　三
東門は山脇東洋の次子、元文元年の生れ、名醫永富獨嘯庵とゝもに越前府中の奥村良竹につき吐方を學ぶ、明和八年父と同じく刑死の男女を解體して筆寫し解剖圖を作る、この圖は寛政九年、大阪の蘭醫小石元俊が筆寫したるものにて原南陽の序言あり原圖は安永二年に出來上りし旨記載しあり、縱一尺、横三十尺と二十尺の二卷、因に東門は天明二年四十七にて卒せり

和蘭解剖書 一冊　松江市東茶町一九地　桑原羊次郎
ガレニ、ヴアサリー、フアロピー、及びアランチ等の著、一六四七年アムステルダム版

人體解剖學書 一冊　下關市阿彌陀寺町　伊藤醇
トマス・バルトリン著、一六五三年ライデン版、出羽壯内山口行齋舊藏本

人體解剖圖解書 一冊　東京　帝國大學附屬圖書館
ヨハン・アダム・クルムス著一七三四年アムステルダム版杉田玄白譯の「解體新書」の原本

解體新書 五冊　東京市　吳　秀　三
杉田玄白譯安永三年版、杉田玄伯がクルムスの原著を翻譯せんとして小塚ケ原に青茶婆の死體解剖を見、同志とゝもに三年の日子を要し苦心慘憺これを完成して日本の醫術に長足の進歩をなさしめたり、蓋し玄白は山脇東洋の名聲盛なるに發奮し勉學遂に志を得たるなり

重訂解體新書 五冊　同
クルムス原著杉田玄白譯大機磐水增訂文政九年版、磐水の增訂によりてこの書は更に完全なるものとなれり

同圖譜 一冊　大阪市東成區猪飼野町一二八〇ノ三　鈴木新吉
文政九年版、同上の解體圖譜

同　同　一冊　東京市麴町區内幸町一　藤浪剛一

醫範提綱及附圖 四冊　同
宇田川榕齋著文化二年版、附圖は文化五年亞鞳堂中田善吉の銅版畫譜、我邦最初の銅版解剖圖なり

醫範提綱附圖 一冊　京都市三條通柳馬場東入　杉浦三郎兵衛
宇田川榕齋著「醫範提綱」により門人藤井俊が解剖圖を銅版に刻し（奥州亞歐堂主人の鐫）細說したるもの文化五年三月版、江戸淺草茅町野須原伊八（青藜閣）發兌

同　同　一冊　東京市上野公園　帝國圖書館

同　同　一冊　福井市江戸下町一六　山本匡輔

解臓圖賦 一冊　堺市向陽町七三　牧野信之助
文政五年版、嘉永二年の再刻本、文政四年冬小森玄良が京都においての解剖に基く圖賦

蘭文人身究理書 一冊　京都市室町通中長者町　佐伯理一郎
ローゼ氏著、高畠氏寫本、原本は一八〇九年アムステルダム版なり

施藥院解男體臓誌 一冊　東京市　吳　秀　三
寛政十年二月施藥院（施藥院は天正年中置くところ、榮翼附醫師にして世襲なり）三靈環善の勢力したる男體解剖圖譜にして、卷首に大阪の蘭醫小石元俊の序文あり、圖は吉村蘭洲と其徒二人、圖の註解は小石元俊、蘭名記入は大阪の蘭醫景齋橋本宗吉

同　同　一冊　京都帝國大學文學部内　國史研究室

解臓圖鑑 二卷　東京市　吳　秀　三
九州平戸の蘭醫始祖鳳山家舊藏本にして上卷三十九尺五寸、下卷三十六尺各卷縱一尺、身體各部の解剖圖を收錄せり

解剖圖 一卷　東京市　吳　秀　三
大阪の蘭法醫小石元俊の執刀による解剖圖、縱八寸四分横十七尺七寸

同　同上（安政六年寫）一卷　金澤市　岡本規矩男

南蠻流外科祕傳書 一冊　神奈川縣鎌倉雪の下　富士川　游
澤野忠庵はポルトガルの宣教師、ころび思庵と呼ばれ、敢宗して外科醫となれり（切支丹の項參照）同人の著にして外科書として有名のもの

紅夷外科宗傳 二冊　長崎市　長崎醫科大學
佛國外科醫の祖アムブロアーズ、パーレー著、檜林鎭山譯、譯著當時の寫本、縱七寸八分、横九寸五分唐紙、寶永丙戌九月朔日筑前貝原篤信（時歳七十有七）の序文あり（目錄）第一冊癰疽、同著總論外三十四項＝第二冊第一頭面之部外六項、外科治療並に治療具の彩色揮毫多し（附記、此書の拔萃寫本にして「全瘡跌撲治療書」としたるものあり）

同　五冊　東京市　吳　秀　三
平戸の蘭醫鳳山甫安が檜林鎭山の著を寫したるもの「仕掛書」「全瘡跌撲圖」「油之書」「油之取樣」の五冊に分ちあり

全瘡跌撲治療之書 一冊　同
明和七年鈴木俊東寫本、鎭山著紅夷外科宗傳の拔萃

同　一冊　大阪府中河内郡小坂町下小坂七一九　伊良子　奮
京都含翠堂藏本にして含翠堂は京都小川通二條上ル錺屋町に在りし、この寫本はその當時の道牛氏より傳來せしものならんと

同　一冊　東京市　藤浪剛一

骨折脱臼療法 一冊　福山市　義倉圖書館
クリーゲル著一八五三年ライデン版

心卯授記 二卷　鎌倉　富士川　游
正德四年に檜林榮哲が門下の中島譯哲に與へたる科學祕傳の卷一二卷、一卷は外科治療法を圖解したるもの

外科必讀 六冊　東京市　吳　秀　三
六部の大册凡て箕作阮甫の自筆にかゝり「未定譯稿」とあり、片假名交り文、九百二十五著、全部折目に「威宇書屋」と刻しあり

紅毛瘡科集 一冊　大阪市北區堂島濱通一ノ二四　朝枝靜峯
蘭法外科書卷末に當時の蘭醫教授三氏が自署の醫學得業狀あり（寛文四年朝倉喜兵衛長崎にて遊學の上れを受く）

紅毛傳心集 一冊　同
寛文五年長崎にて蘭醫ダニエルより授けられたる外科醫術を筆字せるもの

外科心法 一冊　同
卷末に萬治元年本木權兵衛と署名あり

蘭文小外科書 一冊　京都市　佐伯理一郎
ドルイット著、一八五三年版

和蘭療治 一冊　東京市　帝國圖書館
中村宗瑛著、貞享元年版

濟生三方（蘭文寫本）一冊　京都市　佐伯理一郎

三法方典 六冊　大阪市北區中之島　大阪府立圖書館
橋本曇齋著、文化二年曇齋が蘭人ウヲウテルハンリスの著を譯したるもの、蘭科の内外三法を示す（絲漢堂藏版）絲漢堂は曇齋の號なり

和蘭内外要方 四冊　名古屋市西區船入町一ノ八　安藤次郎
蘭人ヤンコウエンビュルグの著を吉雄向貞が飜譯したるもの、文政三年版

西洋醫事集成寶函 三冊　大阪市　大阪府立圖書館
蘭人ヨハンネス・ヤコブ・ウオイツ著、橋本曇齋譯、文政二年版

和蘭外科書 一冊　一七五四年版　京都市　佐伯理一郎

診脈傳口授 一卷　大阪市東區餌差町二〇五　土井晋吉

文政十三年、開業醫の皆傳書

蕃國治方類聚 二冊　東京市　吳秀三
鳳山甫安一世著、蘭法醫術の講述

察病龜鑑 三冊　東京市　藤浪剛一
ドイツ、フーフエランド原著、青木浩齋(蘭譯より重譯)西洋の診斷學、安政四年版

西洋醫言 三冊　同
宇田川槐園稿本、寛政三年の著、寛政五年出版の豫定なりしも未刊に終りたり

官能眞言 一冊　同
大槻磐水著、寛政九年版

五液診法 (上下合本) 一冊　同
江馬元恭譯、大、小便、汗、唾、吐物の檢査及その診斷的價値を記きたるもの

因液發備 二冊　同
吉雄耕牛口授、百々洋橘筆錄、文化十二年版、檢尿法を記述、本邦に於ける西洋診斷學最初のもの

驗溫器說 一冊　同
宇田川榕庵自筆本、檢溫器製作の原理を解明

西說醫源樞要 二冊　同
高野長英著、天保三年版、デラハイエ、ブリエーメンバッハ、ローゼ等の生理學書を譯輯、本邦生理學譯書のはじめ

內科撰要 六冊　同
宇田川槐園著譯、ヨハンネスゴルテル原著、寛政五年版、西洋の內科書を紹介したる最初のもの

宇氏祕笈 二冊　東京市　帝國圖書館
宇田川槐園が遺に刊行したる「內科撰要」の自筆草稿にして、即ち蘭語の和解なり

生機論 一冊　東京市　吳秀三

國研介筆稿本、半紙二十四枚

アルヒキユム產科書 一冊　福山市　義倉圖書館
蘭書、一八三〇年アムステルダム版

和蘭眼科新書 六冊　東京市　藤浪剛一
ブレンク原著、杉田錦腸譯、文化十二年版、西洋眼科醫書譯譯のはじめ

眼科新書 六冊　京都市　杉浦三郎兵衛
杉田豫(立卿)譯述、文化十二年、十三年刊、浪華河內屋茂兵衛發兌、本書五冊、附錄一冊、附錄は門人松田就の筆にかゝる

イギリス國種痘寄書 一冊　名古屋市中區永樂町　堀江清足
伊藤圭介天保十二年の著、花繞堂藏版、半紙七枚、朱唐紙表紙

コレラ病論 一冊　京都市　杉浦三郎兵衛
京都の醫師新宮義愼、大村恭、新宮義側が安政五年コレラの大流行に當り應急のためドイツのモスト氏の著を譯し九月壽壽堂より木活版に附し發行せしめたるもの、七十三翁大槻磐水の序文あり

和蘭醫事問答 一冊　東京市　帝國圖書館
奥州一の關の名醫建部清庵と蘭醫杉田玄白との間に蘭法醫について往復せし問答書簡を寛政七年清庵の第五子杉田公勤(士榮)が兄の清庵(由水)に謀り軸錄上梓したるもの(紫石齋藏版)

當派傳記要撮拔書 一卷　神奈川縣　富士川游
吉永昇菴が東西醫家の系統を記述せるもの、延寶九年の著

ヒポクラテスの考證 一枚　東京市小石川區鶯籠町　入澤達吉

蘭文藥物學 一冊　京都市　佐伯理一郎
アツツシユブレンネル著、一八五一年版

六物新志 二冊　京都市　杉浦三郎兵衛
大槻茂質(磐水)著、天明六年浪華廉塵軒版、一角、サフラン、肉ヅク、ミイラ、エブリコ、人魚の六物を記せり

本草正譌譜 (第十七、廿八、卅卷)三冊　東京市赤坂福吉町　黑田侯爵家

墨田家先々代墨田魯溝は樂善堂と號し當時本草家の大家なり、恐らく當時の寫生なるべし

草木花實寫眞圖譜 川原慶賀筆　四冊　東京市　吳秀三

紅毛持渡本草圖 (軸) 一幅　長崎市松枝町一〇　小川水路
咬嚼巴、產火焰草、阿蘭陀肉桂樹の寫生圖二枚を軸に仕立てしもの

本草記聞 一六冊　大阪市北區堂島中二丁目　室谷鐵臈
小野蘭山著寫本

動植物寫生帖 四冊　關西學院構內　眞鍋由郎
後藤松眠肉筆、文政頃の寫生、密畫彩色襖帳大

群英 五冊　大阪市　室谷鐵臈
室谷賀親著、本草研究の著者が密畫寫生、彩色六寸角折本

和蘭六百藥品圖 三冊　東京市　帝國圖書館
肉筆彩色美濃刊「安政五年四月十日平安橘室山本鍋夫題名」と奥書あり

藥品會目錄 一枚　千葉縣古河　鷹見久太郎
寶曆十二年本草學者平賀源內が江戸に開きし藥品博覽會の目錄、この博覽會が日本最初の博覽會なり

紅毛人膏藥製圖 (軸) 一幅　長崎市　小川水路
長崎初代版畫、墨、薄墨二色刷縱八寸橫六寸五分、林子平刻

遠西名物考 一冊　東京市　藤浪剛一
宇田川槐園稿本蘭藥その他の物品の性質を解說

和蘭制劑 千野良岱著、文化六年版　五冊　福山市　義倉圖書館

シーボルト手記 處方箋集 一帖　愛媛縣喜多郡大洲町鐵砲町　三瀨彦之進
萬延元年シーボルトより三瀨諸淵に授與せしものといふ

火浣布說 一卷　京都帝國大學　附屬圖書館

寶曆甲申春三月平賀源內が火浣布を織り出し青木昆陽とゝもに甲比丹ヤンガランスその他に見せたるが近くこれを製織して御覽に入れるとゝもに火浣布考をも出版するといふ總告文の自筆

泰西藥名早引 三冊　京都市　杉浦三郎兵衛
橫井藥が京都に修業の時小谷英秀と共に小森愚室の蘭書を借り片カナにて洋名、其の下に和名を記し索知の便に供したるもの、天保九年板行、素遺館藏版

諸國溫泉試說 一冊　東京市　藤浪剛一
宇田川榕菴自筆本、文政十一年伊豆熱海溫泉、同十二年攝津有馬溫泉その他諸國の溫泉の分析とその特効とを解說せり

蘭醫免狀 一卷　京都帝國大學　附屬圖書館
寛文七年十二月六日蘭醫デレキセンより瀨尾昌昆に與へたる免許狀にて蘭、漢兩文にて記しこれに名村八左衛門、外六名の通詞の譯據加判、更に本人の所望により奉行所淺邊金右衛門外二名の加判あり、卷物仕立、縱一尺、橫二尺六寸

和蘭醫語 二冊　大阪市　大阪府立圖書館
萬町琴阪著文化二年版

蘭文醫學字彙 一冊　京都市　佐伯理一郎
モスト著、一八三五年アムステルダム版

和蘭醫事年報 一八四九年版　一冊　同

衛生雜誌 一冊　名古屋市中區小林町一二　富田新之助
衛生社發行、明治十一年、第一號より十號まで

俗解八十一難經 二冊　福井市足羽下町一〇四　三崎玉雲
漢方醫書、朝倉隆景につかへた醫者一橋の所有せしもの

八十一難經圖 一冊　同
漢方醫書、天文五年版、期倉隆景につかへた醫者一橋の所有せしもの

俗解難經 同　一冊　同

俗解難經抄 一冊　同

漢方醫學書、勿聽子俗解八十一難經を抄錄せる寫本

上代藥方　美濃紙二十枚寫本　一冊　大阪市　室谷鐵臑

緒方洪庵塾入門帳　一冊　大阪市西區久左衛門町　緒方銈次郎

緒方洪庵遺書の中なり、多數の門下を養成せり、佐野常民、福澤諭吉もその一人なり、門下の自筆多し

虎狼痢治準　一冊　緒方洪庵遺著の中　同

病學通論　一冊　同　同

同上版木　二枚　同　同

扶氏經驗遺訓　一冊　同　同

名醫大輯　一冊　大阪市西區北堀江上通三丁目一四　太田米次郎

名醫鑑　慶應三年　一冊　大阪市北區樋上町　飯田德右衛門

虎列刺豫防論解　一冊　京都市二條寺町東入　中川忠三郎

竇篤兒藥性論　二冊　京都市本町十六丁目　丹羽圭介

天文物理化學

天文學書　一冊　千葉縣古河　鷹見久太郎

蘭文一七〇三年アムステルダム版

天象圖　一冊　同

鷹見泉石の天文研究書にして彩色圖を描く

西說觀象經　一冊　名古屋市中區小林町一二　富田新之助

尾張の天文學者吉雄俊藏が漢文にて天文學綱要を記述したる折本（文化五年版）

遠西觀象圖說　三冊　同

同上吉雄俊藏が口述して草野養準に筆記せしめたる天文書、文政六年名古屋觀象塾藏版

同　同上の寫本（拔萃）　一冊　香川縣綾歌郡坂出町　鐵田共濟會圖書館

天文學研究の十四週間　一冊　京都市本町十六丁目　丹羽圭介

一八六九年版

智環啓蒙塾課　一冊　同

考古說略　一冊　同

觀古圖說（陶器の部）　三冊　同

植學啓源（全）　一冊　同

大略天學名目鈔　一冊　同

附錄、天經或問

天經或問及序圖　三冊　同

初學天文指南　五冊　同

遠西觀象圖說　三冊　同

遠西奇器述（第二輯）　一冊　同

雪華圖說　二冊　千葉縣　鷹見久太郎

古河城主愛月軒主人（雪堂）著、天保十年十一月木版、小册、蕭葉刷、雪の研究圖入

雷震記　一冊　大阪市堂ビル内オーム社　浪岡具雄

『紅毛談』の著者後藤梨春の著、明和二年版

颶風新話　二冊　東京市牛込袋町二五　土井子爵家

安政四年六月大野藩に於て伊藤慎藏の飜譯せるもの、「ヘンレー・ピッヂングトン」が英語にて著述し一八五三年和蘭に於て「ス・ハン・デルデン」の譯したるものを重譯せり。杉田成卿、緒方洪庵の序文、内山隆佐の跋あり當時の藩醫土田龍藩が本書の飜刻に盡力せり

天地理譚　二冊　宇和島市丸ノ内　桑折直

司馬江漢自筆、半紙、和本

近世地理學　一冊　東京市麻布區富士見町　松平（慶民）子爵家

ミッチェル著、一八七一年、フイラデルフイヤ版、松平春岳公手澤本

近世地理學のノオト　一卷　同

春嶽公がミッチェル著近世地理學の原文を寫し一々發音を記し譯を附したるノオト

地質學　一冊　福井市　市立福井圖書館

リチャードソン著、一八五五年ロンドン版、福井藩立明道館内洋書傳習所使用の英書の一

量地指南　一冊　大阪市港區布屋町一丁目一二七ノ二高橋方　高田秀太

村井昌弘述、享保十八年版

量地必携　一冊　堺市材木町東一丁一一　谷澤百太郎

山本正路著、土地測量法の梗概を記述したる小形本、嘉永三年版

太陽距離暦解 一帖　長崎市櫻町　長崎市役所
長崎オランダ通詞本木良永の譯述せる稿本にして松村元綱これを校せり、美濃紙六十板、安永三年孟冬に書し寛政五年初秋に朱子訂正を施しあり、良永は蘭語のみならずラテン語をも解せり、天文、地理、醫藥、物産に關する創譯多く天和二年上京綱吉將軍に謁したり

ジヤガタラ暦 一枚　東京市外巢鴨町松佐　松浦伯爵家
バタビヤ版、一枚刷、一七八〇年暦(安永九年)

同 一枚　同
ジヤガタラ暦を和譯したるもの、一七八二年暦(天明二年)

同 一枚　同
縱一尺五寸、横一尺八寸の一枚刷、一七八三年暦(天明三年)

同 一枚　同
一七八三年(天明三年)のジヤガタラ暦を筆寫したるもの

同 一枚　同
ジヤガタラ暦の和譯、一七八五年(天明五年)

皇西略暦 明治四年　一枚　東京市小石川區林町　和田千吉

氣海觀瀾 一冊　大阪市　浪岡具雄
靑地宗林が蘭人ボイス著の抄譯にして尹國最初の物理學書、附圖十九を載す。但宗林は譯了するに至らずして止みたり、文政八年版芳齋圖藏版

同 同　一冊　東京市麴町區内幸町一　藤浪剛一

氣海觀瀾廣義 二冊　大阪市　浪岡具雄
(十五冊の内)本書は靑地の遺業を大成せるものにして川本幸民譯ボイスの「アルゲメーネ、ナチュールキュンデ、スコールブーク」を底本として同人著「アオルクス、ナチュールキュンデ」及びイスホルヂング、リツトロウ等の說を交へ譯せるものなり、幕末の新人等が科學智識を吸收せるは實に本書によれり、嘉永四年、安政五年版

民間格致問答 六冊　同
本書は佐賀藩の命により大庭雪齋が蘭人ボイス氏の「フオルクス、ナチユールキュンデ」を譯せしものにて川本幸民の「氣海觀瀾廣義」と照應すべきもの、通俗理科書、文久二年版

蘭文格致問答 一冊　同
蘭人ボイス氏のいはゆる「ナチユールキュンデ、スコールブーク」を譯刻せしものにて曩に靑地林宗の「氣海觀瀾」川本幸民の「氣海觀瀾廣義」等譯書出版せられしと雖も學徒の要求を以て滿足する能はざる程度に進み茲に原文の譯刻を見るに至りしもの、安政三年版

窮理學初歩 一冊　福井市　市立福井圖書館
トオマス・テート著、一八五七年ボストン版、物理と化學の初歩を說けるもの
福井藩立明道館洋書傳習所使用英書の一

理學訓蒙 一冊　大阪市　浪岡具雄
蘭人ボイス著、フオルクス、ナチユールキュンテの翻刻、木板和紙刷五十四枚
(出版年次不明)

同 (初編) 一冊　福山市　義倉圖書館
一八三一年刊行のヨハン・ボイスの科學書をそのまゝ木版に譯刻したるもの
(安政三年版)

蘭文三才究理書 高野長英の自筆本　一冊　東京市　帝國大學附屬圖書館

究理書 一冊　福山市　義倉圖書館
バンデルビルグ著、一八三四年版

究理日新發明記事 三冊　名古屋市　富田新之助
東井潔全著、明治六年大阪文敬堂版

機械及窮理教習書 一冊　福井市　市立福井圖書館
トーマス・テート著、一八四七年ロンドン版、福井藩立明道館内洋書傳習所使用英書中の一

遠西奇器述 二冊　鹿兒島市　鹿兒島縣立圖書館
川本幸民口述、田中綱紀筆記、寫眞、蒸氣機關、電氣、電信機その他現在化學上の知識を紹介、第一輯は安政元年第二輯は安政六年、薩摩藩版

西洋神器圖說 一冊　香川縣　鎌田共濟會圖書館
讃岐の博言學者伊藤弘の寫本、半紙十六枚、圖入

舍密器械圖案 一冊　東京市　藤浪剛一
宇田川榕庵自筆本

化學工藝書 二冊　福井市　市立福井圖書館
ナツプ著、一八四八年フイラデルフイヤ版、福井藩立明道館内洋書傳習所にて使用の英書の一

有機化學原理 一冊　同
カルル・ルーウイグ原著、ダニエル・ブリード英譯一八五三年フイラデルフイヤ版、福井藩立明道館内洋書傳習所にて使用英書の一

蘭文化學書 三冊　京都市室町通中長者町　佐伯理一郎
ガンニング著一八五八年版

實驗化學撮要 一冊　福井市　市立福井圖書館
ヂヨセフ・グリフイン著一八六〇年ロンドン版、

實驗化學初歩 一冊　同
ヂヨセフ・グリフイン著、一八六〇年ロンドン版、前同斷

舍密加(第一書) 一冊　東京市　藤浪剛一
宇田川榕庵自筆本、文政十一年の著、化學研究書にして内容頗る詳細

舍密開宗及同稿本 七冊　同
ウイリアム・ヘンリー原著、宇田川榕庵譯、天保八年版、本邦最初の化學書として尊重されたもの、稿本は榕庵の自筆、赤の書入訂正あり

舍密便覽圖式 十四帖　東京市赤阪福吉町　黑田侯爵家
福岡藩の關醫河野が安政年間の著譯、化學分析表なり、色を施す、明治元年朝廷に上る、縱一尺五寸四分横二尺五分の厚紙一枚に印刷したるものを八ッに折疊む、每帖同じ

舍密局必携 三冊　長崎市本紙屋町五八　津田繁二
上野彥馬譯、附錄に寫眞術の解說あり、文久二年版

化學研究ノオト 一冊　東京市外大崎町下大崎　島津公爵家
川本幸民の指導により島津齊彬公が化學研究の手控

コンストリユクチー表 三冊　滋賀縣彥根町　町立彥根圖書館
蘭文、化學分析表、寫本

泰西七金譯說 五冊　長崎市　津田繁二
馬場貞由譯、金、銀、銅、鐵、錫、鉛、水銀についての製煉法その他、嘉永七年星山開木活版

寫像新法稿本 一冊　大阪市南區安堂寺橋通四　上田貞治郎
杉田玄瑞著、寫眞術を解述したる稿本、嘉永五年の著なり

寫眞鏡圖說 一冊　京都市三條柳馬場東入　杉浦三郎兵衛
柳川春三著、初編及び第二卷の合本(慶應二年版)フランスのダゲローの著に基く譯著

染料製造家便覽 一冊　福井市　市立福井圖書館
一八六〇年フイラデルフイヤ版、福井藩立明道館内洋書傳習所にて使用英書の中の一

度量考 一冊　香川縣　鎌田共濟會圖書館
長崎の通詞馬場佐十郎貞由著、伊藤弘の愛藏せしもの

植物圖譜 二冊　京都市　京都帝國大學附屬圖書館
ワインマン著、一七四八年アムステルダム版

日本動物圖譜 二冊　同
シーボルト著、一八四二年版(外人の日本觀之部「シーボルト著日本」の項參照)

日本植物圖圖 二冊　同
シーボルト著、一八三五年版　同上

植學啓源 三冊　東京市　藤浪剛一
宇田川榕庵著、天保四年版、西洋流の植物學をはじめて紹介したる著

草木花實寫眞圖譜 四冊　長崎市　津田繁二
川原慶賀著、西の内紙摺、彩色、大阪前川善兵衛板、石崎融思の序文あり

電信機之解 一冊　東京市赤阪氷川町　勝伯爵家
蘭人醫官ファン、デン、ブルツク氏の說話を譯述せるもの(寫本)

舶來品工藝品諸器物類

蘭館の遺石 一個　長崎市江戸町東亞館庭内　城島勝助

長崎の出島蘭館の遺石にして現在長崎市江戸町城島勝助氏所有地出島庭園に大切に保存されてあり、石の表面に刻まれたる1638の文字は當時の西暦年代（元祿九年）を表したるもの、横二尺五寸、縱一尺四寸、厚五寸

蘭館用壁紙帖 一帖　長崎市爐粕町　中山知雄

甲比丹ヅーフが長崎出島蘭館に在りし時使用したる壁紙數十種を帖りこみたるもの、嘗て蘭人と長崎人が協力して長崎更紗を創作したるがその參考資料に供せられたりと、帖中處々TOSIOの署名あり

唐人船模型 一個　長崎製、横一尺一寸、縱檣頭まで一尺七寸　長崎市銀屋町　古賀十二郎

阿蘭陀船模型 一個　長さ二尺五寸　堺市少林寺町　平野利兵衛

同 一個　大阪市北區堂心町一丁目　石田勉

長崎圖書館所藏松浦家の繪卷や應擧の畫等を參考として昭和二年に作りしもの長さ三尺五寸、高さ三尺

糸印 一七個　堺市向陽町一二四　岡村槐軒

糸印は支那傳來のものにて明船が生絲を輸入するに當り一斤毎に銅印一個を内部に入れ包紙にその印影を捺し合印とせしより糸印の名ありといへど疑はしく支那貿易の盛んなりし足利中葉より豐臣時代までに印章として我國に渡來せしものにて、たまたま輸入生絲の包紙に捺せる印影に相似たるより然か呼ぶに至りしものかともいへり、文字は彫刻にあらず鑄型にて青銅を鑄出せしもの、形は種々あり文形は概ね判讀し難し

同 四個　長崎市本紙町五八　津田繁二

同 二個　兵庫縣川邊郡小田村杭瀬堤外　鍋島松風

同 卅五個　大阪市港區五條通二ノ二九　鹿島傳藏

同 一個　福井縣小濱町白鬚　田村安太郎

遠目鏡 一個　東京市芝區白金三光町五二〇　伊達侯爵家

三段延び、引延して四尺

同 一個　江田島　海軍兵學校

筒面に列國旗寶圖あり、佛蘭西より幕府へ獻上せしものゝ一ならんか。旗章圖中本邦の部に德川家の葵紋及大中黒の二種を擧げあり

同 引延して六尺　一個　大阪市東區内久寶寺町三丁目十一　今城梅吉

同 引延して三尺五寸　一個　福井市足羽下町一〇四　三崎玉雪

同 一個　京都市三條通烏丸東入　細辻伊兵衛

同 十個　堺市櫻之町中濱　清海慶治

同 おらんだ製　一個　堺市櫛屋町　中田光三

同 一個　大阪市南區八幡町六　上村豐遣

佛國製義山切子、ルイ十三、十四世時代の品

同 一個　長崎縣立圖書館長　永山時英

シーボルト使用のもの、疊みたる時七寸一分、引出したる時（三段延び）一尺六寸二分、徑一寸二分

同 一個　大阪市　鹿島傳藏

長さ約五寸、佛國製切子繪硝子人

同 一個　堺市　岡村槐軒

王加久戸賣の鏡 一個　長崎市爐粕町　縣立長崎圖書館

貿易の先驅者荒木宗太郎妻となりし安南國王外戚阮氏の女王加久戸賣の所持品にして鏡面の水銀は甚しく剝落せるも外廓の文様なほ麗はし、荒木家にては王加久戸賣のことをアニオーさんと呼びしと

柄鏡 一個　東京市外日暮里渡邊町　長野草風

徑三寸二寸、柄三寸三分、南蠻人が坐して喫煙せる圖と煙草の葉五枚を鏡の裏に鑄出しあり「天下一若□」

繪鏡 一個　大阪市　鹿島傳藏

唐ガラス製、衝立樣仕立、高さ三寸、支那美人が半面に描きあり

のぞき眼鏡 おらんだ渡り　一組　東京市麻布區富士見町　松平子爵家

同 同　一組　京都市三條通烏丸西入　西村總左衛門

同 支那製、代り繪附　一組　兵庫縣武庫郡御影町郡家　土屋楠熊

電氣治療器 一個　大阪市西區京町堀上通二ノ一〇七　生谷卯兵衛

大阪の關學者にして蘭法醫たりし橘本宗吉（曇齋）の創意による電氣治療器にして高さ一尺、幅一尺四寸の箱中に六段の小引出を設けその中に松脂をつめたり別に眞鍮の金屑をつめたる壜あり、廻轉によつて摩擦電氣の發生する仕組にて上には二個の竹筒をおけり、或は同時代宗吉の發明により他のものがこれを製作せしものかともいふ、元天王寺屋四郎五郎の所藏なりしと（附記、蘭人の敎へを受け始めて日本でこの器を作りしは平賀源内なり、司馬江漢尺牘參照）

顯微鏡 一個　長岡市東神田町　今泉東順

總高さ一尺三寸、支那風彫刻朱塗、台にラテン語をほりつく、日本人の手によつて作られしものか

同 一個　長崎市　長崎醫科大學

長崎市小島に設立せられたる精得館時代即ち慶應元年より明治初年の間に和蘭より輸入せしものならんと

日本最初の聽診器 一個　同

チーク材、圓筒長さ一尺、徑一寸二分、三段ネヂ込み、貫通孔徑三分

灌腸器 一個　長岡市　今泉東順

長さ一尺、維新前の輸入品

産科機 一揃　長崎市　縣立長崎圖書館

シーボルト使用のもの、遺子伊篤に贈りしものといふ、筬子七個稲入

地球儀 一個　東京市外渋谷猿楽　德川侯爵家

水戸烈公が朝廷に獻上の記念として稍小さきもの（徑一尺一寸）を作りおかれしなり

地球儀上表文 一卷　同

水戸烈公が前項の地球儀を朝廷に上るの書、控、嘉永五年六月付（其の全文は「開國文化大觀」にあり）

渾天儀 一基　大阪市　生谷卯兵衛

天體を片木にて現はし中央に地球を置けり、高さ約一尺五寸

測量機 三個　愛媛郡喜多郡久米村字阿藏　矢野眞杖

文化十四年九月大西太平次正雄製作（一）牛圓器（二）地平徑儀（三）象眼儀、紋章入古箱附

バロメーター 一個　東京市牛込袋町二五　土井子爵家

土井家第七代利忠が安政六年頃購入大野丸に使用せしものにして江戸參覲の節家臣内山隆佐等の試用したること同氏の日記に見ゆ

地球周象眼千萬分の尺 一個　大阪市東區内淡路町二　山田寅次郎

東都天文台精義堂の舊藏（アムステルダム製）天保四年と箱書あり、メートル尺なるは珍奇なり

緯度計 一個　京都市本町十六丁目　丹羽圭介

磁石 一個　大阪市北區堂島中二丁目　望谷鐵臨

徑五寸六分、高麗橋三小林常行作之とあり

分銅 一個　神戸市　神戸稅關

同治四年（慶應元年）支那製二貫量一百匁とあり神戸開港の當初輸入所にて使用せしもの

銅貨幣 三個　長崎市　津田繁二

和蘭東印度商會のマーク入り

長崎製鐵局札（三菱長崎造船所の前身）八枚　同

一兩、二兩、三兩、五兩、十兩、十五兩、五百兩、六百兩（縱五寸四分、横一寸九分、仙花紙）

出島蘭館出入門鑑 一個　同

木製、縦三寸二分、横二寸二分、出嶋乙名と墨書、燒印三個押しあり、裏には組頭小者壹人と墨書

茶製所門鑑 一個　同

錢の如き圓形のエボナイト製 NAGASAKI.WALSH CO. とあり、徑一寸、長崎大浦にありし茶製所ウヲルス

日蘭親睦メダル 一個　大阪市南區千年町一一　粂川榮吉

直徑一寸三分、表面に和蘭陀の國章、及び三葉葵、日の丸の旗をふるしらひ、上方に1862とあり、その周圍にローマ字にてNIPPON TAI-KOEN-NO SEI-SI HOLANDA NI KITAROE（日本大君の正使オランダに來る）としるし裏面には中央に縦に兩國親睦盃篤と三行に書き、周圍に ONDER DE REGERING VAN WILLEM III KONING DER NEDERLANDEN G.H.V. L.と記しあり

薩摩琉球國勳章 一個　東京市外大崎町下大崎　島津公爵家

薩摩の藩主島津齊彬公が慶應三年佛國博覽會に産物を出品の時主として外國の功勞者に贈るため岩下家老が パリにて調製したるものにして岩下の一行が日本政府の代表なりとして滞佛中に王政維新となりしため止むなく「薩摩琉球國」の字を用ひたるなりといふ、日本の勳章としては最初のものなれば開國歴史の上から重要視されてゐる

遣米使節へのメダル 一個　大阪市　大阪朝日新聞社

銅製、徑二寸五分（表）ブッハナンの肖像（裏）In Commenoration of the First Embassy from Japan to the United States 1860 とあり萬延元年遣米使節新見豐前守一行に時の米國大統領が贈りしもの

小學校創設當時の徽章 一個　大阪市東區北新町二丁目三五　藤田一夢

ペルリ提督遺品 三點　東京市上野　帝室博物館

嘉永六、七年相州浦賀に黒船を乗りつけて開港を迫りしアメリカのペルリ提督の遺品にして「日本の人達がペルリを開國の恩人となせる」由を傳聞したるその遺族たちが昭和三年日米協會の手に贈り來りしもの

（A）胸飾　ペリー提督、同夫人の遺髪を組みたるもの、小判形、ダイヤモンドを應用したる花形裝飾付、金裝、箱桐檜製、縦九、八㌢、横一〇、七㌢、蓋裏金板の刻銘は

"Brooch Containing the Hair of Commodore Matthew Calbraith Perry and of his Wife presented by his Granddaughter Jane Perry Hone Lewis Mrs. Charles E.Lewis 1927."

（B）結婚指輪　黄金製、徑約一、六㌢、箱、金裝紫檀製箱、縦九、八㌢、横一〇、七㌢、蓋裏金板の刻銘は

"Wedding Ring of Commdere Matthew Calbraith Perry Born 10 April 1994 in Newport R.I. married 24 October 1814 in New York to Jane Slidell died 4 March 1858 in Newport R.I. presented by His Granddaughter Jane Perry tiffang" より

（C）釦及鈕章　釦、鍍金、徑二、五㌢、硝に鷲を中心とし周圍に十三箇の星形を繞らせるもの、鈕章、長約七、六㌢、幅約二㌢、以上ペリー提督所用、箱、金裝紫檀製、蓋裏金板の刻は

"Cost Button and Gold Braid worn by Commodore Matthew Calbraith Perry Japan 1852—1854 presented by his Granddaughter Mrs. Henry George Bartol 1927"

歐文活字 廿三個　東京市外　島津公爵家

薩摩藩主島津齊彬公が安政年間歐文書籍を刊行し習く藩中に學習せしめんとして江戸神田の彫刻師木村嘉平に命じ製作せしめたるもの

『蘭學楷梯』の版木 二枚　東京市外日暮里町旭町一丁目二六　大槻茂雄

天明三年大槻玄澤著の版木

池田筑後守歐文名刺 一枚　大阪市西成區千本通二ノ三〇　池田長堅

文久三年フランスにて作る丸に揚羽の蝶の紋を附す、邦文と、ローマ字

墨型（木製）と造墨 二個　奈良市樫井町　古梅園

元文四年古梅園六代主松井元泰長崎に行き實見したる蘭船を圖して作りし墨型とその型にて作りし墨

鉛筆型（木製）と鉛筆 十二點　同

外國製鉛筆に擬し蠟を以て作りたるものにして、長崎實見に係る古梅園六代の主井元泰の發意なり

便箋 シーボルト使用のもの 一枚　大阪市東區大手町二　小山恒男

レーベル 同一枚　同

かみそり 同一挺　同

爪切鋏 同一挺　同

鏝鋏 一挺　長岡市東神田町　今泉東順

維新前に輸入のもの

袋戸棚の戸 二枚　大阪市北濱三丁目二六　福村榮太郎

一八二六年シーボルトの署名あり、大津の甲比丹の本陣にありしもの

おみくじ ローマ字 十種　長崎市燈籠町　諏訪神社

箱形大時計 一個　東京市芝區日金三光町　伊達侯爵家

渡來品を模し日本にて造りしもの高さ三尺五寸、分銅にて動く

同 一個　福井市足羽下町一〇四　三崎玉雪

天保時代のもの、分銅式なり、台共高さ三尺五寸上部にベルを附す

正午掛大尺時計 一個　東京市　伊達侯爵家

長二尺五寸上部は四寸に六寸の機械部、ぜんまい仕掛にて、機械部の正面中央にネジあり、下部は巾三寸、長さ一尺七寸、中空を分銅が下るやうになり、それに仕掛けたる指針が別にはめ込みとなれる「刻」をきざめる黒漆板の上に添ひて下り時刻を示す、板は七枚ありて、月により順次掛け替ふるやうなれり

尺時計 一個　堺市櫻之町東一丁　水島彌太郎

「時」の置時計 一個　大阪市　室谷鐵鷹

時計のケースは四寸五分四方厚さ三寸、兩面ガラス入り、時計は三寸三分四方厚さ一寸五分、指針は固定して、刻をきざめる圓盤が廻る仕掛なり、圓盤には半圓毎に四つより九つまでの時を刻む刻を打つベル上方にあり

古時計 一個　同

高さ六寸幅四寸、厚さ三寸五分、ダイアルには羅馬數字にて一時より十二時迄を示す、裏面にベルあり時を打つ我邦へ輸入されし最初のものか

同（大小）　廿八個　東京市小石川區關口町　渡邊修次郎

扇形時計二、觀覽車時計二、ブランコ時計二、廣東時計一、敎會時計一、額時計一、丸ガラス時計一、ほやかぶり時計四、日本古代製時計一、小形掛時計一

黒坊時計一、鳩時計一、佛國製古時計二、地球時計一、ランプ時計一、黒い蠶時計一、仕掛時計三、みゝづく時計一、體操時計一、以上の内「廣東時計」は十九世紀の初の頃の製作、蘭人長崎に船舶したるものにて、嫣港の葡萄牙人居留地に於て支那の職工の手に成りたるものなり、天保頃の殺句の摺り物に此時計の圖を載せたり

同 卅五個　大阪市北區眞砂町　岩井尊文

十七、十八、十九世紀にわたる獨佛、英、瑞、日製の各種形體の置時計、懷中時計等にして寶玉、七寶入等多く、所藏者は日本有數の時計蒐集家

古懷中時計 鍵卷、兩蓋 一個　大阪市　室谷鐵鷹

同 一個　福井縣小濱町白鬚　田村安太郎

鍵卷、兩蓋、安政三年小濱港に入港の西洋形帆船の乘組員が遊興費にツマリ入質して去りしものといふ

日時計 二個　堺市材木町　金田新平

（一）象牙製蓋付、蓋の裏に少年獵銃を持つ圖あり直徑一寸五分（二）木製圓形直經三寸三分、何れも江戸時代の輸入品

古渡寒暖計 一個　宇和島市愚美須町　山本助次郎

目盛りに季節の記入あり六十年以前より今日に至るも少しも狂ひを生ぜず

御紋章入欄間 一面　堺市櫻之町東一丁　水島彌太郎

舊軍艦比叡の

明治初年の軍艦「比叡」より取外したるもの

軍艦『乾行』の遺材 一個　同

志賀重昂氏の發見に屬するものにして同氏の自筆解説文を附す、本艦が廢艦となりて後イギリス政府はダーウキンの史蹟調査のため乘艦ビーグル（乾行）の遺材發見方を日本に依頼し來れり、志賀重昂氏は東京品川繕方造船所の木屑の中よりこれを探し出し一片は英國に送り倫敦で開かれたる日英博覽會に出品し他の一片を海軍に贈りしもの、幅八寸、長さ三尺位の木片

同上說明文（額入）（志賀重昂筆） 一面　東京市麻布區笄町　木村浩吉

咸臨丸ボートの舷側板 一個　東京市麻布區笄町　木村浩吉

木村攝津守作句、勝海舟筆、咸臨丸が沈没後そのボートの舷側を切り取りたる

ものへ、攝津守が句を作り、海舟がこれを書し彫刻せしめたるもの

外國軍艦の扁額　一面　京都市油小路四條上ル　野口安左衛門

古鐵砲　一挺　尾ノ道久保町八幡大門　澁谷新右衛門

非常に古き銃の銃身のみにして恐らくは種ケ島以前のものならんと

種ケ島銃　竹に虎の象眼あり　一挺　大阪市　山田實次郎

同　一挺　堺市宿院町　谷澤喜一郎

堺鐵砲　三挺　堺市七道東町　柳原吉兵衛

寛文年間の鑄造

同　一挺　堺市　水島彌太郎

火繩銃　二挺　堺市　岡村槐軒

鐵砲（二連發）　一挺　大阪市　池田長堅

池田筑後守がフランスにて奈翁三世より拜領せしもの

種ケ島拳銃　一挺　奈良縣郡山町字鹽　三木忠方

同　一挺　堺市櫛屋町　松浦伊三郎

六連發短銃　一挺　東京市　伊達侯爵家

文久二年十月宇和島藩主伊達宗城は勅命に依り京都に上り島津久光、山内容堂と活躍したるが、當時攘夷論者中にも硬軟兩派ありて公等は軟派に屬せる關係上浪士につけ狙はれ物騒なりしためこの六連發を護身用として常に携帶せり

大砲々身　一挺　大阪市天王寺區大道五丁目　柴田英一郎

長崎港外伊王島附近にて三百年前に沈沒せる南蠻船のものにて長さ八尺、周圍三尺五寸、口徑四寸、重量千三、四百斤（昭和三年八月十六日引揚）砲身にEFの文字見ゆ、この大砲については長崎高商武藤教授が研究中なり

台附砲　一挺　長崎市西古川町　早稻田米次郎

長さ二尺尺三寸、銃に台を附したるもの、電管發射附屬品一式附

大砲身（大、小）　二個　山口縣山口市　縣立教育圖書館

文化年間打橋氏鑄造（長崎縣檢査刻印あり）抱打ちにせしもの長さ二尺七寸

砲　一挺　長崎市馬町　吉村菁三郎

信州の砲術家坂本天山の遺物にして（大）赤銅長二尺、台附（小）長五寸、台付、山口縣吉敷郡宮野村故木梨男爵寄託品

大砲模型（大、小）　十九個　長崎市　津田繁二

長さ一寸五分より五寸五分まで、鑄銅製、一々火薬をためしたるもの

大砲車模型　一挺　奈良縣　三木忠方

各大名へ賣込む爲め見本としてオランダより持來しもの

周發台模型　一組　山口縣　縣立教育圖書館

信州の砲術家坂本天山の遺物なり、山口縣吉敷郡宮野村故木梨男爵の寄託品

大砲の模型　一個　同

元治元年八月英、蘭、佛、米の聯合艦隊を擊攘の際下關海岸の砲台に据付けしものゝ模型、所有者安尾家は長府藩主の命に依り當時鑄砲の任に當りし家柄なり、山口縣豐浦郡長府町安尾左一寄託品

豆銃（拳銃）　一挺　堺市　中田光三

同　一挺　高岡市　市立高岡圖書館

高岡市瑞龍寺藏寄託品、勤王家逸見又一が外人より購入せしもの

同　一挺　東京市小石川區久堅町　塚本清

幕末に使用のもの

同　一挺　京都市　丹羽圭介

二連發

同　一挺　京都市狹小路兩替町西入　高橋姓鑑

阪本龍馬所持、革サック入

ピストルの空ケース　阪本龍馬所持品　五個　同

三身銃　一挺　京都市寺町四條下ル　黑田俊之亮

氣砲　一挺　同

鐵砲玉鑄造型（六匁）　一挺　堺市宿院町　谷澤喜一郎

口火入　一個　東京市　帝室博物館

木製圓筒形黑漆、口金銅製、高一尺五寸、巾九寸六分、厚さ七分、空間、朱漆にて葡萄牙人を兩面に畫けるもの。中央に穴あり紐を通す

煙硝入　一個　大阪市　山田實次郎

金屬製高さ五寸五分

同　十二種　堺市大町西三丁　友淵又次郎

同　二個　堺市　岡村槐軒

同　二個　堺市宿屋町大道　寶來喜三

繩火入　一個　堺市　友淵又次郎

火藥だめし　一個　堺市大町東一丁　石村文造

種ケ島銃の爆發を試すために作りしもの、長さ約三寸

火矢玉　一個　堺市宿屋町大道　沖本國忠

大和川より發掘せるもの、大鹽騷動のころに使用せるものと同じ三枚の薄き鐵羽あり

シヤム兜　一個　奈良縣橿城郡櫻井町　松原廣吉

銀象眼入周圍約一尺二寸五分、圓錐形をなし、薄き鐵製

兜（鱗形定紋付）　一個　奈良縣　三木忠方

幕末御火消方裝束の一

軍帽　一個　東京市小石川區第六天町　德川公爵家

奈翁三世より德川將軍へ贈れるもの、赤色、緣は黑にて金モールの裝飾あり

ゼツケン　一枚　同

奈翁三世より德川將軍へ贈れるもの、幅三尺長さ四尺四寸五分に三尺七寸、分厚き赤のビロードの如き地色、周圍に金モールの房及び裝飾あり、三ツ葉葵紋の金モールの刺繍を施せり

槍の穗先　一本　堺市役所

慶長年中糸割符船頂戴

刀　一口　長崎縣大村町　濱田勘五郎

寛永五年（一六二八年）台灣に蘭人を討征したる濱田彌兵衛使用のものといふ

太刀　一口　大阪市　池田長堅

池田筑後守が文久三年渡佛の際佩用せしものにて金モールにて下緒をつくりあり、菱し外人の佩劍を見てこの如く造りかへしものか

毛彫短劍　一口　大阪市　上村豐造

長さ二尺九寸五分、鞘に細き彫刻を施し、モールの帶を附す、伊太利製

劍　シーボルト佩用のもの　二口　長崎市　縣立長崎圖書館

洋刀　ペルリ來朝當時のもの　一口　堺市　石村文造

刀　（小）　一口　堺市　友淵又次郎

木刀　一口　東京市麴町區有樂町一ノ三　大武丈夫

高野長英護身用、頭に「瑞皐」の刻字あり

緣頭　三個　堺市　友淵又次郎

洋風模樣象眼と彫刻

鍔　六個　京都市柳馬場御池下ル　岸本正之助

寛永—享保年間に造りしもの、南蠻鍔には歐文の象眼あり

同　二個　堺市　友淵又次郎

小刀の鍔、金象眼にてADとあり、一は透彫花模樣

同　一個　堺市　岡村槐軒

金銀象眼南蠻船入建彫入鐔鍔

同　一個　同
金銀象眼洋文字入物雲龍地紋花唐草彫入鐵鍔東都住人柳林齋友保の銘入

同　一個　同
裸人物四獸地文唐草南蠻鐵鍔

目貫　一個　同
佐野直之作、素銅、種ヶ島鐵砲の形、大さ一寸三分、金の象眼をほどこせり

同　一個　同
金無垢闌入目貫、水戸大月善明作

南蠻鐵　一個　京都市　岸本正之助
長さ五寸、瓢形、重さ約百匁、和蘭陀より輸入せしもの

樫柄小鳶口　幕末御火消方用　一挺　奈良縣　三木忠方

白襷　一本　愛媛縣喜多郡大州町鑄砲町　三瀨彦之進
文久元年三月三瀨諸洲はシーボルトに從ひ江戸に上り、赤羽接遇所（飯倉五丁目）に在り通詞となりて外交のことに參與す、時恰も水戸の浪士接遇所襲擊の風說盛なれば、幕府萬一を慮り三尺の白布を頒つて目印となす、本品は其の一にして諸洲之れに書して愛國の志切なるを述べ決死の意を示す（時に文久元年五月二十八日江戸高輪東禪寺内英國公使館討入の餘波、此時諸洲二十三歳）
歌に『知る人は花とこそ見め風につれ
からくれないに散りまかふとも』
其後幸ひにして襲擊のことなかりき

南蠻繪鞍　一具　京都帝國大學　國史研究室
長さ、幅各一尺二寸、高さ九寸、朱地に墨繪天文七年二月　日（三百九十七年前）の銘と花押あり、此の花押よりすれば、作者は荒木志摩守元清なり（後ち安志）安志は大坪流の直傳を傳へたる鞍作りの名手なり、此の鞍につき珍とすべきは前後輪に南蠻婆天連渡來の風俗模樣を蒔繪にし鞍坪に櫻花を散し書にしたるにあり、然して天文七年の銘あるは此頃すでに南蠻風俗の一般に知られたることの頗る研究に値すべき好資料にして南蠻人の渡來は天文十二年を最初とせる說を破るに足る參考品なり

ローマ字鞍　一具　同
長さ、幅一尺三寸、高さ一尺、黑地に金にて模樣を描き、又金にて○中にFOと記す

ゴブラン織　一張　京都市室町通綾小路下ル　白樂天町
京都祇園祭山車用、中央巾約二尺五寸がゴブラン織にして阿蘭陀古渡のもの

猩々緋羅紗　一枚　奈良縣　三木忠方
長五尺九寸、幅四尺五寸

絨緞　一枚　東京市　木村浩吉
木村攝津守が咸臨丸にて萬延元年桑港に至りし時の將來品（本會出品後大阪市民博物館に寄贈されたり）

古渡緞通　一枚　奈良縣櫻井町　中島安太郎

毛織敷物　一枚　堺市宿屋町大通　田畑寫藏

同　更紗模樣　一枚　同

同　花模樣　一枚　堺市東之町東一丁　田畑和兵衛

古渡毛織布　一枚　奈良縣　中島安太郎

テーブル掛　一枚　横濱市神奈川　本覺寺
米國最初の公使ハリスの遺品

錦繪友禪模樣　フクリン地　一枚　堺市　岡村槐軒

フクリン帛紗　一枚　堺市櫛屋町東二丁　堀井久吉

丸ニM印金絲縫帛紗　一枚　大阪市　山田寅次郎
嘉永年間アメリカのペルリ來朝當時松平家にて調製したりと傳ふ

羅紗の帛紗　一枚　和歌山縣伊都郡高野口町　前田友次郎

世界風俗圖更紗　鷹見泉石遺品　一枚　千葉縣古河　鷹見久太郎

世界國旗模樣更紗　同　一枚　同

四季變遷模樣更　同　一枚　同

南蠻更紗　五枚　堺市材木町　金田新平
江戸時代の輸入品（一）フクリン地にバラの繪あるもの（二）ビロード地に古代模樣のもの（三）薄地カンレイ紗の如きものに藍の花散し模樣あるもの（四）赤地更紗にバラ模樣あるテーブル掛用のもの（五）更紗見本小切をつなぎたるもの

同　二枚　下關市阿彌陀寺町　伊藤醇
蘭人甲比丹及びシーボルト等が江戸參府の途次伊藤家に彌在中使用せしもの

堺更紗見本　一帖　堺市　岡村槐軒

阿蘭陀更紗　數十種　大阪市南區日本橋三丁目　笹山梅四郎

同　袋　一ヶ　下關市　伊藤醇

織物額　樹下少女の圖　一面　堺市　岡村槐軒

織物見本帖　一帖　長崎市出來大工町　林源吉
安政二年紅毛人持渡品

紅毛きれ本帳　二帖　長崎市　横田萬次郎
（一）弘化二年紅毛方系織類切本帳（二）安政二年卯紅毛船持渡端切本帳控

温古きれの鏡　一冊　同

蘭文切地　四種　堺市　岡村槐軒

輸入端物切　一枚　長崎市片淵町　福田忠昭
唐蘭輸入品反物は一々小さく切りとりて檢査の上掛員が捺印し長崎奉行所に提出せり

波斯大壁掛更紗　一枚　大阪市　山田寅次郎
（六百年前のもの―參考として出品）

土耳古縫取り古切　三枚　同

土耳古婦人頭被ヒ　一枚　同

スペイン僧正外裝一枚法衣　一枚　同

禮服　一揃　長崎市爆粕町　縣立長崎圖書館
シーボルト着用のもの、帽子一肩章二つき

禮服の上衣　茶羅紗モール模樣　一着　下關市　伊藤醇

上衣　一枚　同

鍋島直大公洋服　一揃　東京市外澁谷松濤　鍋島侯爵家
明治初年のもの、ダンブクロと稱せられしもの

フロック（上下）　一揃　伊豆下田　西山旗太郎
十五歳の時から玉泉寺にてハリスに事へたる西山助藏が米國公使ハリスの通譯ヒュースケン（生麥事件にて遭難）から貰ひ受けしもの

チョツキ　一枚　大阪市　小山恒男
白リンネルにてシーボルト着用のもの、シーボルトの孫より故小山健三氏（恒男氏府君）の乳母が貰ひしものとか

同　二枚　下關市　伊藤醇
白絹及び黑繻子、等身大のオランダ人形に着用せしめしもの、人形は維新の際長州武士が攘夷の血祭りにあげし爲現存せず

和蘭ボタン　二個　長崎市　津田繁二
蘭領東印度商會のマーク及錨入、金、銅

釦　三個　大阪市　廉島傳藏
葵は英國製メッキ、他は銀製、德川末期の輸入品

唐人笠　一個　丸鶴市廣町　藤田德太郎
蒲生氏郷の臣岡左内の着用せしもの、左内は譯を次清といふ、蒲生飛彈守氏郷に仕へ屢々軍功あり、黃茶色羅紗製

德川家康羽織　一着　堺市宿屋町東三丁二六　本受寺

家康が西類子に與へしものといふ、類子は貿易家、肥前大村藩士、名は九郎兵衛、ルイスは切支丹の敎名なり、文祿慶長のころ呂宋に渡り南蠻語を學ぶ、慶長十年呂宋の商船長崎に來る時通譯として家康の書を呂宋大守に送ることに盡力す、後家康に謁し南蠻の國情を具さに語り信用を得て羽織と朱印狀を受け爾來屢次往返せり、家康薨して後國情の推移を思ひ渡海をやめ、元和六年堺に移住法華宗となり正保三年正月歿す(朱印狀の項參照)

陣羽織 一着　東京市麴町區三年町 維新史料編纂事務局内　藤井甚太郎

タオル製、福岡の藩士藤井家のもの、長崎より傳來のものならん、タオル地が珍らしく陣羽織に應用せしものか

同 一着　奈良縣　三木忠方

黑羅紗紋付幕末黑船警固御火消方が着用せしもの

同 縞羅紗、更紗裏　一着　堺市　岡村槐軒

同 一着　和歌山縣伊都郡高野口町　前田友次郎

フクリン小供用、安政年間のもの、濃綠地に金銀絲にて紋を縫ふ裏は絣縮緬

黑羅紗羽織 一着　奈良縣　三木忠方

幕末黑船警固御火消方裝束用、定紋付

紫羅紗羽織 同　一着　同

火の粉除け 紫羅紗、定紋付、同上用　一枚　同

同 黑羅紗、定紋付、同上用　一枚　同

胸當 紫羅紗、定紋付、同上用　一枚　同

同 黑羅紗、定紋付、同上用　一枚　同

糸錦踏込袴 同上用　一着　同

古渡更紗下着 二着　堺市　中田松次郎

奥島反物 九反　堺市　平野利兵衛

ひともし 一個　東京市　長野草風

南蠻人形、古織部燒、冠は木製、高さ八寸三分、腰廻り八寸七分

鯨骨燭台 一個　堺市寺池町東二丁三四　池田長治郎

船舶用高さ九寸、彫刻を施す

提ランプ 一個　大阪市　藤田一夢

古代鐵製高さ、幅約五寸、厚さ五分 WELLS MARINE BONEY WATER SPACE LAMP と三行に記せり、船舶用として土瓶の口の如き所より鯨油をたきしもの

釣ランプ 一個　下關市　伊藤醇

青色硝子ランプ 船舶用　一個　同

米國製唐草彫台ランプ 二對　大阪市南區八幡町六　上村豐造

洋燈 一個　堺市　水島彌太郎

外國製火とぼし 一個　堺市新在家大道　片桐新道

三十石時代の龜燈 一個　堺市　中田光三

油壺 平戸燒蘭文異人圖　一個　堺市　岡村槐軒

火入 土鍋唐人繪　一個　堺市少林寺町東一丁　前田文林

平戸燒火鉢 一個　堺市　岡村槐軒

阿蘭陀燈 一個　同

鍍金棚物 一台　大阪市　上村豐造

高五尺九寸幅三尺一寸、鏡二個付

ギヤマン蒔物 二個　大阪市　室谷鐵鵬

ギヤマン水鉢 一個　東京市小石川區林町九二　德川侯爵(達道)家

硝子鉢 和蘭製　二個　大阪市　室谷鐵鵬

ギヤマン菓子器 一個　和歌山縣　前田友次郎

ガラス三段心棒金屬月桂樹形の物、六代の祖前田嘉助文化年間紀州侯より拜領

福祿壽三ツ重菓子鉢 一組　堺市　水島彌太郎

おらんだ菓子皿 一個　同

平鉢 二個　下關市　伊藤醇

甲比丹江戸禮參の際伊藤氏邸に滯在中使用せしもの

同 和蘭製　二個　愛媛縣喜多郡久米村字阿藏　矢野直杖

同 一個　堺市材町東二丁一一　谷澤百太郎

六角小鉢 一個　堺市　堀井久吉

透彫台鉢 (陶製)一個　大阪市　室谷鐵鵬

台鉢 (硝子製)一個　同

モールの皿 二個　東京市小石川區久堅町　塚本清

十七世紀ころの露國製品、六角形の青銅

阿蘭陀皿 藍模樣　二個　東京市小石川區袈裟町　入澤達吉

同 書き繪　一個　堺市　岡村槐軒

同 三個　東京市小石川區關口町　渡邊修次郎

同 一個　堺市　堀井久吉

同 三個　台北市末廣町三ノ二　稱垣孫兵衛

(小、中)台灣台南市安平ゼーランヂヤ城趾より發掘せるもの(大)台灣台南の土人の傳世物

古渡陶皿 一個　堺市　岡村槐軒

阿蘭陀鐵長角盆 一個　堺市　前田文林

色大井 和蘭製　一個　堺市　堀井久吉

同 紅毛色繪　一個　堺市　金田新平

藍繪大井 一個　堺市　堀井久吉

洋皿 三個　伊豆國下田　鈴木千代

安政三年ハリスと共に下田に入港の米艦サンヂヤセン號の乘組員が用ひしもの

ギヤマン皿 一個　伊豆下田　了仙寺

安政元年ペルリが下田港了仙寺滯在中に使用せしもの

硝子振出 一個　大阪市　室谷鐵鵬

ガラス壜 古渡來品　二個　堺市新在家町大道　片桐理一郎

同 (大小)五個　大阪市　室谷鐵鵬

和蘭フラスコ 一個　大阪市南區千年町一一　粂川榮吉

ギヤマン筒 一個　堺市　岡村槐軒

硝子鐘子 (三ツ重ね)一組　大阪市　室谷鐵鵬

『文政八酉八月念六日會鎭昌伯馬於邸酒席上所見墓』と箱書、金の草花模樣燒つけ

コップ 四個　大阪市住吉區平野町　末吉勘四郎

和蘭製(一)足付(二)金燒つけ、日月、コンパス、草を意匠化したるもの

同 和蘭製、透明清澄の赤色、カット　(大小)二個　堺市　堀井久吉

同 一個　東京市　木村浩吉

木村榴津守が咸臨丸にて桑港へ行つた時米國から貰つたもの「ジョン・ハーレ

イより提督木村攝津守へ」とあり

同　草花模様を金にて燒つけ（三ツ重ね）一組　大阪市　室谷鐵鷹

同　足付　一個　下關市　伊藤　醇

同　手付　一個　大阪市浪速區東關谷町二ノ二　角野清太郎

同　一個　伊豆下田　了仙寺

安政元年ペルリが下田港了仙寺に滯在の際使用せしもの

同　一個　堺市　金田新平

大猪口　一個　和歌山縣　前田友次郎

和蘭よりの輸入品、いとじりに洋文字あり

ギヤマン盃　龜甲刻み　一個　大阪市　末吉勘四郎

同　一個　大阪市　室谷鐵鷹

三ツ組木盃　一組　長崎市　林　源吉

蘭館模樣蒔繪、盃の内面に洋畫描法（遠近畫法）にて蘭館を描けり

阿蘭陀片口　鍋島大夫の土産物　一個　大阪市　室谷鐵鷹

ギヤマン水差　一對　大阪市東區南久太郎町二　平尾喜三郎

明治六年沖繩宮古沖にて獨船遭難の時救助せし謝禮に獨逸皇帝より贈りしもの

高さ九寸銀盤付

阿蘭陀燒水差　一個　堺市　岡村槐軒

水差　一個　神奈川縣鎌倉投の下二二　川路柳虹

支那風の模樣のある青銅製江川英龍作、戯れに川路聖謨に贈りしもの

輸入湯沸　一個　堺市　中田光三

和蘭陶器（台皿付一個）　大阪市　室谷鐵鷹

茶壺　呂宋渡來品　一個　堺市南旅籠町東三丁　大安禪寺

壺　高さ一尺　一個　堺市宿院町東二丁七　小田庄三郎

同　（大、小）四個　台灣台北市　台北博物館

安平青磁にしてゼーランヂヤ城址から發掘されたもの

ブリキ茶壺　一個　堺市　岡村槐軒

外國製筒　底面子人物繪　一個　堺市少林寺町　稻葉保文

醬油瓶　一個　東京市外大崎町下大崎　島津公爵家

高さ六寸の白色の陶製瓶にして胴にJAPAN SCHZOYAと文字あり薩摩藩が醬油の輸出に用ひしもの

同　同　二個　堺市　小田庄三郎

同　同　二個　奈良市雜司町　新納忠之介

唐人お吉の德利　一個　伊豆下由　村松春水

ハリスが愛飲したる保命酒の空き瓶（德利）をお吉がハリスを偲ぶよすがに神酒德利として神棚にあげてゐたものといふ

德利（陶製）一箱　東京市　渡邊修次郎

オランダ人が長崎にて酒を入れるため特に作らしめたもの、ローマ字にてサキーと染付あり

髯德利　十一本　大阪市　上村豐造

獨乙、英國製白地紫藥、獨乙の分はフレデリック三世（一四四〇年）時代よりチヤールス六、七世時代のもの、英米の分はエドワード四、五世時代の品

同　和蘭大型三百年前のもの　一個　大阪市　桑川榮吉

同　一個　大阪市　今城梅吉

舊幕時代洋酒を入れて和蘭より舶來せしもの

大瓢　一個　山形縣飽海郡高瀧村　石垣吉六郎

林子平が日本經國の節必ず所持し渡川又は渡海の際は浮袋に代用せし品と傳ふ。瓢胴に自詠の歌『すくふへきたからのかひもなかそらのめくみにもれて死そくやしき』の彫刻あり、約七升入

硝子德利　三個　大阪市　室谷鐵鷹

ギヤマン德利　猪口五、皿付　一組　同

ナイフ　一挺　下關市　伊藤　醇

外人江戸參府の砌本陣下關伊藤氏邸にて使用

ホーク　同　二挺　同

スプーン　同　二挺　同

同　南蠻製　一個　大阪市　鹿島傳藏

同　一個　伊豆下田　臼井清彦

安政元年ペルリが伊豆下田了仙寺にて使用せし匙

スープ入れ　天保時代舶來龜の形　一個　東京市　渡邊修次郎

昔のコーヒ挽器　一個　東京市　丹羽圭介

長崎沖引揚陶器　一點　長崎市桶屋町四　中村豐二郎

右は弘安年間長崎縣北松浦郡鷹島に於て神風の爲め沒せし蒙古の軍船より引上げたる陶製支那蘇州の土燒にて、多分蒙古艦乘組員の食器ならんか。該陶器採取者林慶良氏の子息（當時唐津中學三年生なり）が教科書の國史復習の中偶々「蒙古軍船鷹島にて難破せる」の條を側にて聞き感ずる所あり直ちに鷹島に向ひ、同地の古老に就き傳說を辿り實地調査の上私金を投じて引上げたるものといふ

ギヤマン花生ケ　一個　大阪市　室谷鐵鷹

南蠻人蒔繪硯箱　一個　横濱市鶴見區生麥　前田青邨

縱七寸二分横六寸八分、蓋に二人の南蠻人と犬、内部に千鳥の蒔繪

手箱　煙管文樣蒔繪小引出付　一個　同

洋風彫箱　一個　堺市　友淵又次郎

方四寸高さ二寸八分、桐箱上部に乾漆にて模樣を彫り込む

鐵の鼎　洋文字入　一個　堺市　水島彌太郎

羊足黑銅鼎　南蠻文字入　一個　堺市　岡村槐軒

蛸型香爐　一個　堺市南旅籠町東三丁　大安禪寺

香合　一個　堺市　堀井久吉

大さ一寸三分四方の樂燒陶製、雞の繪入にて、由來は泉州堺の町人田中屋久兵衛が堺港燒の土を以て素燒を作り阿蘭陀へ送り彼の地に於て模樣を描き上藥を掛け燒かしめ送送せしものにて「堺阿蘭陀」と呼べり

同　同　一個　堺市　水島彌太郎

六角香合　一個　堺市　堀井久吉

阿蘭陀製、一邊の大きさ八分、六角型陶製

古銅置物　十四個　大阪市　鹿島傳藏

蘭人像、唐人像、象など一寸位の銅製置物

阿蘭陀船　古銅製高さ五寸長さ四寸、置物　一個　同

同　個　同

高さ三寸横二寸位の金屬製置物、元西本願寺藏

川蒸汽船　古銅製置物　一個　同

西洋人四人の置物（陶製）　一個　東京市　渡邊修次郎

中世紀の服裝をしたる男女各二人が草上カルタを弄ぶ色彩の美しき陶製（高さ五寸五分、台の長きところにて幅八寸六分）

金唐皮手提鞄　一個　堺市中之町　耳市松

手提　一個　千葉縣　鷹見久太郎
鷹見泉石遺品、サック入クサリメダル附

金唐革袋　同　一個　同

金唐皮人物畫　一枚　堺市　耳市松

寫眞機　明治初年のもの　一揃　京都市　細辻伊兵衛

和蘭陀琴　一面　東京市外日暮里町旭町一丁目　大槻茂雄

紙風琴の心　二本　堺市　金田新平

ラッパ　一個　堺市　水島彌太郎
蘭人用長さ一尺四寸、銅製、先の方は龍の口に象り此部及中部の帶、上部に眞鍮を冠す

唐人笛　一個　大阪市　鹿島傳藏
古代銀、大さ約二寸長崎邊にて昔時飴賣りが之れを吹いたもの

軍隊調練用横笛　明治初年　一個　堺市　岡本槐軒

尺八　一管　東京市麴町區有樂町一ノ三　大武丈夫
高野長英の愛用品、市ケ谷鈴法寺を逃れ出る時用ひしもの『よをしのびあまのうきはしふきわたるかぜの力をそふる愛瓢』あかつきの夢、と刻しあり

印籠　一個　京都市姉小路兩替町西入　高橋姓鑑
阪本龍馬所用品

胴籠　一個　大阪市　鹿島傳藏
AB頭字、阿蘭陀古品、昔の江戸の山着切は此の丈夫な物を切り取りて仲間に誇りしと

根付　一個　同
唐金印籠付根付は長さ一寸五分幅一寸表に印度人の像を彫り上部にPIH CA とあり、印籠は二寸方、三つに分る、支那人三人の圖及虎を畫く

金唐煙草入　一個　堺市中之町東一丁　梅塚鶯賀堂

煙草入　青貝外國風景　一個　堺市新在家大道　片桐新道

紙入　一個　堺市　中田光三
黑船入港の時作りしもの、一方に異國船の圖(船腹にCANOとあり)他の一方には「英吉利亞一萬二千リ」「亞墨利加五千リ」「魯西亞千二百リ」「阿蘭陀四千二百リ」「佛蘭西二千五百リ」と織込みあり

同　外國人模樣　一個　堺市櫛屋町大道　中田松次郎

金具　一個　堺市　岡村槐軒
一邊の長さ八分、四角形金具、大名が樹下にて時計を見てゐる圖を浮彫にし金、銀にて象眼せり

同　異人化粧圖　一個　同

矢立　一個　大阪市　鹿島傳藏

同　高野長英使用ローマ字入　一個　東京市　大武丈夫

紅毛喜世留　一組　堺市熊野町西三町　眞木甚之輔
時代紅更紗袋、掃除小道具付、長さ二尺八寸、白色陶器製、柄の方に T. GOUD …IN. GOU… 等と浮彫り壺の如き形をなす、火口は徑約六分、深さ一寸五分

トンボ玉首飾　一個　堺市　水島彌太郎

洋字模樣簪　一本　長崎市本五島町七　渡邊庫輔
長崎丸山遊女か、洋妾の用ひたるものらしくGBの組合せ洋銀

ギヤマン櫛　一個　堺市中之町東一丁　梅塚鶯賀堂

指輪　一個　長崎市　津田繁二
和蘭輸入白、赤、黃の六角ガラス玉入

十字入指輪　一個　長崎市　渡邊庫輔
幕末に丸山遊女の所持せしもの

大福　二個　高岡市横田町　岡本清右衛門
約四五十年前に密貿易をなしたる形跡の一材料として傳はる、赤色寶石著樹形

扇子　一本　横濱市神奈川　本覺寺
米公使ハリスが使用せしもの

同　一本　下關市　伊藤醇
蘭人書 Het werk Loono Zyn Meester 百姓家の前、日本農民稻を持つ畫

同　明治五年京都博覽會　一本　京都市　丹羽圭介

和蘭人形　一個　下關市　伊藤醇
椅子、帽子付ガラス古箱入、高一尺

長崎人形　五個　堺市向陽町八〇ノ一　鷺見東一
堺市にて文化文政の頃より明治初年頃まで造られし支那人紅毛人等の士人形にて今は全くなし

うんすんかるた　一組　東京市上野　帝室博物館
着色七十五枚一組のもの、各葉縱二寸七分、横一寸八分五厘、(春慶塗桐箱入)「うんすんかるた」は慶長のこと阿蘭陀人によつて傳へられしといふも「うんすん」の語源は詳ならず「雜州府志」に傳來使用法など記しあり、明和安永のころ盛んに流行したるが弊害甚しかりしため寛政三年に禁止されたり

同　一組　長崎市　早稻田米次郎
帝室博物館所藏のものとは形稍小にして畫も同じからず

鰐の置物　一個　大阪市　鹿島傳藏
印度土人の遺れるものを南蠻船の持來れるものといふ、古銅製、三寸

胡椒入　一個　同
高さ二寸位にてホツキ提灯の形、銀製、洋人の餐應に大名が用ひしものといふ

椅子　米公使ハリス遺品　一脚　横濱市神奈川　本覺寺

藥の看板　一面　堺市大町東三丁　大澤醇吉
おらんだ流「わきがの藥、根ぬき、たむしの藥、根ぬき」とあり

丁子油看板　おらんだ流　二枚　堺市　友淵貫山

ウルユス看板　おらんだ流　一枚　同

青貝地紙籠　五個　伊豆下田　鈴木思吉
下田港にてペルリ及びハリス等の一行に賣込みたる當時の輸出貿易品の殘り

古伊萬里　一個　京都市　丹羽圭介
ルネツサンス模樣、瓶、古貿易品

同　花紋、古貿易品　一個　同

洋手打槌　一個　堺市　稻葉保文

舶來衡器　三種　堺市　岡村槐軒

同　一個　堺市　小田庄三郎

京朱雀野立札　一枚　大阪市西區北堀江上通三　太田米次郎

年表年鑑

西洋諸夷略表 一冊　愛知縣西尾町　岩瀨文庫
明應十弘化間（橘靜光寫本）半紙三十枚

異國往來略譜 一冊　神戸市上筒井　神戸商業大學附屬圖書館
唐國往來より嘉永七年まで（寫本）

西洋紀年稿（附官職考）二冊　東京市麴町區內幸町　藤浪剛一
宇田川榕庵稿著、西曆紀元前四十二年より一八三八年（天保九年）に至る外國の主なる事件の記錄

接蕃年表 二冊　愛知縣　岩瀨文庫
安政元年偶堂向山源太夫著、天文十年以降弘化元年間の外交記事、（寫本）

和漢年契 一冊　東京市小石川區關口台町二二　吳秀三
箕作阮甫が安政元年伊豆に行きしとき海嘯にあひて一旦は流失せしもの、本のはじめに書入あり

和蘭年表 二冊　東京市上野公園　帝國圖書館
オットモンセ原著魁山無樓子譯、安政二年版

學藝年鑑 二冊　福井市　市立福井圖書館
ブリーキロード著一八五〇年、一八五一年ゴリンシエム版、福井藩立明道館內洋書傳習所にて使用の關書の一

享保時代の覺 一冊　堺市柳屋町　松浦伊三郎
享保時代の堺に關する歷史（現在の年鑑の如きもの）

ロシヤ外交年鑑 一冊　東京市　ロシヤ大使館
一八六八年度、サン・ペテルブルグ版

同 一冊　同　同
一八七三年度、サン・ペテルブルグ版

同 一冊　同　同
一八八〇年度サン・ペテルブルグ版

同 一冊　同　同
一九〇四度年サン・ペテルブルグ版

新撰洋學年表 一冊　東京市外日暮里町旭町一丁目二六　大槻茂雄
大槻如電修、昭和二年一月出品者發行複刻ハリ版。如電翁が明治十年初版刊行のものを多年の苦心にて更に補修し大正十年完成、活字の誤植を虞れて自ら版下を執筆十二年七月本編の完了を告げしに偶々大震災にかゝり更に序書、目錄をもつくり大正十五年磐水百年祭に頒布するに至りしもの、蘭學その他日本の開國化文に關する年表として貴重の著

漂流記類

漂民記 一冊　四日市市中町　伊達貫一郎
大黑屋光太夫は漂流の露國より十二年目に歸り寬政五年吹上に召され將軍家治に謁したるが本記は桂川周甫の記なり（寫本）

異國方例寄 一冊　沖繩縣那覇市　沖繩縣立圖書館
宮古島へかもる漂着の事、同島へ大阪人漂着の事、德の島へ朝鮮人漂着の事、八重山島へ奧州人漂着の事、宮古島へ奧州人漂着の事を記す（寫本）

異國船漂流の書留 一冊　四日市市　伊達貫一郎
伊勢四日市大庄屋伊達太右衛門の手錄、寬政四年異船漂着の時の手當方半紙九枚

環海異聞 五冊　函館市　市立函館圖書館
仙台の關學者大槻茂貫（玄澤）が志村弘強と共に、文化元年露使レザノフに伴はれて長崎に歸還したる仙台石卷の漂民津太夫等三名を尋問し彼等が寬政五年漂流より歸還の顚末並に露國の風俗言語等を筆錄せるもの

同 一六冊　鳥取市外宮下　國幣中社宇倍神社々務所
美濃紙版和綴寫本、箱書「嘉永二巳酉夏十有九日」彩色畫入

津田村勝之助漂流記 一冊　香川縣綾歌郡坂出町　鎌田共濟會圖書館
文政十三年南洋漂流の記

尾薩漂民私記（寫本）三冊　函館市　市立函館圖書館

漂流異話 一冊　滋賀縣八幡町仲之町上　西川吉之助
播州加古郡西本庄村の淺右衛門外三名が嘉永三年米國へ漂流し嘉永七年長崎に歸着の記（寫本）

嘉永便舟唐物記 一冊　滋賀縣彥根町　町立彥根圖書館
嘉永六年支那へ漂流せし櫛市なるものの漂難記（寫本）

異國漂流記 一冊　堺市柳屋町　中田光三
天保元年備前岡山の船の漂流記（寫本）

傳記

暹羅國山田氏興亡記 一冊　名古屋市中區永樂町　堀江清足
松井經長自筆本、享保二十年著、山田長政の事歴を細叙せり、蜀山人の藏書

書入聖謨明細書 一冊　神奈川縣鎌倉坂の下二二　川路柳虹
川路聖謨が自分の役々勤務のありさまを移石といふ畫工に描かしめ且つ、説明を加へたるもの（原本）

蘭學大家三瀨諸淵先生 一冊　愛媛縣喜多郡大洲町鍛冶町　三瀨彦之進
長井石峰著昭和三年版

奈翁の生涯 二冊　大阪市西成區千本通二ノ三〇　池田長堅
一八二二年パリー版、池田筑後守が文久三年佛蘭西にて奈翁三世より拜領せしもの

那波禮翁歸葬記譯（寫本） 一冊　千葉縣古河　鷹見久太郎

海外人物輯 二冊　神戸市下山手通六ノ九〇　五十崎夏次郎
嘉永七年永田賴榮の著せるものに一光齊の彩色畫入り（上、下）

長崎歴代奉行、甲比丹、大通辭控帳 一冊　長崎市櫓柏町　中山知雄
寛永十七年（一六四〇年）より文化元年（百六十五年間）までの歴代長崎奉行、甲比丹、大通詞の姓名を記錄せるものにして貴重の史料たり

バタビヤ役人錄 バタビヤ版　一冊　千葉縣　鷹見久太郎

オランダ役人名錄 一八〇一年バタビヤ版　一冊　同

物語歴史雜集類

伊曾保物語（合） 一冊　京都帝國大學　附屬圖書館
イソップ物語、上中下三卷合せて九十四篇の物語をあつむ、師冒風の古雅なる繪を挿入せり、萬治版（伊曾保物語はポルトガル宣教師の口述により文祿年間に西洋の書を初めて日本（天草）にて出版せしものとして名高しその後京都においても譯述出版あり、繪入本は萬治年間に至り始めて世に出でしもの）

阿蘭陀はなし 一冊　東京市上野公園　帝國圖書館
後藤梨春著、蘭國の地理、現勢、物産について記す、明和二年版

全象活眼 一帖　長崎縣高來郡加津佐村　元山元造
文化十年オランダ人が長崎へ象を持來りし時長崎の畫家石崎融思がこれを寫生し文を添へて「嶼牛に數倍し東行するに宿民の勞たゞならず」と記し橋林堂健、橘文藏、河野通清、その他蘭學者の象を讃美せる詩をのせ、終頁に甲比丹ヅーフ自筆の解説と譯文あり（折本仕立、鶴鳴堂藏版）

長崎名所圖繪稿本 二冊　長崎市櫻町　長崎市役所
長崎の畫家數名の協力によりて著作されたるも遂に版行に至らざりしもの、出品の稿本はすでに版下として描かれしものなり

長崎鏡 一冊　堺市材木町　金田新平
延寶八年より元祿十三年に至る長崎の歴史その他を記述したる著書の寫本

長崎土産 一冊　滋賀縣彦根町　町立彦根圖書館
弘化四年版

長崎夜話草 五冊　長崎市本紙屋町五八　津田繁二
西川如見著、長崎の歴史、人物、物産等を記述したる名著、享保四年版

紅毛雜話 五冊　長崎市　津田繁二
森島中良著、天明七年刊

同　同　五冊　大阪市堂ビル内オーム社　浪岡具雄

同　寛政八年版　五冊　大阪市　杉本要

同　同（第五卷）　一冊　大阪住吉區長狹町七　田中主水

清俗紀聞　六冊　長崎市　津田繁二
近藤守重著、寛政十一年版

紅毛人見劇場文（軸）　一幅　同
縱一尺四寸、横一尺八寸、唐紙に記したる甲比丹ブールが寶暦七年參府の歸途大阪に立寄り竹田座に劇を見たるときの文にて通詞森山重房の譯に『我國の貢を公に獻るとて甲比丹ブール外科スーマンケル共に旅粧して鎭台駿州刺史の幕臣大江信蔵君に從ひ譯司吉雄氏森山氏伴ひ宿りを同うして陛じく語らひ長き旅路のうさもなく（中略）拜禮例の如く終りて崎にかへるさ名にしあふ難波の竹田といへるによりてその事を見るに（下略）寶暦七年八月二十二日ショルゼヘルマンキス書之』とありこれを楊文濤が朱書し更に程剣南の漢譯並に書あり

六無齋遺墨 一冊　東京市東京朝日新聞社　植村陸男
林子平の遺墨を集め明治二十六年仙台叢書出版協會より石版に附して刊行せしもの

海外新話 五冊　京都府何鹿郡綾部町中の丿町　嶺田俊雄
嶺田楓江著、嘉永二年の出版にして清國鴉片戰爭の事を錄し世人に海外の事情を知らしめ海國の要務と鴉片の害を説きたるもの、當時幕府の忌諱に觸れ投獄版木は燒却せられ補綴を畫きたる畫工も亦獄に投ぜらる。著者楓江は出獄後江戸より追放せられて三都構へを申付けられたり楓江は元丹後田邊藩の士にして有名なる儒者、文政三年生れ、明治十六年歿す。

松平春岳筆手本 一卷　東京市牛込區新小川町二　白井光太郎

草芦雜談抄 一卷　東京市　吳秀三
青木昆陽自筆本、元文三年記述の隨筆集

遊藝園隨筆 四冊　神奈川縣　川路柳虹
川路聖謨が天保四年正月より同十四年末に至るまでの雜筆を收錄

川路左衛門尉自筆覺書 一冊　同
天保十四年正月よりの覺書にして「遊藝園隨筆」の題を改めて記せしもの、政務

に關する記錄多し、他人に筆を執らしめたる部分もあり

許多安語言語帖 一冊　東京市　吳　秀　三
高野長英自筆本、漢文を以つて書き經濟を說き醫學を論じ東西の學を批評せり

海舟掌記 五冊　東京市赤坂氷川町　勝伯爵家
勝海舟が壯年勉學の時のノートにして化學に關するもの、幾何、代數、造船術關語和譯等あり、その內の一冊「海舟掌記」の序に記していふ『安政內辰の初夏小疾に罹りこれこのほど學びし術のおもひわき難きが多きを以て彼此を考へ夜もたゞ燈のもとに文ともひらきたりしに、もとより材短く力足らざるを量らず過度せしにやよりけん耳底微音を生じ心鬱として活潑を覺へずすゞろに病に到らむもはかりがたきを以て暫時萬の事共うち置臥たりしにかくて過ぎなんもいと本意なきわざ故去歲より喘闌人のもの語せし何くれの事ともおもひ出るにまかせしるしたりしにつゐにひと卷のふみとはなりぬ驛太郎、長崎の學舍燈下に書す」とあり勉學の程想察すべし

春藝廼滴 一冊　名古屋市東區鍋屋町三　鈴木半右衞門
柳川春三自筆歌稿本。柳川は名古屋の人、上田仲敏、伊藤圭介の門人、能筆、博學にして多技なりき

西遊旅譚 二冊　長崎市　津田繁二
司馬江漢長崎への道中の往復の見聞と印象を記し自筆の畵を多く挿入せり、寛政六年版

日本外史 十三冊　愛知縣西尾町　岩瀨文庫
北山山本有信編輯、門人三島雜臣校錄、既刊書中より外國に關するものを拔萃編纂せるもの（寫本）

二叟譚奇 二冊　函館市　市立函館圖書館
北蝦夷の旅行記にして一は新樂閑叟、一は久保見達の著の寫本

繪草紙萬國噺 四冊　濱松市田町　內田六郎

江戸崎陽變組取合獻立帳 一枚　長崎市本五島町　渡邊庫輔
長崎の卓上料理の獻立にことよせて水野越州の改革を諷刺したるもの

珍事橫濱噺 一冊　滋賀縣彥根町　町立彥根圖書館

文久二年版松旧著、横濱元町四杵屋米八版

青櫻阿蘭陀鏡 五冊　名古屋市中區小林町一二　富田新之助
寛政十年版（戲作本）

林文海豫言書 一卷　沖繩縣那覇市　沖繩縣立圖書館
安政五年琉球人林文海が琉球の將來を豫言筆錄したるもの

西洋衣食住 一冊　神戸市上筒井　神戸商業大學附屬圖書館
慶應三年版、片山淳之助編木版

西洋道中膝栗毛 四冊　堺市材木町東之丁　谷澤百太郎
假名垣魯文戲著、東京萬笈閣明治三年版

西洋見聞圖解 二冊　同
瓜生敗利著、二書房發行小本木版

日本の開化 一冊　東京市　帝國大學附屬圖書館
加藤弘之博士稿本第一編に明治十二年六月起稿同年九月完稿、第二編は明治十二年起稿同年十一月七日脫稿と書しあり

開口新詞 一冊　神戸市　神戸商業大學附屬圖書館
水越成章著明治九年版

波爾吐瓦剛使時勢論 一冊　奈良市餅飯殿町　井倉芳松
元勤王家春日潛庵所藏の寫本

策論 一冊　京都市堺町通竹屋町下ル　谷村一太郎
英國士官アーネスト、サトウの著にして日本文、主權の幕府に無きを論斷し幕府との條約の無效なることを主張せしもの（半紙半截十八枚、發行年月、發行所不明）

デイツキンス『百人一首』（英譯）一冊　松江市東茶町一九地　桑原半次郎
一八六二年（慶應二年）ロンドン版

ローマ字百人一首 一冊　千葉縣　鷹見久太郎

鷹見泉石の筆、小倉百人首をローマ字にてかく

東亞に於ける四十四年間 三冊　東京　ドイツ大使館
フオン・ブラント著、一九〇一年、ライプチツヒ版、ドイツ外交記要

佐藤政養記念帖 一冊　山形縣飽海郡高瀨村　石垣吉六郎
橫濱開港獻策者にして日本鐵道の開祖佐藤政養の寫眞、目賀田男の書その他

開國五十年記念誌 一冊　伊豆下田　久保田作平
明治四十一年十二月下田發行、眞理二第十七號

橫濱史料 一部　山形縣　石垣吉六郎
昭和三年橫濱市發行、コロタイプ版

同 一冊　橫濱市野毛山市立圖書館內　橫濱市史編纂係
同

和歌 一冊　東京市　ロシヤ大使館
アー・イー・グルスキノイ著、一九二六年、レニングラード版

日本書籍解題 一冊　同
・ゼー・エン・マトヴエーフ・アー・デー・パポフ共著國立極東大學の卒業一九二三年ウラジオストツク版

日本兒童の本及創造力の展覽 一冊　同
聯邦對外文化聯絡協會及國立藝術學士院發行一九二八年・モスコー版

ポーツマウス平和會議報告及條件原文 一冊　同
一九〇六年ピチエルブルグ版

佛文日本民法草案（第一卷）一冊　朝鮮平壤府旭町　平壤府立圖書館
ボアソナード註釋一八八二年（明治十五年）東京にて刊行
明治維新の際に外國の文物制度を取入れるに急にして、時の參議司法卿江藤新平は完全なる法典を編纂せんとし、其範を佛國に取ることに決し、巴里法科大學助教授ボアッソナード氏を聘して、民法、刑法の草案を起草せしめたり、ボ氏は銳意之が起草に從ひ、明治十五年佛文にて作りし註釋付の民法草案第一卷を時の參議司法卿大木喬仕に提出、第二卷は翌十六年と順次稿成るに從て、之を提出完了せり、このボ氏起草に係る民法は公布せられたるも遂に第三期帝國議會において、現行の民法に修正せらるる運命となり、其實施を見るに至らざりしが初めて日本開化の爲に法律の基礎を立て、文明法律の思想を我國民の爲に培ひしボ氏の功績は沒すべからず

典型的日本の家庭 一冊　京都市本町十六丁目　丹羽圭介

工藝品意包の沿革 一冊　同

政治年誌 一冊　同
一八六八年版

テートの哲學 一冊　同

蝦夷草紙　津市鄰天町　堀口清治

拓本

大砲の裝飾 一枚　東京市小石川區久堅町　塚本清

オランダ、アムステルダム東印度會社の大砲の裝飾拓本にして慶長十四年鑄造のもの、現品は東京陸軍官邸にあり

拔荷制札 一枚　神戸市中山手通四丁目三四　川島右次

正德四年、奉行名、拔荷制札、縱一尺八寸、横四尺、本文左の如し

條々

一、異國船より拔荷を賣取候金元いたし人を雇ひ候て拔荷仕候もの右之由相聞へ候間彼族を訴人仕候においては吟味の上金元仕候者の金銀米錢家財等迄不殘可被下之事

一、拔荷仕候ものを同類之内より召捕へ或は訴人仕候ものに右之荷物御褒美として可被下之事

一、唐人とぬけ買を申合又は右の云含の取次をいたし或はぬけ荷物仕度したるもの並拔荷物に雇れ或は其等に携り候者の事訴人仕候においては急度御ほうびを可被下たとひ同類たりといふとも科をゆるし賃銀禮銀等申合候員數之一倍可被下之事（以下略）

正德四年十一月　奉行

堺鐵砲記念碑（軸）二幅　堺市七道京町　柳原吉兵衛

柳原氏によつて發掘されたる鐵砲記念碑の拓本、にして此古碑は寛文四年大阪の人川名忠重の建立せしもの、碑の表面には左の碑文あり

（表）

放鳥銃定限記

夫鳥銃者兵器也攻戰禍要最爲之先雖然操之有法守其正鵠則千里邈遠恰如咫尺毫釐有差夫地懸隔不可以不動習矣忠重幼有志于斯夙勤夜思須臾是以奉承　小濱民部丞嘉隆　嘉隆本邦總帥將而文武糅英守令豪傑也尤精斯術故法其淸化勵此巧成竟張雖候於和泉之堺甫賃畔定之以限獲試其用祝之如壔　嘉隆喟然有嘆猶日月鏃年鍊試屢中壹有其効皆是　嘉隆鴻恩也嗚呼天哉命是歲三月　嘉隆下世矣頃日高弟利隆來嘗此館能表先志占小善者名一藝者率錄登簡是故諮詢忠重前事感謝修不空試用有効命勒其事於石可謂善勵武事矣　忠重敢不可辭聊記年月云爾

（裏）

攝津州東成郡浪華城下
寛文四年星舍甲辰冬十一月朔日　川名金右衛門忠重謹誌
次　第
萬治三祀庚子五月二十四日
百匁筒丸著十七町
同　鈔　入　二十一町幔獲玉
二百匁筒入　二十四町幔獲玉
三百匁筒入　二十八町幔獲玉
寛文二歳壬寅四月十五日
五百匁筒□入　三十二町幔獲玉
同　三珍癸卯三月二十六日　五百匁筒入三十六町幔獲玉

右碑に京大三浦周行博士の文あり、左の如し

去る大正三年柳原吉兵衛氏堺市北部の發展に資せんが爲め南海鐵道、堺セルロイド、大阪紡績の諸會社に說きて運河開鑿の工を起し翌四年春開拓通西端南海鐵道の線路に沿ひて第一開拓橋を架設するに際し偶士中より此古碑を發掘せり碑は寛文四年大阪の人川名忠重の記すところ忠重幼より砲術に志し幕府の大阪船手小濱嘉隆を師として射擊場をこの地に設け屢試射を行ひて大に得るところありしかば之れを石に勒して其の技を勵まし後の記念と爲せるもの即ち是なり鐵砲の徳蒙牙人によりて種子島に傳來せし後最も早くその製銃法を傳へて全國に普及せしめたりしは堺の橘屋又三郎なりしが此射擊場も亦近世に於て最も早きものの一たるべし柳原氏依りて其主宰せる合名會社大和川染工所附屬青霞會館の庭園に碑を建て余をして古碑の由來を誌さしむ其意永く後葉に傳へて鄉土の史蹟を顯彰せんとするにあり

昭和三年五月　文學博士　三浦周行

國界標杭（軸）一幅　大阪市東區內淡路町二丁目　山田貢次郎

『大日本地名アトイヤ』とあり、縱六尺六寸四分、横七寸一分、原杭は東京帝室博物館に保存、享和元年幕吏富山保爲、深山運營がウルップ島にて露人と應接の上これを建てたるもの

海軍營碑（軸）一幅　同

元治元年十月八日軍艦奉行勝安房守は、將軍德川家茂が文久三年順動丸に乘り神戸の海岸を巡視、小野濱新安田に上陸して砂上に海軍操練所の基礎地を指畫

せし所に記念のため碑を建設せり、その拓本なり、碑は移されて諏訪山にあり

督乘丸船員供養碑（軸）一幅　名古屋市船入町一ノ八　安藤次郎

秦鼎撰文、熱田白鳥成福寺に在り

橋本宗吉墓碑 四枚　大阪堂ビル、オーム社內　浪岡具雄

竹原の照蓮寺にある橋本曇齊の後嗣光女の墓碑の表の兩側に曇齋夫婦の法號を刻しあり、宗吉は大阪の有名なる蘭法醫にして大鹽平八郎に切支丹の疑ひにて捕はれ所刑されたりとあるも此の墓碑より推せば身を以つて免れ晩年淋しく歿したりとする說を正しとすべきか（寫眞之部參照）

吉雄常三墓碑（軸）一幅　名古屋市　安藤次郎

長崎の蘭醫吉雄耕牛翁の孫、尾張の蘭學者、眼醫師、天保十四年九月名古屋に歿す

上田仲敏墓碑（軸）一幅　同

尾張の人歐人にして西洋砲術家、文久三年五月名古屋に歿す

野村立榮墓碑（軸）二幅　同

尾張の蘭法醫の祖、文政十一年九月名古屋に歿す

外國人墳墓碑 一枚　沖繩縣那覇市　沖繩縣立圖書館

一八五三年に死したる米國人ヒュー・エリスの墓碑拓本なり

神戸居留地境界碑石 三枚　神戸市　神戸稅關

（一）居留地境界指點石（二）明治十四年四月建之（三）これより北東十一度十四分二十秒距離百三十九間五分並に十一度五十八分三十秒距離百二十一間二分の兩點に居留地境界石埋伏アリ

書

大槻盤溪の書（軸）一幅　東京市麴町區有樂町一ノ三　大武丈夫
　嘉延元年新見豐前守正興が正使としてアメリカに派遣せられしときの詩

杉田玄白の書（軸）一幅　東京市小石川區關口台町　吳秀三
　八十歳の時の書、九幸と署名、縱三尺二寸五分、横一尺一寸

同（軸）一幅　高岡市公園　市立圖書館
　文化元年七十九歳の書、九幸と署名、縱三尺五寸五分、横一尺二寸

坪井信道の書（軸）一幅　東京市　吳秀三
　泳闌（世人稱西洋醫方爲蘭方故有此作）の題辭あり、信道は蘭醫、美濃池田の人、宇田川玄眞の門に入り西洋醫術を學び江戸深川に開業す、貧者を恤むこと甚し、後長州侯の侍醫となり三百石を食む、嘉永元年十一月五十四にて歿す。

重豪公筆ローマ字　一枚　東京市外大崎町下大崎　島津公爵家
　薩州第二十五代藩主島津重豪公夙に長崎より蘭學者を招聘して蘭語を學ぶ。本書は公の手筆にして『君が代』及び『長生殿の裡には春秋富めり、不老門の前には日月遲し』と書かれたり（仙花紙一枚大）

辻蘭堂蘭諺（軸）一幅　長崎市松枝町一〇　小川水路
　京都の蘭學開拓者辻章從（蘭堂と號す）蘭字、印章も蘭字、縱一尺三分、横一尺五分

奥平公蘭書　一枚　下關市阿彌陀寺町　伊藤醇
　九州中津藩主奥平公が甲比丹ブロンホーフに面會せし時ブロンホーフの書きたる文書（西洋紙一枚）

大黑屋幸太夫のロシヤ文字　一枚　千葉縣古河　鷹見久太郎
　ロシヤのアルファベットの外に署名らしきものあり光太夫六十三歳の書とあり幸太夫（又光太夫）は勢州龜山領の漁夫、神昌丸に乘り十七人の乘組員と共に天明二年（一七八二年）島羽を發し駿河沖にて暴風に逢ひアリウシヤン群島に漂着、露都に送られカタリナ女帝に謁し、一七九二年（寛政四年）送られて日本に歸る

日本人の書いたロシヤ文　二枚　東京市外代々幡町代々木四七六　志賀富士男
　四寸五分に七寸の洋紙手帳にロシア語を鉛筆にて記し、其上を更にペンにて撫でたり、古きもの

方位の横文字　一枚　東京市小石川區林町　和田千吉
　東西南北（英文）を一枚の半紙に書したるもの

歐文「古梅園」其他　三枚　奈良市樂井町四一六　古梅園
　元文四年奈良古梅園六代の主松井元泰が長崎在留中奉行所に願出で阿蘭陀人の筆書を乞ひ同奉行を經て下附を受けしもの、ローマ字にて「古梅園」の三字と甲比丹トーマス・ハンレイの署名

伊藤圭介四字一行（軸）一幅　名古屋市船入町一ノ八　安藤次郎
　『山林清福』の四文字を書す

佐久間象山の詩（軸）一幅　山形縣飽海郡高瀬村　石垣吉六郎

同　長歌（軸）一幅　神奈川縣鎌倉坂の下　川路柳虹
　憂國の情を披瀝したるものを川路聖謨に贈りしもの

同　書（軸）一幅　同
　佐久間象山が川路聖謨の事蹟を贊したるもの

高野長英眞蹟（軸）二幅　東京市麻布櫻田町　後藤伯爵家
　隸書にし七絕を書す「題雪」「題畫」の對幅

松平春岳書（軸）一幅　東京市牛込區新小川町二　白井光太郎
　ローマ字あり、詩あり、歌あり、俳句あり、都々逸あり、畫あり、半折

川路聖謨臨終の述懷（軸）一幅　神奈川縣　川路柳虹

藤田東湖七律（軸）一幅　同
　東湖が特に川路聖謨の爲に贈りしもの

大村益二郎蘭書（軸）一幅　山口縣山口町　縣立教育博物館

橫一尺二寸、縱八寸五分のもの二枚續き、大村永敏（益二郎）が青年時代蘭學研究の爲蘭學字書を紮方洪庵より借受け書寫せるものにて、當時永敏は字書を三部書寫し一部は自分の所有とし、一部は之れを賣りて筆墨料に供し、一部は洪庵に贈りしといふ

箕作阮甫書（軸）一幅　東京市　吳秀三

安藤對馬守書（軸）一幅　東京市外日暮里渡邊町　長野草風

原南陽の書（軸）一幅　東京市外日暮里渡邊町一〇四〇　大村正夫
　南陽は水戸侯の醫、名は昌克、字は子柔、玄輿と稱す、理論よりも實際家、文政三年六十八にて卒す叢桂偶記その他著書多し

華岡青洲の書（軸）一幅　同
　醫家、名は震、字は伯行、號は隨軒、紀州の人「蘭法をいふものは理論に走り漢法に糊しきものはその理論曖昧なり、共に治療の完全なるものといふべからず」と諸家の法を折衷して一家を立て衆望を得たり、天保六年七十六を以て卒す

筒井政憲書（軸）一幅　伊豆下田　村松春水
　幕末の外交家、嘉永年間川路聖謨と共に下田に在任中揮毫して下田町の名主に與へしもの、安政六年八十二の高齢を以て卒す

勝海舟の書（軸）一幅　東京市麻布笄町七九　木村浩吉
　海舟の所感を述べた詩の大幅

泛太洋舊作の書（軸）一幅　江田島　海軍兵學校
　芥舟木村攝津守筆、太平洋を咸臨丸にて航行中の感懷を叙したるもの

福澤諭吉詩（軸）一幅　滋賀縣蒲生郡島村大字圓山　西川嘉右衛門

伊藤博文書（軸）一幅　山形縣　石垣吉六郎

井伊直弼筆短冊　一枚　神戸市山本通五ノ一八　宇野朝一
　『春あさみ野中の清水氷居てそこの心を汲む人そなき湖露軒』櫻田門外事件の直前に下し置かれし短冊なり云々と舊藏者彦根藩林立守の添書あり

土方久元二行の詩（軸）一幅　京都　市薪小路西洞院町西入　高橋姓鑑

新聞

フランクレスリー繪入新聞 四冊　東京市麴町區三年町　維新史料編纂事務局
萬延元年遣米使節新見豐前守一行に關する記事と挿畫滿載

ハーパース週刊新聞 同 三冊　同

ポンチ繪日本 一部　松江市東茶町一九地　桑原羊次郎
一八七二年横濱發行、美濃紙片面木版刷十四枚、歐文

幕末讀賣雜集 一冊　東京市　維新史料編纂事務局

海外新聞 一冊　同
文久二年八月發行第一號より第五號まで合本

新聞拔萃書 一冊　宇和島市丸ノ内　桑折直
慶應二年英艦宇和島入港當時のもの

萬國新聞紙 三冊　神奈川縣鎌倉扱の下二三　川路柳虹
英國教師ベーリー編慶應三年三、五、六月分半紙木版毎號二十枚、横濱八十三番發兌、定價四百銅

中外新聞 一冊　東京市　維新史料編纂事務局
慶應四年三月發行第一號より第七號迄合本

同 (外篇) 一冊　同
慶應四年四月發行第一號より第十二號迄合本

崎陽雜報 一冊　長崎市本紙屋町五八　津田繁二
明治元年致遠閣發兌半紙木活

名古屋新聞 一冊　名古屋市中區小林町一二　富田新之助
明治四年十一月發行第一、二號並に第三號附錄

假名書新聞 一冊　同
明治六年三月發行第十號

長崎新聞 一冊　長崎市　津田繁二
明治六年長崎新塾活版局發行半紙、銅版活字

同 一冊　同
明治七年長崎新塾活版所發行、四號活字版日本紙

同 三冊　同
明治八年新聞局發行、西洋紙四號活字版

西海新聞 一冊　同
(長崎新聞改題)明治九年以文會社發行、西洋紙四號活字版

長崎自由新聞 四冊　同
(西海新聞改題)明治十年西海社發行、日本紙五號活字版

東京日々新聞其他綴込 十二枚　福井市江戸下町一六　山本匡輔
明治五、七年

謄寫版の新聞 二冊　今治市　市立明德圖書館
フールスカップ形、今より約四十年前桑港にて日本人が發行せし新聞、該紙は謄寫版か米國にて發明せられしより間もなき時代

天保快擧新聞切拔綴 二冊　山形縣飽海郡高瀨村　石垣吉六郎

版畫錦繪類

天球及地球圖 三枚　京都帝國大學　附屬圖書館
司馬江漢著、寛政二年刊、銅版

月及太陽の表面圖 一枚　千葉縣古河　鷹見久太郎
銅版畫、二面

同 凹凸堂中屋伊三郎刻 二枚　大阪市西成區粉濱東之町三丁目一二　森繁夫

玄々堂版畫帖 三十一枚貼附のもの 三帖　千葉縣　鷹見久太郎

同 一帖　京都市三條通柳馬場東入　杉浦三郎兵衛
玄々堂刀刻の銅版畫三十枚をあつめた冊子

動物銅版畫 三枚　東京市小石川區林町　和田千吉

銅版畫集 一帖　千葉縣　鷹見久太郎
外國の銅版集、中に川原慶賀筆、同蘆谷調刻とある長崎の木版一葉あり、「崎陽稻荷嶽眺望の圖」と題し蘭館、唐館、港内に和蘭船數隻碇泊の樣子等を畫く

のぞき繪銅版畫 四枚　大阪市中之島　大阪府立圖書館
「天明丁未秋九月日本創製司馬江漢畫並刻」とあり(一)兩國橋(二)廣尾遊父茶屋(三)三圍之景(四)中洲夕涼の四枚にて縱八寸五分横一尺二寸五分銅版の上へ毛筆にて彩色せり、文字は逆なり

ドイツ銅版畫本 一冊　大阪市住吉區長狹町七　田中主水

四十二國人物圖 一枚　京都帝國大學文學部　國史研究室
正保長崎版畫

各國人物の圖 (軸) 一幅　長崎市爐粕町　縣立長崎圖書館
正保二年長崎木版刷、毛筆彩色、縱四尺三寸横一尺九寸

萬國人物圖會 一枚　津市外千歲山莊　川喜田久太夫

世界萬國日本より海上里數 よ一枚　大阪市東區森ノ宮西ノ町六四七　布施庄太郎
天保年間の版畫、圖中各國の風俗を揭ぐ

朝鮮八道之圖 一枚　名古屋市中區小林町　富田新之助
天明五年林子平刻

バタビヤ城圖 二枚　東京市外巢鴨町松侘　松浦伯爵家
各縱一尺五寸、横一尺六寸、古銅版、一六一九年和蘭はその印度領地の政廳をバタビヤに移しクーン總督城を築きカラパと呼べり、後爪哇人攻めてこれを奪取しジャガタラと改稱(咬嚼吧)す

ゼーランヂヤ城市之圖 一枚　台灣　台灣總督府圖書館
蘭人が「タイオワン」島上に城市を營み通商貿易の要津とせり、その城砦の成りしは一六三〇年にして「ゼーランヂヤ」と稱し支那人はこれを赤嵌城または台灣城と呼べり、その地今の台南市郊外安平に當り地形著しく變化したれど城趾なほ存し現に構築の一部を見ることを得、本圖はゼーランド學術協會の所藏に係る當時の見取圖を縮刷したるものにて石版畫なり

同城趾平面圖 一枚　台灣總督府　栗山技師
本圖はゼーランヂヤ城趾の最近の狀況を示せるもの(實寫眞)

日本畫及古地圖 (軸) 一幅　東京市外日暮里町旭町一丁目　大槻茂雄
和蘭銅版、モンタヌス中にあるものに似たり、縱二尺三寸、横二尺五分

蠻船圖繪 一冊　大阪市住吉區長狹通七　田中主水
崎陽紫雲英藏版

阿蘭陀船圖說 (軸) 一幅　京都帝國大學　附屬圖書館
林子平著寛政二年版

和蘭船 (谷文晁畫版畫) (軸) 一幅　東京市　大槻茂雄

阿蘭陀船之圖 一枚　堺市熊野町西二丁　森下文造

同 (軸) 林子平筆木版畫、大軸 一幅　福井市　福井市立圖書館

同 (軸) 長崎版 一幅　京都市吉田神樂丘三　柳宗悅

同　版畫　二枚　長崎市西濱町　栗岡なみ

蘭船四雙入津圖　一枚　大阪市東區内久寶寺町三丁目　今城梅吉
長崎文錦堂版大板

阿蘭陀入船圖　着色長崎版　一枚　東京市上野公園　帝國圖書館

阿蘭奇器圖　九枚　神戸市上筒井　神戸商業大學附屬圖書館
船その他の寫圖

和蘭官軍の服色及軍裝略圖　一冊　大阪市南區八幡筋玉屋町　杉本要
山脇正民譯講武塾版、安政五年木版色刷

帆船之圖　二枚　堺市寺地町東二丁三四地　池田長次郎

ヲロシヤ國船之略圖　一枚　堺市神明町東一丁　高林善次郎
安政元年九月十八日大阪川口天保山より一里半餘の沖合に露艦ダイアナ（プーチヤチン）來航の圖

同　同（額入）　一面　大阪市　布施庄太郎

同　同　長崎版　一枚　東京市　帝國圖書館

魯西亞船之圖　一枚　大阪市東區内淡路町二丁目三〇　山田寅次郎
文錦堂版

同　木版小形三色　一枚　京都市　杉浦三郎兵衛

おろしや船天保山入港の圖　一枚　府下濱寺公園前　矢野浩人

摂津大阪異國船御固之圖　一枚　同

異船舶來之圖　一板　東京市麴町區三年町　維新史料編纂事務局
同上、嘉永七年（安政元年）九月印行

異國船上陸之圖　一枚　大阪市浪速區東國屋町二丁目二　角野清太郎

黑船之圖　版畫　一枚　堺市材木町　金田新平

異國船其他版畫　四枚　堺市甲斐町三　北之間墨香堂

エンペロル獻上式圖　一枚　長崎高等商業學校　武藤長藏
安政五年修訂日英條約調印の日即ち安政五年七月十八日（一八五八年八月二十六日）品川沖において快遊船「エンペロル」を英國ビクトリア女皇の名において時の將軍に獻上式の圖なり。その日は恰も女皇の皇婿アルベルト親王誕辰の佳節なりしかば英使の率ひたる英艦は旗飾して規定の祝砲を發射せしことこの繪に明かなり。（石版着色額入）

軍船、役人之圖　天保年間　一枚　堺市神明町東一丁　高林善次郎

富士の卷狩陣取密圖　一枚　堺市瓦町一五九　上田卯一
嘉永七年外船來船の時大阪灣警備の配置を示したる色刷の版畫、縱一尺二寸五分、横一尺七寸五分

菱垣新綿番船　一冊　東京市　維新史料編纂事務局
川口出帆の圖繪、廣應頃、芳雪筆

舊諸藩士固の錦繪　三枚一冊　同
米船渡來時、東洲勝月筆、明治二十二年九月刊行

海陸御台場圖　一枚　新潟縣柏崎町本町　吉田正太郎
御固大名御役人附

十一ケ國御固圖　一枚　大阪市　山田貫次郎

海陸御固泰平鑑　その他一枚刷　十枚大阪府高槻町　藪重孝

海陸御固場所附繪圖　一枚　奈良縣郡山町字鹽　三木忠方
豆州相州へ外艦渡來の際の一枚刷彩色版畫

張込帖　三冊　津市　川喜田久太夫
海外御固行列圖その他

海陸御固御役人附　一枚　金澤市古寺町四〇　田中清次

神名川横濱新開港　一枚　横濱市野手山市立圖書館内　横濱市史編纂係
錦繪、萬延元年版

五國異人横濱上陸圖　一帖　東京市　維新史料編纂事務局
錦繪、一川芳員筆

アメリカ獻上品　一枚　神戸市　神戸商業大學附屬圖書館
嘉永七年ペルリの將軍へ獻上品目一枚刷木版

亞墨利加贈答夢之記　一冊　堺市　北之間墨香堂

御貿易場の圖　一枚　堺市　高林善次郎
安政年間、神奈川、横濱開港場と米、魯、英、佛、蘭（版畫）

神洲泰平鑑　一枚　堺市　北之間墨香堂

神奈川横濱太平餘樂　一帖　横濱市　横濱市史編纂係
文久元年版

不開港場規則　一枚　堺市材木町東一丁一一　谷澤百太郎
幕末開港當時の難船救助心得方條目、木版

訪米航海の圖（複製）一枚　江田島　海軍兵學校
咸臨丸乘組運用方鈴木勇次郎の描きし木村浩吉氏所藏咸臨丸航海圖の複製

合衆國人物眞圖其他　墨摺　八枚　新潟縣柏崎町本町　吉田正太郎

錦繪　ペルリ像其他　四枚　同

同　外國人、芳員、芳虎筆　十八枚　神戸市　神戸商業大學附屬圖書館

同　ロンドンその他　廿三枚　大阪市港區五條通二ノ二九　鹿島傳藏

同　廿七枚　東京市日比谷公園内　日比谷圖書館

同　六枚　京都市紫野　大德寺瑞峰院

同　繪葉書の圖其他　八枚　大阪市西區幸町一丁目三　田村政美

同　七枚　山形縣飽海郡高瀬村菅野　石垣吉六郎
横濱吉田橋より馬車道その他

同　横濱郵便局開業の圖　三枚　大阪市　角野清太郎

同　安政年間芳幾畫、五ケ國酒盛の圖　一枚　堺市　高林善次郎

同　一枚　東京市　維新史料編纂事務局
横濱港崎廓岩龜樓外人遊興一川芳員筆

調練其他圖　三枚　堺市　高林善次郎

英吉利人遊行圖　横濱絵其他　七枚　堺市少林寺町東一丁　前田文林

廣重人物錦繪　一枚　堺市中之町　耳市松

浮世繪　芳幾畫寫眞鏡其他　七枚　濱松市田町　内田六郎

同　芳員筆洋館及黑船　四枚　堺市　同

同　貞秀畫横濱異人商館その他　十九枚　同

萬國旗章　一帖　大阪市　杉本要
明治五年版彩色木版一枚刷

萬國一般御交通の文　一枚　堺市懸屋町東二丁　堀井久吉
保泉河商社

女官洋服裁縫圖錦繪　三枚　堺市向陽町八〇ノ一　鷲見東一
明治二十年八月版

大阪川口電信局の畫　一枚　東京市　和田千吉

泰平武備双六　一枚　同

維新前後諷刺畫集　一冊　東京市　維新史料編纂事務局

三圍の圖　江漢銅版畫　一枚　千葉縣　鷹見久太郎

象の畫　二枚　同
文化十年長崎に來た象の彩色木版畫

天竺人横濱にて輕業の圖　一枚　堺市　北之問墨香堂

唐人曲藝の圖　一枚　堺市寺地町西一丁　土庵清平

どうけ三十六歌仙　二枚　東京市　和田千吉

南京における陶器の塔　一枚　東京市外東覆布町鵜ノ木　吉田小五郎

汽車の瓦版畫　一枚　東京市　和田千吉

獨艦外郭機械其他の圖　八枚　大阪市西區南堀江通二丁目　濱田瓢伯

淀川蒸汽盛大丸其他圖繪　廿九枚　京都市　杉浦三郎兵衛

函館遊廓遊女屋細見　一枚　函館市　市立函館圖書館
元治元年開港地としての函館の遊廓の名醫にして茶屋の名稱、數等をあらはす
男藝者と女藝者といふ名稱が此の邊鄙の地に殘りをれり、木版

蘭人饗宴圖　一枚　京都市　杉浦三郎兵衛
林子本刻、長崎版畫

泉州堺港新地繁榮之圖　一枚　堺市瓦町二五九　上田卯一
小形の彩色圖

長崎版畫　五枚　堺市　金田新平
オランダ婦人、軍人、黑坊、唐船等の繪、木版

同　錦繪長崎版畫　八枚　大阪市　杉本要

同　一枚　堺市熊野西町二丁　森下文遥

寫眞

ルイス墓　一枚　堺市宿屋町東三丁二六　本受寺
堺本受寺に在るルイス西の墓

繪はがき數種　堺市南旅籠町東三丁　大安禪寺
呂宋助左衛門蓍邸其他。呂宋助左衛門は堺の貿易家、琉球より呂宋に渡り文祿三年(一五九四年)傘、蠟燭、麝香を持歸り秀吉に獻じ更に眞鍮五十懸を獻じて帶代金を賜り巨利を博し傲奢なる生活をなし遂に秀吉の忌諱にふれ一家沒落居宅を大安寺に寄進し慶長十二年東埔寨に渡りて歿す

具足屋治兵衛の墓　一枚　堺市七道東町　柳原吉兵衛
安南プエーフオーにあるもの(別に右墓について外務省よりの通知狀添)

安南と交通時を偲ぶ寫眞　三枚　同

吉雄耕牛畫像　一枚　名古屋市西區船入町一　安藤次郎
荒木如元畫、原圖は名古屋市吉雄常一氏所藏

二宮敬作遺品　一枚　東京市外代々幡町代々木　志賀富士男
コツプ、刀、短冊等、二宮はシーボルトの高弟なり

大槻磐溪　一枚　東京市外日暮里町旭町一丁目　大槻茂雄
硝子寫し箱入、文久元年門下生の佐賀川崎道民が歐洲より歸り習得せる寫眞術によつて硝子寫しにせしもの、時に磐溪の年六十一、裃端坐の姿

寫眞帳　一冊　大阪市南久左衛門町　緒方銈次郎
緒方法庵遺品の内

法橋春育像　東京市小石川區關口台町　吳秀三

高良齋の肖像畫　一枚　同
蘭醫、名は淡、子は事清、輝淵と號す、德島の藩士

高錦國の肖像畫　一枚　同

高橋景保の墓　一枚　同
シーボルト追放事件に關し所刑されたる幕府天文方

三瀨諸淵　一枚　愛媛縣喜多郡大洲町鐵砲町　三瀨彦之進
明治四年三十三歳の時大阪高麗橋中村寫眞館にて撮影、著用の洋服は明治初年遠く巴里に注文して調製せしめたるもの

橋本曇齋　一面　大阪市北區堂島中二丁目　電氣倶樂部
畫像を寫眞にせしもの(嶺入)宗吉は大阪の蘭學者、名は鄭、絲漢堂、また曇齋と號す、父の業を習ふて傘の紋書きをなしゐたるが性極めて敏俊、天明年中大阪の醫小石元俊が漢法より蘭法に移りたるもたゞ譯書によるのみにて歐文を解せず、宗吉に資を給して江戸に送り大槻磐水について蘭學を研究せしむ、宗吉歳餘にして大阪に歸り蘭法醫となり蘭書の譯譯に努め近畿中國の志士相踵いでその門下となり東都の宇田川玄眞と並び稱せられたり、初め北堀江にあり次で鹽町に移り更に本町に移り天保七年五月朔年七十四にて歿す、一説に京都の切支丹婆の件に連累の疑ひをうけ大鹽平八郎に捕はれ文政十二年十一月磔刑に處せらると

小石元俊行狀　大阪堂ビル内、オーム社　浪岡具雄
「大愚行狀」に山陽が加筆せしものにて元俊が橋本宗吉を引立て大成せしめたる事情を明かにせり、この部分を寫眞とす、原本は京都小石暢太郎氏所藏

子宮部譯稿　同
橋本宗吉が小石の命を受け飜譯せし『把而翁産解剖書子宮部譯稿』の一部寫眞にして宗吉の筆蹟を知る唯一のもの、原本は同上小石氏所藏

泉州熊取谷中邸の松　同
橋本宗吉が電氣に關する實驗をなし『エレキテル究理原』を著さんとするに際しその業を助けて雷の電氣なることの實證を得たる記念の松の木

橋本宗吉墓　同
橋本曇齋會の手によつて最近上本町四丁目念佛寺に建立されしもの

平賀源内肖像　同
木村默老著「戲作者考」の挿畫

橋本宗吉遺著　同

宗門の著譯は西洋醫事集成寶函その他約十二種二百卷の多きに上るも現在せるものは四種四十三卷(二十三冊)なり

ペルリ將來電信機 同
大機發溪の寫生せしめたるものゝ寫眞

代島剛平肖像 一枚 函館市 函館圖書館
安政元年ペルリ渡來當時函館の町方取締役たりき

蛯子砥平肖像 一枚 同
函館の名主、元治元年支那貿易を振興のため上海に赴く、その時の撮影

松前崇廣肖像 一枚 同
松前藩主、元治元年老中並に海陸軍總裁となり長州征伐に當る

蛯子末次郎肖像 一枚 同
函館奉行所にて貿易振興に努力せし人

井伊掃部守直弼肖像 一枚 大阪市住吉區長狹町七 田中主水
(木像の寫眞)

川路聖謨 一枚 神奈川縣鎌倉坂の下三 川路柳虹
露使プーチヤチン提督幕下の一畫家モウサイスニイに描かしめて贈られし聖謨の肖像の寫眞。始め寫眞(碓子板寫)を撮りしも紙燒なき當時故、露使その寫眞を懇望せる代りに畫家をして寫眞の原板を敷寫しになさしめたるため『左り前』となり居れり。安政二年のことなり(根岡人)

寫眞ブツク 一冊 下關市阿彌寺町 伊藤醇
阪本龍馬の長崎士產寫眞

維新元勳寫眞帖 一冊 神戸市海岸通一丁目 エツチ・ゼー・グリフキス
維新の元勳その他風景寫眞等(すべて手札形)二百九十六枚張附け

森有禮、大久保利通 二枚 松江市東茶町一九地 桑原半次郎
ワシントンにて撮影せしもの

遣米使節新見豐前守一行 一枚 江田島 海軍兵學校
萬延元年遣米使節新見豐前守一行が華盛頓に於て撮影したゝものゝ複寫

木村芥舟翁の寫眞 一額 同
木村芥舟(勘津守)は帝國海軍の先達にして長崎傳習所を經て御軍艦奉行となり萬延元年咸臨丸渡米に際してはよく其使命を果し且つ前後未曾有の長途の航海に成功し我が海軍發展の礎石を置けり、この寫眞は翁の晩年を菁野敬三郎氏(元海軍教授)の撮影せしもの

文久二年遣歐使節一行 廿五枚 東京市外上大崎二九一 花房子爵家
正使竹內下野守、副使松平石見守以下パリにて撮影、本人の署名あり、何れも全紙大、褪色せず。因に一行の氏名は次の如し
【正使】御勘定奉行外國奉行竹內下野守【副使】神奈川奉行、松平石見守【觀察使】御目付京極能登守(以下肩書を省略す)柴田貞太郎、森山多吉郎、日高圭三郎、淵邊德藏、福田作太郎、水品榮太郎、岡崎勝左衛門、益頭駿次郎、上田友助、森鈔太郎、高松彥三郎、山田八郎、高島祐啓、河崎道眠、齋藤大之進、松木弘庵、箕作秋坪、福地源一郎、立廣作、太田源三郎、福澤諭吉、高間應輔、長尾條介、野澤伊久太、市川渡、岩崎豐太央、黑澤新石衛門、長持五郎次、原一濟、岡鹿之助、石黑貫一、佐野鼎、佐藤恒藏、杉德助、土兵衛＝＝文久元年十二月二十二日軍艦オーデン號へ乘組、二十九日長崎、文久二年正月六日香港、十九日新嘉坡、三月六日マルセイユ、九日パリ着、十五日奈翁三世に謁見せり

文久三年遣歐使節一行 卅四枚 大阪市西成區千本通二 池田長堅
文久三年池田筑後守一行は第三回目の遣外使節として佛國に派遣され、鎖港の談判を行はんとしたるが派遣中に形勢は一變し使節は使命とは反對の開港論者となり秘密條約まで締結して歸り幕府當局を驚かしめたり、寫眞はパリにて撮影せるもの

同 二冊 同
文久三年遣佛使節副使河野伊豆守以下隨員寫眞帳八ツ切寫眞四十八枚、パリーにて撮影せるもの、ブツクも佛國製、

林儀助、同忠太郎 二枚 函館市 市立函館圖書館
元治元年露國領事館にて撮影の濕板

高野長英隱棲の座敷 一枚 東京市 志賀富士男
伊豫國卯之町に在りしシーボルトの弟子二宮敬作の部屋二階

薩藩最初の留學生 三枚 東京市外大崎町下大崎 島津公爵家

寶 名 町 田 民 部(久成) 二十八歳 上野良太郎 年 變 名
博物館長
大學南校々長 畠山丈之助(義成) 二十三歳 杉浦弘藏
町田清藏 十五歳 清水兼次郎
磯永彥助 十四歳 長澤鼎
文部大臣 森金之丞(有禮) 二十一歳 澤井鐵馬
町田申四郎 十五歳 鹽田禮之丞
海軍中將男爵 二十四歳 松村淳藏
市來勘十郎 二十一歳 山本幾馬
町田猛彥 永井五百助
全權公使子爵 吉田己次(清成) 村橋直衛 高見彌一 田中靜洲 鮫島清藏 全權公使 東郷愛之進 中村宗見(博愛) 名越平馬 二十四歳 吉野清左衛門 十九歳 三笠政之介 計 十五名

外ニ同行者

外務大臣 松木弘庵(寺島宗則)
五代才助(友厚)
新納刑部(久修)
出水泉藏
關研藏
石垣銳之助

【慶應元年三月二十日薩摩串木野郷羽島を出帆す】

幕末名士その他 百廿五枚 京都市二條寺町東入 中川忠三郎

佐藤政養先生の肖像 一枚 山形縣飽海郡高瀨村 石垣吉六郎
日本鐵道之開祖、コロタイプ版

海軍兵學寮 一面 江田島 海軍兵學校
海軍兵學校は安政二年長崎における海軍傳習所の創設を發端とし明治二年九月東京築地安藝藩內海軍操練所を前身とし翌年海軍兵學寮と改稱す。この寫眞は明治四年の建築に係る兵學寮舍にして東京における洋風建築の嚆矢(額入)

海軍兵學寮雇外人教師一行 一面 同
明治初年海軍兵學寮において外人雇教師一行を撮影したるもの(額入)

同職員生徒寫眞 一面 同
明治五年ごろの撮影(額入)

長崎寫眞帖 一冊 長崎市西濱町 栗岡なみ
明治初年の長崎港外、風俗その他四切三十六枚

英司令官の墓石 一枚 長崎市高等商業學校 武藤長藏
我國に最初即ち一六一三年(慶長十八年)渡來平戶に商館を設くることを約したる英艦クローブ號の艦長たりし「ジョン、セーリス」の墓石の寫眞なり。墓石の上部に刻まれたる紋章はセーリス自身及彼の妻の家紋なりと云ふ

シーボルト 一枚 大阪市東區大手町二 小山垣男
手札形鶏卵紙ぼかし燒、軍醫服姿

同 額入(明延し) 一 長崎市爆粕町 長崎圖書館

同 二枚 東京市 吳秀三

シーボルトの息 アレキサンダー 一枚 同

シーボルトの娘 一枚 同

シーボルトの戲畫 一枚 同

シーボルトの父の名譽章 一枚 同

シーボルトの日本のタイトル 一枚 同

シーボルトの記念碑 一枚 同

シーボルト館 二枚 同

鳴瀧 シーボルト長崎の住宅寫眞 一枚 同

シーボルト將來の器械 一枚 同

ケスペルトヘムミの墳 二枚 同

ポンペ 一面　長崎市　縣立長崎圖書館長

ポンペ、フアン、メールデルフオールド（八為幸吉博士寄附）ポンペは和蘭の貴族にして軍醫、一八五六年（安政三年）八月長崎に來る、松本良順等幕命によりついて學べり、安政五年コレラ流行の際にはその豫防法を奉行所に提出し奉行所は一般にこれを公布しその蔓延を防ぐを得たり（圖像參照）

カツター 一枚　東京市外代々幡町代々木　志賀富士男

中版大、半身像、カツターは新渡戸稻造氏らに英語を教授、明治文化に貢獻せし米人の醫師

グリフイス 一枚　同

手札形半身像、明治文化に貢獻せし人

モールス 一枚　同

モールスは初期東京大學の教授たりし人にて明治の文化に貢獻多し

ジヨンウイル 一枚　函館市　函館圖書館

英人ブレキストン商會の船長として文久元年より函館に在りき

ニコラス大主教 一枚　同

文久元年函館に來りしロシアのニコライ大主教、渡來當時の寫眞

テ、ダブリユー、ブレキストン 一枚　同

英國陸軍大尉、文久元年函館に來りブレキストン商會を開き支那及ロシアとの貿易を開始す

船匠トムソン 一枚　同

英人、函館に造船所を開きし人

カール、ヨハン、マキシモウキイチ 一枚　同

萬延元年函館に來りしロシヤ人、函館附近の植物研究などをしたる科學者

アレキサレドル、ポーポー、ポーター 一枚　同

函館開港後まもなく來りし英人、函館港長に任ぜられたることあり

モライエスと柳原氏 一枚　堺市　柳原吉兵衛

三十餘年間日本に在りて日葡親善に盡したる前神戸駐劄葡國領事モライエス氏と其足羅治兵衛の未裔柳原吉兵衛氏との會見（昭和三年五月）

ペルリ一行の撮影 一枚　函館市　函館圖書館

安政元年渡來の米使一行が函館實行寺にて撮影せるもの松前の家老松前勘解由等うつりをれり

グラント將軍の肖像と自署 二枚　長崎市櫻町　長崎市役所

一八七九年（明治十二年）六月二十二日長崎にて知事內海忠勝の乞により長崎公園に植樹せし時の記念文を記す

最初のドイツ公使フオン、ブラント 二枚　東京市麴町區　ドイツ大使館

最初のドイツ公使館員 一枚　同

長崎屏風（八曲）一双　長崎市西山田　富貴樓　內田榮四郎

元祿時代長崎諏訪神社の神事と大波止限宮前の神事師を極彩色にて描けるもの奉行、紅毛人、蘭人、唐人等見物せり、屏風の高さ六尺八寸八曲一双

久能山東照宮寶物置時計 二枚　靜岡縣安倍郡久能村　東照宮社務所

一五八一年西班牙マドリッド、ロニハンス製造の彫刻あり、日本に傳來現存せる時計中最古のもの（國寶）にして德川家康の用ひしものと傳へらる。その頃新イスパニヤより家康への獻品目錄中に「斗景一ケ」とあり右の時計にあらざるかともいふ（異國日記慶長十七年六月二十日の條。大日本史料第十二編の九第九五九頁參照）

平賀源內製作起電機其他 九枚　東京市麴町區富士見町五　澁信博物館

平賀源內著放屁論の中にこの起電機に關する文あり

西班牙商船の入津許可狀 二枚　仙台東北帝國大學　木下杢太郎

慶長十五年德川秀忠より西班牙國王に贈りし通商許可狀にして西班牙セビイヤ印度文書館に在り、本文左の如し

（本文）　日本國征夷將軍　源秀忠

ゑすはんや國主　とうきいていれるま机下

のひすはんやより至本邦商船可令渡海之由前呂宋國王被申贈候旨域之地爲何之津湊着岸之儀不可有異儀候隨而鎧五兩相送之案曲仔天連ふらいあねんそむえ

よすふらいるいすそてろ可申候也

慶長十五長五月四日　とうけいていれるまより

ゑすはんや

のひさはんやより日本に黑船方可渡由前呂宋國王ら申越候於日本何之湊隱而着岸少も諫慮在之間敷候委細此仔天連ふらいるいすそてろ可申候

慶長十四年十二月廿八日

吉雄家學免許狀 二枚　名古屋市　安藤次郎

天明三年正月野村立榮宛のもの、署名に阿蘭陀譯官吉雄幸作永章とあり、原本は東京吳秀三博士所藏

米船江戶灣入出港圖 二枚　東京　海軍省

弘化三年七月二十日米國海軍提督ビツドルは「コロンブス」「ヴインセンス」の二艦を率ひて江戶灣に入港した（ペリル來航より七年前）寫眞の原畫はコロンブス一乘員の描けるもの

蝦夷人種痘の畫 一枚　東京市　吳秀三

ゾルフ大使手紙 吳博士寄　一枚　同

咸臨丸桑港入港當時の新聞記事 一面　江田島　海軍兵學校

一八六〇年二月十九日發行米國新聞の咸臨丸に關する記事の寫眞、もと桑港圖書館に在りしもの各自武練習艦隊司令官を經て本學校に寄贈せるもの（額入）

京都博覽會寫眞帖 明治八年　一册　京都市岡崎町　京都博覽會協會

七條停車場其他 六枚　同

久上丸と順動丸 二枚　堺市　柳原吉兵衛

文久三年四月德川十四代將軍家茂が大阪灣沿岸巡察の際堺港港外において乘船したる汽船順動丸、當日の艀船として用命ありし具足屋所有の久上丸、久上丸は後に天下丸と稱せらる

韮山の反射爐 一面　東京市九段　遊就館

相州韮山の代官江川太郎左衛門（坦菴）は有名なる砲術家かなり、嘉永六年韮山附近中村に大反射爐を設け盛に大砲を鑄造せり、今なほ史蹟として陸軍省の手にて補修を加へ保存せらる（額入大）

英艦馬關攻擊圖 二卷　東京市外上目黑　松平（康春）子爵家

元治元年八月五、六、七、八日英、蘭、佛、米の聯合艦隊は馬關を砲擊せり

修好通商條約正本 四枚　東京市東京帝國大學內史料編纂室　中村勝麻呂

安政五年日米佛、日佛、日米、日英の分

日露和親條約正本 一枚　同

安政元年締結の分

軍艦春日丸 一枚　東京市　島津公爵家

軍艦『乾行』 一額　江田島　海軍兵學校

軍艦『乾行』は英艦「ビーグル」の後身にして進化論で有名な「ダーウキン」が南洋方面の研究に久しく乘艦として使用し、後クリミヤ戰役に參加し維新に薩藩海が英國に請ひこれを購入『乾行』と改名して函館戰爭に參加し後兵學寮の練習艦となる。一、艦種他艦。一、製造所英國「レバプール」。一、排水量五二三噸

軍艦『清輝』 一枚　同

我國最初の世界一周軍艦『清輝』は明治六年横須賀において起工し同八年三月進水せる八一七噸の砲艦なり。明治十一年海軍中佐井上良馨艦長として歐洲諸港を巡航すこれ邦艦の歐洲に至りし嚆矢なり

軍艦『東』 一枚　同

『東』は慶應三年小野友五郎氏を委員として幕府が米國より購入したるもの、原名を「ストーンウオール」といひ南北戰爭に勇名を轟かせし有名なる軍艦にして明治二年品川に到着後朝廷に納めたる我邦最初の甲鐵艦（最切二甲鐵艦）と稱し後「東」と改稱す）

帝國海軍創設時代の軍艦寫眞帖 一册　東京市　海軍省

富士山、攝津、東、千代田形、春日、龍驤、日進、孟春、鳳翔、筑波、清輝、雷電、金剛比叡（以上十四枚）

神奈川縣廳 一枚　横濱市野毛山市立圖書館內　横濱市史編纂係

燈台局 一枚　同

日本最初の紡織所 一枚　東京市　島津（忠重）公爵家

鹿兒島藩内は棉の作付少く常に他藩より供給を仰ぎたるが、藩主齊彬は帆布製織のまず〳〵必要なるを思ひ和闘より購入の水力機械による紡績所を設け自らこれを督勵し、一には農民の副業としての紡糸を盛んならしめんとしたり然るに機械力による織布の人力による織布に比してあまりに多量なりしため遂に紡絲をも他の藩より輸入せざるべからざるに至り、惹いて藩内の紡絲振はず貧窮は糊口に窮し織布場も缺損を生じたり、事を起すには始終を計較することの肝要なることを痛感し松平春嶽に「泰西の分業法に倣はんとするも我國未だこの法立たず」と嘆じたりといふ

英國技師一枚　同

島津齊彬公創設の紡績所へ傭入

商船三池丸一面　大阪市西區川口町　日本郵船會社大阪支店

三池丸（三二五瓩）は明治二十九年八月横濱發初めて太平洋を横斷シヤトルに着す（額入）

貿易品一枚　伊豆下田　鈴木吉兵衛

安政年間下田港漆器貿易品にて船型組込重

切支丹關係

＝書圖類＝

フランシス・ザベリヨ傳一册　九州帝國大學内　長沼賢海

一六〇六年ミラノ版。フランシス・ザベリヨは一五〇六年（永正三年）佛國に生る、學友ポルトガル人ゼームス・ゴウエアの進言により國王ヂヨン三世は東印度の布教に從事せしむることゝなり、一五四一年リスボンを發す（ザベリヨ時に年三十七）一五四二年五月臥亞に着、土人の教化に力め四七年麻剌加にある時日本人（彌次郎）に會ひ布教のため渡日の決心をなし種々航海の困難をなめ一五四九年（天文十八年）鹿兒島に着、島津公に謁し厚遇を受けしが佛教徒の迫害により翌年平戸に移り領主松浦鎭信に謁し更に山口、堺を經て京都に入り再び平戸に歸り、山口に至り布教、僧徒の危害を潛りぬけ豐後を經て一五五一年（天文二十年）十一月印度に向け出港難風に逢ひつゝ翌二月臥亞に安着更に暹羅に赴かんとして一五五二年四十七歲にて昇天す

同一册　同

ツルセリニ著、一六二一年版

同一册　同

『極東耶蘇教會の歷史に現はれたるザベリヨ』一六四一年ナポリ版

同一册　同

ホレーシヨ、トルセリノ著、一六一五年ミユンヘン版

同一册　神戸市海岸通一丁目　エッチ・ゼー・グリフキス

『印度各地及び日本に於て傳道者たりし基督教徒フランシス、サベリヨの生涯』佛人ドミニカ、ブバー原著、ドレスデン英譯、一六八八年ロンドン版

同二册　福岡市　長沼賢海

ボンノオル著、一八四〇年リオン版

ザベリヨに關する洋書　古版十種　十一册　東京市外東調布町鶴ノ木四九三　吉田小五郎

日本書翰集一册　東京市上野公園　帝國圖書館

『エピストレー、ヤパニカ』一五六九年版、一五四九年サベリヨが鹿兒島より送つた書翰等貴重文獻を包容せり

同一册　仙台東北帝國大學内　木下杢太郎

天正十年（一五八二年）在日本エスイト會會士長ガスパロ・コエリヨが日本より羅馬に送りし書翰の獨乙譯

同一册　同

天正十年（一五八二年）在日本エスイト會會士長ガスパロ・コエリヨが日本より羅馬に送りし書翰の獨蘭譯

同一册　東京市　帝國圖書館

『ローマ天主教徒書簡集』一五八七年、支那及日本の部、一五八八年ヴエニス版

同一册　福岡市　長沼賢海

一五九九年及一六〇一年『ブレツサンドロ、ヴアリアノ書簡集』一六〇三年ヴエネチア版

同一册　同

『日本聖教徒の殉教に關する書翰集』一六〇七年ローマ版

同一册　同

『ヂオヴアニ・ロドリゲスの書簡集』一六〇六年日本より送りたるもの、一六一〇年ローマ版

同一册　同

一六〇九年より一六一〇年に至る日本よりの天主教徒書簡集、一六一五年ローマ版

同一册　同

『日本、支那、ゴア、エシオピアより天主教會員の送りたる書翰集』一六二一年ナポリ版

同一册　長崎浦上神學校　浦川和三郎

ムシオ・ビツテレシ編『日本に於ける天主教徒の書翰集』一六一九年、一六二〇年一六二一年分、一六二四年ローマ版

同　一冊　同

ムシオ・ビッテレシ編、一六一九年、一六二〇年、一六二一年刊に一六二三年度「天主教會員書簡集」（日本主稿者の精筆すべき行狀）一六二五年アントワープ版

極東天主教會記錄　一五七三年ナポリ版　一冊　東京市　帝國圖書館

同　一五七四年版　一冊　福岡市　長沼賢海

日本殉教志　一冊　京都帝國大學　附屬圖書館

トリゴー著、一六二四年、パリー出版

聖教徒迫害記　一冊　長崎縣　浦川和三郎

ムシオ・ビッテレシ編、一六二八年、一六二九年並に一六三〇年日本における聖教徒迫害記、一六三五年アントワープ版

同　一冊　福岡市　長沼賢海

シカルドオ著、日本における聖教徒の迫害史、一六九八年マドリッド版

日本宗教志　二冊　京都帝國大學　附屬圖書館

シャールボア著、一七三六年、パリー出版

日本の聖教史　四冊　福岡市　長沼賢海

クラッセ著、一七三七年ヴェネチア版

殉教者マグネス　一冊　同

日本における殉教者、一七八三年パルマ版

宗教、風俗史　一冊　同

バニエール及びマスクリー共著、世界各國の宗教及風俗史、一七四一年パリ版

遣歐青年使節記　一冊　兵庫縣御影町　伊藤長藏

九州の切支丹大名大友宗麟（フランシスコ）大友純忠（バルトロメオ）有馬晴信（プロタースス）の三名は伴天連アレキサンドル、ワリニヤニの勸めにより、大友の從姪伊東左京亮義賓（マンショ）大村の甥千々岩清左衛門（ミカエル）を使節として西班牙、羅馬に送ることゝしこれに從者中浦（ジュリアン）原（マルチノ）を添へ、一行は天正十年一月廿八日（一五八二年）獨逸イニヤース・リマに便乘長崎出帆、喜望峰をめぐり十二年七月ポルトガルのリスボン、次でスペインのマドリッドに入り、フイリップ二世に謁し、十三年二月ローマに安着、グレゴリオ十三世に謁し、三侯の書翰を贈り、厚遇され同年五月六日ローマを立ち十八年六月二十日無事長崎に歸着した、その時のローマ側における日本使節の來朝記でローマにおいて一五八六年（天正十四年）に出版されたものである

同　同　一冊　東京市　帝國圖書館

伊太利劇場壁畫（油繪模寫）　一面　東京市　東京美術學校

イタリー、ビテエンツアのオリンピヤ劇場の壁畫に天正十三年に着いた使節伊東マンショ等の畫が描かれあり、それを寺嶋武男氏が模寫せしもの

青年使節ローマ入城壁畫寫眞　三枚　東京市芝區三田　慶應大學圖書館

同上使節ローマ入城の圖の壁畫（ヴアチカンの圖書館）の寫眞

日本使節記念碑（柏本、軸）　一幅　東京市美術學校長　正木直彦

柘本の横四尺八寸、縱二尺八寸、正木博士の記あり、次の如し

明治四十三年余英國官遊の歸途伊太利の名所舊蹟を探討して威尼斯に逗留せし折此地に日本使節沓爪の痕ありと聞き聖馬加寺の對岸聖母寺に隣接せるセミナリオ・パトリアルカーレと云へる學寮を訪れその中庭を圍める長廊の壁間に十六世紀に日本使節來朝記念の碑版を嵌入せるを見る、余は寺侶の許諾を得て柘本を作れるもの即是なり、題辭は羅甸文にして本文は伊太利文なり

文（取意）

日本國ノ名譽ヲ顯サンガ爲ニ石ニ刻シテ後ニ傳フ

日向國主ノ姪ニシテ豐後國主の使節ナル英邁且寶貴の伊東マンショ有馬侯及高貴ナルバルトロメオ（大村純忠）ノ徒弟千々岩ドンミケール並ニ肥前侯國の最濃雅ナル貴族中浦ドンジュリアノ原ドンマルチノハ地球ノ他ノ半球ノ一端ナル日本ヨリ來リテ千五百八十五年（天正十三年）七月五日ヲ以テ此ノ教院ヲ訪ヒ大德ベサリオネ教正ガ安置セシ神ノ遺物ヲ禮拜シテ渴仰ノ念ニ堪ヘズ且其君侯ト國民ノ爲に各其ノ本國ニ於テ固ク慈悲ノ名ヲ以テ教院ヲ建立センコトヲ願祈セリ依テ當院ハ莊嚴ナル儀式ヲ具ヘ各館ニ名譽ノ法衣ヲ授與シ畢ヌ、願ハクハ此功德ヲ以テ聖母ノ慈仁益廣ク光被センコトヲ歸命頂禮

千五百八十五年

明治四十三年九月二十九日拓

大正三年十二月二十日　　正木直彦識

伊達政宗遣歐使節記　一冊　福岡市　長沼賢海

一六一五年ローマ版、仙臺の藩主伊達政宗は支倉六右衛門常長及びその家臣を使節としてローマに送れり、案内役は日本語をよくするフランシスコ會の伴天連ソテロ、出發は慶長十八年（一六一三年）九月歸朝は元和六年八月（一六二〇年）大日本史料第十二編の十二に關係文書收錄（五百餘頁）しありその使節のローマ側における記錄、一六一五年ローマ版

同　一六一五年ローマ版　一冊　東京市　帝國圖書館

伊達政宗がローマ法王に贈れる書翰（模）　一通　仙台市役所

伊達政宗が使節支倉常長に託してローマ法王に贈れる書翰（表）日本文（裏）ラテン文譯、現にローマのバチカン宮殿に在り、嘗て日本にありしローマ司教が歸國の上寸分違はぬものを復製法王聽の名において仙台市に寄贈し來りしもの、横二尺三寸五分、縱九寸五分（仙台宮城圖書館保管）

同　上文筥（模）　一個　同

これも伊達宗政が右の書簡を入れて贈りし蒔繪の文筥を模して法王聽より仙台市に寄贈し來りしもの、縱一尺、横五寸、深さ二寸二分、イタリーに漆なきためエナメルを塗りあり（同上）

市民權證書　一通　東京市外大井町　伊達侯爵家

支倉六右衛門がローマのコンサルより與へられたるものにて支倉は慶長十八年伊達政宗の使者としてローマに至り元和元年無事歸國、法王の肖像その他多くの品を持歸り政宗公に獻上したるがその後吉利支丹禁制となりてこれらの將來品は伊達家の評定所に蔵まり何人にも展觀を許されず唯文化年間大槻茂質が調査し記錄したるのみにてそれも世間には祕して知らざりき、然るに明治五年岩倉公が歐洲巡視の際ローマのヴアチカン宮にて教宗の遺外使節の記念品を見て愕きこゝにはじめて伊達家にこれらの將來品あることが知れ長くも明治天皇東北御巡幸の明治九年に仙台にて天覽に供し奉り以來これらの名品は仙台にて二度展觀された以外他の地方には今回がはじめてなり

ポルトガル印度副王文書（模寫）　一枚　京都帝國大學文學部　國史研究室

ポルトガル領印度ゴア總督書狀模寫、原本は京都妙法院にあり（國寶）、豐臣秀吉に宛て基督教弘通に便宜を與へらるゝを謝し、尙ほ今後の管領を請へるものにして、天正十九年（一五九一年）正月貿敎師ヴアリニヤニが印度副王の使節として聚樂邸にて秀吉に謁し之を奉りしものなり。但し是より先き天正十五年に秀吉は基督教の禁令を發したるを以て、同年七月に返翰を出して基督教嚴禁の旨を告げ、重ねてパテレンの來るを許さざるも唯だ好を修め交易をなすことは許す旨を述べたり、本書の原本は羊皮紙にして上部の連匡は羅馬の七丘を描けるもの、縱一尺九寸、横一尺五寸（南蠻廣記四一頁參照）

同　及利譯　横寫一枚　京都市本町十六丁目　丹羽圭介

教儀問答上下（表紙寫）　二枚　仙台市　木下奎太郎

天正十四年エスハイト會長アレッサレドロ、ワリニヤニが日本人學生の爲に、教科書用に編輯した、拉丁文教儀問答上下の表紙寫、一五八六年、リスボン出版（現在リスボンの一中學に藏せられる）

切支丹修行手引　一冊　長崎市　浦川和三郎

「スピリチワル修行のために選び集むるシュクワンのマニエル」長崎イエス、コンパニヤ一六〇七年版

世界言語誌　一冊　京都帝國大學　附屬圖書館

クロード・デュレー著、一六一九年、瑞西イベルトン再刊、九一三頁より日本の「いろは」を記せるも、行を誤りローマ字にて記せる讀み方は全部間違ひをれり

ごちりなきりしたん　一冊　兵庫縣　伊藤長藏

文祿元年（一五九二年）九州天草にて發刊されたる日本最初の切支丹活字本にして半紙形二十五枚、本書はスペインに於て發見せられロンドンにおいて最近所藏者の手に歸したるもの「開國文化大觀」第二四頁に第一頁の寫眞掲出しあり

漢譯「新約聖書」　一冊　松江市東茶町一九　桑原羊次郎

同治三年（一八六四年）の出版、四寸五分に三寸、原さ三寸の洋風の書

啓蒙聖經圖記（上、下）　二冊　京都府阿波郡　綾部町中ノ町　嶺田俊雄

嶺田楓江譯自筆、新約通釋の稿本にして楓江は元治の頃本邦駐劄の英國領事閣僚士氏（後公使となる）と親交あり其の頃より基督教の宗義を味ふに至り聖書の飜譯をなせり本書は其の稿本にして出版するに至らず筐底にありたるものなり

松平直政書翰　一通　松江市　桑原羊次郎

直政は雲州松江の藩祖なり、安來村よりキリシタン教徒の出でたるとき江戸表へ通知したるもの

器物目錄略圖　一冊　東京市外澁谷町猿樂　德川侯爵家

寛政十二年六月立原吾五郎著、キリシタン用の諸器物の圖を畫けるもの

切支丹來朝記 古寫本 一册 京都市室町通中長者町 佐伯理一郎

切支丹由來記 寫本(卷一より五) 一册 同

切支丹宗門實記 一册 滋賀縣彦根町 町立彦根圖書館
上中下三部(寫本)

伊吹蓬 一册 大阪市東區北新町二ノ三五 藤田一夢
切支丹傳來記寫本

同 弘化二年寫之 一册 滋賀縣 町立彦根圖書館

同 切支丹渡來物語 一册 京都市 丹羽圭介

南蠻寺興廢記 活字本 一册 大阪市南區八幡筋玉屋町 杉本要

島原記 寛永元年山本九左衛門刊 三册 同

破提宇子 一册 京都市帝國大學 附屬圖書館
元和六年(一六二〇年)天草版、著者は加賀の禪僧惠俊、京都南蠻寺に入りて切支丹を奉じ教名をハビアンと呼べり、天正十五年(一五八七年)禁教の後西下し慶長三年(一五九八年)長崎に轉じたるが同十三四年の頃禁教の令嚴しく遂に再ひ轉宗して南部に隱れ元和六年この著をなすに至れるなり、紙數三十、キリスト教の信條を七條に分ちて說けり、卷尾に「ハビアン誌之」とあり

同 一册 大阪市 杉本要

妙貞問答(中下寫本)二册 宇治山田市 神宮文庫
『破提宇子』の著者ハビアン(不干齋巴鼻庵著とあり)が慶長十年(一六〇五年)の著の轉寫本にして上卷を欠く、儒教、佛教、基教の論を問答體にて記せるもの神宮文庫において數年前に發見せられたる切支丹關係書中の珍書

三山論學記(寫本) 一册 滋賀縣八幡町仲之町上 西川吉之助
「泰西耶蘇會後學デユリウスカーエサル著」とあり、島原藩の儒者川北喜右衛門(溫山散史、儀刪)弘化三年の著『原城紀事』の引用書目の項に「三山論學記は寛永四卯所禁、予未だ嘗て一覽せず」とあり

聖教初學要理 一册 京都帝國大學 附屬圖書館
日本司教ヘルナルト著慶應四年(一八七二年)木版四卷、切支丹宗の教義を問答體に記したるもの、文祿慶長の頃より今日までこれを用ひ來り一般に「カテキズム」と呼べり「聖教要理問答」その他類本あり

科除規則 一册 滋賀縣 西川吉之助
校正再刻とがのぞき即ち黴魂の罪科を除くためコンヒサンのことについて解說せるもの、全五卷五章より成る、日本主教ヘるなるとプチジアン)著貝方良助筆、上海において明治二年に書仙紙印刷に附したるものにして、慶長元和の頃すでに本書は日本で出版されゐたり

胡無血利佐無の略 一册 同
日本司教べるなると著明治二年唐紙石版印刷、こんちりさんのりやくは懺悔の意味や心得を解說せるもの

彌撒拜禮式 一册 同
明治二年唐紙石版、日本司教伯爾納鑛譯、公教會における重要なる祭式ミサのことを解說したるもの祭壇の圖あり

聖教日課 一册 長崎縣南高來郡加津佐村 元山元造
日本主教べるなると(プチジアン)著明治四年再版本唐紙石版刷、信者が日課として誦すべき祈禱書

鬼利至端破却論傳 版本 一册 京都帝國大學 附屬圖書館

閑愁錄 一册 堺市向陽町七三 牧野信之助
慶應三年土佐攝津隊長岡愼吉の著、邪法耶蘇教の弘布を憤り佛法擁護の意を述ぶ

新舊バイブル 一八六一年版 一册 京都市 丹羽圭介

切支丹宗禁止其他御條書(寫本) 一册 沖繩縣那覇市 沖繩縣立圖書館

制札と國禁耶蘇書目(拓本軸) 一幅 長崎市松枝町一〇 小川水路
切支丹制札(天利)と國禁耶蘇の書目(三十八册、貞享)の拓本

唐人中のキリシタン徒取締上諭 板に黑字漆色塗 一枚 長崎市寺町 興福寺

古記錄 一册 奈良縣郡山町字鹽 三木忠方
耶蘇宗門其他記載の小手帳

邏媽欵狀 一册 名古屋市中區永樂町 堀江清足
安永七年佐久間維章の記錄したもの、吉利支丹宗門に關する見聞並に異國船渡來の風聞等

澤野忠庵等のころび證文 一枚 長崎市東中町 西勝寺
澤野忠庵は本名を『クリストフワン、フエレイラ』と云ひ、葡萄牙生れの伴天連にして、慶長十六、七年頃渡來し爾來二十餘年百難を排し熱心に傳道に從事し効果を收めたりしが、寛永十年(一六三三年)頃大阪にて捕へられ長崎に送られ苛責を受け同年九月十六日轉宗して禪宗に歸依、邪宗門附に任ぜられ轉宗歸正者の證人に立たしめ年給若干を受く。耶蘇錄、乾坤繼說の其他著あり(西勝寺にては古來この證文を忠庵の眞蹟なりと云ひ傳ふ。)

切支丹起請文 一通 京都帝國大學文學部內 國史研究室
蓮生寺文書、寛永十二年十月附、吉利支丹宗より改宗し以後再び同宗に歸依せさることを誓へるもの

吉利支丹にて無之一札 一通 堺市 牧野信之助
寛永十二年

差上申證文 一通 堺市瓦町一五九 上田卯一
天明八年、北組淡路町切丁、切支丹宗門の事、博奕諸勝負の事、傾城町の外遊女の事(他に添書一付)

宗門御改帳 五册 大阪府下濱寺公園下 矢野浩人
河內御供田村、元祿六年一册、文化三年一册、寶曆、明和二册、延寶八年一册

宗門御改影踏帖 一册 長崎縣 元山元造
嘉永七年九州肥前千々石村六册ノ內上嶺村

同 安政二年九州肥前南目筋有田村 一册 同

行違請負帖 一册 同
安政二年九州肥前南目條有田村繪踏改めの際本人不在のため踏り次第繪踏をさせるといふ乙名の證明にてその不在者の名を列記したるもの「行き違ひましたが切支丹でないことを讀合ります」との意

五人組御改帖 明治四年九州肥前小串山村 一册 同

切支丹宗旨御改帳 一册 長崎市西濱町 栗岡なみ
嘉永八年豐後一畑村

法花宗宗門御改影踏帳 一册 同
安政七年九州島原字石町

當西御改宗門帳 二通 堺市能野町西二丁三〇森下文造方 平林悅治
萬延二年、備中小田郡

切支丹文書 六通 愛知縣東春日井郡小牧町大字小牧 村瀨長滋
村瀨八郎左衛門(長滋氏の祖父)が尾張藩名古屋代官在職中に屆出したるもの

切支丹町內五人組差入證 一通 大阪市港區五條通二ノ二九 鹿島傳藏
大阪南組縄袋町(寶永五年)

奉公引受證文 二通 同
奉公人と、うばの切支丹でないといふ身許引受證文

宗門改手形 四枚 大阪市 藤田一夢

宗門送り手形の書 一帖 山口縣山口町今道天主公教會 若林宣茂

宗旨人別送手形 一枚 大阪市浪速區東關谷町二丁目 角野清太郎
明治二年泉州佐野浦西法寺

原城包圍の圖 一枚 長崎市燈籠町 長崎縣立圖書館
原城は島原半島にあり有馬氏の古壘なり寛永十四年十二月天草二郎時貞三萬人の切支丹徒と共に籠城して寺澤、有馬、細川、鍋島の諸侯の軍と對峙す、板倉重昌將軍家光の命をふくんで至り翌十五年正月奮戰して遂に死す、幕府大軍を促し總軍十二萬、持久して城に迫り蘭船又海上より砲擊し二月二十八日に至り辛ふじてこれを拔き時貞を誅し島原の亂(或は天草の亂)漸く平ぐ、この圖はその時の配軍の狀況を描けるもの、極めて貴重の史料たり(川北儀刪著「原城

紀事」参照）

切支丹傳道遭難記 一巻　大阪市　鹿島傳藏
聖書にあるキリスト受難の事蹟を年表體の繪巻にしたるもの

大明寺村お水帳 一冊　長崎港外　伊王島天主堂
一八七六年洗禮を受けたる切支丹信者の姓名錄（縦一尺一寸五分、横四寸九分書仙紙）

＝畫。像。牌　類＝

支倉六右衛門肖像 一面　東京市外大井町　伊達伯爵家
ローマ法王より贈られたる支倉の肖像油畫、縦三尺七寸七分横三尺二寸七分（伊達政宗遣歐使節記參照）

同 模寫 一面　東京市上野　東京美術學校
故兒島虎次郎畫伯が伊達伯爵家所藏の前記肖像を模寫したるもの

法王パウル五世の肖像畫 一面　東京市　伊達伯爵家
油畫、ローマ法王より支倉に贈られたるもの

使節被命の圖（軸）一面　東京市麴町區有楽町一ノ三　大武丈夫
伊達政宗がソテロの獻策により支倉常長を召しローマ使節に任ずる光景を描きたる彩色畫、（佐久間德郎の筆）

マリヤ十五玄義（額）一面　長崎縣　浦上天主堂
縦二尺一寸横一尺九寸、日本紙の上に泥繪にて描きあり、日本人の筆

同（模寫）一面　京都帝國大學　考古學教室
原圖は大阪府三島郡清溪村東藤次郎氏所藏、前記大浦天主堂の十五玄義よりも畫面の彩色鮮麗に保存さる、但所藏者は斷じてこれを外に出さずといふ

日本廿六聖士畫像 一面　京都市下室町通九條下ル　岡山聖慮

切支丹板戸 二枚　長崎市西上町　本蓮寺
長崎サンヂュアン寺の遺物、二枚とも杉の板戸、油畫にて跣足の日本人を描けり、杖を肩にし瓢をさげ、一人は刀を帶ぶ、劍袴甚しく明瞭を缺く

煉獄及審判の圖（軸）二幅　長崎縣　元山元遣
百五十年前支那渡來長崎にて布教に用ひしもの、縦四尺二寸横二尺一寸

切支丹誡めの書（銅版畫）（三枚付）一冊　東京市外渋谷猿楽　德川侯爵家
聖徒縛されて苦行をなめる圖、天使の圖、キリストの圖等古き銅版畫（各縦九寸三分横六寸五分）三枚の次に左の文言あり

DS　授給る十ヶ條の事

第一、汝の御主DB御一體を百事にひして大切に承知仕るべし
第二、DSの尊き御名をかけ奉りてむなしきちかひすべからず
第三、Dきとむこの日をつとめまもるべし
第四、おやに孝行すべし
第五、人をころすべからず
第六、他言すべからず
第七、偸盜すべからず
第八、さむげむ云ふべからず
第九、他の夫妻を戀すべからず
第十、他の財産を望むべからず
右以上

心靈修養書口繪 一五九五年刊、銅版 一枚　長崎縣　浦上天主堂

日本殉教者圖錄（銅版）一冊　京都帝國大學　附屬圖書館

ザベリヨ肖像畫（模寫）一枚　京都帝國大學文學部　考古學教室
原本大阪府三島郡清溪村東藤次郎氏所藏

クリスマスの圖（軸）一幅　長崎市本五島町七　渡邊庫輔
文政七年長崎出島蘭館クリスマスの寫生畫稿にして圖中に丸山遊女を配せざるは大名たちの注文によりこの繪を作りし爲なりと

マリヤ耶蘇を抱く圖 銅板彩色額 一面　東京市　伊達伯爵家
支倉の將來品

聖母子座像 一軀　名古屋市　堀江清足

マリヤの像 一軀　堺市向陽町二二四　岡村槐軒
一寸三分の金具。鍍金

同（小額）一面　堺市中ノ町東一丁八十軒筋二二　梅塚米三郎
金屏にてマリアの像を作り、顔、手、足等の露出部を切欠きたるもの

昇天のマリヤ（大黄銅版）一面　大阪市　鹿島傳藏
ねはんのマリヤ、長さ九寸五分幅八寸

マリヤ 古き鉛製 一面　同

同 古銅製 一面　同

同（象牙）一軀　同

マリヤ觀音像（大小）二軀　東京市上野　帝室博物館
一、は白磁坐像。高さ一尺三寸二分、安政三年長崎奉行所に押收せるもの。
一、は白磁立像。高さ七寸一分、安政二年長崎奉行所に押收せるもの。
切支丹禁止により熱烈なる信徒がマリヤの像を觀世音の像に擬して作りその筋の目をぬすみて信仰せしもの（後切支丹信仰に關係なくマリヤ親音像を愛玩するものあり、市中擬作も出で近時更に陶製像を賣出せるもあり）

同（陶器）一軀　長崎市稲屋町四　中村豐二郎

同 一軀　長崎縣　浦上天主堂
古銅製、信者がポケットに入れてゐたと傳へらるゝ小さきもの、ポケット・マリヤ

同 陶製額、同上 一軀　同

同 青銅製、キリストを抱けるマリヤ觀音 一軀　同

同（陶製）一軀　同

同 素燒の小さきもの 一軀　大阪市　鹿島傳藏

同 古銅製大小 三軀　同

同 陶製、幼稚な作、彩色 二軀　同

同 九軀　同

平戸伊萬里邊のもの多し、清國より來りしものもあり白磁、大、小

同 一軀　同
木彫、十字牌を背面に匿し入れたるもの

同 陶製高サ一尺二寸 一軀　高知市朝日印刷所　松山秀美

十字架上の耶蘇像 一軀　東京市　伊達伯爵家
支倉六右衛門將來品

厨子入聖像 一軀　東京市　德川侯爵家
高さ一尺四寸十字架上の耶蘇にせすきりす作左衛門云々「文久二年云々」の符箋あり寫文或はよれより以前に水戸藩にて沒收したるものにして右は再調査の時の符箋なり

キリスト懷厨子 四個　東京市小石川區久堅町　塚本清
十七世紀のロシヤのもの

耶蘇木像 一軀　堺市　岡村槐軒
古くより堺市にありしもの

木板の聖像（額）一面　長崎縣　浦上天主堂
額入、小島獄中にキリシタン信徒が密かに板と板の間にはさみ所持しゐたるものらしく、後獄跡より掘出したるもの

青銅三人像 一軀　長崎市本籠町　浦岡倉松
南蠻船にとり附けありしもの、男女子供を抱ける像、南洋邊の作らしく高さ一尺二寸、切支丹との關係不明

聖像 一軀　名古屋市　堀江清足
象牙の彫刻立像

同 一軀　大阪市　鹿島傳藏
備前燒、一刀彫型に似たり

布畫聖像　一面　同
約一尺角の畫布面に油畫具にて描きしもの、高さ二尺、二枚折

聖牌（古銅板）　一個　長崎縣　元山元造

聖母子、十八聖人牌　一枚　堺市　岡村槐軒
幅三寸五分長さ四寸五分の銅板、木の枠に入れて衝立風になしあり

同（古銅）　七個　大阪市　鹿島傳藏

同　一面　同
幅三寸長さ三寸五分、鍼力板に古代印刷

同　長さ三寸五分幅二寸古銅　一面　同

十字架　支倉六右衞門將來品　二個　東京市　伊達伯爵家

同　一個　長崎縣　浦上天主堂
熊本縣八代郡野津より發掘、同所にはキリシタン宗徒が散在しゐたり。この十字架は鑞鐵か

同（各樣式）　三個　長崎市　浦岡倉松

同　三個　堺市　平林悅治

同　四個　大阪市　鹿島傳藏

同　銅板大小　三個　同

同（台付）　三個　同

同　古代、寶石嵌入　一個　同

同　象牙造り　一個　同

同　鍍金銅製三百年前の品　一個　大阪市西區千年町一一　桑川桑吉

同　一個　大阪市　鹿島傳藏
瓜葉付七寶、切支丹信者が禁教前に用ひしものか

グレゴリ十四世記念牌　一個　長崎縣　浦上天主堂

メダル　一個　同
舊浦上教徒佩用のもの、金、發掘品

同　二個　同
舊浦上教徒佩用のもの、銅、發掘品

同　一個　長崎縣　元山元造

同（大形）　一個　大阪市東區內久寶寺町三丁目十一　今城梅吉

同（角形大）　一個　大阪市　藤田一夢

同（小）　三個　同

同　十二個　大阪市　鹿島傳藏

教會メダル　五十九個　大阪市西區幸町通一丁目三　田村政之助

扉牌　六個　長崎縣　元山元造

同　一個　大阪市　鹿島傳藏
長一尺、高さ五寸五分、大型二枚折古銅

同　一個　同
高さ六寸、幅一尺三寸五分、大型四枚折古銅

同　一個　同
高さ一尺一寸、幅九寸五分、古銅三枚折、伊太利製品といふ、官製繪畫の原圖を是れより取りたりとも傳ふ

同　五個　同
小型、古銅、ロシヤ渡り

同　二個　大阪市　藤田一夢

同（破片）　一個　奈良縣　三木忠方

ローマ寺院牌　一個　長崎市夫婦川町八〇　森本丹之助
長さ六寸、幅一寸五分、黑色陶製

二十六聖人の遺骨　一個　長崎港外　伊王島天主堂
パウロ・ミキ、ヨワン・ゴトー、ヤコブ・キワイモン三殉教者の遺骨の小片を納めたる小判形の長徑一寸ゐまりの笛

═服裝。器具類═

法服其他の布　一五枚　東京市　德川侯爵家
伴天連の用ひし緞子地製法服、その他は十字の文樣入テーブルクロス、襟飾りらしきもの等なり

法服　一着　東京市外大井町　伊達伯爵家

窓掛　ケ　同、木綿織縞　一張　同

裂地　同、彩色書模樣入　一　同

外套　同、翡翠羅紗　一　同

眞鑄製釦（大小）　同　六個　同

皮玉飾　同、巾着用のもの　一個　同

輪と金銀の金具飾　同　四點　同

念珠　同（コンダツ）　四連　同
同、角製二、木製（角輪付）二

同　三連　東京市　德川侯爵家

同　一連　長崎市　浦岡倉松

同　四連　長崎縣　元山元造

同　內一個は十字のみ　二連　大阪市　藤田一夢

デスプリン　二連　長崎縣　浦上天主堂
麻繩の紐、伴天連が帶にして法服の上に結び、修行のためこれにて身を打つ

紐金モール飾　二個　東京市　伊達伯爵家
支倉六右衞門將來品、紅色一、茶色一、劍の總か

キリシタン幡　一枚　京都帝國大學文學部　考古學教室
禰井眞宗寺寄託品、長サ三尺二寸、幅二尺九寸、褐色薄地の幡、中央に圓形模樣、周圍に歐文の刺繍

眞鑄製矢立　支倉六右衞門將來品　一個　東京市　伊達伯爵家

銅印　一個　長崎市福屋町四　中村與二郎
十字架つきの銅印にて十字の周圍に象嵌あり

印形　支倉六右衞門將來品　二個　東京市　伊達伯爵家

眞鑄製（鉢前樣のもの）　同　四個　同

瓜葉に十字紋鏡　一面　大阪市　鹿島傳藏
鏡の裏に瓜葉の紋樣に十字を現はしたるもの

香爐　一個　長崎市馬町　吉村善三郎
切支丹祭祀式用、舊浦上天主堂使用なりと

青牛の香爐　一個　長崎縣　浦上天主堂
浦上邊のキリシタン宗徒が家の棟に匿してゐたもの。マリヤ觀音等と共に發見したる珍品

鍍金香合　一個　大阪市　鹿島傳藏
禁教前日本向きに製作したる舶載品、蓋に十字模樣あり

小　壺　一個　同
切支丹全盛時代に用ひし香水入と傳へらる。壺にSTKBとあり、壺に舟の圖を描き、きりしたん船と記す

十字水注　一個　同
日本の古陶器、十字架を畫く

古萩壺　一個　名古屋市西區船入町八の一　安藤次郎
形洋風にて高さ六寸の白色陶器、胴にMARIAとあり

秤　一個　東京市　大武丈夫
鐵製、握力計の如き形をしたる計量器、支倉六右衛門ローマよりの將來品と傳ふ

花十字紋螺鈿唐草手筥　一個　東京市外日暮里渡邊町　長野草風
高さ三寸五分、一尺に一尺三寸角

南蠻寺螺鈿蒔繪合子　一個　名古屋市　堀江清足
直徑三寸七分、深さ三寸、耶蘇協會徽號欽入。徽號は上に十字架を置き、中にIHSの三字を置き、下に三本釘を示せり。

十字一輪挿　古陶器　一個　大阪市　鹿島傳藏

十字風鈴　聖堂の四隅に釣りしもの　一個　同

角製煙管の筒　一個
キリストの腕に象りたるもの

女持十字入指輪　一個　長崎市　渡邊庫輔
和蘭人が長崎丸山の遊女などに與へしものか

十字赤書金版　一枚　同
舊置時計の裏板にしたるもの

十紋三寶　一個　同
高さ二寸七分六寸方、慶長二年寸松庵（大德寺派江月和尚の住みし處）果實、釜、切支丹全盛期の遺物が、台の四方に十字を切りぬけり、古銅製

切支丹菓子皿　一枚　同
陶器、直經八寸、花クルス模樣

切支丹鍔及據　二個　福井縣敦賀町官幣大社氣比神宮司　櫟本憲昌
天草教徒の遺物にして、彫刻の意匠は所謂武士の魂ともいふべき刀身を十字架柱に擬らへ、鍔と緣とに支梁を彫み信仰の象徴としたるもの、鍔は俗に和闌陀鍔と稱す

十字鍔　一個　大阪市　鹿島傳藏
十字の周圍に金象眼にて唐草模樣入りの圓形の緣を取る

同　二個　長崎市　浦岡倉松
「十字架と蠟燭」及「十字架」の二種

同　一個　堺市　岡村槐軒
鍔の前部に小さき十字架を淺彫とせり

同　一個　京都帝國大學文學部　考古學教室
南蠻船十字鐵鐔（濱田青陵博士寄託）

同　一個　堺市　岡村槐軒
金銀象眼十字王冠向獅子彫入透鐵鐔

＝踏繪。制札。墓碑。寫眞類＝

踏繪　三面　東京市上野　帝室博物館
（一）木版に銅牌を嵌入せるもの、板長さ八寸三分、巾六寸二分（長崎奉行所舊藏のもの）
（二）眞鍮製、長六寸二分五厘、寛文九年長崎本古川町酒佐藏道
（三）眞鍮製、長六寸二分、同右（舊所藏同じ）

十字牌踏繪　一個　大阪市　鹿島傳藏

踏繪漢型　六種　京都市東山通松原　上野製作所

切支丹制札　一面　大阪府北河内郡枚方町　中井吟香
正德元年五月奉行名

同　貞享五年、奉行名　二面　長崎縣　元山元遣

同　正德元年、奉行名　一面　長崎市　浦岡倉松

同　一面　堺市宿屋町大道　沖本國忠

同　一面　滋賀縣長濱町西本一〇　財團法人下郷共濟會

同　一面　大阪市南區千年町一一　粂川榮吉

同　一枚　愛知縣東春日井郡小牧町字小牧　村瀨長滋
本札は正德元年小牧宿（木曾に通ずる善師野街道の一宿にして尾張藩主の歴代通行せし街道なり）の宿外れの二ヶ所に掲げしもの、裏に再び慶應四年名古屋縣の名を書して重用せり

同　慶應四年豐岡縣　一面　大阪市　鹿島傳藏

同　堺縣名　一面　堺市　平林悅治

同　三枚　堺市宿院町東二丁七　小田庄三郎

同　一枚　新潟縣祖崎町本町　吉田正太郎

同（原稿、軸）　一幅　長崎市　小川水路
切支丹の伴天連入國を取締るための正德四年長崎奉行發布の告知文原稿

きりしたん宗門禁止の御觸　一枚　府下濱寺公園前　矢野浩人

唐人掲揚諭知板　一枚　長崎市　浦岡倉松
檜板、緣付、墨書、漆色塗、縱一尺八寸、横三尺四寸

異法修業の罪人手板　一帖　大阪市　藤田一夢
切支丹婆豐田貢等一派の事共、折本、文政十二年筆（寫）

山形に十字巴付瓦片　一個　奈良市登大路町南圓堂裏　吉村大治郎
奈良興福寺塔中庭址より發掘、大體足利末期のもの、瓦師に切支丹信者ありて自家の信念を密かにこの瓦に描きしものかと

小川あふぎやミしや墓碑　一基　京都帝國大學文學部　考古學教室
花崗岩「慶長十五年十一月七日小川あふぎやミしやさんとめいあほすとろの日」と刻し十字を附す。京都延命寺境内にて發見のもの

波々伯部將監墓碑　一基　同
花崗岩「御出世以來千六百八年戊申七月八日さんちよ波々伯部右近將監」の文字を刻し十字を附す、京都仁和寺街道等持院道にて發見のもの

同　長崎縣加津佐村切支丹墓碑寫眞　一枚　長崎縣　元山元遣

通信集寫眞　十四枚　福岡市　長沼賢海
一六一八年、一六一九年、一六二〇年に於ける日本及び支那の耶蘇教會員の通信集、一六二一年オウグスブルヒ版の寫眞

同　五枚　仙台市東北帝國大學　木下杢太郎
ルイス・ソテロ（支倉常長と共に羅馬に使したる僧）の書翰（寫眞）原本は西班牙セビイヤ印度文書館藏

天草望見寫眞　一枚　長崎縣　元山元遣
長崎縣加津佐禮學校跡より天草を望む寫眞

コロタイプ版　五枚　大阪勤日新開社内　大道弘雄
ローマのバチカン宮殿にて發賣せる支倉六右衛門關係のコロタイプ版

興味横溢の開國歴史

我が大阪朝日新聞社が創刊五十年を記念するため、今年の三月から四月にかけて三十餘日間朝日會館展覽場と社の本館樓上と長堀橋の高島屋樓上と府立大阪圖書館陳列室との四ヶ所において開催した開國文化展覽會は、近世日本が西洋の諸國に接觸して異邦の文化を輸入しはじめてから明治の初年に至る三百餘年間の異彩ある歴史を一目瞭然一般の民衆に理解せしめやうとしたのである。

足利の末期から明治初年にかけての我が國と海外諸國との交通の歴史ほど變轉の激しくて且つ興味の多いものはあるまい、まことにそれは昨今の世の中に流行の見世物であるレビュウの演出を觀るがやうであつた。それは世界の歴史からいつても非常に重要なページであつた、近世歐洲諸國が極東への進出、太平洋爭覇時代の序幕がこの時に切り落されたからである。マルコ・ポーロの旅行記によつて極東に金銀の寶庫を藏する島國のあることが西洋人に教へられたので、モンスーンの荒れる印度洋や支那海の怒濤狂瀾をものともせず、西洋の船乘や商人や耶蘇教の宣教師たちが次から次へと踵を接して押し渡つて來た。赤や青や黄や白や綸のやうに美はしい帆を張つた黒いすばらしい大きな船が幾艘となく白波にゆられながらに出現してきた。黒や紺や緋や紫や五彩眩ゆい奇麗な服裝に金絲銀絲の房のついたサーベルを佩いた、透きとほるやうに白い美しい顔をした脊の高い人物が幾人も乘組んでゐた、隼のやうに鋭い碧い色をした彼らの眼、黄金色に光る彼らの頭髮、鳥の囀るにも似て不可解千萬な彼らの言語、それらはいづれも雲山萬里の彼方、八重の沙路を隔てし遠き異境の人たるを想はせるに十分であつた。

猫額大の小天地に蹲踞してゐながら、肉身郷愁の輩互ひに相喰み相擊ち、爭ふてやまず、且夕矢叫びの聲を聞き血腥い風に吹かれつゝ、しづ心なく暮してゐた戰國擾亂の世の日本人は、七つの海を自在に乘切る彼等異國人の豪膽な振舞に先づ敬意を拂ひ、更に彼等の所持なす武器や精妙な機器に驚異の眼をみはり、彼等の傳ふる物語により、宇宙の廣大無邊にして日輪の沒する彼方にも樣々の國土があり、異なる文化の華が咲き、香木繁茂し鸚鳥翔ける常春の國のあることなども教へられたが、格別興味を惹かれたのは、彼等の信ずる神であつた、單一にして自由なるその神、樣々の奇蹟をあらはして人の世の災禍を除く廣大にして無邊な福德を讃美せずにはをられなかつた。かくて吉利支丹の奉教人がふえ、伴天連か上下市民の尊崇をあつめるやうになつた。外來文化は著るしく我が國情に變化を與へた、種子ヶ島の鐵砲や國崩の大砲が諸侯の運命を左右するやうになり、鐵石も容易に斷つべき南蠻鐵の利刃や猩々緋の唐羽織は武人の名譽とゝもに誇るべき武具としてもてはやされた。

金銀島の存在がお伽話に終つたことは南蠻人に少なからぬ失望を與へたに相違はないが、その代償として、利潤のしこたまにあつた我が日本との貿易は彼等の冒險、彼等の努力に酬ゆるには十分であつた。東西文化の接觸と融和が直に急激に行はれ、南蠻船を模して造つたオーシャン・ゴーイングの奉書船、御朱印船は何艘となく南の洋上へ浮かんで行つた。堺、佐伯、平戸、長崎等相次いで開かれた港が繁昌した。最初に九州の三大名、やゝ遅れては東州の伊達政宗等の派遣した武士等が雄々しくも大洋の波濤を乘切

が、これにしてもあの風の鳴り物がすべて婚礼の行列を意味しているとて、撒かれた人物も鬱蒼たる樹木を縫い、高く聳えるあの巨人の姿を眺めて、これは今度の戦争が、我々の生命をも脅かすものであるらしいと、思ひ合せて、一種の不安を感じたのである。

前夢人が激怒して彷徨した後の我の心は、何時の間にか、前夢人の姿を見失ひ、外郭に聳えるあの巨人の姿のみ、眼に映じて、一面に、黒い影を投げ、その影の中に、一面の、黒い影を投げ、その影の中に、一面の、黒い影を投げ、その影の中に、一面の

の壯麗目を奪ふもの、長崎市内繁昌の有樣から出島や唐人屋敷内の異人生活の模樣が精しく描かれ、沖かがりした蘭船や唐船の精巧な實景の圖まで添ふてゐた。

幕末に相州浦賀や長崎の港へ諸外國の軍艦が開港を迫りに來た時の模樣も、多くの繪卷にあらはれてゐる。鍋島侯爵家出品の「忠亨公使節船御乘込繪卷」をはじめ、ロシア、アメリカ、イギリス等諸國の使節と幕府の大官との應接談判の模樣や、彼我艦隊の光景や、外國軍艦の威容や、彼等に備へるための沿海防禦の施設振りなどは巨細洩らさず當時の歷史的光景をあざやかに連續せしめて描いてあるが、それらは何れも現今のフイルムや寫眞のやうに人物、事件、背景等の移動變轉を眞實にあらはすものでないのは勿論である、が繪と寫眞にはそれ〳〵のもつ特長がある、繪卷物には人物なり、事件なり背景なりのもつ色彩が鮮明にあらはされてゐるうへ、藝術化された氣分と情調には純寫實的なフイルムや寫眞のとてもあらはしえない氣韻や雅味が伴ふて出てゐる。我等は多くの繪卷に接して、あの物情騷然たりし嘉永、安政當時の歷史を的確實に修得し得たと思つた。そして正確な記述と寫眞と映畫と、もう一つは昔風の繪卷物の作製と、この四つによつて歷史の材料は完美するものであることを敎へられた。

出品された多くの資料から學びえた、感じ得た樣々の印象を茲に悉く書き列ねてゐては果しがないのでほんの一部分の印象だけの記述に留めるが、親しく鶴を拝げて今度の展覽會を視ていただいた方々は勿論のこと、單にこの目錄について考察していたゞくだけでも、わが社の開國文化展覽會は、これまでにない大綜合の內容豫る充實したものであつたことを知つて頂くことが出來やう。眞に門外不出の重寶であるべきものが夥しく出品されてゐた。肉筆物、原稿本等で、遠くの昔に滅びたものと想像されてゐたもので、はじめて世にあらはれたのも尠くはなかつた。北は北海道から南は台灣まで全國的に蒐集をすぐつて出品して頂いた諸家の好意に對しては、我れ等は何と感謝してよいか辭令に惑ふ次第である。

鎖國時代において、蘭學は元よりありとあらゆる方面を通じて海外の知識の研究につくされた形跡が今度の展覽會の出品物によつても窺ひ知られる、科學的研究、地理的研究、經濟、軍備、語學、等、等、すべてに遺漏なく進んで來てゐることがわかる、鎖國必ずしもわが國の進展に累せず、鎖國ならざりせば一層の輝かしい文化を將來したかも知れなかつたといふ感も強く起るが、いづれにしてもわれ等國民の異國文化に對する研究とその同化力の卓越してゐたことは、われ等が將來の益々多望であつて、同時に一層の奮勵努力を要求することを痛切に感ぜしめられるのである。（幽水生）

開國史料と日本の文化

開國文化展覽會に蒐集し得たところの出品總數二千點、日本に現存する開國史料の主なるものを數へつくしたほどの大綜合で、朝日會館、本社樓上、高島屋、大阪府立圖書館の四會場に陳列して、なほその總數の三分一は絶えず陳列替をしなければならぬ盛況であつた。しかもその多くが門外不出として珍藏されてゐる貴重品のみなので、出品の快諾を得てからこれを搬入陳列するまでの期間をなるべく短縮することに心がけた、一あつて二となき貴重品を何等の不安もなく寄託せらるゝ出品者の雅量に對して本社の取るべき當然の注意であり義務であると思推したからである。しかしながらそのため陳列上に至大の困難を來したのはもとよりであつて、嚴重な上にも嚴重な包裝をして、開會前三四日の間に、西は朝鮮、沖縄、台灣、九州から、近くは京阪神、山陰、北陸、東は東京、仙台、函館方面から一時に殺到する荷物の解裝、記帳、分類、陳列說明書の作成、目錄の編成と、複雜であつて、緻密と正確を必要とする事務が、嵐のやうに捲き起り、係員は徹宵奮闘をつゞけて行かなければならなかつた。これ等史料の陳列は尨大なる開國史の著述であるが分類に安當を缺けば紛雜を生じ、分類に過ぐれば變化と色彩と趣味性を失ふ。幸にして相當困難なそれらの問題は迅速且つ明快に解決され豫定の通り三月十日午前九時を以て開會した。完全を望むならば開會までに、陳列品の概要をなりとも記述した目錄を作つて觀覽者の便に供すべきであるが、以上述べた通りの搬入狀態であるので、さういふことは到底出來得べくもなく、品目、點數、出品者の住所氏名を列記した假目錄を作成したに止まる、それも開會後なほ引續き各方面からの搬入があつて毎日目録を改めて行かなければならぬありさまであつた。容易に行はれ難き大綜合である、日本のやうな天災國ではいつ如何なる狀態において貴重の史料が亡失せぬとも限らぬ、現に大正十二年關東の大震災で東京帝大その他において多くの貴重史料が灰燼に歸した、今度の出品依賴に對して「遺憾ながら震災に紛失し云々の返事が來たのが二三に止まらなかつた、出來ることなら、かういふ機會に蒐集史料の外形なり內容を調査して撮影もし記錄もしておくべきである。

ところが陳列前にはその餘裕がなく、陳列を終つてしまうと觀覽者の妨げとなるやうなことはなるべく避けたいし、自由に懸け外しの出來ぬものもあり、撮影をするにしても寫場に運ぶことが出來ぬ場合、會場に陳列したまゝでは採光が思ふやうにならぬなどの事情もあつて、出品者に記念として頒つた「開國文化大觀」所載の寫眞三百餘面を作るすらが想像以上の困難であつた。止むなくば閉會後それ等の仕事をなすべきであり、また多少の落着きをもつてさうして行かうといふことに決定してゐたのであるが、さていよ〳〵閉會を告げて見ると一時も早く返送をしなければといふ感じが急に強く起つて來る。保管上の重大な責任、出品者の心持、決して鑑賞に陶醉してゐるのではなく、後日のため忠實に記錄しておかうといふのであつても、一日二日をそのまゝ堆積しておくことが堪へられなくなつて來る。惜いことである、これがまた八方に離散するのだ、どこか立派な博物館があつて完全に藏められたなら、史家學者を益し、美術を好愛する人々を喜ばせ、將來の文化に少なからぬ効果を齎すであらう、分散し、孤立しては左して價値なきものも綜合によつて著るしい價値を增すことは考古史料の特質である。だがそ

天正十六年朝鮮が、戦争の無駄とけじめを付けずに連れて来た儒人の行動を憂慮して、南蛮方面で土人を誑惑した同じ属国と、家外国ふの「鶴」が、長崎の天主堂を焼き、人を殺傷し、神外に逃げ隠して、ヤニラ蹴飛ばして、「鶴」が、「鶴」の「鶴」を、「鶴」の「鶴」を、「鶴」の「鶴」を

記録しておいてくれない時代には奴隷日記をつけた。縄すじを結び目の数を数えました。

即ち『奴隷記録』——『隠密奴隷』を元禄期に『奴隷品評帳』といふ言葉になつた。国産品を売買品を売買しつゝ行く。『奴隷記録』——『隠密奴隷』を元禄期に『奴隷品評帳』といふ言葉になつた。国産品を売買して外国

産物を輸出しない。『国産品評帳』といふ言葉になつた。国産品を売買して外国産物を輸入する。『国産品評帳』といふ言葉になつた。国産品を売買して外国産物を輸入する。

欧米の物産交換は、『奴隷記録』と『奴隷品評帳』の二種類に分れて、『奴隷品評帳』を『貨幣』と呼ぶ。

貨幣は、『奴隷記録

る、踏破萬里の獵奇が苦もなく報はれて、彼等は船艙に押こんだ安物の雜貨を『今度はどう使つてやらうか』と檢めはじめる。その間に將軍は、將軍の息子は、時計をなでたり毛氈をさすつて見て『舶來々々』といふ。堺の呂宋助左衛門は呂宋から粗末な茶壺をかきあつめて來て豐太閤に見せた、榮華に飽く列び大名の事蹟から法外な價をもらつて、五十の茶壺で助左衛門は一世の豪奢を極めることができた、太閤感顧の賜物ではない『舶來崇拜』のおかげである。一册の關書を得るため百金二百金を投じて惜まなかつた懶學好きの殿さまは『舶來崇拜』の性を見透してゐる出島の甲比丹に聖人のやうな顏をしながら操られた。南洋、支那でかきあつめたまやかし物が紅毛渡來の奇品となつて殿樣の床の間に跳躍した。日本の金貨はその間にさつさと海を泳いで去つた。一ヤードの絲羅紗が『猩々緋』の名で大名の陣羽織になる、四五反も持ちこめば一代の巨商になれた。五島の島藩に小船を隱して南蠻船から積取りの密輸入、丸山遊女の情を一寸角の見本切で獨り占めにして、鉅所の大破綻を招いた悲劇もあつた。ペルリが歐洲人を出しぬいて横濱村の天幕の中で首尾よく國書の授受を行つた時エレキテルで、模型汽車の運轉で、豫定の通り幕吏を感激させた。

『舶來崇拜』の史的考察は開國史のどの頁にも滿載である。開國史に數多く列んだ渡來品、將來品、それを歷史として美術として、趣味として見る外に國際的、政治的、經濟的に靜かに觀察すべきであつて、展覽會の主なる目的の一つもそこにあるのだ。『舶來』も年を經て『歷史』の領分へ後退すると、その歷史資料としての價値を有つかはりに生活必需品としての價値は低下する。それが分れば『舶來崇拜』がなくなるはずであるが、何年たつても『國產品奬勵』を叫ばねばならぬとすればやがては宿命とでも考へなければならなくなる。あらゆるものをいつも咀んに消化して固有文化の生長增養に不斷の努力をささげる、『舶來崇拜』はその一現象に過ぎない。『だから舶來崇拜』は文化發達の上から否むべきでない、といふ風にでも考へべきであるか。慌だしい氣持ですらすらと見て通つて、展覽會の本質に觸れることは困難である。あらゆる方面に行き詰りを感じて、思想は虛化するといふ、經濟界は眠るといふ、徒らに生活の形式ばかりが向上し、卑しい慾望が限りなく增長して、燃ゆるやうな希望が滅し、汗を厭ひ、倦退を感じ、凡てに眞銳味がなくなつて、經濟國難の恐ろしさを思ふ時、我等の有つ文化と、その文化を有つ所以をよく訪ね、緊張し、發奮して、國難の芟除と、更に新たる進展に努力する、その刺激、暗示の材料を豐富に綜合せる眞生命に觸れてこそ展覽會も使命を完ふし、名譽と光榮を眞ふて始めて安心することができるのである。その意味において出品史料の『貴重』も一層の重大性を帶びる。（素天生）

昭和四年七月十三日印刷
昭和四年七月十八日發行

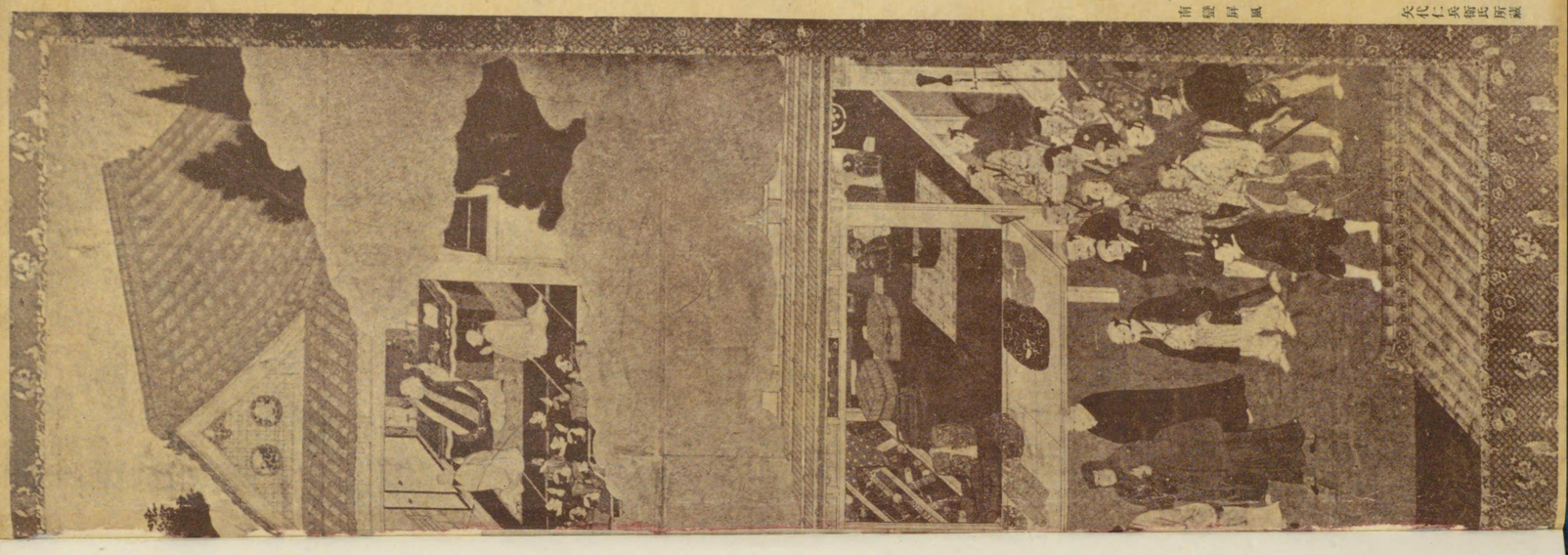
「開國文化史料大觀」
定價五十錢

大阪市北區中之島三丁目三番地
株式會社朝日新聞社
編輯兼發行兼印刷者 大道弘雄
大阪市北區中之島三丁目三番地
印刷所 大阪朝日新聞發行所

不許複製

發行所 大阪市北區中之島三丁目三番地
株式會社 朝日新聞社

國語學會會員會費
一圓五十錢
國語學會本部
東京市麻布區霞町十六番地
國語學會本部
東京市麻布區霞町十六番地
國語學會
東京市麻布區霞町十六番地
國語學會
東京市麻布區霞町十六番地
國語學會



南蠻屏風

矢代仁兵衛氏所藏

ユ 2286

3
7